商学Ａ（日本における商業の歴史）

2023-S000009458-01

本村　希代

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

人間の歴史は、財貨の交換行為の展開史、つまり流通・商業の変容過程であったといえる。それゆえ現代社会のあり方を問うには、今日にいたるまで連綿と続く商業活動を明らかにする必要がある。
この授業では近世期（江戸時代）の商業活動を中心に検討を加え、それが基礎となり、近代以降の商業発展につながることを見ていく。
なお授業は、事前に配布（配信）した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。また小テストにより、授業内容を理解しているかどうかを確認する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済社会状況を歴史的背景から説明できるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

歴史的事象が現在の流通・商業の在り方にどのようにつながっているかを考えるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理しておくこと。またそれが次回の授業の予習にもなる。(60分)

Moodleの小テストにより、授業内容を確認する。(20分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験80％と小テスト20％で評価する。
定期試験は、講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。
小テストは、Moodleを用い、授業内容を理解しているかどうかを確認する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

廣田誠他『日本商業史』　ISBN 9784641165069
石井寛治『日本流通史』　ISBN 9784641161696

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに（スタートアップ授業）
2　交換から売買へ
3　貨幣の鋳造
4　戦国大名と商品流通
5　幕藩制社会の成立
6　近世商家の経営
7　商人道とは何か
8　家訓の展開
9　開国と国内流通の変化
10　近代商業経営の成立
11　奉公人からサラリーマンへ
12　呉服商から百貨店へ
13　総合スーパーの発展
14　商業政策の広がり
15　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/rt6zzn7f1ap07f1359kv2t7s2i91h2x7)

商学Ａ（マーケティング論）

2023-S000009458-02

三井　雄一

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・２時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、マーケティングの意義や役割、基礎的な概念を理解し、マーケティングの基礎である顧客志向の考え方を体系的に理解することに重点を置きます。また、実際の企業事例や市場の情報をもとにマーケティング視点で分析する能力を養うことを目的とします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングの意義や役割、基礎的な概念を理解する(DP1-1)(知識・理解)

適切なマーケティング活動を行うための考え方と知識の基礎を身につける((DP2-1)(知識・理解)

市場や企業の情報から自らマーケティング視点で分析ができる(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：身のまわりのマーケティング活動に日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること(60分)

復習：次の講義までに、教科書・指定図書等の該当箇所をふりかえり、自身の講義ノートを補完すること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

マーケティングについての基礎的な概念を十分理解し、市場における企業活動について、自ら分析し、論じることができるかを評価の基準とします。
定期試験により100%、成績評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

マーケティング　ISBN 9784595314315
マーケティング　ISBN 9784532110444

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・自ら学ぶ姿勢を強く求める。
・講義中の私語、途中退室等、他の履修者への迷惑行為を厳しく禁じる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ガイダンス、マーケティングとは
　（スタートアップ授業：）
2　マーケティングにおける価値と顧客満足
3　マーケティングの基礎
4　セグメンテーション
5　ターゲティング
6　ポジショニング
7　製品戦略（製品の分類と価値）
8　価格戦略（価格設定の方法と効果）
9　流通戦略（商業の役割）
10　プロモーション戦略①（プロモーション・ミックス）
11　プロモーション戦略②（広告戦略）
12　サービス・マーケティング
13　ブランド
14　グローバル化時代のマーケティング
15　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/v47t233w70sy8jf92pslgwb6zz1uo5g8)

商学Ａ（マーケティング入門）

2023-S000009458-03

片山　富弘

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・１時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　売れる仕組みを中心に、学習する上でのキーワードとして、顧客満足、マーケティング・ミックス（製品開発、価格設定、販売促進、流通チャネル）、商品コンセプト、ブランドなどを理解していただきます。
　基本的に講義を中心としますが、必要に応じて内容を理解するための映像や簡易なケースを通じての質疑応答形式の双方向授業を行います。

＊企業での経営企画部や国家資格の中小企業診断士としての経営指導の経験を活かし、講義を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングの基礎的な用語を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

ポジショニングマップなど基礎的な技法を作成できる。(DP1-1)(技能)

マーケティング分野にかかわる心理学、社会学などの接点を理解している。(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの指定範囲を一読しておくこと。(60分)

復習：わからないことを調べておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験100%により評価します。
　講義中に話した内容を理解しているか、主要なキーワードを説明できるかなどを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

片山富弘・竹内慶司編『市場創造』学文社、2017年。
ISBN：9784762021633
また、適宜、必要に応じて資料を配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　講義内容は、連続で成り立っているので、遅刻や欠席をしないようにしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション・スタートアップ授業（動画配信）
2.マーケティング戦略（1）
　～ケーススタデイ、戦略の構図など～
3.マーケティング戦略（2）
　～ドメイン、マーケティング・ミックスなど～
4.顧客満足について
5.製品（商品）戦略（1）
　～製品コンセプト、新製品開発ステップなど～
6.製品（商品）戦略（2）
　～ポジショニング、製品差別化など～
7.製品（商品）戦略（3）
　～ブランドの定義・機能、NB VS PBなど～
8.価格戦略
9.コミュニケーション戦略（1）
　～プロモーション・ミックスなど～
10.コミュニケーション戦略（2）
　～広告の仕組み、人的販売など～
11.流通チャネル戦略
12.消費者行動とリサーチ
13.現代マーケティングの展開（1）
　　～サービス・マーケティング、グローバル・マーケティング～
14.現代マーケティングの展開（2）
　～ソーシャル・マーケティング、小売マーケティングなど～
15.これまでとこれからのマーケティング、総まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/1h2sv1vm5m9yaebf9031hlng49vqa19g)

商学Ａ（ブランド経営）

2023-S000009458-04

明神　実枝

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「ブランド経営」を学びます。ブランドと聞くと、欧米の高級品をイメージするかも知れませんが、今日では日用品にも医療にもスポーツにも、ブランドは存在します。身の回りにあるブランドの事例を学び、それを生み育てたブランド経営について一緒に考えましょう。
本授業では講義形式で行い、予習とブランドヒストリーの共有に加えて、個人やグループによる発表、簡単なクイズ（演習）、理解度チェックにも取り組んで復習します。

＊ドイツの企業でマーケティングに従事した実務経験を活かし、実務的に注目すべき事例を取りあげながら、商学の基礎を学ぶために必要な知識と実践について講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.ブランドの役割について基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.ブランドを生活者の視点からだけでなく、経営者の視点からも見ることができ、その経営手法を説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

3.組織や地域の課題を、ブランド経営の視点から分析できる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：該当章を読んで重要キーワードにマーカーし、マーカー個所とマーカーした理由を整理する。また、関連事例を挙げる。(60分)

講義中に示された課題に取り組む。(20分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準は、上述の到達目標に準じます。
定期試験60%、平常点40%（予習25%、講義中の取り組み・復習15%）で評価します。
尚、講義中の発言・発表、レポートの提出・報告に加点があります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

石井淳蔵・廣田章光編著『１からのブランド経営』碩学舎、2021年、本体2,400円＋税、ISBN: 4502384712
＊電子テキストを購入して下さい。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

＊予習を大切にします。
＊講義中に予習報告、個人やグループによる発表、クイズ回答、レポート報告を求めることがあります。新たな知見への到達を目指します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション(スタートアップ授業)：なぜいま、ブランドなのか
2. マーケティング発想からブランド発想へ
3. 製品からブランドへ〈かっぱえびせん〉
4. ブランド経営の実際
5. 目標とマネジメント〈ハイチオールＣ〉
6. 用途開発〈ポカリスエット〉
7. 成長のマネジメント〈三ツ矢サイダー〉
8. ブランド拡張〈ファブリーズ〉
9. サービスブランド〈アート引越センター〉
10. ブランド・ビジョン〈阪急〉
11. 技術、市場分野の拡大〈無印良品〉
12. シグネチャー・ストーリー共創〈ナイキ〉
13. ビジョンとレゾナンス〈マザーハウス〉
14. 優秀レポート報告
15. 複数ブランドのマネジメント〈Ｐ＆Ｇ〉

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/bn4aqvnu0th9yohrjrffr2dcb1qw08zy)

商学Ｂ（日本の企業家）

2023-S000009459-01

本村　希代

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

幕末の開港以降、日本では欧米先進国の水準に追いつくことが、国家的課題とされていた。そして会社企業の経営を成功させることで、この課題を達成しようとする意識が高まっていった。
新しい事業分野の開拓と市場創出に貢献した企業家たちの、経営理念や経営戦略を比較史的に検証することで、現代に通じる企業家精神を見出す。
なお授業は、事前に配布（配信）した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。また小テストにより、授業内容を理解しているかどうかを確認する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済社会状況を歴史的背景から説明できるようになる。(DP1-1)(知識・理解)

歴史的事象が現在の流通・商業の在り方にどのようにつながっているかを考えるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

歴史は得てして暗記するものだと思われがちだが、全体の大きな流れを理解することが大切である。それゆえ毎回の講義テーマごとに、なぜそのような姿にいたったのか、原因・結果など、歴史の流れを整理しておくこと。またそれが次回の授業の予習にもなる。(60分)

Moodleの小テストにより、授業内容を確認する。(20分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験80％と小テスト20％で評価する。
定期試験は、講義内で取り上げたテーマについて、きちんと歴史の流れとして把握できているか、またそれらを自分の言葉で説明できているかを評価の基準とする。
小テストは、Moodleを用い、授業内容を理解しているかどうかを確認する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

佐々木聡編『日本の企業家群像』　ISBN 9784621048856
佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅱ』　ISBN 9784621072301
佐々木聡編『日本の企業家群像Ⅲ』　ISBN 9784621083499

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　はじめに（スタートアップ授業）
２　会社企業の成立（岩崎弥太郎・岩崎弥之助・渋沢栄一）
３　国産新製品の創製とマーケティング（長瀬富郎・二代鈴木三郎助）
４　健康と美に奉仕する産業のパイオニア（福原有信・小林富次郎）
５　伝統的商業経験から純国産品の創製へ（鳥井信治郎・石橋正二郎）
６　政府規制に対抗して革新を実現した反骨の経営者（松永安左エ門・出光佐三・小倉昌男）
７　先端技術への挑戦（服部金太郎・早川徳次）
８　新事業群の形成（鮎川義介・豊田喜一郎）
９　都市型第三次産業の開拓者（小林一三・堤康次郎）
10　食と健康の覇者・逆転の発想（大塚正士・安藤百福）
11　技術志向型事業展開と市場志向型成長（小平浪平・松下幸之助）
12　戦後型企業家と高度成長（井深大・盛田昭夫・本田宗一郎・藤沢武夫）
13　経営戦略と流通革新（中内切・鈴木敏文）
14　高度経済成長期の革新的・創造的企業家（田口利八・飯田亮）
15　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/2fknyig5rfrg33wl7lvcwk432zd4l8ze)

商学Ｂ（マーケティング戦略論）

2023-S000009459-02

三井　雄一

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、マーケティング戦略に関する諸理論について学習し、市場分析や戦略立案の視点思考を体系的に養っていく。そのうえで、実社会において企業がどのような戦略を とっているのか、事例をもとに分析・考察を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティング戦略の基礎的な理論について理解する(DP1-1)(知識・理解)

実際の企業活動を分析・考察することができる(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：身のまわりのマーケティング活動に日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること(60分)

復習：次の講義までに、教科書・指定図書等の該当箇所をふりかえり、自身の講義ノートを補完すること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

マーケティング戦略に関する基礎的な概念を十分に理解し、事業や市場について明確に論じられるかを評価の基準とします。定期試験を100%として成績の評価を行います。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定なし

◎－－－　参考書　－－－◎

入門・マーケティング戦略　ISBN 464116486X
１からの戦略論　ISBN 450216741X
１からのマーケティング・デザイン　ISBN 4502200212

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・自ら学ぶ姿勢を強く求めます
・講義中の私語、理由なき途中退室等、他の履修者への迷惑行為を厳しく禁じます

◎－－－　授業計画　－－－◎

1回目 ガイダンス、マーケティング戦略とは
（スタートアップ授業）
2回目 マーケティング戦略の概要
3回目 事業ビジョンの構築
4回目 環境分析
5回目 マーケティング戦略形成
6回目 製品戦略①（製品差別化戦略）
7回目 製品戦略②（新製品戦略）
8回目 価格戦略
9回目 流通戦略①（チャネル戦略）
10回目 流通戦略②（物流戦略）
11回目 プロモーション戦略①（広告媒体戦略）
12回目 プロモーション戦略②（広告表現戦略）
13回目 ブランド戦略
14回目 サービス・マーケティング戦略
15回目 新たなマーケティング戦略の台頭と総括

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/hf2sz1fb5b3rpgl2gx3y6555wfrmmd2t)

商学Ｂ（マーケティングを深く学ぶ）

2023-S000009459-03

片山　富弘

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　商学A「マーケティング入門」の内容を深めていくことを中心に講義を進めます。主要なキーワードは、ドメイン、STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）、差異化戦略、市場地位別戦略、マーケティング・ミックスの差異、マーケティング監査などです。
　基本的に講義を中心としますが、必要に応じて内容を理解するための映像や簡易なケースを通じての質疑応答形式の双方向授業を行います。

＊企業での経営企画部や国家資格の中小企業診断士としての経営指導の経験を活かし、講義を行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マーケティングの差異の概念を理解している。(DP1-1)(知識・理解)

差異の概念を用いて、マーケティング分野の社会現象を説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの指定された範囲を一読しておくこと。(60分)

復習：配布プリントやノートなどを整理しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験100%により評価します。
　講義中に話した内容を理解しているか、主要なキーワードを説明できるかなどを評価の基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

片山富弘『差異としてのマーケティング（第4版）』五絃舎、2021年。ISBN：9784864341240
また、適宜、必要に応じて資料を配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　講義内容は、連続で成り立っているので、遅刻や欠席をしないようにしてください。。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション・スタートアップ授業（動画配信）
2.マーケティングの変化
　～定義、1.0から5.0～
3.ドメインの差異
4.マーケティング戦略の差異
5.SWOT分析の差異
6.顧客満足の差異
7.市場細分化の差異
8.商品戦略の差異
9.マーケティング・ミックスの差異
10.脱コモディティ
11.地域ブランド
12.マーケティング監査
13.小売マーケティング
14.マーケティング4.0・5.0について
15.マーケティングにおける諸思想について

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/8mms56ott52rr6lgwuyvxhmq7xdqc7au)

商学Ｂ（流通システム）

2023-S000009459-04

明神　実枝

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「小売業の魅力と、それを支える仕組み（＝流通システム）」を学びます。私たちが買い物をする小売店は、スーパーやコンビニなどのタイプ（業態）によって、魅力もそれを支える仕組みも異なります。どのように異なるのかを理解しつつ、近年の社会課題にどのように取り組んでいるのか、共に考えていきましょう。
　本授業では講義形式で行い、予習と事例ストーリーの共有に加えて、個人やグループによる発表、簡単なクイズ（演習）、理解度チェックにも取り組んで復習します。

＊ドイツの企業でマーケティングに従事した実務経験を活かし、実務的に注目すべき事例を取りあげながら、商学の基礎を学ぶために必要な知識と実践について講義します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

流通システムについての基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

流通システムを生活者の視点からだけでなく、経営者の視点からも見ることができ、その仕組みを代表的な事例を挙げて説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

組織や地域の課題を、流通システムの知識を用いながら理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの該当章を読んで重要キーワードにマーカーし、マーカー個所とマーカーした理由を整理する。また、関連事例を挙げる。(40分)

復習：講義中に示された課題に回答する。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準は、上述の到達目標に準じます。
定期試験60%および課題40%（予習・講義中の演習への取り組み・復習）で評価します。
尚、講義中の発言、レポートの提出・報告に加点があります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

崔相鐵・岸本徹也編著『１からの流通システム』碩学舎、2018年、本体2,400円＋税、 ISBN 9784502261916
　　＊電子テキストを購入して下さい。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

＊予習を大切にします。
＊講義中に、予習報告、クイズ回答、講義発表、レポート報告を求めることがあります。新たな知見への到達を目指しています。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション(スタートアップ授業)：日本における小売業態の生成と進化
2.商業集積
3.呉服系百貨店
4.電鉄系百貨店
5.総合スーパー
6.食品スーパー
7.コンビニエンス・ストア
8.均一価格店
9.ドラッグストア
10.総合ディスカウントストア
11.家電量販店
12.家具専門店
13.衣料専門店
14.優秀レポート報告
15.オンラインモール

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/p43z2z3my5bikx0c07po91rbgabbjajx)

地理学Ａ（－異文化の接触地帯を考える－）

2023-S000009464-01

磯田　則彦

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・１時限　試験時間割：2023/07/26　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、日本での外国人人口の増加や、世界各国の国境地帯をはじめとする異民族・異文化の接触地帯の現状と特徴について考察する。事例地域としては、日本をはじめ、アジア内陸部やシンガポール・香港、北アメリカ（ケベック・カリフォルニア）、オーストラリア・ニュージーランドなどである。
一昨年2021年は、57年ぶりに東京で夏季オリンピックが開催されたが、1964年当時の日本社会と現在では多くのことが異なる。外国人観光客の訪問や同居住者の顕著な増大は、私たちの日常に、文字どおり「異文化の接触地帯」を形成している。客観的な人口統計の分析と解釈からこの数十年間での社会の変貌ぶりが見えてくるであろう。
もちろん、異文化の接触地帯は多くの社会に見られる。典型的なそれは国境地帯である。概して、同地帯は異民族が接触する地帯であり、そこには文化的な摩擦や融合などが確認できる。本講義においては、アジア内陸部をはじめとする国境地帯を取りあげ考察を行う。
各国・社会の異文化の接触地帯の現状と特徴について理解し、説明できるようになることを目標とする。なお、授業は講義形式で行われる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本国内および世界各地の異文化の接触地帯について基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常的に異なる文化が接触する地帯において、当該社会を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください（講義１時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。(180分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験有。定期試験の結果（100%）により評価する。具体的には、日本の外国人人口数の推移や属性の変化、世界各国の異文化の接触地帯の特徴（民族・文化的背景など）に関する専門用語および重要統計などが理解できているかを重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし。配布資料により講義を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

世界地図および各国要覧等

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に充分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Ａを受講する上での学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①　イントロダクション（スタートアップ授業）1960年代の日本社会
②　外国人人口の推移と属性の変化
③　外国人コミュニティの形成と特徴
④　今後の展望と課題
⑤　「異文化の接触地帯」とは
⑥　Ｕ.Ｓ.「何でもあり」のカリフォルニア
⑦　多文化主義とカナダ－フレンチ・カナダ
⑧　多文化主義への転換とオーストラリア
⑨　移民社会・Ｎ.Ｚ.－「中立性」
⑩　移民社会・シンガポール－人口増加の謎
⑪　東洋と西洋の接触－香港（ホンコン／シャンガン）
⑫　国境を見る－アジア内陸部
⑬　国境を行く－アジア内陸部
⑭　国境を考える－アジア内陸部
⑮　前期のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/3mtrepcfizodf387hhd20160hmonj71p)

地理学Ａ（自然と農牧業を中心として）

2023-S000009464-02

藤村　健一

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・２時限　試験時間割：2023/07/26　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　地理学は、概ね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業では、まず地理学全体について説明をした後で、自然地理学の主要テーマである気候・地形について講じる。ついで、人文地理学の中でも自然地理学と特に関わりが深い農牧業の地理学について論じる。以上を通して、地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。
　本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．地理学の基本的な考え方を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

２．気候・地形と農牧業に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、授業前に各自で前回授業の内容を復習しておくこと。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験：100%（授業内容を理解し、地理学の基礎を把握できているかを確認する）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　なし（レジュメを配布する）

◎－－－　参考書　－－－◎

仁科淳司『やさしい気候学 第4版』　ISBN 9784772285117
吉田英嗣『はじめての自然地理学 第2版』　ISBN 9784772271486
西城潔ほか『地形でとらえる環境と暮らし』　ISBN 9784772253369
　これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション、地理学とは何かⅠ（地理学の分類）（スタートアップ授業）
2. 地理学とは何かⅡ（地理学の研究目的）
3. 地理学とは何かⅢ（地理学の研究方法）
4. 地理学と地理教育
5. 環境論の盛衰
6. 気候Ⅰ（気候因子）
7. 気候Ⅱ（ケッペンの気候区分(1)：区分方法）
8. 気候Ⅲ（ケッペンの気候区分(2)：各気候の分布）
9. 気候Ⅳ（風と海流、日本の気候）
10. 地形Ⅰ（大地形）
11. 地形Ⅱ（小地形）
12. 世界の農牧業Ⅰ（農産物の原産地と栽培条件）
13. 世界の農牧業Ⅱ（農牧業の類型(1)：自給的農業）
14. 世界の農牧業Ⅲ（農牧業の類型(2)：商業的農業、企業的農業）
15. 世界の農牧業Ⅳ（主な農畜産物の生産）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/5qv8x8k9gu5l1fujekncxj1x6hxpc3x)

地理学Ａ（自然と農牧業を中心として）

2023-S000009464-03

藤村　健一

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・２時限　試験時間割：2023/07/26　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　地理学は、概ね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業では、まず地理学全体について説明をした後で、自然地理学の主要テーマである気候・地形について講じる。ついで、人文地理学の中でも自然地理学と特に関わりが深い農牧業の地理学について論じる。以上を通して、地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。
　本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．地理学の基本的な考え方を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

２．気候・地形と農牧業に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、授業前に各自で前回授業の内容を復習しておくこと。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験：100%（授業内容を理解し、地理学の基礎を把握できているかを確認する）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　なし（レジュメを配布する）

◎－－－　参考書　－－－◎

仁科淳司『やさしい気候学 第4版』　ISBN 9784772285117
吉田英嗣『はじめての自然地理学 第2版』　ISBN 9784772271486
西城潔ほか『地形でとらえる環境と暮らし』　ISBN 9784772253369
　これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション、地理学とは何か I（地理学の分類）（スタートアップ授業）
2. 地理学とは何か II（地理学の研究目的）
3. 地理学とは何か III（地理学の研究方法）
4. 地理学と地理教育
5. 環境論の盛衰
6. 気候 I（気候因子）
7. 気候 II（ケッペンの気候区分(1)：区分方法）
8. 気候 III（ケッペンの気候区分(2)：各気候の分布）
9. 気候 IV（風と海流、日本の気候）
10. 地形 I（大地形）
11. 地形 II（小地形）
12. 世界の農牧業 I（農産物の原産地と栽培条件）
13. 世界の農牧業 II（農牧業の類型(1)：自給的農業）
14. 世界の農牧業 III（農牧業の類型(2)：商業的農業、企業的農業）
15. 世界の農牧業 IV（主な農畜産物の生産）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/t5mi565pmqv1uppulya0hnl46gjdpyrz)

地理学Ａ（自然と農牧業を中心として）

2023-S000009464-04

藤村　健一

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　試験時間割：2023/07/26　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　地理学は、概ね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業では、まず地理学全体について説明をした後で、自然地理学の主要テーマである気候・地形について講じる。ついで、人文地理学の中でも自然地理学と特に関わりが深い農牧業の地理学について論じる。以上を通して、地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。
　本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．地理学の基本的な考え方を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

２．気候・地形と農牧業に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、授業前に各自で前回授業の内容を復習しておくこと。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験：100%（授業内容を理解し、地理学の基礎を把握できているかを確認する）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　なし（レジュメを配布する）

◎－－－　参考書　－－－◎

仁科淳司『やさしい気候学 第4版』　ISBN 9784772285117
吉田英嗣『はじめての自然地理学 第2版』　ISBN 9784772271486
西城潔ほか『地形でとらえる環境と暮らし』　ISBN 9784772253369
　これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション、地理学とは何か I（地理学の分類）（スタートアップ授業）
2. 地理学とは何か II（地理学の研究目的）
3. 地理学とは何か III（地理学の研究方法）
4. 地理学と地理教育
5. 環境論の盛衰
6. 気候 I（気候因子）
7. 気候 II（ケッペンの気候区分(1)：区分方法）
8. 気候 III（ケッペンの気候区分(2)：各気候の分布）
9. 気候 IV（風と海流、日本の気候）
10. 地形 I（大地形）
11. 地形 II（小地形）
12. 世界の農牧業 I（農産物の原産地と栽培条件）
13. 世界の農牧業 II（農牧業の類型(1)：自給的農業）
14. 世界の農牧業 III（農牧業の類型(2)：商業的農業、企業的農業）
15. 世界の農牧業 IV（主な農畜産物の生産）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/lpahfkwcfj1btomysbolx65k368tvxta)

地理学Ａ（－異文化の接触地帯を考える－）

2023-S000009464-05

磯田　則彦

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・５時限　試験時間割：2023/07/26　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、日本での外国人人口の増加や、世界各国の国境地帯をはじめとする異民族・異文化の接触地帯の現状と特徴について考察する。事例地域としては、日本をはじめ、アジア内陸部やシンガポール・香港、北アメリカ（ケベック・カリフォルニア）、オーストラリア・ニュージーランドなどである。
一昨年2021年は、57年ぶりに東京で夏季オリンピックが開催されたが、1964年当時の日本社会と現在では多くのことが異なる。外国人観光客の訪問や同居住者の顕著な増大は、私たちの日常に、文字どおり「異文化の接触地帯」を形成している。客観的な人口統計の分析と解釈からこの数十年間での社会の変貌ぶりが見えてくるであろう。
もちろん、異文化の接触地帯は多くの社会に見られる。典型的なそれは国境地帯である。概して、同地帯は異民族が接触する地帯であり、そこには文化的な摩擦や融合などが確認できる。本講義においては、アジア内陸部をはじめとする国境地帯を取りあげ考察を行う。
各国・社会の異文化の接触地帯の現状と特徴について理解し、説明できるようになることを目標とする。なお、授業は講義形式で行われる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本国内および世界各地の異文化の接触地帯について基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常的に異なる文化が接触する地帯において、当該社会を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください（講義１時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。(180分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験有。定期試験の結果（100%）により評価する。具体的には、日本の外国人人口数の推移や属性の変化、世界各国の異文化の接触地帯の特徴（民族・文化的背景など）に関する専門用語および重要統計などが理解できているかを重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし。配布資料により講義を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

世界地図および各国要覧等

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に充分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Ａを受講する上での学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①　イントロダクション（スタートアップ授業）1960年代の日本社会
②　外国人人口の推移と属性の変化
③　外国人コミュニティの形成と特徴
④　今後の展望と課題
⑤　「異文化の接触地帯」とは
⑥　Ｕ.Ｓ.「何でもあり」のカリフォルニア
⑦　多文化主義とカナダ－フレンチ・カナダ
⑧　多文化主義への転換とオーストラリア
⑨　移民社会・Ｎ.Ｚ.－「中立性」
⑩　移民社会・シンガポール－人口増加の謎
⑪　東洋と西洋の接触－香港（ホンコン／シャンガン）
⑫　国境を見る－アジア内陸部
⑬　国境を行く－アジア内陸部
⑭　国境を考える－アジア内陸部
⑮　前期のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/15v3zt6kogtk93jsjxsccb9rweemsvce)

地理学Ａ「教養ゼミ」（現実世界の多様性を考えるⅠ）

2023-S000009464-A0

磯田　則彦

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・３時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本演習では、さまざまな国や地域を取り上げ、そこにみられる社会や文化などを考察することにより、現実世界の多様性について理解を深めたい。現在、世界には197の国と複数の地域が存在するが、そこには異なる人種、さまざまな民族が暮らしている。彼らが形成してきた社会や文化は多様であり、日本と諸外国では多くのことが異なっている。われわれは海外旅行により「非日常的な世界」への“トリップ”を期待するし、滞在先の外国で日本の常識が常識とはならないことも経験的に知っている。では、この差異を「当然存在するもの」としてどのように受け止め、どのように理解すればよいのであろうか。「外（外国）と内（日本）」を知ることで、国際社会に主体的に生きる人間としての教養を深めたい。なお、演習においては、受講者各自に特定の国や地域に関して、あるテーマを設けて分担発表をしていただく予定である。なお、授業は演習（ゼミ）形式で行われる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界の国々や地域についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

世界にはさまざまな価値観と行動様式があることを知り、異なる文化・社会に柔軟に接することができるようになる。(DP2-2)(知識・理解)

自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)

授業を通してさまざまな捉え方について学び、課題に気づくことができる。(DP4-1)(知識・理解)

社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の演習内容の理解を進めるために、演習時間と同等以上の予習・復習を行ってください（演習１時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、発表レジュメの見直しを行うほか、専門用語や各種統計などを復習する。(180分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験無。したがって、再試験も無。分担発表（35%）、レポートの内容（35%）、平常点（積極的な受講状況・ゼミでの発言状況（質問・意見など）・建設的な議論への貢献度など）（30%）により評価する。具体的には、世界のさまざまな国や地域に関する各種事象や地理学的な専門用語を適切に理解できているかを重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし。配布資料により演習を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

地図帳および各国要覧など

◎－－－　授業計画　－－－◎

① イントロダクション（スタートアップ授業）世界の国々や地域
② レジュメの作成と発表のしかたについて
③ 分担発表(1)世界の国々や地域について
④ 分担発表(2)世界の国々や地域について
⑤ 分担発表(3)世界の国々や地域について
⑥ 分担発表(4)世界の国々や地域について
⑦ 分担発表(5)世界の国々や地域について
⑧ 分担発表(6)世界の国々や地域について
⑨ 分担発表(7)世界の国々や地域について
⑩ 分担発表(8)世界の国々や地域について
⑪ 分担発表(9)世界の国々や地域について
⑫ 分担発表(10)世界の国々や地域について
⑬ 分担発表(11)世界の国々や地域について
⑭ 分担発表(12)世界の国々や地域について
⑮ まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/j4gtaqu2w5parmdb8kqo3e9x1o6rfp4f)

地理学Ｂ（－世界の人口問題を考える－）

2023-S000009465-01

磯田　則彦

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・１時限　　試験時間割：2024/01/18　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、現代社会において大きな関心事となっている人口問題を取りあげる。国連によれば、世界人口は2022年11月に80億人に到達した。世界人口は、この数十年間において、11～12年間で10億人ずつ増加しており、年間8,000万人前後増えてきたことになる。
それでは、世界中のどの国や地域においても人口は急速に増加しているのであろうか？人口統計はそのような傾向を示してはいない。すなわち、世界には、依然として高い出生率と死亡率の顕著な低下を背景に急速に人口が増加している社会がみられる一方で、価値観やライフスタイルの変化などを背景に少子・高齢化が進展している社会がみられる。前者はどのような国々で、後者にはどのようなそれらが含まれるのであろうか。
各社会の人口動態と人口問題の特徴について理解し、説明できるようになることを目標とする。なお、授業は講義形式で行われる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界の人口問題についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

急速な人口増加や少子高齢社会・人口減少社会について、人口動態の変化を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください（講義１時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。
(180分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験有。定期試験の結果（100%）により評価する。具体的には、急速な人口増加の問題や少子高齢・人口減少社会などに関する専門用語や重要統計が理解できているかを重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし。配布資料により講義を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

世界各国の総人口や属性別人口に関する各種統計資料

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に充分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Ｂを受講するうえでの学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①　イントロダクション（スタートアップ授業）静態人口と人口統計
②　動態人口と人口統計
③　人口動態の段階
④　サハラ以南のアフリカ諸国における急速な人口増加
⑤　「発展途上国」の分類
⑥　人口急増社会における人口動態の特徴
⑦　高水準の出生率に影響を与える社会経済的要因
⑧　「国際的な人口会議」の開催とＩＣＰＤ
⑨　「少子化」と「高齢化」の考え方
⑩　出生力低下の動向
⑪　高齢化の進展
⑫　人口動態からみた「先進国」の分類
⑬　少子・高齢社会
⑭　人口減少社会
⑮　後期のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/0exsuc4prjst36fgbj02eu61zy9mfaqu)

地理学Ｂ（人文地理学を中心として）

2023-S000009465-03

藤村　健一

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・２時限　試験時間割：2024/01/18　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　地理学は、概ね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業では、人文地理学の主要テーマである経済と都市・村落の地理学について講じる。ついで、現代の国際問題の要因にもなっている宗教・言語の分布・特徴や、世界の民族・人口について論じる。さらに、無料で利用できる電子地図の活用法についても教える。以上を通して、人文地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。
　本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．経済地理学・都市地理学・村落地理学の概要を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

２．世界の宗教・言語の分布と民族・人口に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、授業前に各自で前回授業の内容を確認しておくこと。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験：100%（授業内容を理解し、人文地理学の基礎を把握できているかを確認する）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　なし（レジュメを配布する）

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤達也ほか編『経済地理学への招待』　ISBN 9784623086917
岡橋秀典『現代農村の地理学』　ISBN 9784772231947
稲垣稜『都市の人文地理学』　ISBN 9784772253253
　これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション、経済地理学Ⅰ（経済地理学とは何か）（スタートアップ授業）
2. 経済地理学Ⅱ（工業の立地）
3. 経済地理学Ⅲ（サービス産業の立地）
4. 経済地理学Ⅳ（国民経済、貿易）
5. 経済地理学Ⅴ（国際分業と経済のグローバル化）
6. 都市地理学Ⅰ（都市の定義・特徴・機能）
7. 都市地理学Ⅱ（都市の階層構造・内部構造）
8. 都市地理学Ⅲ（都市化、都市問題）
9. 都市地理学Ⅳ（都市の歴史的形態）
10. 村落地理学Ⅰ（村落の定義・分類・歴史）
11. 村落地理学Ⅱ（村落の社会構造、過疎問題）
12. 世界の宗教Ⅰ（世界の宗教の分類）
13. 世界の宗教Ⅱ（主な宗教の分布と特徴）
14. 世界の言語（分類と分布）
15. 世界の民族・人口（民族の定義、民族問題、世界の人口）、電子地図とその利用

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/jk8j71712983dwcbztc0wng6722fpzif)

地理学Ｂ（人文地理学を中心として）

2023-S000009465-04

藤村　健一

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　試験時間割：2024/01/18　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　地理学は、概ね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業では、人文地理学の主要テーマである経済と都市・村落の地理学について講じる。ついで、現代の国際問題の要因にもなっている宗教・言語の分布・特徴や、世界の民族・人口について論じる。さらに、無料で利用できる電子地図の活用法についても教える。以上を通して、人文地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。
　本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．経済地理学・都市地理学・村落地理学の概要を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

２．世界の宗教・言語の分布と民族・人口に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、授業前に各自で前回授業の内容を確認しておくこと。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験：100%（授業内容を理解し、人文地理学の基礎を把握できているかを確認する）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　なし（レジュメを配布する）

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤達也ほか編『経済地理学への招待』　ISBN 9784623086917
岡橋秀典『現代農村の地理学』　ISBN 9784772231947
稲垣稜『都市の人文地理学』　ISBN 9784772253253
　これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション、経済地理学Ⅰ（経済地理学とは何か）（スタートアップ授業）
2. 経済地理学Ⅱ（工業の立地）
3. 経済地理学Ⅲ（サービス産業の立地）
4. 経済地理学Ⅳ（国民経済、貿易）
5. 経済地理学Ⅴ（国際分業と経済のグローバル化）
6. 都市地理学Ⅰ（都市の定義・特徴・機能）
7. 都市地理学Ⅱ（都市の階層構造・内部構造）
8. 都市地理学Ⅲ（都市化、都市問題）
9. 都市地理学Ⅳ（都市の歴史的形態）
10. 村落地理学Ⅰ（村落の定義・分類・歴史）
11. 村落地理学Ⅱ（村落の社会構造、過疎問題）
12. 世界の宗教Ⅰ（世界の宗教の分類）
13. 世界の宗教Ⅱ（主な宗教の分布と特徴）
14. 世界の言語（分類と分布）
15. 世界の民族・人口（民族の定義、民族問題、世界の人口）、電子地図とその利用

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7q773gqpacxzav9wfp4s9glwc50cbgp9)

地理学Ｂ（人文地理学を中心として）

2023-S000009465-05

藤村　健一

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　試験時間割：2024/01/18　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　地理学は、概ね人文地理学・自然地理学・地誌学に分かれている。この授業では、人文地理学の主要テーマである経済と都市・村落の地理学について講じる。ついで、現代の国際問題の要因にもなっている宗教・言語の分布・特徴や、世界の民族・人口について論じる。さらに、無料で利用できる電子地図の活用法についても教える。以上を通して、人文地理学の基礎的な知識と地理学的な考え方を修得することを目指す。
　本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．経済地理学・都市地理学・村落地理学の概要を理解することができる。(DP2-1)(知識・理解)

２．世界の宗教・言語の分布と民族・人口に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、授業前に各自で前回授業の内容を確認しておくこと。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験：100%（授業内容を理解し、人文地理学の基礎を把握できているかを確認する）

◎－－－　テキスト　－－－◎

　なし（レジュメを配布する）

◎－－－　参考書　－－－◎

伊藤達也ほか編『経済地理学への招待』　ISBN 9784623086917
岡橋秀典『現代農村の地理学』　ISBN 9784772231947
稲垣稜『都市の人文地理学』　ISBN 9784772253253
　これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション、経済地理学Ⅰ（経済地理学とは何か）（スタートアップ授業）
2. 経済地理学Ⅱ（工業の立地）
3. 経済地理学Ⅲ（サービス産業の立地）
4. 経済地理学Ⅳ（国民経済、貿易）
5. 経済地理学Ⅴ（国際分業と経済のグローバル化）
6. 都市地理学Ⅰ（都市の定義・特徴・機能）
7. 都市地理学Ⅱ（都市の階層構造・内部構造）
8. 都市地理学Ⅲ（都市化、都市問題）
9. 都市地理学Ⅳ（都市の歴史的形態）
10. 村落地理学Ⅰ（村落の定義・分類・歴史）
11. 村落地理学Ⅱ（村落の社会構造、過疎問題）
12. 世界の宗教Ⅰ（世界の宗教の分類）
13. 世界の宗教Ⅱ（主な宗教の分布と特徴）
14. 世界の言語（分類と分布）
15. 世界の民族・人口（民族の定義、民族問題、世界の人口）、電子地図とその利用

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/bx1rcjjzqyxjsfkw7ktufp6odellqfya)

地理学Ｂ（－世界の人口問題を考える－）

2023-S000009465-06

磯田　則彦

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・５時限　試験時間割：2024/01/18　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、現代社会において大きな関心事となっている人口問題を取りあげる。国連によれば、世界人口は2022年11月に80億人に到達した。世界人口は、この数十年間において、11～12年間で10億人ずつ増加しており、年間8,000万人前後増えてきたことになる。
それでは、世界中のどの国や地域においても人口は急速に増加しているのであろうか？人口統計はそのような傾向を示してはいない。すなわち、世界には、依然として高い出生率と死亡率の顕著な低下を背景に急速に人口が増加している社会がみられる一方で、価値観やライフスタイルの変化などを背景に少子・高齢化が進展している社会がみられる。前者はどのような国々で、後者にはどのようなそれらが含まれるのであろうか。
各社会の人口動態と人口問題の特徴について理解し、説明できるようになることを目標とする。なお、授業は講義形式で行われる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界の人口問題についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

急速な人口増加や少子高齢社会・人口減少社会について、人口動態の変化を多角的に見ることができるようになる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の講義内容の理解を進めるために、講義時間と同等以上の予習・復習を行ってください（講義１時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、板書ノートや前記資料中の専門用語の意味や重要統計などを復習する。
(180分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験有。定期試験の結果（100％）により評価する。具体的には、急速な人口増加の問題や少子高齢・人口減少社会などに関する専門用語や重要統計が理解できているかを重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし。配布資料により講義を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

世界各国の総人口や属性別人口に関する各種統計資料

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

クラスサイズが比較的大きいので、授業中に充分に理解できなかった点、確認しておきたい点、疑問点などはオフィス・アワーなどを利用して補うことをすすめます。もちろん、地理学Ｂを受講するうえでの学習上のアドバイスなどもできますので、遠慮なく相談してください。みなさんが主体的に勉強できる環境を一緒につくりましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①　イントロダクション（スタートアップ授業）静態人口と人口統計
②　動態人口と人口統計
③　人口動態の段階
④　サハラ以南のアフリカ諸国における急速な人口増加
⑤　「発展途上国」の分類
⑥　人口急増社会における人口動態の特徴
⑦　高水準の出生率に影響を与える社会経済的要因
⑧　「国際的な人口会議」の開催とＩＣＰＤ
⑨　「少子化」と「高齢化」の考え方
⑩　出生力低下の動向
⑪　高齢化の進展
⑫　人口動態からみた「先進国」の分類
⑬　少子・高齢社会
⑭　人口減少社会
⑮　後期のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/lckrvrgr50jj8b412v9h3n85vcawic63)

地理学Ｂ「教養ゼミ」（現実世界の多様性を考えるⅡ）

2023-S000009465-A0

磯田　則彦

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・３時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本演習では、前期に引き続き、さまざまな国や地域を取り上げ、そこにみられる社会や文化などを考察することにより、現実世界の多様性について理解を深めたい。今日、世界の国々や地域は、多かれ少なかれグローバリゼーションやローカリゼーションの影響を受けて変容している。たとえば、中国は「世界の工場」として大きく成長してきたし、日本は輸送機械や情報通信機械工業などをはじめとして海外現地生産を展開している。各メーカーは、車や家電製品などを海外の市場で販売するにあたり、現地の人々の価値観や行動・生活様式などを詳細に分析しなければ売り上げを伸ばすことはできないであろう。この点において、まさに「異文化理解」が求められるのである。本演習では、21世紀前半の変貌する国々や地域をさまざまな角度から考察することにより、国際社会に主体的に生きる人間としての知識と教養を深めたい。なお、ゼミの形式としては、受講者各自に特定の国や地域に関して、あるテーマを設けて分担発表をしていただく予定である。なお、授業は演習（ゼミ）形式で行われる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

世界の国々や地域についての基礎的な知識を理解し説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

世界にはさまざまな価値観と行動様式があることを知り、異なる文化・社会に柔軟に接することができるようになる。(DP2-2)(知識・理解)

自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる。(DP3-1)(態度・志向性)

授業を通してさまざまな捉え方について学び、課題に気づくことができる。(DP4-1)(知識・理解)

社会的な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の演習内容の理解を進めるために、演習時間と同等以上の予習・復習を行ってください（演習１時間あたり各90分以上）。具体的には、授業で使用する資料（専門用語など）について予め学習する。および、発表レジュメの見直しを行うほか、専門用語や各種統計などを復習する。(180分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験無。したがって、再試験も無。分担発表（35%）、レポートの内容（35%）、平常点（積極的な受講状況・ゼミでの発言状況（質問・意見など）・建設的な議論への貢献度など）（30%）により評価する。具体的には、世界のさまざまな国や地域に関する注目すべきトピックスや地理学的な専門用語を適切に理解できているかを重視する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし。配布資料により演習を行う。

◎－－－　参考書　－－－◎

地図帳および各国要覧など

◎－－－　授業計画　－－－◎

① イントロダクション（スタートアップ授業）世界の国々や地域
② レジュメの作成と発表のしかたについて
③ 分担発表(1)世界の国々や地域について
④ 分担発表(2)世界の国々や地域について
⑤ 分担発表(3)世界の国々や地域について
⑥ 分担発表(4)世界の国々や地域について
⑦ 分担発表(5)世界の国々や地域について
⑧ 分担発表(6)世界の国々や地域について
⑨ 分担発表(7)世界の国々や地域について
⑩ 分担発表(8)世界の国々や地域について
⑪ 分担発表(9)世界の国々や地域について
⑫ 分担発表(10)世界の国々や地域について
⑬ 分担発表(11)世界の国々や地域について
⑭ 分担発表(12)世界の国々や地域について
⑮ まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/1hapqjyypsorlixtg8zeec9raeg7ep6h)

地誌学（地域性を把握する）

2023-S000009478-01

藤村　健一

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・１時限　試験時間割：2024/01/19　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

いわゆる「土地柄」、「県民性」、「国民性」などのことを、学術界では「地域性」と呼んでいる。地域性とは、それぞれの地域に備わっているとされる固有の性格のことである。地域性を理解するのは一般に考えられているほど容易ではなく、地域における自然環境や経済、文化など様々な要素を勘案し、総合的に考察する必要がある。では、地域性は具体的にどのような方法で把握できるのだろうか。そもそも、「地域」とは何なのだろうか。

地域や地域性に関する研究分野は、地理学では「地誌学」と呼ばれている。この授業では、地誌学による地域理解の方法を概観した上で、世界の諸地域の例としてアメリカと中国を取り上げ、それぞれの地域性を地誌学的に考察する。

本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

１．地誌学の基礎を理解し、地域性を把握することができる。(DP2-1)(知識・理解)

２．アメリカや中国の地誌に関する基礎的な知識を理解することができる。(DP1-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回、授業前に各自で前回授業の内容を復習しておくこと。(10分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験：100%（授業内容を理解し、地誌学の基礎を把握できているか確認する）

◎－－－　テキスト　－－－◎

なし（レジュメを配布する）

◎－－－　参考書　－－－◎

村山祐司編『地域研究』　ISBN 9784254167122
矢ケ崎典隆編『アメリカ』　ISBN 9784254168587
上野和彦編『中国』　ISBN 9784254168563

これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

地理の専門知識に乏しい初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、高校で「地理」を履修しなかった学生の受講も歓迎する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション、地理学および地誌学とは何かⅠ（研究目的・研究方法）（スタートアップ授業）
2. 地理学および地誌学とは何かⅡ（研究例）
3. 地域性の捉え方Ⅰ（自然環境と政治・経済の関係）
4. 地域性の捉え方Ⅱ（自然環境と文化の関係、経済と文化の関係）
5. 地域性の捉え方Ⅲ（政治と文化の関係(1)：宗教分布に対する政治の影響）
6. 地域性の捉え方Ⅳ（政治と文化の関係(2)：政治問題に対する宗教の影響）
7. アメリカの地誌Ⅰ（自然環境）
8. アメリカの地誌Ⅱ（地域区分）
9. アメリカの地誌Ⅲ（歴史、国民経済）
10. アメリカの地誌Ⅳ（農牧業、工業）
11. アメリカの地誌Ⅴ（主要都市）
12. アメリカの地誌Ⅵ（人口、民族、宗教、政治）
13. 中国の地誌Ⅰ（地域区分、気候、農牧業）
14. 中国の地誌Ⅱ（工業と国民経済、主要都市）
15. 中国の地誌Ⅲ（政治・社会、民族、文化、香港・台湾）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/e096nalwte5nty8ccefkqdlzap8qhcwt)

地誌学「BB」（地域の変化を読む）

2023-S000009478-02

伊藤　千尋

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・二部１時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

地誌学では、私たちが現在暮らしている地域は、その場所の特性（自然環境）や過去に起こってきた社会・経済的な諸現象（歴史的な背景）が複雑に関連して成り立っているものと捉えます。このような地誌学の視点は、グローバル化により複雑化する現代社会において、地域の諸問題を理解するための有効なアプローチになります。
本講義では、日本や世界の様々な地域を事例に、地誌学的視点から地域を多角的に捉え、地域の変化を読むことを目指します。
本授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

地誌学に関する基本的な知識・考え方が理解できる(DP1-1)(知識・理解)

地図や統計などから地域の特徴やその変化を読み取ることができる(DP2-1)(技能)

身近な地域や日本が抱えている社会問題について、地理学的見地から考察しようとすることができる(DP1-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：配布資料を読む
(60分)

復習：授業内容の整理・確認(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：授業内容を基礎とし、地誌学の見方・考え方を理解できているか、地図・統計等の情報を分析的に読み解くことができるかを評価する。
評価方法：理解度確認テスト（80%）＋ミニッツペーパー（20%）
※理解度確認テストは計２回実施する。
※授業内容および確認テストに関するフィードバックは授業中およびMoodleを利用して適宜行う。
※本授業は定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。
授業資料は毎回Moodleにアップロードします。必ず、授業前に各自で授業資料をダウンロードし印刷して授業に持参すること。

◎－－－　参考書　－－－◎

授業中に適宜紹介する

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

私語や授業と関係ない行為、他学生に迷惑をかける行為は禁止する。注意しても改善されない場合は退出を命じる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1）地誌学とはなにか　（スタートアップ授業）
2）中国地方1
3）中国地方2
4）中国地方3
5）南アフリカ1
6）南アフリカ2
7）南アフリカ3
8）確認テスト１
9）中国1
10）中国2
11）中国3
12）九州地方1
13）九州地方2
14）九州地方3
15）確認テスト２
※授業の進度に応じて変更する可能性があります。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/pcx70s9hernf7kiihjypl1uugh4eo9j5)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-01

佐藤　基治

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・１時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。
　次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。
　授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(態度・志向性)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前・事後に専門用語と概念を調べ理解する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)
２　心理学とは何か：科学としての心理学
３　心理学とは何か：心理学史
４　心理学研究法：
５　心理学研究法：
６　感覚と知覚：感覚
７　感覚と知覚：知覚
８　感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
９　記憶：記憶のプロセス
１０　記憶：記憶の種類
１１　記憶：短期記憶と長期記憶
１２　学習：古典的条件づけの理論
１３　学習：道具的条件づけ
１４　学習：思考錯誤説と洞察学習説
１５　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/q60y726pjsl0apsclq1skgw7yk9b04zd)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-02

佐藤　基治

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・４時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。
　次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。
　授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前・事後に専門用語と概念を調べ理解する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)
２　心理学とは何か：科学としての心理学
３　心理学とは何か：心理学史
４　心理学研究法：
５　心理学研究法：
６　感覚と知覚：感覚
７　感覚と知覚：知覚
８　感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
９　記憶：記憶のプロセス
１０　記憶：記憶の種類
１１　記憶：短期記憶と長期記憶
１２　学習：古典的条件づけの理論
１３　学習：道具的条件づけ
１４　学習：思考錯誤説と洞察学習説
１５　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/hv7ivymw9mr8ppa0rv2yuuvtjd22ntqc)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-03

佐藤　基治

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・２時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。
　次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。
　授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前・事後に専門用語と概念を調べ理解する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)
２　心理学とは何か：科学としての心理学
３　心理学とは何か：心理学史
４　心理学研究法：
５　心理学研究法：
６　感覚と知覚：感覚
７　感覚と知覚：知覚
８　感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
９　記憶：記憶のプロセス
１０　記憶：記憶の種類
１１　記憶：短期記憶と長期記憶
１２　学習：古典的条件づけの理論
１３　学習：道具的条件づけ
１４　学習：思考錯誤説と洞察学習説
１５　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/4rxu06bzxho5lqjsemi2b20rzob1ocq4)

心理学Ａ（心の基礎的な働き）

2023-S000009466-05

大上　渉

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・３時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では，視る，感じる，覚える・思い出す，考える・想像するなど，我々の心の基礎的な働きについて学ぶ。講義の最初に，心理学の歴史を取り上げ，どのような経緯で心が学問の研究対象となり，どのような形で現在まで引き継がれているかを説明する。
次に，感覚や知覚，学習，記憶など基礎的な心のはたらきに関する主要な知見・理論を順次取り上げ，これまでに明らかになっていることを説明する。その中で，我々の日常生活において心のはたらきがどのように関わっているかを写真や図などを用いて解説する。
この講義で取り上げる心の働きは，当たり前すぎて，「これが心理学なの？」と思われるかもしれない。しかしながら，心の入り口に相当する部分であり，後期の心理学Bで学ぶ発達やパーソナリティ形成，心の不適応などにも関わる，心の基盤的働きであることに留意して欲しい。
なお，この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心の働きの基盤となる「感覚」「知覚」「認知」「記憶」に関する知見や理論などについて理解し，それらを他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで，他者や社会における様々な事象や考え方，価値観を理解できる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を予めダウンロード・出力し，予習しておくこと(30分)

小テストに備え，重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し，説明した理論や知見の理解，用語などを覚えておくこと(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価は，期間内に実施する小テストの成績（80%）及び授業への積極的な取り組み（20%）で評価する。期間内に実施する小テストについては，Moodle上で教材ごとに小テスト（10問～20問）を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は，選択問題，正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には，80点を小テストの実施回数で除した値に（もし5回小テストを実施したのであれば16点となる），正答率を乗じた値を小テストごとに算出し，その合計値を小テストの成績とする。評価基準については，授業で解説した用語や知見を理解できているか，またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては，ミニッツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問，心理学の調査･実験への参加・協力などを総合的に評価する。
なお，この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

「心理学 A to B改訂版」
（佐藤基治･大上渉･一言英文･縄田健悟･箕浦有希久，培風館，2019年，2,167円，ISBN: 978-4563052539）

◎－－－　参考書　－－－◎

「心理学ビジュアル百科」　ISBN 978-4-422-11622-8
「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」　ISBN 978-4422116846
「心理学入門 こころを科学する10のアプローチ」　ISBN 978-4061548084

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
①：この授業は定期試験を実施しないため，再試験を受験することはできない。
②：Moodle上の小テストでは制限時間（1問あたり12秒程度）内に問題文を読み込み，文字の入力や記号の選択を行うことになる
③：講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出力し講義時に持参すること。
4：講義中，出席を確認する。その際，名簿からランダムに氏名を読み上げる。
⑤：受講者を指名し，発言を求めることがある。その際，教室後方に着座している学生を主に指名する。
⑥：講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また，筆記用具や講義資料など，なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。
⑦：不正な出席工作（いわゆる「ピ逃げ」）が発覚した場合，大幅な減点（15点）を行う。
⑧：担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで，講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①：イントロダクション（スタートアップ授業）
②：心理学研究法1
③：心理学研究法2
④：心理学の歴史1
⑤：心理学の歴史2
⑥：心理学の歴史3
⑦：感覚・知覚・認知1
⑧：感覚・知覚・認知2
⑨：感覚・知覚・認知3
⑩：奥行き知覚1
⑪：奥行き知覚2
⑫：記憶1
⑬：記憶2
⑭：記憶3
⑮：心理学Aの振り返り

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/m2q2ig65fb5k0sdui7nlt2hwt29pojte)

心理学Ａ（心の基礎的な働き）

2023-S000009466-06

大上　渉

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・４時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では，視る，感じる，覚える・思い出す，考える・想像するなど，我々の心の基礎的な働きについて学ぶ。講義の最初に，心理学の歴史を取り上げ，どのような経緯で心が学問の研究対象となり，どのような形で現在まで引き継がれているかを説明する。
次に，感覚や知覚，学習，記憶など基礎的な心のはたらきに関する主要な知見・理論を順次取り上げ，これまでに明らかになっていることを説明する。その中で，我々の日常生活において心のはたらきがどのように関わっているかを写真や図などを用いて解説する。
この講義で取り上げる心の働きは，当たり前すぎて，「これが心理学なの？」と思われるかもしれない。しかしながら，心の入り口に相当する部分であり，後期の心理学Bで学ぶ発達やパーソナリティ形成，心の不適応などにも関わる，心の基盤的働きであることに留意して欲しい。
なお，この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心の働きの基盤となる「感覚」「知覚」「認知」「記憶」に関する知見や理論などについて理解し，それらを他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで，他者や社会における様々な事象や考え方，価値観を理解できる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を予めダウンロード・出力し，予習しておくこと(30分)

小テストに備え，重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し，説明した理論や知見の理解，用語などを覚えておくこと(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価は，期間内に実施する小テストの成績（80%）及び授業への積極的な取り組み（20%）で評価する。期間内に実施する小テストについては，Moodle上で教材ごとに小テスト（10問～20問）を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は，選択問題，正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には，80点を小テストの実施回数で除した値に（もし5回小テストを実施したのであれば16点となる），正答率を乗じた値を小テストごとに算出し，その合計値を小テストの成績とする。評価基準については，授業で解説した用語や知見を理解できているか，またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては，ミニッツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問，心理学の調査･実験への参加・協力などを総合的に評価する。
なお，この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

「心理学 A to B改訂版」
（佐藤基治･大上渉･一言英文･縄田健悟･箕浦有希久，培風館，2019年，2,167円，ISBN: 978-4563052539）

◎－－－　参考書　－－－◎

「心理学ビジュアル百科」　ISBN 978-4-422-11622-8
「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」　ISBN 978-4422116846
「心理学入門 こころを科学する10のアプローチ」　ISBN 978-4061548084

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
①：この授業は定期試験を実施しないため，再試験を受験することはできない。
②：Moodle上の小テストでは制限時間（1問あたり12秒程度）内に問題文を読み込み，文字の入力や記号の選択を行うことになる
③：講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出力し講義時に持参すること。
4：講義中，出席を確認する。その際，名簿からランダムに氏名を読み上げる。
⑤：受講者を指名し，発言を求めることがある。その際，教室後方に着座している学生を主に指名する。
⑥：講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また，筆記用具や講義資料など，なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。
⑦：不正な出席工作（いわゆる「ピ逃げ」）が発覚した場合，大幅な減点（15点）を行う。
⑧：担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで，講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①：イントロダクション（スタートアップ授業）
②：心理学研究法1
③：心理学研究法2
④：心理学の歴史1
⑤：心理学の歴史2
⑥：心理学の歴史3
⑦：感覚・知覚・認知1
⑧：感覚・知覚・認知2
⑨：感覚・知覚・認知3
⑩：奥行き知覚1
⑪：奥行き知覚2
⑫：記憶1
⑬：記憶2
⑭：記憶3
⑮：心理学Aの振り返り

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ynt2hh8mhk081b8lgogzzm66w29dm5qc)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-07

佐藤　基治

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・２時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

　最初に「心理学とは何か」において心理学の研究領域、歴史、方法、考え方など概論的な部分に関する講義をします。科学的心理学の範囲がわかります。
　次に、様々な心理学の領域の中から、誰もが日常生活の中で経験している「感覚と知覚」、「記憶」、「学習」の領域の授業を行います。それによって、対象の分離、距離知覚、運動知覚の原理などの知覚の仕組み、感覚記憶、作業記憶、そして長期記憶の違いなどの記憶の特徴、古典的条件づけ、道具的条件づけ、観察学習など種々の学習の型がわかるようになります。
　授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験すること、教員との簡単な質疑応答を行なうことによって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する授業を行う(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前・事後に専門用語と概念を調べ理解する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)
２　心理学とは何か：科学としての心理学
３　心理学とは何か：心理学史
４　心理学研究法：
５　心理学研究法：
６　感覚と知覚：感覚
７　感覚と知覚：知覚
８　感覚と知覚：感覚と知覚のまとめ
９　記憶：記憶のプロセス
１０　記憶：記憶の種類
１１　記憶：短期記憶と長期記憶
１２　学習：古典的条件づけの理論
１３　学習：道具的条件づけ
１４　学習：思考錯誤説と洞察学習説
１５　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ghnuv1marv3leey5wwotktn2ful14wti)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-08

古川　善也

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・３時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，誰しも持っている心について，その性質や働きを探求する学問領域である。本講義では，学習，認知，発達，社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており，全てを本講義で網羅できるわけではないが，可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する(DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し，心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(態度・志向性)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出，定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版)　ISBN 978-4641221383
はじめて出会う心理学〔第3版〕　ISBN 978-4641221451

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 心理学とは何か (心理学論)
3 情報の蓄積と処理① (認知心理学)
4 情報の蓄積と処理② (認知心理学)
5 情報の蓄積と処理③ (認知心理学)
6 経験から学ぶ① (学習心理学)
7 経験から学ぶ② (学習心理学)
8 人の成長と変化① (発達心理学)
9 人の成長と変化② (発達心理学)
10 人の成長と変化③ (発達心理学)
11 社会的存在としてのヒト① (社会心理学)
12 社会的存在としてのヒト② (社会心理学)
13 社会的存在としてのヒト③ (社会心理学)
14 社会的存在としてのヒト④ (社会心理学)
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/cixlbkl7zzsuijw49azgo61xppcs8t9k)

心理学Ａ（心の仕組み）

2023-S000009466-09

縄田　健悟

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では，主に基礎過程を中心に，心理学の主要な領域の概観を行う。
心は誰もが持っているものであり，身近に感じやすい一方で，ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心理学の基礎的な知識を身に着け，それらを解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から，広い視野を身に着け，物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために，予習のみならず，しっかりと復習を行い，知識を定着させること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして，授業中の課題(30%)+定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

心理学A to B（改訂版）
978-4-563-05253-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・当然ながら，講義中の私語や，不正な出席工作は厳禁であり，大幅な減点などの厳しい処置を行う。
・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため，あわせて履修することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　イントロダクション（スタートアップ授業）
2　知覚
3　注意・記憶1
4　注意・記憶2
5　判断・意思決定1
6　判断・意思決定2
7　判断・意思決定3
8　学習
9　教育
10　知能
11　発達1
12　発達2
13　臨床・健康1
14　臨床・健康2
15　最終振り返り・まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/vn9uhvuvf2zzzoxi35cgnl6hxo1epg9k)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-10

古川　善也

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・４時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，誰しも持っている心について，その性質や働きを探求する学問領域である。本講義では，学習，認知，発達，社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており，全てを本講義で網羅できるわけではないが，可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する(DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し，心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(態度・志向性)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出，定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版)　ISBN 978-4641221383
はじめて出会う心理学〔第3版〕　ISBN 978-4641221451

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 心理学とは何か (心理学論)
3 情報の蓄積と処理① (認知心理学)
4 情報の蓄積と処理② (認知心理学)
5 情報の蓄積と処理③ (認知心理学)
6 経験から学ぶ① (学習心理学)
7 経験から学ぶ② (学習心理学)
8 人の成長と変化① (発達心理学)
9 人の成長と変化② (発達心理学)
10 人の成長と変化③ (発達心理学)
11 社会的存在としてのヒト① (社会心理学)
12 社会的存在としてのヒト② (社会心理学)
13 社会的存在としてのヒト③ (社会心理学)
14 社会的存在としてのヒト④ (社会心理学)
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7py4s6fzmtfz7aob4z6u2y7958b9xdp6)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-11

古川　善也

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，誰しも持っている心について，その性質や働きを探求する学問領域である。本講義では，学習，認知，発達，社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており，全てを本講義で網羅できるわけではないが，可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する(DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し，心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(態度・志向性)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出，定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版)　ISBN 978-4641221383
はじめて出会う心理学〔第3版〕　ISBN 978-4641221451

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 心理学とは何か (心理学論)
3 情報の蓄積と処理① (認知心理学)
4 情報の蓄積と処理② (認知心理学)
5 情報の蓄積と処理③ (認知心理学)
6 経験から学ぶ① (学習心理学)
7 経験から学ぶ② (学習心理学)
8 人の成長と変化① (発達心理学)
9 人の成長と変化② (発達心理学)
10 人の成長と変化③ (発達心理学)
11 社会的存在としてのヒト① (社会心理学)
12 社会的存在としてのヒト② (社会心理学)
13 社会的存在としてのヒト③ (社会心理学)
14 社会的存在としてのヒト④ (社会心理学)
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/zsbxxuqfli5o2w6bp1wfxxfoaakxf5d8)

心理学Ａ（心理学の基礎）

2023-S000009466-12

古川　善也

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・５時限　試験時間割：2023/07/29　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，誰しも持っている心について，その性質や働きを探求する学問領域である。本講義では，学習，認知，発達，社会といった領域に関する現代心理学の代表的な成果について学ぶ。心理学は基礎から応用まで幅広い領域にわたっており，全てを本講義で網羅できるわけではないが，可能な限りこれまで心理学で知られている代表的な研究成果について学習する。講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

こころの科学としての心理学の研究内容について理解する(DP2-1)(知識・理解)

日常生活の中にある心理学事象を積極的に探り出し，心理学が身近な科学であることを理解する(DP1-1)(態度・志向性)

人間の心理・行動に関する事象・出来事を実証的に分析・理解する基礎的な方法論を習得する(DP1-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出，定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

心理学・入門: 心理学はこんなに面白い(改訂版)　ISBN 978-4641221383
はじめて出会う心理学〔第3版〕　ISBN 978-4641221451

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 心理学とは何か (心理学論)
3 情報の蓄積と処理① (認知心理学)
4 情報の蓄積と処理② (認知心理学)
5 情報の蓄積と処理③ (認知心理学)
6 経験から学ぶ① (学習心理学)
7 経験から学ぶ② (学習心理学)
8 人の成長と変化① (発達心理学)
9 人の成長と変化② (発達心理学)
10 人の成長と変化③ (発達心理学)
11 社会的存在としてのヒト① (社会心理学)
12 社会的存在としてのヒト② (社会心理学)
13 社会的存在としてのヒト③ (社会心理学)
14 社会的存在としてのヒト④ (社会心理学)
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/cxxpdhv7z3svvc2fzir0c23ipbb2jfnv)

心理学Ａ「BB」（心の仕組み）

2023-S000009466-14

縄田　健悟

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・二部２時限　試験時間割：2023/07/28　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では，主に基礎過程を中心に，心理学の主要な領域の概観を行う。
心は誰もが持っているものであり，身近に感じやすい一方で，ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心理学の基礎的な知識を身に着け，それらを解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から，広い視野を身に着け，物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために，予習のみならず，しっかりと復習を行い，知識を定着させること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして，授業中の課題(30%)+定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

心理学A to B（改訂版）
978-4-563-05253-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・当然ながら，講義中の私語や，不正な出席工作は厳禁であり，大幅な減点などの厳しい処置を行う。
・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため，あわせて履修することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　イントロダクション（スタートアップ授業）
2　知覚
3　注意・記憶1
4　注意・記憶2
5　判断・意思決定1
6　判断・意思決定2
7　判断・意思決定3
8　学習
9　教育
10　知能
11　発達1
12　発達2
13　臨床・健康1
14　臨床・健康2
15　最終振り返り・まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/mmvmuauqrmxn4w3z94fnans2if3qc2y5)

心理学Ａ「教養ゼミ」（犯罪者プロファイリングとは何か）

2023-S000009466-A0

大上　渉

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：水・４時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この教養ゼミでは，警察の科学捜査研究所において，犯罪に関する事物・人の検査･鑑定などに従事してきた担当教員の経験を活かし，犯人の行動データを科学的に分析し，犯人像や犯人の居住地を推定する犯罪者プロファイリングについて理解することを目的としている。
テキストとして「犯罪捜査の心理学: プロファイリングで犯人に迫る」（越智啓太著）を用い，アクティブ･ラーニング「話合い学習」法に準じた形式で授業を進める。メンバー全員は毎回テキストを読み込んで授業に臨む。授業ではグループに分かれ，メンバーが筆者の主張やそれに関連する各自の知識・経験などを述べ合い，議論を交えることで，理解をより深めていく。
教養ゼミでは定期試験こそないものの，毎回予習（例，テキストの熟読や骨子の抽出など）が必要となり，受講生には相応の負担がある。したがって，その旨を理解した上で履修登録すること。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心理学知見を応用することで犯罪捜査において被疑者を推定できることを理解するとともに，そのことを基礎的用語や理論を用いながら他者に解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

犯罪の背景には生物学的な問題，心理学的な問題，社会学的な問題など様々の分野にまたがる問題があることを理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

犯罪者の様々な行動や考え方の問題について理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

話し合い学習法の過程において，グループの見解や自分の意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(態度・志向性)

話し合い学習法の予習を通じて，計画的に課題を取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

犯罪者プロファイリングに用いられるアプローチを他の諸問題にも適用することができる(DP4-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎週，指定された範囲のテキストを読み込み，①未知の用語や語彙，②著者の主張とその根拠，③受講生自身の既存の知識や経験との関連性をレポート1～2枚（A4判用紙，見出し必要，英数字は必ず半角）にまとめ，Moodleを通じて提出すること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価に際しては，予習レポートの内容と提出状況（70%），受講態度・取組み姿勢（30%）などによって評価する。評価に際しては，「到達目標」欄に記載した３点を満たしているかを基準にする。
なお，この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

越智啓太著「犯罪捜査の心理学: プロファイリングで犯人に迫る (DOJIN文庫) 」（ISBN:978-4759825046；税込み990円）化学同人

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この教養ゼミは，毎回，予習（例，テキストの熟読や著者の主張の抽出など）の提出が求められ相応の負担がある。またグループディスカッションを行うので皆の前での発言が求められる。その旨を理解した上で履修登録を行うこと。以下の点についても十分留意すること。

①無断の遅刻や欠席は，大幅に減点する。やむを得ず欠席する場合にはメールで連絡すること。
②出席しても積極的な参加・取り組み姿勢がみられない場合，受講態度に問題がある場合には大幅に減点する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①：イントロダクション（スタートアップ授業）
②：他己紹介
③：話合い学習法について
④：第1章 FBIによるプロファイリングプロジェクト①
⑤：第2章 プロファイリングの新たな展開①
⑥：第2章 プロファイリングの新たな展開②
⑦：第1章と第2章の振り返り
⑧：第3章 犯人の居住地を推定する①
⑨：第3章 犯人の居住地を推定する②
⑩：地理的プロファイリングの振り返り
⑪：第4章 犯人の危険性を推定する①
⑫：第4章 犯人の危険性を推定する②
⑬：第5章 犯人の動機を推定する①
⑭：第5章 犯人の動機を推定する②
⑮：ゼミ全体の振り返り

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/83q91xjvncx500xkwdbvdfdeo86myett)

心理学A「教養ゼミ」（心の仕組みを学ぶ）

2023-S000009466-A1

縄田　健悟

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この教養ゼミでは，人の心の仕組みに関する心理学研究を理解することを目的としている。
この目的の下，この教養ゼミでは，学生に"教師役"として心理学の個別テーマに基づく"授業"を行ってもらう。
自分自身で教科書を読み，まとめ，さらに自分と同じ大学生に解説する中で学びを深めてもらう。重要となるのは，内容の正確さもさることながら，できる限り分かりやすい"授業"を行うことである。これによって，心理学の知識を深めるとともにプレゼンテーション能力の向上を目指す。また，他者が行う"授業"への質問も積極的に行ってもらいたい。
学生による"授業"では，1コマで3名程度で20分の授業解説を行ってもらう。授業解説では，パワーポイントにまとめ，発表し，出てきた質問に答えることが求められる。パワーポイントで作られた資料自体，また，プレゼン自体の質も評価の対象である。
発表テーマ自体は，各自が興味のあるトピックを挙げてもらい，心理学の書籍を1冊選択して解説してもらう形式で行っていく。それを期間中に複数回行ってもらう。

前期の教養ゼミでは，心理学の中でも，
・認知心理学
・社会心理学
・発達心理学
の分野の書籍から選択してもらう。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特になし。適宜，図書館等の書籍を利用する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

教養ゼミでは，授業の準備が求められ，受講生には相応の負担がある。試験が無いからといって，単位を取りやすいわけでは決して無い。その旨を理解した上で履修登録をしていただきたい。

縄田担当の「心理学A（教養ゼミ）」と「心理学B（教養ゼミ）」は扱うテーマは違うが，プレゼンを通じて学ぶというスキル面は類似している。ともに履修できるものの演習の解説では重複する部分もあることはご承知おきの上，履修いただきたい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　　イントロダクション（スタートアップ授業）
第2回　　テーマの決定
第2回　　教員による授業資料作りとプレゼン方法の解説
第3-14回　学生による授業
第15回　　まとめと総合討議

◎－－－　到達目標　－－－◎

心理学の基礎的な理論や知見について解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から，他者・異文化・異文脈を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1)(態度・志向性)

積極的に発表や議論を行う態度・志向性を身につけることができる。(DP3-2)(態度・志向性)

心理学に関する諸領域の基礎的な知識を用いて、心の問題について自分の見解を述べることができる。(DP4-1)(知識・理解)

心の諸問題を考察する際に用いられている思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。(DP4-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

繰り返し自分の発表授業の番が回ってくるため，その準備の時間（平均して60分以上）が必要となる(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価に際しては，最終提出資料の内容（30%），プレゼンの出来栄え（50%），受講態度・課題への取組み姿勢（20%）によって評価する。また，このクラスは定期試験期間中には試験は実施しない。そのため，再試験も実施しない。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/kcnldia3hax2dchwafgq3vjc1kx3d2bb)

心理学Ｂ（行動の理解）

2023-S000009467-01

佐藤　基治

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・１時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。
授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する学習
(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業の事前事後に専門用語・概念を調べること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)

２　感情：感情の表出
３　感情：感情の理論
４　感情：感情の認知
５　発達：発達の原理
６　発達：発達理論
７　発達：発達段階
８　パーソナリティ：階層性
９　パーソナリティ：類型論
１０　パーソナリティ：特性論
１１　社会：社会的認知
１２　社会：社会的影響
１３　社会：対人関係
１４　文化
１５　犯罪

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/9kxrn2pzecohwprn50n9gktbfo5g8pjw)

心理学Ｂ（行動の理解）

2023-S000009467-02

佐藤　基治

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・４時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。
授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する学習
(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業の事前事後に専門用語・概念を調べること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)

２　感情：感情の表出
３　感情：感情の理論
４　感情：感情の認知
５　発達：発達の原理
６　発達：発達理論
７　発達：発達段階
８　パーソナリティ：階層性
９　パーソナリティ：類型論
１０　パーソナリティ：特性論
１１　社会：社会的認知
１２　社会：社会的影響
１３　社会：対人関係
１４　文化
１５　犯罪

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/tx2rvgo3r1mxvyzw2f110yhb1f5g98gi)

心理学Ｂ（行動の理解）

2023-S000009467-03

佐藤　基治

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。
授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する学習
(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業の事前事後に専門用語・概念を調べること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)

２　感情：感情の表出
３　感情：感情の理論
４　感情：感情の認知
５　発達：発達の原理
６　発達：発達理論
７　発達：発達段階
８　パーソナリティ：階層性
９　パーソナリティ：類型論
１０　パーソナリティ：特性論
１１　社会：社会的認知
１２　社会：社会的影響
１３　社会：対人関係
１４　文化
１５　犯罪

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/6cg50t4l9eo6moqxwryo34mu7f0xiur6)

心理学Ｂ（心の個人差と社会からの影響）

2023-S000009467-05

大上　渉

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・３時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では，我々を取り巻く社会・集団が心に及ぼす影響や，個性を規定する要因などについて学ぶ。全15回のうち，前半は，「社会」における心の働きに焦点をあて，対人場面における心理的現象や，所属する集団・組織内において，心の働きがどのように変化するのか，また理想のリーダーシップやリーダー像などについて，日常的事例を交えながら解説する。
後半では，性格・パーソナリティを取りあげ，性格を分類・記述するための理論や，教育，産業，医療の分野で利用されている性格検査について説明する。
なお，この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会心理学やパーソナリティ心理学などに関する基礎的な知見や理論などについて理解し，他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで，他者や社会における様々な事象や考え方，価値観を理解できる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を予めダウンロード・出力し，予習しておくこと。(30分)

小テストに備え，重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し，説明した理論や知見の理解，用語などを覚えておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価は，期間内に実施する小テストの成績（80%）及び授業への積極的な取り組み（20%）で評価する。期間内に実施する小テストについては，Moodle上で教材ごとに小テスト（10問～20問）を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は，選択問題，正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には，80点を小テストの実施回数で除した値に（もし5回小テストを実施したのであれば16点となる），正答率を乗じた値を小テストごとに算出し，その合計値を小テストの成績とする。評価基準については，授業で解説した用語や知見を理解できているか，またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては，ミニッツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問，心理学の調査･実験への参加・協力などを総合的に評価する。
なお，この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

「心理学 A to B改訂版」
（佐藤基治･大上渉･一言英文･縄田健悟･箕浦有希久，培風館，2019年，2,167円，ISBN: 978-4563052539）

◎－－－　参考書　－－－◎

「心理学ビジュアル百科」　ISBN 978-4-422-11622-8
「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」　ISBN 978-4422116846
「心理学入門 こころを科学する10のアプローチ」　ISBN 978-4061548084

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
①：この授業は定期試験を実施しないため，再試験を受験することはできない。
②：Moodle上の小テストでは制限時間（1問あたり12秒程度）内に問題を読み，文字の入力や記号の選択を行うことになる。
③：講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出力し講義時に持参すること。
4：講義中，出席を確認する。その際，名簿からランダムに氏名を読み上げる。
⑤：受講者を指名し，発言を求めることがある。その際，教室後方に着座している学生を主に指名する。
⑥：講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また，筆記用具や講義資料など，なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。
⑦：不正な出席工作（いわゆる「ピ逃げ」）が発覚した場合，大幅な減点（15点）を行う。
⑧：担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで，講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①：イントロダクション（スタートアップ授業）
②：社会心理学1-1（対人認知と印象形成）
③：社会心理学1-2（対人認知における歪み）
④：社会心理学1-3（バランス理論，対人魅力）
⑤：社会心理学2-1（身体的魅力，美しい顔の正体）
⑥：社会心理学2-2（説得と態度変容）
⑦：社会心理学2-3（集団の特徴と構造）
⑧：社会心理学2-4（同調と少数派の影響）
⑨：社会心理学2-5（リーダーシップとPM理論）
⑩：パーソナリティ1-1（パーソナリティの捉え方）
⑪：パーソナリティ1-2（パーソナリティと様々な変数の関連性）
⑫：パーソナリティ1-3（パーソナリティの成熟と障害）
⑬：パーソナリティ2-1（性格検査の目的・種類）
⑭：パーソナリティ2-2（さまざまな性格検査の特徴）
⑮：パーソナリティ2-3（しぐさ，表情から「心」を読む）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/zcnzdg83owq33ww1t3cpurraxgs8u7ky)

心理学Ｂ（心の個人差と社会からの影響）

2023-S000009467-06

大上　渉

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・４時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では，我々を取り巻く社会・集団が心に及ぼす影響や，個性を規定する要因などについて学ぶ。全15回のうち，前半は，「社会」における心の働きに焦点をあて，対人場面における心理的現象や，所属する集団・組織内において，心の働きがどのように変化するのか，また理想のリーダーシップやリーダー像などについて，日常的事例を交えながら解説する。
後半では，性格・パーソナリティを取りあげ，性格を分類・記述するための理論や，教育，産業，医療の分野で利用されている性格検査について説明する。
なお，この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会心理学やパーソナリティ心理学などに関する基礎的な知見や理論などについて理解し，他者に説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

人の知的営みの基礎となる心の仕組みを学ぶことで，他者や社会における様々な事象や考え方，価値観を理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

受講者はMoodle上にアップロードした講義資料を予めダウンロード・出力し，予習しておくこと。(30分)

小テストに備え，重要な箇所については講義中に強調して説明する。そのような箇所は重点的に復習し，説明した理論や知見の理解，用語などを覚えておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績評価は，期間内に実施する小テストの成績（80%）及び授業への積極的な取り組み（20%）で評価する。期間内に実施する小テストについては，Moodle上で教材ごとに小テスト（10問～20問）を実施する。期間内に5回程度実施する予定である。出題形式は，選択問題，正誤判断問題や記述問題などである。成績は80点満点で点数化する。具体的には，80点を小テストの実施回数で除した値に（もし5回小テストを実施したのであれば16点となる），正答率を乗じた値を小テストごとに算出し，その合計値を小テストの成績とする。評価基準については，授業で解説した用語や知見を理解できているか，またそれらが知識として定着しているかを基準にして評価する。もう一方の授業への積極的な取り組みについては，ミニッツペーパーの内容や授業内・授業前後の質問，心理学の調査･実験への参加・協力などを総合的に評価する。
なお，この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

「心理学 A to B改訂版」
（佐藤基治･大上渉･一言英文･縄田健悟･箕浦有希久，培風館，2019年，2,167円，ISBN: 978-4563052539）

◎－－－　参考書　－－－◎

「心理学ビジュアル百科」　ISBN 978-4-422-11622-8
「意識的な行動の無意識的な理由: 心理学ビジュアル百科 認知心理学編」　ISBN 978-4422116846
「心理学入門 こころを科学する10のアプローチ」　ISBN 978-4061548084

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

※以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
①：この授業は定期試験を実施しないため，再試験を受験することはできない。
②：Moodle上の小テストでは制限時間（1問あたり12秒程度）内に問題を読み，文字の入力や記号の選択を行うことになる。
③：講義資料はMoodleにアップするので受講者は事前に出力し講義時に持参すること。
4：講義中，出席を確認する。その際，名簿からランダムに氏名を読み上げる。
⑤：受講者を指名し，発言を求めることがある。その際，教室後方に着座している学生を主に指名する。
⑥：講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらを行う者に対しては学生証を呈示させ厳しい処置をとる。また，筆記用具や講義資料など，なにも持たずに受講している者も同様の措置をとる。
⑦：不正な出席工作（いわゆる「ピ逃げ」）が発覚した場合，大幅な減点（15点）を行う。
⑧：担当教員の卒論生やゼミ生が行う心理学の調査や実験への協力者を募ることがある。調査や実験に参加することで，講義でも取り上げる心理学における「心」の捉え方や心理学の研究手法を体験的に理解できる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①：イントロダクション（スタートアップ授業）
②：社会心理学1-1（対人認知と印象形成）
③：社会心理学1-2（対人認知における歪み）
④：社会心理学1-3（バランス理論，対人魅力）
⑤：社会心理学2-1（身体的魅力，美しい顔の正体）
⑥：社会心理学2-2（説得と態度変容）
⑦：社会心理学2-3（集団の特徴と構造）
⑧：社会心理学2-4（同調と少数派の影響）
⑨：社会心理学2-5（リーダーシップとPM理論）
⑩：パーソナリティ1-1（パーソナリティの捉え方）
⑪：パーソナリティ1-2（パーソナリティと様々な変数の関連性）
⑫：パーソナリティ1-3（パーソナリティの成熟と障害）
⑬：パーソナリティ2-1（性格検査の目的・種類）
⑭：パーソナリティ2-2（さまざまな性格検査の特徴）
⑮：パーソナリティ2-3（しぐさ，表情から「心」を読む）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/84drkhh59zkxgtoupbjw3vf490mfd20y)

心理学Ｂ（行動の理解）

2023-S000009467-07

佐藤　基治

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では、「心の動き」に関連した領域を取り扱います。『感情』では感情が人々の思考や行動にどのように影響するかを学習します。『モチベーション』では学習や認知との関連の中で動機づけを説明します。『パーソナリティ』では人格に関するいくつかのアプローチを説明します。『発達』では遺伝と環境の相互作用がどのように人間の発達を決定づけるかを学習します。『社会』の領域では、他者の存在が人々の行動にどう影響するかを検討します。
授業は、講義形式でおこないますが、デモンストレーションや簡単な実験を体験することや教員との簡単な質疑応答によって理解を深めていきます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

概論的な部分に関する学習
(DP1-1)(知識・理解)

諸学問分野の学習(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業の事前事後に専門用語・概念を調べること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義で取り上げた概念や専門用語を理解し、正しい説明や正しい文脈での使用が可能かを評価基準とします。
定期試験100%で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

佐藤基治・大上渉・他　「心理学A to B（改訂版）」、培風館、2019年、￥1970　ISBN: 978-4-563-0523-9

◎－－－　参考書　－－－◎

新・心理学の基礎知識　ISBN 4641183112
心理学辞典　ISBN 4641002592
ヒルガードの心理学　ISBN 4892428191

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　ガイダンス(スタートアップ授業)

２　感情：感情の表出
３　感情：感情の理論
４　感情：感情の認知
５　発達：発達の原理
６　発達：発達理論
７　発達：発達段階
８　パーソナリティ：階層性
９　パーソナリティ：類型論
１０　パーソナリティ：特性論
１１　社会：社会的認知
１２　社会：社会的影響
１３　社会：対人関係
１４　文化
１５　犯罪

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/0nu8sjutct5j96xfe1cqy2r71bh14cj5)

心理学Ｂ（進化心理学）

2023-S000009467-08

古川　善也

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では，人間行動を進化生物学の理論から説明する視点 (=進化心理学) について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく，ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応として考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は，人間行動はすべて生後の経験 (学習) によって説明できるとする旧来の (極端な) 伝統的心理学の価値観と相反するため，多くの論争を生み出している。一方で，進化論的視点は究極因から人間行動を説明する (おそらく唯一の) 有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー (社会的性別) によって説明できるのか? これらの問いに一定の答えを与えるのが本講義の目的である。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出，
定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

進化と人間行動　第2版　ISBN 978-4-13-062230-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（ガイダンス：授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 進化心理学とは何か①
3 進化心理学とは何か②
4 利己的遺伝子①
5 利己的遺伝子②
6 性と進化①
7 性と進化②
8 感情の進化①
9 感情の進化②
10 利他性の進化①
11 利他性の進化②
12 脳の進化①
13 脳の進化②
14 知能の進化①
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/362p7g3qym71abpety5bxqycgamm40al)

心理学Ｂ（心の働き）

2023-S000009467-09

縄田　健悟

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では，主に応用を中心に，心理学の主要な領域の概観を行う。
心は誰もが持っているものであり，身近に感じやすい一方で，ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心理学の基礎的な知識を身に着け，それらを解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から，広い視野を身に着け，物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために，予習のみならず，しっかりと復習を行い，知識を定着させること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして，授業中の課題(30%)+定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

心理学A to B（改訂版）
978-4-563-05253-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・当然ながら，講義中の私語や，不正な出席工作は厳禁であり，大幅な減点などの厳しい処置を行う。
・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため，あわせて履修することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　イントロダクション：スタートアップ授業
2　感情
3　性格
4　対人1
5　対人2
6　対人3
7　集団1
8　集団2
9　産業
10　災害
11　組織1
12　組織2
13　文化
14　犯罪
15　総合振り返り・まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ga94abc3fyfu4upoxydyw8klkqtx6wg9)

心理学Ｂ（進化心理学）

2023-S000009467-10

古川　善也

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・４時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では，人間行動を進化生物学の理論から説明する視点 (=進化心理学) について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく，ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応として考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は，人間行動はすべて生後の経験 (学習) によって説明できるとする旧来の (極端な) 伝統的心理学の価値観と相反するため，多くの論争を生み出している。一方で，進化論的視点は究極因から人間行動を説明する (おそらく唯一の) 有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー (社会的性別) によって説明できるのか? これらの問いに一定の答えを与えるのが本講義の目的である。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出
定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

進化と人間行動　第2版　ISBN 978-4-13-062230-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（ガイダンス：授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 進化心理学とは何か①
3 進化心理学とは何か②
4 利己的遺伝子①
5 利己的遺伝子②
6 性と進化①
7 性と進化②
8 感情の進化①
9 感情の進化②
10 利他性の進化①
11 利他性の進化②
12 脳の進化①
13 脳の進化②
14 知能の進化①
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/p7bvj79jc32dqsbn3wqvazkj9kmyg0yc)

心理学Ｂ（進化心理学）

2023-S000009467-11

古川　善也

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では，人間行動を進化生物学の理論から説明する視点 (=進化心理学) について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく，ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応として考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は，人間行動はすべて生後の経験 (学習) によって説明できるとする旧来の (極端な) 伝統的心理学の価値観と相反するため，多くの論争を生み出している。一方で，進化論的視点は究極因から人間行動を説明する (おそらく唯一の) 有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー (社会的性別) によって説明できるのか? これらの問いに一定の答えを与えるのが本講義の目的である。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出
定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

進化と人間行動　第2版　ISBN 978-4-13-062230-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（ガイダンス：授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 進化心理学とは何か①
3 進化心理学とは何か②
4 利己的遺伝子①
5 利己的遺伝子②
6 性と進化①
7 性と進化②
8 感情の進化①
9 感情の進化②
10 利他性の進化①
11 利他性の進化②
12 脳の進化①
13 脳の進化②
14 知能の進化①
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/v1wgja9vegobig33yjik6a9hqeq23gxb)

心理学Ｂ（進化心理学）

2023-S000009467-12

古川　善也

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　試験時間割：2024/01/23　１時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では，人間行動を進化生物学の理論から説明する視点 (=進化心理学) について学ぶ。ハードウェアとしての身体だけではなく，ソフトウェアとしての「こころ」や行動も自然的あるいは社会的環境への適応として考える進化・適応論的視点が80年代後半より急速に拡大しつつある。こうした視点は，人間行動はすべて生後の経験 (学習) によって説明できるとする旧来の (極端な) 伝統的心理学の価値観と相反するため，多くの論争を生み出している。一方で，進化論的視点は究極因から人間行動を説明する (おそらく唯一の) 有力な仮説をいくつか提出している。人間はなぜ大規模な協力的集団を維持できるのか? 男性と女性の違いはすべてジェンダー (社会的性別) によって説明できるのか? これらの問いに一定の答えを与えるのが本講義の目的である。
本授業は講義形式で開講するが，授業中にデモンストレーションや簡単な実験・調査も行うため，こころの不思議を実際に体験することができる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人のこころの在り方の進化的な背景を理解する(DP1-1)(知識・理解)

環境への適応という観点から人間行動を科学的にみることができるようになる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料を元に行うため，各自で事前に資料を印刷して準備しておくこと(10分)

しっかりと復習を行い，知識を定着させること(50分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識を十分に理解できていることを基準にして，
講義に対する意欲や参加態度(30%)：各回にgoogle form等で授業内容に関する感想，疑問点を提出
定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

配布資料を元に行うため，テキスト購入の必要は無い。

◎－－－　参考書　－－－◎

進化と人間行動　第2版　ISBN 978-4-13-062230-1

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

以下の点に十分留意した上で，履修登録を行うこと。
・講義中の著しい私語，スマートフォンや携帯電話，音楽プレーヤー等の使用は厳禁。これらの行為について講義の妨げや周りの受講生への迷惑となる場合は，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・不正な出席工作などが発覚した場合，大幅な減点などの厳しい措置をとる。
・卒論生やゼミ生による実験や調査などへの協力を求めることがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 スタートアップ授業（ガイダンス：授業の概要や進め方，成績評価などの説明）
2 進化心理学とは何か①
3 進化心理学とは何か②
4 利己的遺伝子①
5 利己的遺伝子②
6 性と進化①
7 性と進化②
8 感情の進化①
9 感情の進化②
10 利他性の進化①
11 利他性の進化②
12 脳の進化①
13 脳の進化②
14 知能の進化①
15 まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/iprpymeze2ags5bzagn66gr6x32cwh7q)

心理学Ｂ「BB」（心の働き）

2023-S000009467-14

縄田　健悟

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・二部２時限　試験時間割：2024/01/19　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

心理学とは，人間の心理過程と行動に関する学問領域である。本講義では，主に応用を中心に，心理学の主要な領域の概観を行う。
心は誰もが持っているものであり，身近に感じやすい一方で，ちょっとした思い込みから勘違いが生まれることも多い。この講義では，実証科学としての視点から，受講者自身が身近に感じられる日常的な例を解説する形で授業を行っていく。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心理学の基礎的な知識を身に着け，それらを解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から，広い視野を身に着け，物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業は主に配布資料と教科書を元に行うために，予習のみならず，しっかりと復習を行い，知識を定着させること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

授業内容の心理学知識が的確に理解できていることを基準にして，授業中の課題(30%)+定期試験の成績（70%）で評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

心理学A to B（改訂版）
978-4-563-05253-9

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・当然ながら，講義中の私語や，不正な出席工作は厳禁であり，大幅な減点などの厳しい処置を行う。
・単位習得は容易ではない。十分な予習・復習が必要となる。
・「心理学A」と「心理学B」とは密接に関連しているため，あわせて履修することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　イントロダクション：スタートアップ授業
2　感情
3　性格
4　対人1
5　対人2
6　対人3
7　集団1
8　集団2
9　産業
10　災害
11　組織1
12　組織2
13　文化
14　犯罪
15　総合振り返り・まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/webpycfvav0wjl0dimw26hrmgotjd0yp)

心理学Ｂ「教養ゼミ」（事例で学ぶ犯罪心理学）

2023-S000009467-A0

大上　渉

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：水・４時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この教養ゼミでは，警察の科学捜査研究所において，犯罪に関する事物・人の検査･鑑定などに従事してきた担当教員の経験を活かし，実際に起きた事件を参照することで犯罪心理学に関する様々な理論や知見を学び，理解することを目的としている。
テキストとして新潮新書「ケースで学ぶ犯罪心理学」（越智啓太著）を用い，アクティブ･ラーニング「話合い学習」法に準じた形式で授業を進める。メンバー全員は毎回テキストを読み込んで授業に臨む。授業ではグループに分かれ，メンバーが筆者の主張やそれに関連する各自の知識・経験などを述べ合い，議論を交えることで，理解をより深めていく。
教養ゼミでは定期試験こそないものの，毎回予習（例，テキストの熟読や骨子の抽出など）が必要となり，受講生には相応の負担がある。したがって，その旨を理解した上で履修登録すること。

◎－－－　到達目標　－－－◎

犯罪心理学及びそれに関連する心理学の基礎的な理論や知見について他者に解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

報道される事件について，誤解や思い込みにとらわれることなく，犯罪心理学や関連する隣接領域の知見に基づいて事件の背景や犯行に至った経緯，犯人像などを正確に理解しようとする姿勢を身につける。(DP2-1)(態度・志向性)

報道される事件について，誤解や思い込みにとらわれることなく，犯罪心理学や関連する隣接領域の知見に基づいて事件の背景や犯行に至った経緯，犯人像などを正確に理解し，他者に解説できる。(DP2-2)(知識・理解)

話し合い学習法の過程において，グループの見解や自分の意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

話し合い学習法の予習を通じて，計画的に課題を取り組むことができる。(DP3-2)(技能)

授業を通して犯罪・事件の様々な捉え方について学び，安全・安心の社会実現に向けた課題に気づくことができる(DP4-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎週，指定された範囲のテキストを読み込み，①未知の用語や語彙，②著者の主張とその根拠，③受講生自身の既存の知識や経験との関連性をレポート1～2枚（A4判用紙，見出し必要，英数字は必ず半角）にまとめ，Moodleを通じて提出すること(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価に際しては，予習レポートの内容と提出状況（70%），受講態度・取組み姿勢（30%）などによって評価する。評価に際しては「到達目標」欄に記載した３点を満たしているかを基準にする。
なお，この授業は定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

越智啓太著　「ケースで学ぶ犯罪心理学」（2090円）北大路書房　ISBN：978-4762828157

◎－－－　参考書　－－－◎

「テキスト 司法・犯罪心理学 」（越智啓太･桐生正幸編著）　ISBN 978-4762829758
「犯罪心理学事典」（日本犯罪心理学会 編）　ISBN 978-4621089552
司法・犯罪心理学入門 捜査場面を踏まえた理論と実務（桐生 正幸・板山 昂・入山 茂 (編著)）　ISBN 978-4571250538

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この教養ゼミは，毎回，予習（例，テキストの熟読や著者の主張の抽出など）の提出が求められ相応の負担がある。またグループディスカッションを行うので皆の前での発言が求められる。その旨を理解した上で履修登録を行うこと。以下の点についても十分留意すること。

①無断の遅刻や欠席は，大幅に減点する。やむを得ず欠席する場合にはメールで連絡すること。
②出席しても積極的な参加・取り組み姿勢がみられない場合，受講態度に問題がある場合には大幅に減点する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①：イントロダクション（スタートアップ授業）
②：他己紹介
③：話合い学習法について
④：第1章 連続殺人
⑤：第2章 女性による連続殺人
⑥：第3章 大量殺人
⑦：第4章 テロリズム
⑧：第5章 子どもに対する性犯罪
⑨：第6章 レイプ
⑩：第7章 ストーキング
⑪：第8章 ドメスティックバイオレンス
⑫：第9章 放火
⑬：第10章 プロファイリング
⑭：第11章 虚偽検出
⑮：第12章 目撃証言

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/n02oqgetfiopv6pbkw2gcqo4mxa3565n)

心理学Ｂ「教養ゼミ」（心の働きを学ぶ）

2023-S000009467-A1

縄田　健悟

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：木・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

この教養ゼミでは，人の心の仕組みに関する心理学研究を理解することを目的としている。
この目的の下，この教養ゼミでは，学生に"教師役"として心理学の個別テーマに基づく"授業"を行ってもらう。
自分自身で教科書を読み，まとめ，さらに自分と同じ大学生に解説する中で学びを深めてもらう。重要となるのは，内容の正確さもさることながら，できる限り分かりやすい"授業"を行うことである。これによって，心理学の知識を深めるとともにプレゼンテーション能力の向上を目指す。また，他者が行う"授業"への質問も積極的に行ってもらいたい。
学生による"授業"では，1コマで3名程度で20分の授業解説を行ってもらう。授業解説では，パワーポイントにまとめ，発表し，出てきた質問に答えることが求められる。パワーポイントで作られた資料自体，また，プレゼン自体の質も評価の対象である。
発表テーマ自体は，各自が興味のあるトピックを挙げてもらい，心理学の書籍を1冊選択して解説してもらう形式で行っていく。それを期間中に複数回行ってもらう。

後期の教養ゼミでは，心理学の中でも，
・組織心理学
・社会心理学
・教育心理学
・犯罪心理学
といった応用分野の書籍から選択してもらう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

心理学の基礎的な理論や知見について解説できる。(DP1-1)(知識・理解)

心理学の観点から，他者・異文化・異文脈を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1)(態度・志向性)

積極的に発表や議論を行う態度・志向性を身につけることができる。(DP3-2)(態度・志向性)

心理学に関する諸領域の基礎的な知識を用いて、心の問題について自分の見解を述べることができる。(DP4-1)(知識・理解)

心の諸問題を考察する際に用いられている思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。(DP4-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

繰り返し自分の発表授業の番が回ってくるため，その準備に多大な時間（平均して60分以上）が必要になる(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価に際しては，最終提出資料（30%），プレゼンの出来栄え（50%），受講態度・課題への取組み姿勢（20%）によって評価する。
また，このクラスは定期試験期間中には試験は実施しない。そのため，再試験も実施しない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特になし。適宜，図書館等の書籍を利用する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

教養ゼミでは，授業の準備が求められ，受講生には相応の負担がある。試験が無いからといって，単位を取りやすいわけでは決して無い。その旨を理解した上で履修登録をしていただきたい。

縄田担当の「心理学A（教養ゼミ）」と「心理学B（教養ゼミ）」は扱うテーマは違うが，プレゼンを通じて学ぶというスキル面は類似している。ともに履修できるものの演習の解説では重複する部分もあることはご承知おきの上，履修いただきたい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　　イントロダクション：スタートアップ授業
第2回　　テーマの決定と相談
第3回　　教員による授業資料作りとプレゼン方法の解説
第4-14回　学生による授業
第15回　　まとめと総合討議

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/1t7tvs70rlp2pk3sb7okls57uzv2ktah)

政治学Ａ（政治理論入門（国家と市場との関係を中心に））

2023-S000009454-01

施　光恒

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・１時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

・代表的な政治理論・思想の概要を説明したうえで、それが現代の日本政治を理解する上でどのように関係してくるかについて、論じていく。

・おもに英米圏の現代の政治理論を扱う。今学期の授業では特に、正義や公正さという理念に基づき、現代の経済社会のあり方を考える。具体的には、リベラリズム、保守主義、マルクス主義、市場経済に関する思想（ハイエク、ポランニー）などを取り上げる。これらの政治理論を通じて、現代の日本や世界の政治や経済を見る目を養う。

・基本的に講義形式で進める。パワーポイントのスライドを用いる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

リベラリズムとは何かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

民主主義とは何かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

保守主義とはどういう思想かについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

マルクス主義の現代的意義について基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

市場経済の利点について、特にハイエクの議論について基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

グローバル化によって市場経済がどのような影響を被ったかについて基本的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

時事的な政治問題について政治理論の基礎的な用語を用いつつ、広い視野を養い複数の角度から議論することができる。(DP2-1)(態度・志向性)

時事的な政治問題について、新聞やネット上のニュースなどを踏まえて、複数の価値観があることを知り、それぞれの立場からの議論を説明できる。(DP2-2)(知識・理解)

日本、あるいは自国（留学生の場合）の政治に関心を深め、日常的にニュースをチェックするようになる。(DP4-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

（事前学習）授業中に指示する配布資料や参考文献の該当箇所に目を通してくること。(30分)

（事後学習）毎回、配布されるプリントに目を通し、授業を整理し、各単元の理解を深める。ほぼ毎回の授業でFUポータル上で小テストを行うので、それに回答できるかを理解の目安（複数の必要性の目安）にしてほしい。確認テストがわからない場合は、資料を見直してほしい。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

現代の代表的な政治理論の知識を身に付け、日本を取りまく政治の現状をそれとの関連で説明できるようになっているかを評価の基準とする。期末試験（80%)、レポート（20%）という配分である。

◎－－－　テキスト　－－－◎

ミラー『はじめての政治哲学』岩波書店、2019年、1,188円
ISBN 4006004036

◎－－－　参考書　－－－◎

中野、柴山、施『まともな日本再生会議――グローバリズムの虚妄を撃つ』、972円　ISBN 4757222572
柴山、佐伯編『現代社会論のキーワード』、2,700円
ISBN 44779503604
　一冊目は主に、授業の後半の回の市場経済やグローバル化に関係します。二冊目は、私が執筆している「リベラル・デモクラシー」の章が授業の参考になると思います。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・授業中に紹介する参考文献に興味をもち、できる限り目を通すようにしてください。

・政治に対する興味と知識を得るために、新聞、ニュース、書籍、インターネット、雑誌などを駆使して、一つの問題に関して複数の視点から情報を得るように日々心がけてください。たとえば新聞を例にとるとすれば、特定の一紙の論説や記事をそのまま信用するのではなく、それをほかの新聞や雑誌、書籍、インターネットのサイト（さまざまなブログや各種掲示板など）を参照しつつ、多角的に評価する習慣を養ってください。

・政治学Ｂと合わせて受講することが望ましいが（できればそうしてください）、政治学Ａのみの受講もできます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　授業の概要説明（スタートアップ授業）
２　自由民主主義（１）
３　自由民主主義（２）
４　自由民主主義（３）
５　保守主義（１）
６　保守主義（２）
７　保守主義（３）
８　マルクス主義（１）
９　マルクス主義（２）
１０　市場経済の思想（１）
１１　市場経済の思想（２）
１２　市場経済の思想（３）
１３　グローバル化と市場経済（１）――カール・ポランニーの議論を手がかりに
１４　グローバル化と市場経済の思想（２）――日本社会への影響
１５　全体まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/855jm7d3j03xf14bwgsycma2o3r0gu49)

政治学Ａ（政治に関わる諸概念、政治の制度）

2023-S000009454-02

朝倉　拓郎

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・５時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現在、日本の社会は様々な困難な問題に直面している。これらの問題を解決して住みやすい社会を実現するか、あるいは問題の解決に失敗して住みにくい社会になるかは、民主政治の担い手である私たち市民の力量にかかっている。本講義の目的は、市民としての力量を高めるために必要不可欠な政治的教養（知識、ものの見方、態度等）を身につけることである。
前期開講の「政治学A」では、政治に関わる基礎的な諸概念と、民主政治を運営するための政治制度について学ぶ。その際、概念や制度の歴史的、思想的背景を含めて説明するので、単に表面的な知識を覚えるのではなく、「ものの見方」や「考え方」を理解するように心がけてほしい。
本授業は、基本的には講義形式で進められ、適宜関連するビデオを視聴する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

政治における基礎的な概念や制度を理解し、それらを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

政治的な概念や制度の背景にある歴史や思想について理解し、それらを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

日本社会が直面している政治的課題に対して、基礎的な知識をふまえた上で自分なりの意見を持ち、それを説明できる。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：資料を読んで授業の概要を把握し、分からない用語等があれば調べておく。（資料はFUポータルを通じて事前に配布する。）(30分)

復習：疑問点や興味が深まった点があれば、教員に質問したり、資料に掲載された参考文献等を利用して、さらに理解を深める。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・定期試験によって、到達目標1、2の達成度を評価する。（80％）
・課題レポートによって、到達目標3について評価する。（20％）

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中に適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

同じ担当者による後期開講の「政治学B」をあわせて受講すると理解が深まる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　イントロダクション（スタートアップ授業）
第2回　政治の概念（1）：国家
第3回　政治の概念（2）：公共性、法
第4回　政治の概念（3）：民主主義
第5回　政治の概念（4）：権力、立憲主義
第6回　政治の概念（5）：自由主義
第7回　政治の概念（6）：社会主義
第8回　政治の概念（7）：正義
第9回　政治の制度（1）：大統領制、議院内閣制
第10回　政治の制度（2）：国会
第11回　政治の制度（3）：内閣
第12回　政治の制度（4）：選挙制度
第13回　政治の制度（5）：政党
第14回　政治の制度（6）：地方自治
第15回　政治の制度（7）：国際政治

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/n78ma56t2p2gz0h83wsg7yekby13n3vv)

政治学Ａ（国際政治学の理解）

2023-S000009454-03

李　鍾成

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・２時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代の国際社会はグローバル社会と呼ばれており、世界各国の相互依存度が高くなっているように見える。しかし、国家間には政治外交・安全保障・経済・環境などの諸問題をめぐって、協力と対立が現れたりしており、それらの問題は私たちの生活に直接・間接的に影響を与えている。本講義では、①国際政治に対する学問的理解を身につけることを目標とし、②そのために国際社会における諸問題と諸イシューを歴史的、実証的なアプローチで概説する。その際に、具体的な事例を取り上げて、その「背景と歴史」や「現状」を検討するために必要な「理論」について学んでいく。
授業の方法は講師によるレクチャー形式を基本とするが、授業中に小テスト（クイズや質疑応答）を行うことがある。この授業は後期の政治学B（国際政治史と日本）につながっている。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国家間の政治・外交の相互作用を分析する国際政治学の理論を理解し、現実の国際政治を読み解くための基礎知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

問題を多様な視覚で分析し考察して能動的に解決するために必要な専門的な社会科学の手法を学び、その活用方法を身につける。(DP2-1)(技能)

国際事情や他国の動態を理解し、日本と国際社会の関係を客観的に見ることができる。(DP2-2)(知識・理解)

国際社会についての知見を深め、学生各自がそれぞれの国際観を持つとともに、国際社会の安定やSDGsの達成に貢献できる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テレビ、新聞などで国際政治と国際事情に関する情報に常に接する。(30分)

予習：毎回、配布される授業レジュメに目を通し、用語や略語の意味を中心に授業を整理しておく。(60分)

復習：授業中に指定される文献を読んで予習をしておく。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験60%
授業貢献度（ミニッツペーパー提出+小テスト）：40%

・定期試験では、到達目標のDP1（知識・理解）、(DP2-1)(技能)、そして(DP2-2)(知識・理解)を中心に評価する。
特に国際政治学の理論と現実を結びつける能力が主な評価基準になる。

・ミニッツペーパーには、毎回の授業に関する感想や質問を書いてもらう。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定教科書はないが、毎回の授業でプリントを配布し、場合によって1次資料などを紹介する。

◎－－－　参考書　－－－◎

国際政治学 (New Liberal Arts Selection)　ISBN 4641177228
国際関係論（第３版）　ISBN 4335002335
大国政治の悲劇　ISBN 4909542175

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1）授業マナーを必ず守る。（私語など、講義の進行や他の学生の受講を妨げる行為を慎む。）
2）各回の講義について、履修学生の意見・感想・質問等をミニッツペーパーに作成してもらい、次週にそれに対するコメントや意見交換などを行う。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①オリエンテーション：国際政治学という学問の誕生と特徴(スタートアップ授業)
②人類、戦争、そして国際社会：人類の誕生から見た国際社会とは
③国際政治理論とは何か＋国際政治を見る眼1：リアリズム
④国際政治を見る眼2：リアリズム2+リベラリズム
⑤国際政治を見る眼3：リベラリズム2
⑥国際政治を見る眼4：まとめ+ゲーム理論1
⑦国際政治を見る眼5：コンストラクティビズム
⑧冷戦と二極体制の国際政治
⑨一極体制の国際政治1：冷戦の終焉とアメリカの対外政策
⑩一極体制の国際政治2：アメリカの対外政策2
⑪国際政治における日本の外交・対外政策
⑫国際政治イシュー：宗教、資源、テロリズム
⑬国際政治イシュー：環境問題と国際レジーム
⑭国際政治イシュー：ヨーロッパと中央アジアの国際政治
⑮まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/hrjzzs9dr0i1ob6vyqox41c0h31n93we)

政治学Ａ（日本政治の政策課題）

2023-S000009454-04

廣澤　孝之

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代日本政治の形成過程について、政党システムの変容、主要な政策課題の変遷、日本を取りまく相互作用などに着目して講義する。
共通教育科目であることを考慮し、高校と大学の橋渡しになるよう、政治・経済・日本史などの基礎知識の確認にも留意する。基礎知識の確認のため時折発問も混ぜながら、板書を含めて丁寧に講義を進める。復習のためにも講義ノートをしっかりとることが大切である。
講義では戦後改革以後の現代日本政治外交史全般を対象とするが、今年度はとくに高度経済成長期以後の日本政治を取りまく諸問題と今後の政策課題について詳述する。なかでも現在焦眉の課題となっている福祉政策など具体的政策課題への取り組みを中心に、できるだけわかりやすく講義することにしたい。
授業の理解を深めるために講義テキストだけでなく、幅広く参考文献にあたり偏らない知識の習得に努めてほしい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代日本社会の構造について歴史的背景を踏まえて幅広く理解する。(DP1-1)(知識・理解)

現代日本政治の政策課題について、狭い価値観にとらわれず柔軟に思考する視野を開拓する。(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習　前回の授業で指示されたテキストの範囲を読み込み、内容を理解すること。(30分)

復習　講義ノートを見直してその日の講義の論点を整理すること。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験60％と平常点40％(平常点は小テスト・レポート提出等による)との総合評価とする。到達目標にある、自分の言葉で日本政治について説明できるかどうかで平常点を評価し、日本政治に関する基礎的な理解の有無を定期試験における評価の基準とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

廣澤孝之著『日本政治の政策課題』晃洋書房、2012年、2800円,ISBN978-4-7710-2385-7

◎－－－　参考書　－－－◎

講義のなかで適宜指示する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに [スタートアップ授業]
2　現代日本社会の抱える諸課題
3　戦後日本政治の基本的枠組み
4　戦後改革から「55年体制」の成立へ
5　自民党支配体制の確立と変容
6「政治改革」と政党システムの再編(1)
7「政治改革」と政党システムの再編(2)
8　日本における「企業社会」の成立
9　日本における福祉政策の特質
10　新しい社会的危機と教育政策の課題
11　日米安保体制の成立と未完の戦後処理
12　国際環境の変化と新しい地域秩序の模索
13　新しい福祉社会の展望　企業社会を超えて
14　現代日本政治の政策課題
15　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/8iorjuf1urasitch7uuginsnphd739hc)

政治学Ａ「BB」（政治学の基礎）

2023-S000009454-05

菅原　和行

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・二部１時限　試験時間割：2023/07/31　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

この授業では、現代政治を理解するうえで必要な政治学の基礎概念や政治の諸制度について学びます。政治という営みは、価値の多元性を前提として、それらの間の調整や妥協を図る行為です。私たちの社会には、自由、平等、経済的繁栄などの多様な価値が存在しますが、それらがつねに調和するとは限らないため、価値の間に生じる対立を解決し、調整を図らなくてはなりません。たとえば、経済的繁栄と環境保護はしばしば衝突しますが、どちらも私たちの社会には不可欠な価値であるため、両者に折り合いをつけながら社会を維持していかなくてはなりません。また、こうした価値の対立は、それを支持する個人や集団（政党、利益集団、国家など）の対立でもあるため、そうした個人・集団間の対立を調整し、妥協を図ることも必要となります。それでは、こうした政治の営みをより良いものにしていくにはどうしたらよいのか、それを考えるのが政治学という学問分野です。
この授業では、政治という営みがどのようなものであるかを理解し、より良い政治のあり方を考えるため、政治学の基礎概念や政治の諸制度について学び、私たち自身が政治のアクター（行為者）として主体的に社会に関わるうえで必要な知識を修得することを目指します。授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

政治学の基礎概念と政治の諸制度について、自分自身の言葉で説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

政治における諸価値の対立を解決するため、自らその方策を提示できる。(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の授業を受けるにあたり、事前にテキストの該当箇所をよく読み、予習しておくこと。(60分)

各回授業のあと、ノートを見返すとともにテキストの該当箇所をもう一度よく読んで復習しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：授業中に説明した政治学の諸概念、理論・学説、政治の諸制度、政策等を正しく理解し、自分の言葉で適切に説明できるかどうかを評価基準とする。
評価方法：定期試験70％と平常点（ミニッツペーパー）30％により、上記の評価基準の達成度を評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

西山隆行、向井洋子編『図録　政治学』（弘文堂、2023年）　2,750円（税込）　ISBN 9784335359415
上記のテキストを用いて授業を進めます。授業開始までに購入し、毎回の授業に持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤恭彦『現代政治学［第４版］』（有斐閣、2012年）　ISBN 9784641124554
その他の文献は授業中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業中にミニッツペーパーを作成してもらうため、毎回の授業にきちんと出席できる方が履修してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ガイダンス、政治とは何か、政治学とは何か（スタートアップ授業）
2　政治学の基礎概念
3　市民革命期までの政治思想
4　市民革命期以降の政治思想
5　政治体制
6　体制変動
7　55年体制
8　55年体制崩壊後の展開
9　民主主義の歴史
10　現代の民主主義
11　権力分立と議会
12　主要国の政治制度
13　地方自治
14　日本の地方自治
15　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/hre0tcl0dkf9ukx1sedbirgivxdqo3g3)

政治学Ａ（現代政治と国家）

2023-S000009454-06

東原　正明

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・３時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

19世紀以降、世界の政治は国民国家を中心として動いてきました。しかし近年、統合を一層深めつつあるEUをはじめとして、国家を超える組織の重要性が高まっています。それと同時に、国家内において存在する、あるいは国境をまたいで結びつきを強める地域の動向も注目されるようになり、国民国家概念の相対化ともいえる事態が進行しています。
このような現状認識に立つとはいえ、二度の世界大戦を経て現在に至るまで、依然として国家が政治の中心的なアクターの一つとして存在し続けていることも事実です。また、ヨーロッパには統合の進展に対する懐疑や反対の動きも見られます。本講義ではまず、政治とは何かについて考えたのち、私たちの生活に今なお欠くことのできない現代の国家に関して様々な角度から検討します。本授業は講義形式により進め、担当者が在オーストリア日本大使館の専門調査員として勤務した経験を活かし、ヨーロッパを中心に国家に関わる様々なテーマを提示しつつ内容を深めます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

政治とは何かということについて理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

国民国家について、その歴史や問題点も含めて学習することを通じて、現代世界の政治的動向について自己の見解を持つことができる(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、日ごろから新聞等の報道に目を通し、日本や世界の政治の動向に関心を持っておくこと。(60分)

復習として、講義の内容を整理して疑問点や問題点を確認し、次回授業に臨む準備をすること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義内容をふまえ、政治とは何か、国家とは何かについて理解できているかを評価の基準とします。
原則として、定期試験のみにより評価します。ただし、社会情勢等により小テスト等の実施が必要となる場合は、定期試験60%、小テスト等40%で評価することがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山本佐門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年）　ISBN978-4779302459（1800円＋税）

◎－－－　参考書　－－－◎

政治学の第一歩　ISBN 978-4-641-15025-6
連邦制入門　ISBN 978-4862830722
政治学をつかむ　ISBN 978-4641177154

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

日ごろから政治への関心を持ち、積極的に学習して下さい。
私語など他の受講生の学習を妨害する行為、携帯電話、スマートフォン等の使用は禁止し、それらの行為に対しては、学生証を提示させ、退出を命じる等の措置を含めて厳正に対処します。携帯電話、スマートフォン等は講義には不要ですので、カバンの中に収納し、机上には出さないこと。
各回の配布資料はFUポータルに掲載するので、各自で印刷して講義時に持参してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 はじめに（スタートアップ授業）
2 政治現象とは
3 政治の定義
4 国家とは（1）
5 国家とは（2）
6 国家権力（1）
7 国家権力（2）
8 ナショナリズムと国家（1）
9 ナショナリズムと国家（2）
10 民族と国家
11 変動する国家（1）
12 変動する国家（2）
13 政治体制
14 新しい国のかたち
15 おわりに

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/sgz1ucw6v5zdv4eyaol6y0iyijwlkp8v)

政治学Ｂ（グローバル化とナショナリズム）

2023-S000009455-01

施　光恒

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

・代表的な政治理論・思想の概要を説明したうえで、それが現代の日本政治を理解する上でどのように関係してくるかについて、論じていく。
・今学期の授業では、特に、現代の政治を理解するうえで非常に重要な「グローバル化」や「ナショナリズム」をめぐる政治理論や政治思想を扱う。グローバル化の進展、およびその反動がみられる現在の政治状況のもとで、国民国家や「ナショナルなもの」（国民意識や国民の連帯、愛国心など）の役割を検討していく。そのうえで、現代の日本やそれを取り巻く世界の政治を理解し、論じることができるようになることが目標である。
・前半では、主に「ナショナルなもの」と自由民主主義との関連を考える。
・後半（第11回以降あたりから）は、主に、日本のナショナル・アイデンティティについて、いくつかの観点から考察する。
基本的に講義形式で進める。
・パワーポイントのスライドを用いる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ネイションの起源に対する代表的な見方について基礎的な知識を得て、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

グローバル化が進むとなぜ各国内での経済的格差が拡大するかについて基礎的な知識を得て、そのメカニズムを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

グローバル化が進むとなぜ民主主義が機能不全に陥るのかについて基礎的な知識を得て、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

自由、平等、民主主義、少数者の保護といった自由民主主義の理念と、安定したネイションとの結びつきについて基礎的な知識を得て、その関係性について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本人の道徳意識の特徴について基礎的な知識を得て、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本のナショナル・アイデンティティについて、自由民主主義との関りという観点から基礎的な知識を得て、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現在進めてられているグローバル化の政策について、広い視野から見つめ、その問題点を複数の角度から指摘できる。(DP2-1)(技能)

グローバル化以後（ポストグローバル化）の世界秩序のあり方についていくつかの可能性を検討できる。(DP2-1)(技能)

欧米と比べた場合の日本人の道徳意識の特徴を理解し、それぞれの利点を説明できる。(DP2-2)(態度・志向性)

日本や自分の国（留学生の場合）の将来に主体的に関心を持ち、ニュースなどを日々チェックするようになる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

（事前学習）次の授業で用いる配布資料や参考文献の該当箇所に目を通す。(30分)

（事後学習）配布資料を熟読し、理解できたかどうかを確認する。毎回FUポータルに確認テストを用意するので、それに回答し、わからないところがあれば、資料をさらに見直す。(40分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

現在、進められているグローバル化の現象を、ナショナリズムやグローバル化に関する理論の基礎的な語彙や考え方を用いながら説明し、評価することができるかを評価の基準とする。おおよそ期末試験（論述式）（80%)、レポート（20%）の配分である。

◎－－－　テキスト　－－－◎

施光恒『英語化は愚民化－－－－日本の国力が地に落ちる』（集英社新書、2015年）

◎－－－　参考書　－－－◎

本当に日本人は流されやすいのか　ISBN 4040820290
ナショナリズムの政治学　ISBN 4779503264
原理から考える政治学　ISBN 4589037262
うえで上げたもの以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・授業中に紹介する参考文献に興味をもち、できる限り目を通すようにしてください。

・政治に対する興味と知識を得るために、新聞、ニュース、書籍、インターネット、雑誌などを駆使して、一つの問題に関して複数の視点から情報を得るように日々心がけてください。たとえば新聞を例にとるとすれば、特定の一紙の論説や記事をそのまま信用するのではなく、それをほかの新聞や雑誌、書籍、インターネットのサイト（さまざまなブログや各種掲示板など）を参照しつつ、多角的に評価する習慣を養ってください。

・政治学Ａと合わせて受講することが望ましいが（できればそうしてください）、政治学Ｂのみの受講もできます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　授業の概要説明（スタートアップ授業）
２　ネイションの起源（１）
３　ネイションの起源（２）
４　グローバル化の問題点――格差拡大はなぜ生じるのか
５　グローバル化の問題点――民主主義の機能不全
６　グローバル化の問題点――エリートの劣化と国民の分断
７　グローバル化の問題点（まとめ）
８　ナショナリティと自由民主主義（１）
９　ナショナリティと自由民主主義（２）
１０　ナショナリティと自由民主主義
１１　「ポスト・グローバル化」の世界をいかに構想するか
１２　「海洋国家」と「大陸国家」――日本のナショナル・アイデンティティ
１３　日本人の道徳意識――日本のナショナル・アイデンティティ
１４　日本人の道徳意識――日本のナショナル・アイデンティティ
１５　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7te0nh3cg1h41lu2jmmo5ck9d1jyuw4h)

政治学Ｂ（日本政治の歴史、現代政治の諸問題）

2023-S000009455-02

朝倉　拓郎

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・５時限　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現在、日本の社会は様々な困難な問題に直面している。これらの問題を解決して住みやすい社会を実現するか、あるいは問題の解決に失敗して住みにくい社会になるかは、民主政治の担い手である私たち市民の力量にかかっている。本講義の目的は、市民としての力量を高めるために必要不可欠な政治的教養（知識、ものの見方、態度等）を身につけることである。
後期開講の「政治学B」では、日本の政治の歴史を振り返り、その上で現在の日本が抱えている政治問題について学ぶ。前期の「政治学A」と比べて、より具体的かつ喫緊の課題を取り上げていくので、単に表面的な知識を覚えるのではなく、一人の市民として当事者意識をもって能動的な学習を心がけてほしい。
本授業は、基本的には講義形式で進められ、適宜関連するビデオを視聴する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

政治的な課題や対立を形成している諸要因を理解し、それを説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現在の日本政治を理解する上で基礎的な歴史的知識を身につけ、それを説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

日本社会が直面している政治的問題について、基礎的な知識をふまえた上で自分の意見を持ち、それを説明できる。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：資料を読んで授業の概要を把握し、分からない用語等があれば調べておく。（資料はFUポータルを通じて事前に配布する。）(30分)

復習：疑問点や興味が深まった点があれば、教員に質問したり、資料に掲載された参考文献等を利用して、さらに理解を深める。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・定期試験によって、到達目標1、2の達成度を評価する。（80%）
・課題レポートによって、到達目標3について評価する。（20%）

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中に適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

同じ担当者による前期開講の「政治学A」をあわせて受講すると理解が深まる。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　イントロダクション（スタートアップ授業）
第2回　日本政治の歴史（1）：明治憲法体制
第3回　日本政治の歴史（2）：戦前の政党政治
第4回　日本政治の歴史（3）：戦争への道
第5回　日本政治の歴史（4）：占領期の日本
第6回　日本政治の歴史（5）：安保改定と高度成長
第7回　日本政治の歴史（6）：沖縄返還
第8回　日本政治の歴史（7）：55年体制の崩壊～現在
第9回　現代政治の諸問題（1）：安全保障問題
第10回　現代政治の諸問題（2）：国際社会の中の日本
第11回　現代政治の諸問題（3）：格差問題
第12回　現代政治の諸問題（4）：メディアと世論
第13回　現代政治の諸問題（5）：科学と政治
第14回　現代政治の諸問題（6）：合意形成の方法
第15回　現代政治の諸問題（7）：市民自治の可能性

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/1yxwortmbth6c40bpj0600qma2nl2soa)

政治学Ｂ（国際政治史と日本）

2023-S000009455-03

李　鍾成

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・２時限　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、主に欧米と東アジアを空間的対象にして、第1次世界大戦の勃発から現在までの国際秩序の形成過程を、戦争と平和という国際政治史の観点で概観することで、我々が住んでいる昨今の国際社会の姿をより深く理解することを目標としている。その際、理論的道具と概念として、世界システム論、帝国主義、近代国家、ナショナリズム、力の均衡といった概念を取り入れていく。本講義で取り上げられる内容は、大きく6つの部分で構成される。つまり、①国際政治学と国際政治史の基本的な概念、②第1次世界大戦前後の国際秩序の変化、③第2次世界大戦と終戦後の国際社会、④冷戦時代の国際政治、⑤ポスト冷戦期と21世紀の国際秩序、そして⑥日本の外交史の一部である。
また、授業の方法は講師によるレクチャー形式を基本とするが、授業中に小テスト（クイズや質疑応答）を行うことがある。

◎－－－　到達目標　－－－◎

国際社会が形成されていく過程を戦争と平和の観点で理解するための基礎知識を身に着ける。(DP1-1)(知識・理解)

国際政治史の分析理論を利用して国際社会の出来事を説明できる。(DP2-1)(技能)

他国・他地域の国際政治史を学ぶことで、現在の国際社会の在り方を理解できる。(DP2-2)(態度・志向性)

現在の国際社会の姿と国際事情について、自らの考えを述べることができるとともに、国際社会の平和のための国家の役割について発言できる。(DP4-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テレビ、新聞などで国際政治と国際事情に関する情報に常に接する。(30分)

予習：毎回、配布される授業レジュメに目を通し、用語や略語の意味を中心に授業を整理しておく。(60分)

復習：授業中に指定される文献を読んでくる。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験60%
授業貢献度（ミニッツペーパー提出+小テスト）：40%

・定期試験では、到達目標のDP1（知識・理解）、(DP2-1)(技能)、そして(DP2-2)(知識・理解)を中心に評価する。
特に国際環境の形成とアクターとしての国家の動きに対する理解を主な評価対象とする。
・ミニッツペーパーには、毎回の授業に関する感想や質問を書いてもらう。

◎－－－　テキスト　－－－◎

指定教科書はないが、毎回の授業でプリントを配布し、場合によって1次資料などを紹介する。

◎－－－　参考書　－－－◎

国際政治史 －世界戦争の時代から21世紀へ－　ISBN 4815806713
東アジア国際政治史　ISBN 481580561X
オリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史 1・2・3　ISBN 4150504393

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1）授業マナーを必ず守る。（私語など、講義の進行や他の学生の受講を妨げる行為を慎む。）
2）各回の講義について、履修学生の意見・感想・質問等をミニッツペーパーに作成してもらい、次週にそれに対するコメントや意見交換などを行う。

◎－－－　授業計画　－－－◎

① プロログ：戦争と平和による国際政治史とは何か
（スタートアップ授業）
② 地政学と国際政治史1
③ 30年戦争と帝国主義、そしてナポレオン戦争
④ 第1次世界大戦と国際政治学の誕生1
⑤ 第1次世界大戦と国際政治学の誕生2
⑥ 国際連盟の誕生とリベラリズムの萌芽
⑦ 第2次世界大戦への道：満州事変と日中戦争
⑧ 地政学とアジア・ヨーロッパの関係
⑨ 地政学とアジア・ヨーロッパの関係2
⑩ 日本の敗戦戦略＋なぜ戦争は起きたのか
⑪ 中東の国際政治史
⑫ 中東の国際政治史
⑬ 国連の誕生と冷戦
⑭ ラテンアメリカの国際政治史
⑮ エピログ：未来の国際政治を語る

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/u90a5zqawgr45attm48n6jsl3la8595g)

政治学Ｂ（現代デモクラシー論）

2023-S000009455-04

廣澤　孝之

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代世界における民主政(デモクラシー)の諸課題について講義する。現代世界における民主政はファシズムなどさまざまな反民主政治の潮流を乗り越えて、これまで発展してきたと考えられるが、各国における選挙の投票率の低下、政治的無関心の増大に示されているように、自分たちが政治の主人公であるという意識は薄れ、いくつかの国では再び独裁政治を讃美する動きすら見られようとしている。

こうした状況のなかで、現代世界におけるデモクラシーの諸原理とは何か、グローバル化しつつ世界のなかで現代のデモクラシーにどのような構造的変化が起こりつつあるかについて考察していく。

具体的な講義内容としては現代世界が抱える地球的規模の諸課題に対して、デモクラシーを諸原理とする政治制度は有効な解決策を示しうるのか、国民国家を基本的単位としてきた近代デモクラシーの諸原理とグローバル化した世界との関わり、変貌の激しい家族や共同体と政治空間との関係などについて順次考えていく。

さまざまな分野を専攻する学生が履修する共通教育科目であることを考慮し、高校と大学の橋渡しになるよう、政治・経済・世界史などの基礎知識の確認にも留意する。基礎知識の確認のため時折発問も混ぜながら、板書を含めて丁寧に講義を進める。復習のためにも講義ノートをしっかりとることが大切である。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代政治理論の基礎的概念について理解する。(DP1-1)(知識・理解)

現代世界の諸課題について幅広い視座から考察する能力を養う。(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習　前回の講義で指示されたテキストの範囲を熟読する。(40分)

復習　講義ノートを見直し、講義で示された論点を整理し、自分の意見をまとめてみる。(40分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験60%と平常点40%(平常点は小テスト・レポート等による)との総合評価とする。到達目標にある、自分の言葉で政治について考え、表現できることを最も重視して平常点を評価し、定期試験では現代デモクラシー論など基礎的な政治理論に関する理解の有無を基準として評価を行う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

廣澤孝之著「政治学読本」(新版)法律文化社、2022年
ISBN9784589042286

◎－－－　参考書　－－－◎

講義のなかで適宜指示する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに　問題提起{スタートアップ授業}
2　危機にたつ現代デモクラシー
3　デモクラシーの基本問題
4　近代政治原理の成立
5　現代デモクラシーの諸理論
6　グローバリゼーションとデモクラシー
7　課題学習　現代世界の政策課題
8　大統領制と議院内閣制
9　現代世界の政党システム
10　代表民主政と選挙制度
11　政治空間の多層化
12 現代公共政策
13　新しい公共性
14 共生のデモクラシー
15　補論　日本社会におけるデモクラシーの課題

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/qp5fje7gcisv1buf58wmzz3faonrq0lu)

政治学Ｂ「BB」（行政の理論と公共政策）

2023-S000009455-05

菅原　和行

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・二部１時限　試験時間割：2024/01/22　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

この授業では、行政の理論と公共政策について学びます。政治という営みは、社会に存在する多様な価値の衝突や個人・集団間の対立を調整し、より良い社会を目指す行為であり、その手段となるのが政策です。そのため、政治という営みを理解し、より良い政治のあり方を考えるうえでは、その実践的な側面として政策について学ぶことが不可欠となります。ただ、一言で政策と言っても、全国規模のもの、地域限定のもの、国家間の協議が必要なものなど、多岐に及びます。また、政策をより効果的に実施するためには、それぞれの政策の特徴はもちろんのこと、課題の設定から政策の立案、決定、執行、評価へと至る一連の過程（政策過程）についても理解することが必要になります。
この授業では、行政の理論や各種の公共政策について学ぶことにより、現代社会における多様で複雑な政策問題の解決に向け、実践的な観点から政治や政策の知識を修得することを目指します。授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

行政・官僚制の諸理論、政策過程、各種の政策について、それぞれの要点を自分自身の言葉で説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

授業で学んだ諸理論や政策に関する知識を活用し、現実社会における政策問題の解決に向け、自らその方策を提示できる。(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

各回の授業を受けるにあたり、事前にテキストの該当箇所をよく読み、予習しておくこと。(60分)

各回授業のあと、ノートを見返すとともにテキストの該当箇所をもう一度よく読んで復習しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：授業中に説明した政治学の諸概念や理論・学説、政治の諸制度や政策等を正しく理解し、自分の言葉で適切に説明できるかどうかを評価基準とする。
評価方法：定期試験70％と平常点（ミニッツペーパー）30％により、上記の評価基準の達成度を評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

西山隆行、向井洋子編『図録　政治学』（弘文堂、2023年）　2,750円（税込）　ISBN 9784335359415
上記のテキストを用いて授業を進めます。授業開始までに購入し、毎回の授業に持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

秋吉貴雄、伊藤修一郎、北山俊哉『公共政策学の基礎［第３版］』（有斐閣、2020年）　ISBN 9784641184497

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

各回の授業ではミニッツペーパーを作成してもらうため、毎回の授業にきちんと出席できる方が履修してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ガイダンス、政治とは何か,政策とは何か（スタートアップ授業）
2　行政・官僚制の諸理論
3　政策過程
4　日本の官僚制
5　世論とメディア
6　政党
7　利益集団
8　社会運動
9　政治意識
10　選挙
11　政府と市場
12　社会福祉
13　ナショナリズムと多文化主義
14　ジェンダーとセクシュアリティ
15　まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/1ipxo2lmsrw5ekd6gt6him94qb485icb)

政治学Ｂ（代表制民主主義の理念と現実）

2023-S000009455-06

東原　正明

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：有り　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・３時限　　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

民主主義国家において、国民は主権者として様々な形で政治に参加しています。この参加は、選挙における投票という形で表現されるだけではありません。デモや集会への参加、利益集団を通じての積極的な政治活動など、議会外の直接行動も含めた幅広いものとしてとらえることが重要です。こうした広範な政治参加をより意義のあるものにするためにも、私たちには民主主義についての理解を十分なものとしておくことが必要となります。

本講義では、検討の対象を代表制民主主義に絞りつつ、議会や政党、行政府などの現実政治における様々なアクターの活動や特質について説明するとともに、地方自治の現状や、政治へのマスメディアの影響についても検討します。その上で、代表制民主主義が抱える諸問題を分析し、民主主義への理解を深めます。本授業は講義形式により進めます。その際には、担当者が在オーストリア日本大使館の専門調査員として勤務した経験を活かし、ヨーロッパにおける代表制民主主義の実態についても解説します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

代表制民主主義の理念と現実に関して理解することができる(DP1-1)(知識・理解)

現在の民主主義が抱える課題や問題点について考える上で必要な知識の取得し、大学での講義にとどまることなく、社会に出てからも主権者として主体的に行動できるようになる(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、日ごろから新聞等の報道に目を通し、日本や世界の政治の動向に関心を持っておくこと。(60分)

復習として、講義の内容を整理して疑問点や問題点を確認し、次回授業に臨む準備をすること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

講義内容をふまえ、代表制民主主義の理念と現実について理解できているか、現在の民主主義が抱える課題や問題点について考える上で必要な知識の取得しているかを評価の基準とします。

原則として、定期試験のみにより評価します。ただし、社会情勢等により小テスト等の実施が必要となる場合は、定期試験60%、小テスト等40%で評価することがあります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山本佐門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010年）　ISBN978-4779302459（1800円＋税）

◎－－－　参考書　－－－◎

民主主義対民主主義 多数決型とコンセンサス型の36カ 国比較研究（原著第2版）　ISBN 978-4326302338

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

日ごろから政治への関心を持ち、積極的に学習して下さい。

私語など他の受講生の学習を妨害する行為、携帯電話、スマートフォン等の使用は禁止し、それらの行為に対しては、学生証を提示させ、退出を命じる等の措置を含めて厳正に対処します。携帯電話、スマートフォン等は講義には不要ですので、カバンの中に収納し、机上には出さないこと。

各回の配布資料はFUポータルに掲載するので、各自で印刷して講義時に持参してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 はじめに（スタートアップ授業）
2 政治集団
3 代表制民主主義
4 独裁体制
5 議会制民主主義の歴史
6 日本における議会制と政党制
7 議会制民主主義の基本要素
8 議会と行政府
9 政党と利益集団
10 選挙
11 地方自治
12 マスメディアと政治
13 国民の政治意識
14 代表制民主主義の現実
15 おわりに

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/fzmqv9427t3wwfsw9mj9z58f6kyh3sf6)

教育の原理・課程論（教育と学校について深く考えるために）

2023-S000009481-01

山岸　賢一郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　私たちが生まれ社会的な存在としての「人」になるには、教育が不可欠である。しかしながら、その一方で教育は不確実性を伴うきわめて困難な営みであり、教育について理解するには、その理念や歴史、思想、方法、制度等から幅広く捉えていく必要がある。本授業では、教育とは何かを考えるための基礎概念、教育の歴史的発展、教育の方法や組織、教育制度などについての基本的な知識を概観する。そのうえで、学校が直面する今日的教育課題の具体的取り組みや成果についての理解を深めていきたい。なお、本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(技能)

教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。(DP2-1)(態度・志向性)

教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感とを備えている。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の際に指示する事前学習課題は必ず行うこと。(60分)

講義後は、講義資料や各自でとった講義ノートを用いて、学習した内容を復習しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標に照らして、次の２点にもとづき評価する。
・授業時に課す課題（小レポート等）　30%
　授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。
・定期試験　70%
　論述問題については、授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。

ただし、次の２点については、加点・減点を行う。
・講義への積極的な参加（発言、各種のワークへの積極的な参加、等）については、加点する。
・講義への不参加をあからさまに示す態度が見られた場合や、他の受講者の学習の権利を奪いかねない行為が見られた場合、減点する（遅刻、私語、各種のワークへの不参加、等）。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは特に指定しない。毎回資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

・汐見稔幸 (監修・編集)・奈須正裕 (監修)・木村元（編集）『教育原理 (アクティベート教育学 1)』ミネルヴァ書房、2020年、 ISBN-13:978-4623088133
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2018年、ISBN-13：978-4827815795
・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）』東山書房、2019年、ISBN-13：978-4827815672

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

教育に関わる講義に相応しい受講態度を期待する。
本講義は個人で行うワークやグループワークを含んでいる（ただし新型コロナウィルスをめぐる状況によりグループワークの実施方法については検討する）。また、講義中、発言を求めることもある。
授業計画等は、学習状況や理解度に応じて調整・変更することがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：オリエンテーション、「子ども」とは：スタートアップ授業（動画配信）
第２回：「子ども」を歴史的に問い直す
第３回：「学校」はどこからやってきた？（西洋）
第４回：「学校」はどこからやってきた？（日本）
第５回：戦争と学校教育
第６回：政治と学校教育
第７回：「学校」に通う意味
第８回：「家庭の教育力」は衰退したか？
第９回：日本の大学生をどう見るか？
第１０回：教育課程編成と学習指導要領①　学習指導要領とは
第１１回：教育課程編成と学習指導要領②　これからの教育課程
第１２回：ジェンダー・セクシャリティと教育の深い関係
第１３回：いま、学校の先生であること
第１４回：まとめ１　教育・学校教育の課題
第１５回：まとめ２　教育・学校教育のこれから

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/tj4uoub0a7170jq89qt70h4mwjjjlkob)

教育の原理・課程論（教育と学校について深く考えるために）

2023-S000009481-02

山岸　賢一郎

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　私たちが生まれ社会的な存在としての「人」になるには、教育が不可欠である。しかしながら、その一方で教育は不確実性を伴うきわめて困難な営みであり、教育について理解するには、その理念や歴史、思想、方法、制度等から幅広く捉えていく必要がある。本授業では、教育とは何かを考えるための基礎概念、教育の歴史的発展、教育の方法や組織、教育制度などについての基本的な知識を概観する。そのうえで、学校が直面する今日的教育課題の具体的取り組みや成果についての理解を深めていきたい。なお、本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(技能)

教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。(DP2-1)(態度・志向性)

教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感とを備えている。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の際に指示する事前学習課題は必ず行うこと。(60分)

講義後は、講義資料や各自でとった講義ノートを用いて、学習した内容を復習しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標に照らして、次の２点にもとづき評価する。
・授業時に課す課題（小レポート等）　30%
　授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。
・定期試験　70%
　論述問題については、授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。

ただし、次の２点については、加点・減点を行う。
・講義への積極的な参加（発言、各種のワークへの積極的な参加、等）については、加点する。
・講義への不参加をあからさまに示す態度が見られた場合や、他の受講者の学習の権利を奪いかねない行為が見られた場合、減点する（遅刻、私語、各種のワークへの不参加、等）。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは特に指定しない。毎回資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

・汐見稔幸 (監修・編集)・奈須正裕 (監修)・木村元（編集）『教育原理 (アクティベート教育学 1)』ミネルヴァ書房、2020年、 ISBN-13:978-4623088133
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2018年、ISBN-13：978-4827815795
・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）』東山書房、2019年、ISBN-13：978-4827815672

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

教育に関わる講義に相応しい受講態度を期待する。
本講義は個人で行うワークやグループワークを含んでいる（ただし新型コロナウィルスをめぐる状況によりグループワークの実施方法については検討する）。また、講義中、発言を求めることもある。
授業計画等は、学習状況や理解度に応じて調整・変更することがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：オリエンテーション、「子ども」とは：スタートアップ授業（動画配信）
第２回：「子ども」を歴史的に問い直す
第３回：「学校」はどこからやってきた？（西洋）
第４回：「学校」はどこからやってきた？（日本）
第５回：戦争と学校教育
第６回：政治と学校教育
第７回：「学校」に通う意味
第８回：「家庭の教育力」は衰退したか？
第９回：日本の大学生をどう見るか？
第１０回：教育課程編成と学習指導要領①　学習指導要領とは
第１１回：教育課程編成と学習指導要領②　これからの教育課程
第１２回：ジェンダー・セクシャリティと教育の深い関係
第１３回：いま、学校の先生であること
第１４回：まとめ１　教育・学校教育の課題
第１５回：まとめ２　教育・学校教育のこれから

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/tr9vbbeowt7uqxx740iu2v9qez9a4k2t)

教育の原理・課程論（教育の理念と教育課程（カリキュラムマネジメントを含む））

2023-S000009481-03

勝山　吉章

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・５時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、講義形式で行い、学習指導要領の教育課程の意義や編成の方法について学びながら、経験主義教育（開発主義）と系統主義教育（注入主義）が歴史的に交互に繰り返されてきたことを紹介する。経験主義とは、児童生徒の興味関心や体験・経験を重視する児童中心主義教育であり、系統主義とはそれぞれの教科の科学性や知の構成を重視する科学中心主義を指す。日本でも西洋でも、この両者は常に教育実践や教育思想のなかで論じられてきたものである。本講義は、これら両者のメリット・デメリットを理解しながら、学校のあり方や教育課程の編成のあり方を考える。そしてカリキュラム・マネジメントの方法原理を考察していく。
授業内容は、テキスト、配布プリント、動画などを中心に、具体的に立体的に行っていく所存である。受講生はテキストや配布プリントの授業予定箇所をよく読み、理解しておくことが求められる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育における経験主義と系統主義そしてカリキュラム・マネジメントについて理解する。(DP1-1)(知識・理解)

教育における経験主義と系統主義を踏まえて、関連諸分野についての理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストや配布プリントを事前によく読んで理解を深めておくこと。(30分)

授業を振り返って、授業内容を整理しながら自分なりの理解を進めること。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

教育の理念や教育課程の編成について理解しているかどうかを、また、カリキュラムマネジメントについて自分なりの見解を有しているか否かを評価する。評価の方法は、定期試験の結果、授業中の課題、授業の際の参加状況等で総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

勝山他『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』あいり出版 ISBN978-4-86555-106-8 C3037 2000円

◎－－－　参考書　－－－◎

安彦他『カリキュラム研究入門』勁草書房　ISBN 978-4-326-29815-0

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

後半部分ではテキストを中心に授業を行う。従って、テキストを持参しない学生の受講は認められない。
本講義は、西洋教育史（勝山）の授業とリンクしているので、両者の受講を勧める。
なお担当者は、視覚に障害をもっているので、学生の理解をお願いする。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1：ガイダンス（スタートアップ授業）
2：学習指導要領からみる教育課程の意義
3：学習指導要領からみる教育課程編成の方法
4：教育の基本的概念と近代教育学
5：教育の歴史と思想－コメニウス
6：教育の歴史と思想－ルソー
7：教育の歴史と思想－ペスタロッチ
8：教育の歴史と思想－フレーベル
9：教育の歴史と思想－デューイ
10：教育の歴史と思想－沢柳政太郎と大正自由教育
11：戦後教育の教育課程論争－経験主義か系統主義か
12：スプートニックショックと発見学習
13：教科カリキュラムと経験カリキュラムの編成方法と特色
14：相関カリキュラム、融合カリキュラム、コア・カリキュラムの編成方法と特色
15：まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/6iiro8mk1no7ry2pmdpfqf8mlmyz2pji)

教育の原理・課程論（教育の理念・歴史から教育課程まで）

2023-S000009481-04

橋場　論

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

現在学校で行われている教育は、皆さんにとってどのように見えているでしょうか。うまくいっているように見えるでしょうか。それとも、失敗しているように見えるでしょうか。もしも改善の余地があるとすれば、それはどのような点で、どのような方向に変えていけばよいのでしょうか。
教育という営みは捉えどころがなく、とても複雑なものです。それは、様々な歴史的経緯や思想に基づいて形作られてきたものです。そのため、そうした経緯や思想を知らなければ、現在や将来の教育のあり方について考えることはできません。また、教育というと「親と子ども」や「教師と児童・生徒」のみの関係に焦点化されて考えられがちであり、時には、無条件に「善いもの」として、美化されることすらあります。しかし、実際には、教育はその時々の社会の影響を受けつつ、政治や経済の手段として用いられているという側面もあります。そのような意味で、教育を巡る問題は、社会や国家のあり方とも密接な関係を持つものなのです。
そこで、本講義では、こうした教育の性質を踏まえつつ、教育の理念や歴史、思想から教育課程に至るまで網羅的に取り上げ、解説していきます。その際には、単に歴史的、思想的な話を行うのではなく、それらを通じて、現代の教育課題に対する視野を広げられるよう、議論を展開していく予定です。
本授業は担当教員による講義だけでなく受講者間でのディスカッションを交えながら展開されていきますが、それらを通じて、受講生の皆さんには社会を支える構成員として、さらには、教育者として求められる「教育を見る眼」を養ってもらいたいと考えています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

①近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

②近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

③教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

④学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

⑤公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：授業の内容に関連する資料や動画などを予め講読、視聴しておくよう指示をする場合があります(45分)

復習：毎回の内容については、授業後に見直したうえで、ノートに自分自身の言葉でまとめなおしてください。また、毎回、受講者から寄せられた意見や疑問などを踏まえQ＆Aを授業担当者が作成し、次の授業の際に配付しますので、それに目を通すようにしてください。(150分)

その他：テレビや新聞、インターネット等の媒体に接するときは、授業で取り扱ったテーマに関する情報を逃さないよう、日常的に意識するようにしてください。(45分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

「到達目標」において示した５つの具体的な目標について、以下に掲げる成績評価方法を用いながら、それぞれの到達度を測ることとします。

①授業中に提出するワークシート及び授業の事前課題：30%
※毎回の授業において、複数の問いを提示します。問いに対する自身や他者の考えをワークシートにまとめ、毎回提出してもらいます。また、回によっては、事前に短い文献や動画を閲覧してもらうなどの課題を課すことがあります。

②定期試験：70%

なお、遅刻・欠席をすると①に関する課題を提出できないことがあり、減点の対象になりますので、注意してください。また、上記のほかに、私語や遅刻等の授業態度については、評価の際に適宜考慮します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配付します。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義の形態の授業ではありますが、一方的なレクチャーに終始するのではなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行します。（ただし、コロナの状況に配慮しながら進めます。）積極的な参加を期待します。特に、教育について、他の学生と一緒に議論し、考えたい、という学生の履修を歓迎します。
テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングするようにしてください。
なお、本講義は、教職科目でもあるため、それを踏まえつつ授業を進めます。新たな発見や知的刺激のある「楽しい」授業となるよう努めますが、授業に対する積極的な参加という形でのご協力をお願いします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
2.教育とは何か：教育の本質と意義
3.近代国家の成立と公教育の展開（教育の歴史と思想：西洋）
4.近代国家の成立と公教育の展開（教育の歴史と思想：日本）
5.教育の歴史的展開と教育思想（公教育を巡る思想を中心に）
6.公教育を巡る現代的課題（アーミッシュを事例として）
7.公教育を巡る現代的課題（教員・学校の役割に注目して）
8.中間まとめ
9.教育課程編成と学習指導要領
10.教育課程編成に関する原理
11.学習指導要領の歴史的変遷
12.学力低下論争と教育課程
13.新たな学習観と教育課程
14.カリキュラム・マネジメント
15.全体まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/qidzpsw9z9hs9xq3ctgbh3jmyu0xuhdh)

教育の原理・課程論（現代学校教育の諸課題を手がかりに、教育について考える）

2023-S000009481-05

藤田　由美子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・４時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

本授業では，教職を目指す学生が，教育の思想，歴史，そして現代の教育課題について理解を深め，教育とは何かについて考察を行うとともに，教育課程および教育実践について考えることを目指す。
内容は，次の通りである。第一に，教育の理念・教育の思想・教育の歴史・教育課程について基礎的理解を深める。第二に，教育の理念にかかる具体的な問題として，子どもの権利，教育の公共性および機会均等について，理解を深める。第三に，子どもの貧困，社会的養護の子ども，ダイバーシティと教育，といった現代の学校教育が直面する問題について，歴史を踏まえつつ理解を深め，教育課程および教育実践へと関連づけていく。
本授業は，講義形式で行う。各授業回においては，具体的な事例をとりあげ，ワークシートを用いる学習やグループ・ディスカッション等によって，受講生ひとりひとりが主体的に学び考えることができる工夫を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育学の諸概念，教育の本質及び目標を理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

近代教育制度の成立等教育の歴史について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関するさまざまな思想，代表的な教育家の思想について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

身近な教育事象について，教育の理念および思想に関する学習内容を活用して説明することができる。(DP1-1)(技能)

現代社会における教育課題を，歴史との関わりで説明することができる。(DP1-1)(技能)

教育の理念・歴史・思想について，積極的に学ぶ姿勢をもっている。(DP2-1)(態度・志向性)

教育の諸事象について，多角的に考える姿勢をもっている。(DP2-1)(態度・志向性)

グループ学習などで，他者の考えを受け入れる姿勢をもっている。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習：テキストの該当箇所をあらかじめ呼んでおく(60分)

事後学習：講義内容について，ウェブサイトや図書館資料などでさらに理解を深める(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．成績評価基準：
（１）定期試験によって，教育学の諸概念・教育の本質及び目標，近代教育制度の成立等教育の歴史，教育に関するさまざまな思想や代表的な教育化の思想について理解し記述できているかを評価する。
（２）中間レポートおよびMoodle課題の提出状況によって，身近な教育事象について説明できているか，現代社会における教育課題について考察ができているか，を評価する。あわせて，レポート作成ルールを遵守できているかを評価する。
（３）授業ごとに行う個別活動や，グループ・ディスカッションなどの集団活動によって，授業への参加度および身近な教育事象についての理解や考察について評価する。

２．成績評価方法：
（１）定期試験（上記到達目標について，基本的な内容の理解度を評価する）：40%
（２）中間レポート（レポート作成ルールの遵守，身近な教育事象や現代社会における教育課題についての考察力を評価する）：20%
（３）Moodle課題の提出状況：20%
（４）グループ・ディスカッションなど授業への参加状況：20%

◎－－－　テキスト　－－－◎

藤田由美子・谷田川ルミ編『ダイバーシティ時代の　教育の原理　多様性と新たなるつながりの地平へ（第二版）』学文社，2022年9月，ISBN：978-4-7620-3134-2

◎－－－　参考書　－－－◎

講義時間内に適宜提示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

１．遅刻をしないこと
２．私語など，他の受講生の妨げになる行為をしないこと
３．グループ・ディスカッションなどの学習活動に，主体的に参加するよう努めること
＊下記授業計画は，変更の可能性もある

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：オリエンテーション（スタートアップ授業：オンデマンド動画配信）
第２回：教育の理念 – 教育とは何か–
第３回：教育の思想 – 先人の教育思想に学ぶ–
第４回：学校教育の成立 – 西洋における教育の歴史より学ぶ–
第５回：日本における教育の歴史（１） – 近代における学校教育の普及を中心に–
第６回：日本における教育の歴史（２） – 戦後教育改革以降現代に至るまで–
第７回：教育課程 – 学習指導要領，カリキュラム・マネジメント，隠れたカリキュラム–
第８回：子どもの権利 – 子どもの権利条約に学ぶ–
第９回：教育の公共性 – 公教育とシティズンシップ教育について考える–
第１０回：教育の機会均等 – その理念および現代的課題–
第１１回：子どもの貧困 – 歴史，現状および課題–
第１２回：社会的養育に生きる子ども – 教育と福祉をつなぐ–
第１３回：ダイバーシティと教育（１） – 外国につながる子ども–
第１４回：ダイバーシティと教育（２） – 多様な性を生きる子ども–
第１５回：総括 – 「教育について考えること」とは何か–
定期試験

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/qbp0hnsomp1p1cqhtjqgld69def6jwk7)

教育の原理・課程論（教育について知る・わかる・考える）

2023-S000009481-06

江玉　睦美

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。
そこで、本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。
本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のノープリントを配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができる(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの指定されたページを読む(30分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(30分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験　100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。
・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）
・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）
・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）
・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）
・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができるか（到達目標5）

◎－－－　テキスト　－－－◎

小川哲哉・勝山吉章・井上豊久編『現代教育の論究』青簡舎、2014年（2200円＋税）
ISBN978-4-903996-54-7
※2023年5月改訂版発行予定

◎－－－　参考書　－－－◎

『教師教育講座第6巻教育課程論　ISBN 9784319106752
『中学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815405
『高等学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815412
（1）鈴木由美子他、協同出版、2018年
（2）文部科学省
（3）文部科学省

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1 回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
第2 回：教育の本質－教育の機能と構造－
第3 回：教育の歴史と思想　①ルソー
第4 回：教育の歴史と思想　②ペスタロッチー
第5 回：教育の歴史と思想　③デューイ
第6 回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）
第7 回：学校教育制度の変遷
第8 回：教育課程の定義及び意義
第9 回：教育課程の歴史
第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷①
　　-経験主義と系統主義-
第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷② -ゆとり教育-
第12回：教育課程の編成原理
第13回：教育課程編成の考え方と手法
第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント
第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/cpl1uiwh81yq6xnog6ifcj7zowgkk032)

教育の原理・課程論（教育について知る・わかる・考える）

2023-S000009481-07

江玉　睦美

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。
そこで、本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。
本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のノープリントを配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができる(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの指定されたページを読む(30分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(30分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験　100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。
・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）
・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）
・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）
・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）
・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができるか（到達目標5）

◎－－－　テキスト　－－－◎

小川哲哉・勝山吉章・井上豊久編『現代教育の論究』青簡舎、2014年（2200円＋税）
ISBN978-4-903996-54-7
※2023年5月改訂版発行予定

◎－－－　参考書　－－－◎

『教師教育講座第6巻教育課程論　ISBN 9784319106752
『中学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815405
『高等学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815412
（1）鈴木由美子他、協同出版、2018年
（2）文部科学省
（3）文部科学省

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1 回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
第2 回：教育の本質－教育の機能と構造－
第3 回：教育の歴史と思想　①ルソー
第4 回：教育の歴史と思想　②ペスタロッチー
第5 回：教育の歴史と思想　③デューイ
第6 回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）
第7 回：学校教育制度の変遷
第8 回：教育課程の定義及び意義
第9 回：教育課程の歴史
第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷①
　　-経験主義と系統主義-
第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷② -ゆとり教育-
第12回：教育課程の編成原理
第13回：教育課程編成の考え方と手法
第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント
第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/pi6vcu5xa27a00yfhmjum3up2moxrz8m)

教育の原理・課程論「BB」（教育と社会との関係を考える）

2023-S000009481-08

草野　舞

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・二部２時限　試験時間割：2024/01/24　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
本講義では、教育という営みと社会との関係のこれまでとこれからについて、歴史的観点から解説を行っていきます。また、現代社会の教育課題と学校教育とくに教育課程との関係についても講義を進めていきます。「教育」と学校・家族との関係を様々な視点から捉え、理解を深めることができるよう議論を展開していく予定です。
教育に関する基礎的な知見(教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等)を学ひ つつ、教育に関わる事か らに関して「批判」的に考察していきましょう。同時に、教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感について理解を深めることを目指します。

授業の進め方や学習の方法
本授業は講義を中心として実施しますが、内容によっては複数のグループに分かれてディスカッションを行う場合があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育に関わる基本的な知見（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等）について理解を深める。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する事象について、様々な視点から「批判」的にひいては「主体」的に考えることができる。(DP2-1)(態度・志向性)

教育をめぐる多様な価値観に触れ、倫理観と責任感をもって「教育」および「教職」に向き合うことの重要性を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の内容について、文献や新聞記事、インターネット等で自分なりに調べておく。(45分)

復習：授業後は、理解できなかった点やさらに深く知りたいと思った内容についてよく確認し、各回の内容について理解を深める。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

「到達目標」で示した3つの目標について、以下の成績評価方法を用いながら到達度を確認することとします。

各回の授業後に提出するワークシート：40%
定期試験：60%

◎－－－　テキスト　－－－◎

適宜資料を配布します。授業内容にかかわる参考図書・参考資料についても,授業の際に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義内容によっては、グループディスカッション等を行う場合があります。積極的な参加を求めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
２．教育と子ども
３．教育と社会
４．近代学校の成立
５．近代の教育思想
６．子どもと家族
７．現代的な教育課題
８．中間まとめ
９．日本の教育課程の歩み
10. 教育課程開発の新しい動き
11. 教育課程の思想と構造
12. 教育課程の編成
13. カリキュラム・マネジメント
14. 今日的課題と教育課程の関係
15. 全体のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/94f548ot51cegcwllv4l4rko1z7f1lkm)

教育原論（教育と学校について深く考えるために）

2023-S000009477-01

山岸　賢一郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　私たちが生まれ社会的な存在としての「人」になるには、教育が不可欠である。しかしながら、その一方で教育は不確実性を伴うきわめて困難な営みであり、教育について理解するには、その理念や歴史、思想、方法、制度等から幅広く捉えていく必要がある。本授業では、教育とは何かを考えるための基礎概念、教育の歴史的発展、教育の方法や組織、教育制度などについての基本的な知識を概観する。そのうえで、学校が直面する今日的教育課題の具体的取り組みや成果についての理解を深めていきたい。なお、本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(技能)

教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。(DP2-1)(態度・志向性)

教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感とを備えている。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の際に指示する事前学習課題は必ず行うこと。(60分)

講義後は、講義資料や各自でとった講義ノートを用いて、学習した内容を復習しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標に照らして、次の２点にもとづき評価する。
・授業時に課す課題（小レポート等）　30%
　授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。
・定期試験　70%
　論述問題については、授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。

ただし、次の２点については、加点・減点を行う。
・講義への積極的な参加（発言、各種のワークへの積極的な参加、等）については、加点する。
・講義への不参加をあからさまに示す態度が見られた場合や、他の受講者の学習の権利を奪いかねない行為が見られた場合、減点する（遅刻、私語、各種のワークへの不参加、等）。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは特に指定しない。毎回資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

・汐見稔幸 (監修・編集)・奈須正裕 (監修)・木村元（編集）『教育原理 (アクティベート教育学 1)』ミネルヴァ書房、2020年、 ISBN-13:978-4623088133
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2018年、ISBN-13：978-4827815795
・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）』東山書房、2019年、ISBN-13：978-4827815672

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

教育に関わる講義に相応しい受講態度を期待する。
本講義は個人で行うワークやグループワークを含んでいる（ただし新型コロナウィルスをめぐる状況によりグループワークの実施方法については検討する）。また、講義中、発言を求めることもある。
授業計画等は、学習状況や理解度に応じて調整・変更することがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：オリエンテーション、「子ども」とは：スタートアップ授業（動画配信）
第２回：「子ども」を歴史的に問い直す
第３回：「学校」はどこからやってきた？（西洋）
第４回：「学校」はどこからやってきた？（日本）
第５回：戦争と学校教育
第６回：政治と学校教育
第７回：「学校」に通う意味
第８回：「家庭の教育力」は衰退したか？
第９回：日本の大学生をどう見るか？
第１０回：教育課程編成と学習指導要領①　学習指導要領とは
第１１回：教育課程編成と学習指導要領②　これからの教育課程
第１２回：ジェンダー・セクシャリティと教育の深い関係
第１３回：いま、学校の先生であること
第１４回：まとめ１　教育・学校教育の課題
第１５回：まとめ２　教育・学校教育のこれから

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/siqrvndz3yyuyiczo4lbusy416fw43fm)

教育原論（教育と学校について深く考えるために）

2023-S000009477-02

山岸　賢一郎

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　私たちが生まれ社会的な存在としての「人」になるには、教育が不可欠である。しかしながら、その一方で教育は不確実性を伴うきわめて困難な営みであり、教育について理解するには、その理念や歴史、思想、方法、制度等から幅広く捉えていく必要がある。本授業では、教育とは何かを考えるための基礎概念、教育の歴史的発展、教育の方法や組織、教育制度などについての基本的な知識を概観する。そのうえで、学校が直面する今日的教育課題の具体的取り組みや成果についての理解を深めていきたい。なお、本授業は講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育や学校に関する基礎的な知識（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法、等）を備えている。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する基礎的な知識を活用しつつ、教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(技能)

教育や学校の在り方について、主体的かつ多面的・多角的に思考しようとしている。(DP2-1)(態度・志向性)

教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感とを備えている。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

講義の際に指示する事前学習課題は必ず行うこと。(60分)

講義後は、講義資料や各自でとった講義ノートを用いて、学習した内容を復習しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標に照らして、次の２点にもとづき評価する。
・授業時に課す課題（小レポート等）　30%
　授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。
・定期試験　70%
　論述問題については、授業の内容を踏まえた上で、根拠を大切にして説得的に論を展開できているか否か、を評価の基準とする。

ただし、次の２点については、加点・減点を行う。
・講義への積極的な参加（発言、各種のワークへの積極的な参加、等）については、加点する。
・講義への不参加をあからさまに示す態度が見られた場合や、他の受講者の学習の権利を奪いかねない行為が見られた場合、減点する（遅刻、私語、各種のワークへの不参加、等）。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは特に指定しない。毎回資料を配付する。

◎－－－　参考書　－－－◎

・汐見稔幸 (監修・編集)・奈須正裕 (監修)・木村元（編集）『教育原理 (アクティベート教育学 1)』ミネルヴァ書房、2020年、 ISBN-13:978-4623088133
・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』東山書房、2018年、ISBN-13：978-4827815795
・文部科学省『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）』東山書房、2019年、ISBN-13：978-4827815672

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

教育に関わる講義に相応しい受講態度を期待する。
本講義は個人で行うワークやグループワークを含んでいる（ただし新型コロナウィルスをめぐる状況によりグループワークの実施方法については検討する）。また、講義中、発言を求めることもある。
授業計画等は、学習状況や理解度に応じて調整・変更することがある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：オリエンテーション、「子ども」とは：スタートアップ授業（動画配信）
第２回：「子ども」を歴史的に問い直す
第３回：「学校」はどこからやってきた？（西洋）
第４回：「学校」はどこからやってきた？（日本）
第５回：戦争と学校教育
第６回：政治と学校教育
第７回：「学校」に通う意味
第８回：「家庭の教育力」は衰退したか？
第９回：日本の大学生をどう見るか？
第１０回：教育課程編成と学習指導要領①　学習指導要領とは
第１１回：教育課程編成と学習指導要領②　これからの教育課程
第１２回：ジェンダー・セクシャリティと教育の深い関係
第１３回：いま、学校の先生であること
第１４回：まとめ１　教育・学校教育の課題
第１５回：まとめ２　教育・学校教育のこれから

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/3gip5klo57i3tteqbnp7lrr5h9qp3gtv)

教育原論（カリキュラムマネジメントを含む））

2023-S000009477-03

勝山　吉章

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・５時限　　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　本講義は、講義形式で行い、学習指導要領の教育課程の意義や編成の方法について学びながら、経験主義教育（開発主義）と系統主義教育（注入主義）が歴史的に交互に繰り返されてきたことを紹介する。経験主義とは、児童生徒の興味関心や体験・経験を重視する児童中心主義教育であり、系統主義とはそれぞれの教科の科学性や知の構成を重視する科学中心主義を指す。日本でも西洋でも、この両者は常に教育実践や教育思想のなかで論じられてきたものである。本講義は、これら両者のメリット・デメリットを理解しながら、学校のあり方や教育課程の編成のあり方を考える。そしてカリキュラム・マネジメントの方法原理を考察していく。
　授業内容は、テキスト、配布プリント、動画などを中心に、具体的に立体的に行っていく所存である。受講生はテキストや配布プリントの授業予定箇所をよく読み、理解しておくことが求められる。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育における経験主義と系統主義そしてカリキュラム・マネジメントについて理解する。(DP1-1)(知識・理解)

教育における経験主義と系統主義を踏まえて、関連諸分野についての理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

テキストや配布プリントを事前によく読んで理解を深めておくこと。(30分)

授業を振り返って、授業内容を整理しながら自分なりの理解を進めること。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

教育の理念や教育課程の編成について理解しているかどうかを、また、カリキュラムマネジメントについて自分なりの見解を有しているか否かを評価する。評価の方法は、定期試験の結果、授業中の課題、授業の際の参加状況等で総合的に評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

勝山他『いま、教室に生きる教育の思想と歴史』あいり出版 ISBN978-4-86555-106-8 C3037 2000円

◎－－－　参考書　－－－◎

安彦他『カリキュラム研究入門』勁草書房　ISBN 978-4-326-29815-0

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

後半部分ではテキストを中心に授業を行う。従って、テキストを持参しない学生の受講は認められない。
本講義は、西洋教育史（勝山）の授業とリンクしているので、両者の受講を勧める。
なお担当者は、視覚に障害をもっているので、学生の理解をお願いする。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1：ガイダンス（スタートアップ授業）
2：学習指導要領からみる教育課程の意義
3：学習指導要領からみる教育課程編成の方法
4：教育の基本的概念と近代教育学
5：教育の歴史と思想－コメニウス
6：教育の歴史と思想－ルソー
7：教育の歴史と思想－ペスタロッチ
8：教育の歴史と思想－フレーベル
9：教育の歴史と思想－デューイ
10：教育の歴史と思想－沢柳政太郎と大正自由教育
11：戦後教育の教育課程論争－経験主義か系統主義か
12：スプートニックショックと発見学習
13：教科カリキュラムと経験カリキュラムの編成方法と特色
14：相関カリキュラム、融合カリキュラム、コア・カリキュラムの編成方法と特色
15：まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/69l8cemwgvy0p7v5l78a4xt1jwf93835)

教育原論（教育の理念・歴史から教育課程まで）

2023-S000009477-04

橋場　論

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

現在学校で行われている教育は、皆さんにとってどのように見えているでしょうか。うまくいっているように見えるでしょうか。それとも、失敗しているように見えるでしょうか。もしも改善の余地があるとすれば、それはどのような点で、どのような方向に変えていけばよいのでしょうか。
教育という営みは捉えどころがなく、とても複雑なものです。それは、様々な歴史的経緯や思想に基づいて形作られてきたものです。そのため、そうした経緯や思想を知らなければ、現在や将来の教育のあり方について考えることはできません。また、教育というと「親と子ども」や「教師と児童・生徒」のみの関係に焦点化されて考えられがちであり、時には、無条件に「善いもの」として、美化されることすらあります。しかし、実際には、教育はその時々の社会の影響を受けつつ、政治や経済の手段として用いられているという側面もあります。そのような意味で、教育を巡る問題は、社会や国家のあり方とも密接な関係を持つものなのです。
そこで、本講義では、こうした教育の性質を踏まえつつ、教育の理念や歴史、思想から教育課程に至るまで網羅的に取り上げ、解説していきます。その際には、単に歴史的、思想的な話を行うのではなく、それらを通じて、現代の教育課題に対する視野を広げられるよう、議論を展開していく予定です。
本授業は担当教員による講義だけでなく受講者間でのディスカッションを交えながら展開されていきますが、それらを通じて、受講生の皆さんには社会を支える構成員として、さらには、教育者として求められる「教育を見る眼」を養ってもらいたいと考えています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

①近代以降に公教育が発展した背景について、国民国家の成立という観点から、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

②近代以降における公教育の意義や課題について、近代以降の社会の特徴を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

③教育課程それ自体や教育課程の必要性について、公教育との関係から、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

④学習指導要領の歴史的変遷について、その背景にある社会の状況や学力観の変化を踏まえつつ、説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

⑤公教育や教育課程に関する様々な出来事について、日常的に関心を持つことができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：授業の内容に関連する資料や動画などを予め講読、視聴しておくよう指示をする場合があります(45分)

復習：毎回の内容については、授業後に見直したうえで、ノートに自分自身の言葉でまとめなおしてください。また、毎回、受講者から寄せられた意見や疑問などを踏まえQ＆Aを授業担当者が作成し、次の授業の際に配付しますので、それに目を通すようにしてください。(150分)

その他：テレビや新聞、インターネット等の媒体に接するときは、授業で取り扱ったテーマに関する情報を逃さないよう、日常的に意識するようにしてください。(45分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

「到達目標」において示した５つの具体的な目標について、以下に掲げる成績評価方法を用いながら、それぞれの到達度を測ることとします。

①授業中に提出するワークシート及び授業の事前課題：30%
※毎回の授業において、複数の問いを提示します。問いに対する自身や他者の考えをワークシートにまとめ、毎回提出してもらいます。また、回によっては、事前に短い文献や動画を閲覧してもらうなどの課題を課すことがあります。

②定期試験：70%

なお、遅刻・欠席をすると①に関する課題を提出できないことがあり、減点の対象になりますので、注意してください。また、上記のほかに、私語や遅刻等の授業態度については、評価の際に適宜考慮します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配付します。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義の形態の授業ではありますが、一方的なレクチャーに終始するのではなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行します。（ただし、コロナの状況に配慮しながら進めます。）積極的な参加を期待します。特に、教育について、他の学生と一緒に議論し、考えたい、という学生の履修を歓迎します。
テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングするようにしてください。
なお、本講義は、教職科目でもあるため、それを踏まえつつ授業を進めます。新たな発見や知的刺激のある「楽しい」授業となるよう努めますが、授業に対する積極的な参加という形でのご協力をお願いします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
2.教育とは何か：教育の本質と意義
3.近代国家の成立と公教育の展開（教育の歴史と思想：西洋）
4.近代国家の成立と公教育の展開（教育の歴史と思想：日本）
5.教育の歴史的展開と教育思想（公教育を巡る思想を中心に）
6.公教育を巡る現代的課題（アーミッシュを事例として）
7.公教育を巡る現代的課題（教員・学校の役割に注目して）
8.中間まとめ
9.教育課程編成と学習指導要領
10.教育課程編成に関する原理
11.学習指導要領の歴史的変遷
12.学力低下論争と教育課程
13.新たな学習観と教育課程
14.カリキュラム・マネジメント
15.全体まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/o2hk6bknus3kp3sp48j8wwxikcrtq1kc)

教育原論（現代学校教育の諸課題を手がかりに、教育について考える）

2023-S000009477-05

藤田　由美子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・４時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

本授業では，教職を目指す学生が，教育の思想，歴史，そして現代の教育課題について理解を深め，教育とは何かについて考察を行うとともに，教育課程および教育実践について考えることを目指す。
内容は，次の通りである。第一に，教育の理念・教育の思想・教育の歴史・教育課程について基礎的理解を深める。第二に，教育の理念にかかる具体的な問題として，子どもの権利，教育の公共性および機会均等について，理解を深める。第三に，子どもの貧困，社会的養護の子ども，ダイバーシティと教育，といった現代の学校教育が直面する問題について，歴史を踏まえつつ理解を深め，教育課程および教育実践へと関連づけていく。
本授業は，講義形式で行う。各授業回においては，具体的な事例をとりあげ，ワークシートを用いる学習やグループ・ディスカッション等によって，受講生ひとりひとりが主体的に学び考えることができる工夫を行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育学の諸概念，教育の本質及び目標を理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

近代教育制度の成立等教育の歴史について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関するさまざまな思想，代表的な教育家の思想について理解できる。(DP1-1)(知識・理解)

身近な教育事象について，教育の理念および思想に関する学習内容を活用して説明することができる。(DP1-1)(技能)

現代社会における教育課題を，歴史との関わりで説明することができる。(DP1-1)(技能)

教育の理念・歴史・思想について，積極的に学ぶ姿勢をもっている。(DP1-1)(態度・志向性)

教育の諸事象について，多角的に考える姿勢をもっている。(DP2-1)(態度・志向性)

グループ学習などで，他者の考えを受け入れる姿勢をもっている。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習：テキストの該当箇所をあらかじめ呼んでおく(60分)

事後学習：講義内容について，ウェブサイトや図書館資料などでさらに理解を深める(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．成績評価基準：
（１）定期試験によって，教育学の諸概念・教育の本質及び目標，近代教育制度の成立等教育の歴史，教育に関するさまざまな思想や代表的な教育化の思想について理解し記述できているかを評価する。
（２）中間レポートおよびMoodle課題の提出状況によって，身近な教育事象について説明できているか，現代社会における教育課題について考察ができているか，を評価する。あわせて，レポート作成ルールを遵守できているかを評価する。
（３）授業ごとに行う個別活動や，グループ・ディスカッションなどの集団活動によって，授業への参加度および身近な教育事象についての理解や考察について評価する。

２．成績評価方法：
（１）定期試験（上記到達目標について，基本的な内容の理解度を評価する）：40%
（２）中間レポート（レポート作成ルールの遵守，身近な教育事象や現代社会における教育課題についての考察力を評価する）：20%
（３）Moodle課題の提出状況：20%
（４）グループ・ディスカッションなど授業への参加状況：20%

◎－－－　テキスト　－－－◎

藤田由美子・谷田川ルミ編『ダイバーシティ時代の　教育の原理　多様性と新たなるつながりの地平へ（第二版）』学文社，2022年9月，ISBN：978-4-7620-3134-2

◎－－－　参考書　－－－◎

講義時間内に適宜提示する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

１．遅刻をしないこと
２．私語など，他の受講生の妨げになる行為をしないこと
３．グループ・ディスカッションなどの学習活動に，主体的に参加するよう努めること
＊下記授業計画は，変更の可能性もある

◎－－－　授業計画　－－－◎

第１回：オリエンテーション（スタートアップ授業：オンデマンド動画配信）
第２回：教育の理念 – 教育とは何か–
第３回：教育の思想 – 先人の教育思想に学ぶ–
第４回：学校教育の成立 – 西洋における教育の歴史より学ぶ–
第５回：日本における教育の歴史（１） – 近代における学校教育の普及を中心に–
第６回：日本における教育の歴史（２） – 戦後教育改革以降現代に至るまで–
第７回：教育課程 – 学習指導要領，カリキュラム・マネジメント，隠れたカリキュラム–
第８回：子どもの権利 – 子どもの権利条約に学ぶ–
第９回：教育の公共性 – 公教育とシティズンシップ教育について考える–
第１０回：教育の機会均等 – その理念および現代的課題–
第１１回：子どもの貧困 – 歴史，現状および課題–
第１２回：社会的養育に生きる子ども – 教育と福祉をつなぐ–
第１３回：ダイバーシティと教育（１） – 外国につながる子ども–
第１４回：ダイバーシティと教育（２） – 多様な性を生きる子ども–
第１５回：総括 – 「教育について考えること」とは何か–
定期試験

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7gkzl1zgea9rjqodeu2bi4wznc0mp49v)

教育原論（教育について知る・わかる・考える）

2023-S000009477-06

江玉　睦美

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。
そこで、本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。
本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のノープリントを配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができる(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの指定されたページを読む(30分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(30分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験　100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。
・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）
・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）
・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）
・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）
・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができるか（到達目標5）

◎－－－　テキスト　－－－◎

小川哲哉・勝山吉章・井上豊久編『現代教育の論究』青簡舎、2014年（2200円＋税）
ISBN978-4-903996-54-7
※2023年5月改訂版発行予定

◎－－－　参考書　－－－◎

『教師教育講座第6巻教育課程論　ISBN 9784319106752
『中学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815405
『高等学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815412
（1）鈴木由美子他、協同出版、2018年
（2）文部科学省
（3）文部科学省

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1 回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
第2 回：教育の本質－教育の機能と構造－
第3 回：教育の歴史と思想　①ルソー
第4 回：教育の歴史と思想　②ペスタロッチー
第5 回：教育の歴史と思想　③デューイ
第6 回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）
第7 回：学校教育制度の変遷
第8 回：教育課程の定義及び意義
第9 回：教育課程の歴史
第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷①
　　-経験主義と系統主義-
第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷② -ゆとり教育-
第12回：教育課程の編成原理
第13回：教育課程編成の考え方と手法
第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント
第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/eh9sda2x9byvwjmzp3ahxk9j96hcljz0)

教育原論（教育について知る・わかる・考える）

2023-S000009477-07

江玉　睦美

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　試験時間割：2024/01/25　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

教育に関する基礎的概念や思想及び学校における教育活動の全体計画としての教育課程とその編成に関する基本的概念や原理を学ぶことによって、教育実践において必要となる基礎的な知識及び理論を習得することを目的とします。
そこで、本講義では教育の本質に関する理解を基盤とし、教育の場としての学校における教育課程とその編成に関して理論・歴史・実践という多様な観点を取り入れて授業を進めます。マルチメディア教材を活用して子どもや地域社会、学校、保護者の現状をとらえ、それらをふまえたこれからの学びのあり方について特色ある教育課程の事例をもとに考察を深めていきます。
本授業は、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、講義資料として書き込み式のノープリントを配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができる(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの指定されたページを読む(30分)

予習：各回の授業テーマに関して、インターネット等を活用して情報収集する(30分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験　100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。
・教育の本質と目的、構造及び教育思想について説明することができるか（到達目標1）
・学校教育制度の変遷をふまえて学校の意義と役割について説明することができるか（到達目標2）
・教育課程の意義と編成する際の基礎的知識や方法について説明することができるか（到達目標3）
・学習指導要領にもとづいた教育課程の編成・実施・評価・改善のあり方について説明することができるか（到達目標4）
・教育に関する諸問題について、自分の意見や考えを述べることができるか（到達目標5）

◎－－－　テキスト　－－－◎

小川哲哉・勝山吉章・井上豊久編『現代教育の論究』青簡舎、2014年（2200円＋税）
ISBN978-4-903996-54-7
※2023年5月改訂版発行予定

◎－－－　参考書　－－－◎

『教師教育講座第6巻教育課程論　ISBN 9784319106752
『中学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815405
『高等学校学習指導要領』　ISBN 978-4-827815412
（1）鈴木由美子他、協同出版、2018年
（2）文部科学省
（3）文部科学省

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1 回：イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
第2 回：教育の本質－教育の機能と構造－
第3 回：教育の歴史と思想　①ルソー
第4 回：教育の歴史と思想　②ペスタロッチー
第5 回：教育の歴史と思想　③デューイ
第6 回：学校の役割と意義（学校教育が抱える諸問題を通して）
第7 回：学校教育制度の変遷
第8 回：教育課程の定義及び意義
第9 回：教育課程の歴史
第10回：学習指導要領からみる教育課程の変遷①
　　-経験主義と系統主義-
第11回：学習指導要領からみる教育課程の変遷② -ゆとり教育-
第12回：教育課程の編成原理
第13回：教育課程編成の考え方と手法
第14回：特色ある教育課程編成のあり方とカリキュラム・マネジメント
第15回：学校・家庭・地域社会の連携にもとづくこれからの学び

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/xkxbnq6i0u7vw56qicvaykvs4cmd3us7)

教育原論「BB」（教育と社会との関係を考える）

2023-S000009477-08

草野　舞

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・二部２時限　試験時間割：2024/01/24　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
本講義では、教育という営みと社会との関係のこれまでとこれからについて、歴史的観点から解説を行っていきます。また、現代社会の教育課題と学校教育とくに教育課程との関係についても講義を進めていきます。「教育」と学校・家族との関係を様々な視点から捉え、理解を深めることができるよう議論を展開していく予定です。
教育に関する基礎的な知見(教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等)を学ひ つつ、教育に関わる事か らに関して「批判」的に考察していきましょう。同時に、教育に携わる者・教育に関わる者に求められる、必要最低限の倫理観と責任感について理解を深めることを目指します。

授業の進め方や学習の方法
本授業は講義を中心として実施しますが、内容によっては複数のグループに分かれてディスカッションを行う場合があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育に関わる基本的な知見（教育の理念、教育に関する思想・歴史、教育課程の意義と編成方法等）について理解を深める。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する事象について、様々な視点から「批判」的にひいては「主体」的に考えることができる。(DP2-1)(態度・志向性)

教育をめぐる多様な価値観に触れ、倫理観と責任感をもって「教育」および「教職」に向き合うことの重要性を理解することができる。(DP2-2)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の内容について、文献や新聞記事、インターネット等で自分なりに調べておく。(45分)

復習：授業後は、理解できなかった点やさらに深く知りたいと思った内容についてよく確認し、各回の内容について理解を深める。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

「到達目標」で示した3つの目標について、以下の成績評価方法を用いながら到達度を確認することとします。

各回の授業後に提出するワークシート：40%
定期試験：60%

◎－－－　テキスト　－－－◎

適宜資料を配布します。授業内容にかかわる参考図書・参考資料についても,授業の際に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義内容によっては、グループディスカッション等を行う場合があります。積極的な参加を求めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
２．教育と子ども
３．教育と社会
４．近代学校の成立
５．近代の教育思想
６．子どもと家族
７．現代的な教育課題
８．中間まとめ
９．日本の教育課程の歩み
10. 教育課程開発の新しい動き
11. 教育課程の思想と構造
12. 教育課程の編成
13. カリキュラム・マネジメント
14. 今日的課題と教育課程の関係
15. 全体のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/if8ib154kvx9ho3vhnjrkikq9ndkyldj)

教育論Ａ（幼児教育について考える）

2023-S000009462-01

江玉　睦美

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・２時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

近年、幼児期の教育に関する話題が様々取り上げられています。幼児期の教育は、人間教育における出発点ともいう重要なものであり、OECDも各国の「幼稚園・保育園の質」に関する調査を実施するなど、これまで以上にその重要性が認識されています。

学生にとっては将来、親として、地域社会の一員として、中には教師や保育者など子どもにかかわる者として、何かしらの形ですべての学生が幼児期の教育に携わる存在であるといえます。しかし、一般的には大学での教育内容をみると、資格取得のための専門科目以外では、幼教育について学ぶ機会があまりないのが現状です。

そこで、本講義では幼児教育の歴史や思想といった基礎的な学習に基づいた幼児教育への理解と関心を育てることを目的とします。

本授業では、パワーポイントを活用した講義形式で行います。また、メディア教材を活用しながら幼稚園や保育園、認定こども園での教育・保育や子どもの姿を実際にとらえながら進めていきます。授業では書き込み式のプリントを資料として配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

幼児教育の重要性について述べることができる(DP1-1)(知識・理解)

フレーベルの幼児教育思想について説明することができる(DP2-1)(知識・理解)

わが国における子育て支援の現状と課題について説明することができる(DP2-2)(知識・理解)

子育て支援や幼児教育の今後のあり方について述べることができる(DP4-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：指定された内容に関する資料やデータを調べる(60分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験　100%

以下の点を評価基準として、定期試験によって評価する。
・幼児教育の重要性について述べることができるか（到達目標1）
・フレーベルの幼児教育思想について説明することができるか（到達目標2）
・わが国における子育て支援の現状と課題について理解し、子育てや幼児教育の今後のあり方について述べることができるか（到達目標3，4）

◎－－－　テキスト　－－－◎

特定のテキストはしません。毎時間資料を配布します

◎－－－　参考書　－－－◎

『保育白書』　ISBN 978-4-89464-291-1
『森のようちえん』　ISBN 978-4-7592-6746-4
『保育臨床相談』　ISBN 9784762826580
（1）全国保育団体連絡会・保育研究所、ひとなる書房、2022年
（2）今村光章編著、解放出版社、2013年
（3）小田豊他、北大路書房、2009年

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎時間、質問カードを配布します。
不適切な受講態度や他の学生の迷惑になるような受講態度については厳しく対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回　イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
第2回　幼児教育の歴史①Kindergarten創設以前
第3回　幼児教育の歴史②Kindergarten
第4回　幼児教育の歴史③森のようちえん
第5回　幼児教育の歴史④日本における幼児教育
第6回　フレーベルの幼児教育思想①幼児期の子ども
第7回　フレーベルの幼児教育思想②遊び
第8回　フレーベルの幼児教育思想③環境
第9回　幼児教育の構造
第10回　幼児理解の重要性
第11回　幼児教育がかかえる問題①園を取り巻く環境
第12回　幼児教育がかかえる問題②待機児童
第13回　幼児教育がかかえる問題③虐待
第14回　幼児期における家庭教育
第15回　子育て支援の現状と課題

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/87j7krclcl2ose544wj5ha320cv8pk2c)

教育論Ａ（教育の「あたりまえ」を疑う）

2023-S000009462-02

中世古　貴彦

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・４時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

現代社会において教育は誰もが経験するものであるが、その経験ゆえに表面的な事象にとらわれながら理解してしまいがちなものである。本授業では、誰もが経験してきたような教育にまつわる様々な「あたりまえ」を、教育社会学的な視点から問い直す。

大学生は、中等教育の修了者であり、高等教育の享受者であり、教育の在り方を変える主体となりえる市民でもある。また、将来親となった場合は、自分の子どもが享受する教育に関して、大きな関心を抱くはずである。社会の在り方から影響を受けながらも、社会を形作る一助ともなる教育について、改めて立ち止まって考える機会を持つことは、大学生にとって有意義な学びとなるだろう。

本授業では、「あたりまえ」を問い直すための教育社会学的な論点、データ、歴史的経緯などを踏まえた、学生同士のディスカッションを多く取り入れる。重要な点については授業内でも補足説明するが、受講者は事前に教科書の当該章を読了したうえで出席しなければならない(反転授業)。また、授業中は積極的に議論に参加しなければならない（アクティブ・ラーニング）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会的事象について、歴史的経緯やデータを踏まえて考察できる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する様々な事象について、多角的に考察することができる。(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業に際し、教科書の該当章を事前に読み込み、疑問や関心を持ったことについて独自に調べておく。(90分)

当該週の授業や他の学生との議論を踏まえ、ミニレポートを毎回提出する。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・授業中の議論への積極的な参加（30%）
　教科書や他の学生との議論を踏まえた聴きごたえのある発言には加点する。
・毎回のミニレポートの提出回数、量、質（70%）
　教科書、独自に調べた情報、他の学生との議論等を踏まえているか、誤字脱字や文章のねじれがないか等も重要である。

このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編, 2017『半径5メートルからの教育社会学』大槻書店. ISBN: 9784272412389

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・予習をしてこない、議論に参加しない（私語、スマホ、居眠り等も含む）などの消極的な受講態度は、複数回の注意で単位不認定に相当する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション(スタートアップ授業)
２．学力の獲得は平等なのか？
３．高等教育への進学とジェンダー
４．高学歴社会における教育機会と費用負担
５．学校に「行っていない」子どもたち
６．貧困世帯の子どもたち
７．学校の外で学ぶ子どもたち
８．前半のまとめ：「大学生になること」「学校に通うこと」を問い直す
９．「英語は全員が学ぶもの」という自明性を疑う
１０．部活動は学校において合理的な活動か？
１１．子どもの安全・安心を脅かす「教育」
１２．教育から職業への移行と就職活動
１３．「いじめ」問題がつくる視角と死角
１４．少年犯罪についての認識とメディア
１５．総括

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/gxhnec61qght8jrjtgc65xp5c5kvwcr7)

教育論A「BB」（教育基本法第14条「政治教育」と社会科学をつなぐ）

2023-S000009462-08

和田　徹也

期別：前期　単位数：2　開講年次：1　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・二部２時限　試験時間割：2023/07/27　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、教育基本法第14条「政治教育」(条文見出し)に規定されている「政治的教養」の学習を行います。「政治的教養」とは、①民主政治、政党、憲法、地方自治等、現代民主政治上の各種の制度についての知識、②現実の政治の理解力およびこれに対する公正な判断力、③民主国家の公民として必要な政治道徳及び政治的理念などであるとされています。そこで本講義では、この「政治的教養」の①と②について社会科学の視点から考察します。したがってまず、社会科学の概念内容を検討することから始めます。次に、指定テキストである『「憲法改正」の真実』の解読によって「政治的教養」の総論的要素を認識してください。

さらに、「政治的教養」の各論的な要素として重要な概念の一つである、「民主主義」と「立憲主義」の概念をしっかり把握してください。次に「ポピュリズム」と「民主主義」、「ポピュリズム」と「立憲主義」の相互関係を明らかにします。さらに重要な概念としてはずせないのは、憲法上の「国民」には、「主権者の地位にある全体としての国民」と「人権主体である国民諸個人」と、それぞれ異なる二つの意味があるということです。この二つの有機的連関性を学びます。四つめとして、自然権を基礎とする理念的・道徳的な「人権」と実定化された「憲法上の人権」の違いを明らかにします。

最後は、司法制度改革について、とりわけ裁判員制度の問題点について検討します。まず人身の自由や刑事手続などに関連する項目の学習を踏まえて裁判員制度について批判的検討を行います。

なお、本授業は、講義形式で行うが裁判員制度についてはディスカッション形式で行うことも考えていますが、事前に裁判員制度を学ぶための必要な知識、思考し判断するための知識や理論となる視点はもちろん、学生諸君の意見を深めていくための学習方法を適切に組み込まなくてはいけないので（事前に参考文献・資料を指示します)、学生諸君の状況をみてディスカッション形式を採るか判断したい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会科学的視点の涵養：社会科学とは何かについて、基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

自然科学と対比し社会科学の学問上の特色を理解できる。(DP2-1)(知識・理解)

民主主義、立憲主義の意義について理解できる。(DP2-2)(技能)

民主主義が立憲主義を破壊するとはどのようなことか説明できる。(DP2-1)(技能)

憲法上の「国民」概念について理解できる。(DP2-2)(知識・理解)

刑事裁判における裁判員制度の問題点について説明できる。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

指定した文献や資料は最低3回は読んでおくこと。(120分)

授業計画に即して事前に専門用語などを調べ理解しておくこと(120分)

講義終了後に授業内容をノートに整理しておくこと(100分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・本講義における政治学、憲法学の基礎的な概念などについて理解しているかが評価の基準とする。
・定期試験80%、課題提出や発表状況など(20%)を評価方法とする。

◎－－－　テキスト　－－－◎

樋口 陽一　小林 節　『「憲法改正」の真実』(集英社新書、2022年)　定価760円＋税
ISBN978-4-08-720826-9
横大道 聡　吉田 俊弘『憲法のリテラシー』(有斐閣、2022年)　定価2700円＋税
ISBN978-4-641-22825-2

※授業計画8回～15回の内容については事前に講義資料を配布する(著作権法第35条による)。

◎－－－　参考書　－－－◎

『憲法の良識』　ISBN 978-4-02-273764-9
『代表制民主主義はなぜ失敗したのか』　ISBN 978-4-721194-8
『専門知は、もういらないのか：無知礼賛と民主主義』ISBN 978-4-622-08816-5
・尚、授業中にも適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

(1)講義では、スマートフォン、タブレット端末またはノートパソコンを使って検索してもらう項目があるので、いずれかを持参してください。
(2)上記のテキストや参考書3冊をはじめ人文・社会科学系の本は日頃からよく読んでおくこと。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信)
２　社会科学とは何か
３～７　『「憲法改正」の真実』読解
８～14
・ポピュリズムと民主主義との関係
・ポピュリズムと立憲主義との関係
・民主主義、立憲主義の衰退を防ぐための議論
　（レビツキー、ギングズバーグ）
・理念的権利としての人権と法的権利としての人権
・主権主体としての国民と人権主体としての個人
15
・刑事司法改革としての裁判員制度

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/2frwj1hm30kjb2spn04gggce6xftzazv)

教育論A「教養ゼミ」（戦没学生の手記を読もう）

2023-S000009462-A0

勝山　吉章

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：木・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

「恋･･･何という魅力ある言葉だ。私はこの言葉を口にする時、何かしら心のときめきを感ずる。しかし、悲しいかな、私は恋を知らない。恋とはヴェールに覆われた遠い彼方にあるものだ。私はどれほど恋に憧れたことか。しかし、遂に私はその実体を知らないまま終わってしまった･･･私の青春は一体何であったのか、私の青春は遂に何物も残さないで終わった。否中断された。こんな遺書を残して、私は新しい世界に入って行こうとする。再び七隈の学園に戻って、書物をひもとくことは永久にないだろう･･･」
　これは、福岡大学の前身校である福岡高等商業学校を学業半ばに繰り上げ卒業し、1945年4月12日、特攻隊員として知覧を飛び立ち戦死した安部静彦の遺書である。先の大戦では、多くの学生たちが学業半ばにしてペンを持つ手に銃をもち、戦場に行きそして戦没した。福岡大学も例外ではない。高度な教養をもつ彼らは、美辞麗句に飾られた戦争の本質を見抜き、日本の敗戦を予想しながら死地に向かっていった。そして残りわずかな人生と真剣に向き合い、多くの手記を残した。その手記からは、自らの死を納得させようとする苦悩と、あくまでも学生であることの誇りを窺い知ることができる。
　君たちは、自由に書物を読むことができ、スポーツをしたり恋をすることができる。そして10年後、20年後、30年後の自分自身を思い浮かべることができるだろう。しかし、書を読むことも、恋をすることも、10年後はおろか明日もなかった学生たちがいたことを君たちには知って欲しい。彼らが残した手記を読むことで、平和であること、自由があることの大切さを知ってもらいたい。
　この授業はゼミ形式で行う。戦没学生の手記や、関連する動画などを見ながら、ありのままの感想を述べ合っていきたい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

第二次大戦と学徒出陣について基礎的な知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

戦没学生について、もっと深く知ろうとする。(DP2-1)(態度・志向性)

戦争という憎悪のなかにあっても、異文化への敬意をもった学生がいたことを知る。(DP2-2)(知識・理解)

自分の見解を的確に言語化し、かつ他者の発言を傾聴して、丁寧に議論しようとする意欲を持つ。(DP3-1)(態度・志向性)

困難な状況にあっても、生きることの素晴らしさを知る。(DP3-2)(態度・志向性)

困難な課題の解決に向けて、実際に他者と協働するためのスキルを発揮できる。(DP4-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

あらかじめテキストを読んで、感想をまとめておく。(30分)

授業後に、論議の内容を整理しておく。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ゼミであることから、全ての授業に出席し、自らの感想、意見、見解を述べることを評価の基準とする。したがって、授業の参加状況、ゼミでの意見の表出、課題の提出などを総合的に判断する。なお、定期試験中に試験をしたり、追試験及び再試験をすることはない。

◎－－－　テキスト　－－－◎

新版 きけ わだつみのこえ　日本戦没学生の手記　岩波文庫　ISBN　9784003315712　1,210円

◎－－－　参考書　－－－◎

ドイツ戦没学生の手紙　岩波新書　ISBN 400400022-X

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

ゼミ科目であることから、特別な場合を除き、全出席を求める。また、ゼミでは自らの意見を積極的に述べることが必須となる。
担当者は、眼病を患っていることについて、受講学生の理解をお願いしたい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. ガイダンス（スタートアップ)
2.戦没学生の手記を読む（1）
3.戦没学生の手記を読む（2）
4. 戦没学生の手記を読む（3）
5. 戦没学生の手記を読む（4）.
6. 戦没学生の手記を読む(5)
7. 戦没学生の手記を読む(6)
8. 戦没学生の手記を読む(7)
9. 戦没学生の手記を読む(8)
10. 戦没学生の手記を読む(9)
11. 戦没学生の手記を読む(10)
12.戦没学生の手記を読む(11)
13. 戦没学生の手記を読む(12)
14. 戦没学生の手記を読む(13)
15. まとめ.

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/irxrzdghmqrrcs93mgv047vnumzs5kgg)

教育論Ｂ（歴史・比較・制度的視点から大学について考える）

2023-S000009463-01

橋場　論

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

大学は、今や18歳人口の50%以上が進学する教育機関です。一昔前は限られた人々だけが進学していた大学も、現在では多くの人々に対して開かれた教育機関へと発展を遂げました。ほぼ全ての人々が入学するようになって久しい小学校・中学校・高等学校と比べれば、大学は、社会における位置づけや役割が最も急激に変化した（変化している）教育機関であるともいえます。

だからこそ、世の中には大学に関する様々な考え方を持っている人々がいます。そして、何らかの考え方に基づいて社会（大学の外）から大学が批判されることもあれば、大学の中で異なる価値観に基づいた主張が衝突することもあります。しかし、大学を巡って交わされる議論の多くは、必ずしもうまくかみ合わずに終わってしまいがちです。こうした状況は、大学に関わる多くの人々が、実のところ、大学について良く知らないことによって生じるものだと考えられます。

皆さんは、現在、大学に所属して学んでいます。この講義を受講する段階では、大学に入学してから少なくとも半年以上を過ごしているはずですが、自身が籍を置いている大学という教育機関についてどの程度理解しているでしょうか。また、世の中に存在する大学に関する様々な考え方について、どれが妥当で、どれが妥当でないのか、根拠をもって判断できるでしょうか。

本講義では、世の中に存在する大学を巡る議論を想定しつつ、授業のテーマとして複数の疑問を取り上げます。そのうえで、歴史や海外との比較、制度上の位置付けなどの観点から掘り下げて検討していくことを通じて、皆さんが所属する教育機関である大学について理解を深めていきたいと思います。

なお、2020年度以降、コロナ禍によって大学教育は大きな変更が迫られ、大学教育の意味や大学の存在意義が改めて問い直されました。本講義では、このような現在進行形で起こっている問題にも目を配りつつ、授業を進行していく予定です。

本授業は担当教員による講義だけでなく受講者間でのディスカッションを交えながら展開されていきますが、皆さんが今後の大学生活においてより良く学ぶきっかけとなれば幸いです。

◎－－－　到達目標　－－－◎

①大学という教育機関に関して、歴史的・比較的・制度的視点から、その特徴を説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

②世の中にあふれる「大学論」について、授業を通じて得た知識を用いながら、その内容の妥当性を検討することができる。(DP1-1)(技能)

③自らが学ぶ大学という教育機関について、常に関心や疑問を持ちつつ、大学生活を送ることができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：大学という、皆さんにとってあまり学んだことのないテーマを取り上げる授業であることから、予習については、あまり重きを置いていません。ただし、少量の文献を読んで、意見をまとめてきてもらうといった課題を課すことがあります。(40分)

復習：毎回の授業の内容について、自分の言葉でノートなどにまとめなおしてください。アウトプットしなければ、本当に理解できているかどうか確認できませんので、必ず取り組むように心がけてください。(120分)

その他：日常的に、テレビや新聞、インターネットなどを通じて、大学に関する様々な情報を得るようにしてください。また、友人やご家族などと大学に関する話をしてみてください(80分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

到達目標として掲げた３つの目標について、以下の成績評価方法をとることによって、どの程度達成できているかを評価します。

【成績評価方法】
A）授業で課した課題への取り組み状況（授業態度を含む）：30%
（到達目標の①～③について評価を行なう）
B）定期試験：70%
（到達目標の①～②について評価を行なう）

遅刻・欠席をすると課題を提出できないことがあり、結果として減点の対象となりますので、注意してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。毎回、スライド資料などを配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

一方的なレクチャーだけでなく、グループでのディスカッション等も交えながら進行する予定です。そうした活動への積極的な参加をよろしくお願いします。大学（教育）について、「他の学生と一緒に議論し考えたい！」という学生の履修を歓迎します。

なお、テキストは指定しないので、授業時の配布資料等をこまめにファイリングしてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
2. なぜ、コロナ禍の学生は課題に追われたのか？（①）
3. なぜ、コロナ禍の学生は課題に追われたのか？（②）
4. 大学教育は社会に出てから役立つものであるべきか？（①）
5. 大学教育は社会に出てから役立つものであるべきか？（②）
6. 大学は何のための教育機関なのか？（①）
7. 大学は何のための教育機関なのか？（②）
8. 中間まとめ
9. 「公平」「公正」な大学入試制度とはどのようなものか？（①）
10. 「公平」「公正」な大学入試制度とはどのようなものか？（②）
11. 学費はどのように使われているのか？
12. コロナ禍における学費返還運動をどう考えれば良いのか？
13. 誰が教育費を負担すべきか？
14. 大学は多くなりすぎたのか？
15. まとめ（結局、何を学んだのか？）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/6jnxbp2f7k2ttf3d5lphdzkfxrnfpnwn)

教育論Ｂ（教育における格差を考える）

2023-S000009463-02

中世古　貴彦

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・３時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

大規模な教育制度（例：義務教育）を敷く現代社会において、教育は誰もが平等に享受できるものであるはずである。しかし、そこには様々な「格差」が潜んでおり、民主的な制度であるはずの教育が、社会的な格差を固定ないし拡大している（と批判されても仕方がない）ことさえある。本授業では、我々が（もしかしたらそうと気付かずに）その中を生きてきた教育にまつわる様々な格差を、教育社会学的な視点から取り上げ、議論する。

大学生は、中等教育の修了者であり、高等教育の享受者であり、教育の在り方を変える主体となりえる市民でもある。また、将来親となった場合は、自分の子どもが享受する教育に関して、大きな関心を抱くはずである。社会の在り方から影響を受けながらも、社会を形作る一助ともなる教育について、改めて立ち止まって考える機会を持つことは、大学生にとって有意義な学びとなるだろう。

本授業では、教育に潜む様々な格差を焙り出すための教育社会学的な論点、データ、歴史的経緯などを踏まえた、学生同士のディスカッションを多く取り入れる。重要な点については授業内でも補足説明するが、受講者は事前に教科書の当該章を読了したうえで出席しなければならない(反転授業)。また、授業中は積極的に議論に参加しなければならない（アクティブ・ラーニング）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育における格差に関して基礎的な知識を身に着け、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

教育に関する様々な事象について、多角的に考察することができる。(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

毎回の授業に際し、教科書の該当章を事前に読み込み、疑問や関心を持ったことについて独自に調べておく。(90分)

当該週の授業や他の学生との議論を踏まえ、ミニレポートを毎回提出する。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・授業中の議論への積極的な参加（30%）
　教科書、独自に調べた情報、他の学生との議論等を踏まえた聴きごたえのある発言には加点する。
・毎回のミニレポートの提出回数、量、質（70%）
　教科書、独自に調べた情報、他の学生との議論等を踏まえているか、誤字脱字や文章のねじれがないか等も重要である。

このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

中村高康・松岡亮二編著, 2021『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房. ISBN: 9784623092604

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・予習をしてこない、議論に参加しない（私語、スマホ、居眠り等も含む）などの消極的な受講態度は、複数回の注意で単位不認定に相当する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション(スタートアップ授業)
２．教育は社会の中で行われている
３．教育内容・方法は社会と深く関わっている
４．教育は階層社会の現実から切り離せない
５．「平等」なはずの義務教育にも学校間格差がある
６．制度が隔離する高校生活
７．教師は社会的存在である
８．保護者・子どもの言動の背後にあるものを見据える
９．教師はどのように生徒と関わってきたのか
１０．非行は学校教育と密接に結びついている
１１．進路が実質的に意味する生徒の未来
１２．「性別」で子どもの可能性を制限しないために
１３．日本の学校も多文化社会の中にある
１４．特別活動と部活動に忍びよる格差
１５．不登校・いじめは「心の問題」なのか

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/wvjygvu5gcb8o44sbui1x3kl0g2ydfuw)

教育論Ｂ（子どもの発達と教育）

2023-S000009463-03

江玉　睦美

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

　近年、子どもたちがみせる様々な姿が教育問題として取り上げられています。それらは、今という時代の中で学校、家庭、地域社会といった子どもたちを取り囲む環境とのかかわりで語られ、「最近の子どもは昔とは違う」という言葉がよく使われます。こうした状況の中で、実際に、昔に比べて子どもたちはどれだけ変わったのでしょうか、その結果、どのような問題が起きているのでしょうか、なぜ子どもたちは変わったのでしょうか、いくつもの問いが出てきます。これらの問いをときほぐし、教育の対象である子どもの今ある姿をとらえることが教育において重要なことだと考えます。
　そこで本講義では、子どもたちが発達するうえでみられる問題について取り上げ、その背景にあるもの、問題のメカニズム、これからの社会や教育において必要なことについて考えていくことを目的とします。講義内容においては、①近年の子どもたちの姿を視聴覚教材や統計資料などを用いて実態把握する、②発達上の問題を明確にし、要因について考える、③改善のために必要なことについて考える、この3点をポイントとします。
　本授業では、パワーポイントを活用した講義形式で行います。毎回、書き込み式のプリントを資料として配布します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人間の発達について、発達の定義など基礎的な知識について説明することができる(DP1-1)(知識・理解)

子どもの発達過程と各発達段階にみられる特徴を正確に述べることができるか(DP2-1)(知識・理解)

近年の子どもたちにみられる発達上の問題について背景や要因を理解し、今後のあり方を講義内容をふまえて自分の考えとして表現することができる(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの指定されたページを読む(30分)

予習：各回の授業テーマに関する資料やデータを調べる(30分)

復習：授業の終わりに提示される課題（各回の授業テーマに関する質問）に取り組む(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験　100％

・発達の定義や原理について説明することができるか（到達目標1）
・子どもの発達過程と各発達段階にみられる特徴を正確に述べることができるか（到達目標2）
・近年の子どもたちにみられる発達上の問題について背景や要因を理解し、今後のあり方までを講義内容をふまえて自分の考えとしてまとめることができるか（到達目標3）

　以上の点を評価基準として、定期試験によって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

古見文一・西尾祐美子著『はじめての発達心理学－発達理解への第一歩－』ナカニシヤ出版、2022年
ISBN9784779516498（2420円）

◎－－－　参考書　－－－◎

子どもが見えない　ISBN 978-4-591-085509
（1）NHKスペシャル「子どもが見えない」取材班、ポプラ社、2005年

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

毎時間、質問カードを配布します。不適切な受講態度や他の学生の迷惑になる受講態度については厳しく対応します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1 回　イントロダクション：スタートアップ授業（動画配信）
第2 回　身体の発達
第3 回　認知の発達
第4 回　言葉の発達と読書行動
第5 回　社会性の発達と子どもの仲間関係
第6 回　子どもと遊び①―遊びの要素―
第7 回　子どもと遊び②―遊びの教育的意義―
第8 回　乳児期における人格の発達
第9 回　幼児期における人格の発達
第10回　児童期における人格の発達
第11回　青年期における人格の発達
第12回　子どもの生活リズム―生活習慣の形成―
第13回　子ども理解①（幼児期）
第14回　子ども理解②（児童期～青年期）
第15回　これからの社会と子どもの発達

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ogniljf8o7k74f3i1b66bf3cgp9tzbbz)

教育論Ｂ「BB」（イギリス児童保護の歴史的展開から子どもと家族について考える）

2023-S000009463-08

草野　舞

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・二部１時限　試験時間割：2024/01/24　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
「子と もは保護されるへ き存在て ある」「親は子と もを養育すへ きて ある」「子と もは学校に通うへ きて ある」ということを「当たり前」た と捉える人は多いて しょう。しかし、そのような「子と もの保護」や「学校」の仕組みはいつから、とのような理由て 始まったのて しょうか。本講義て は、学校の成立やイキ リスを中心とした児童保護策の展開・それに関連する法制度なと を整理することて 、「教育」についての「当たり前」のもとになっているものについて考えることを目標とします。また、歴史的なものの見方・考え方を通して、現代の「教育課題」とされる事象について客観的に思考する態度を身につけることも目指します。

授業の進め方や学習の方法
本授業は講義を中心として実施しますが、内容によっては複数のグループに分かれてディスカッションを行う場合があります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

教育をめぐるこれまでの法制度やそこでの子ども・家族の捉えられ方について理解を深める。(DP1-1)(知識・理解)

現代の「教育課題」とされる事象について、客観的・多角的に思考することができる。(DP2-1)(態度・志向性)

イギリスにおける児童保護の歴史的展開について理解し、子ども観や家族観の変遷について説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回のテーマについて、自分自身の興味関心に基づいた情報取集を行う(45分)

復習：授業後は、理解できなかった点やさらに深く知りたいと思った内容についてよく確認し、各回の内容について理解を深める。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

「到達目標」で示した3つの目標について、以下の成績評価方法を用いながら到達度を確認することとします。

各回の授業後に提出する小レポート：40%
定期試験：60%

◎－－－　テキスト　－－－◎

適宜資料を配布します。授業内容にかかわる参考図書・参考資料についても,授業の際に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義内容によっては、グループディスカッション等を行う場合があります。積極的な参加を求めます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション（スタートアップ授業：動画配信）
２．近代以前の生活世界と子ども
３．「エミール」にみるルソーの教育論
４．「子ども」の発見
５．近代学校の成立
６．子どもの保護と教育の展開①労働から教育へ~児童労働問題の展開
７．子どもの保護と教育の展開②19世紀の児童保護立法とその特徴
８．子どもの保護と教育の展開③イギリス児童虐待防止法の展開
９．子どもの保護と教育の展開④優生学の登場
10．子と もの保護と教育の展開⑤学校給食の成立
11．子と もの保護と教育の展開⑥健康診断の成立
12．現代社会における教育課題①「子と もの貧困」問題への取り組み
13．現代社会における教育課題②児童虐待問題の現状と課題
14．現代社会における教育課題③子どもと家族について
15．全体のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/r8icr6z6pikgm3j0nqr5enkuhnazvabx)

文化人類学Ａ（文化人類学入門）

2023-S000009479-01

古川　不可知

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・５時限　試験時間割：2023/08/02　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　文化人類学とは、フィールドワークを通して「他者」の文化を学ぶと同時に、自分たちの「当たり前」を問い直してゆく学問である。本講義では、衣食住や儀礼といったトピックごとに、世界各地のさまざまな実践を紹介しながら、文化人類学の基礎的な考え方と概念を学んでゆく。講義全体の目的は、他者を理解するための基本的な視点を獲得するとともに、私たち自身が「当たり前」として見過ごしてきた事柄を再発見し、問い直し続けられる態度を身につけることである。
　本講義は基本的にスライドを用いた講義形式で実施し、必要に応じて画像や映像資料を提示する。各回ではリアクションペーパーを提出し、自らの気づきや見解を言語化することを求める。
　いわゆるグローバル化が進み、さまざまな文化の人々と隣り合って暮らす現在、他者を理解し、自らの常識とは本当に常識なのだろうかと考えるための学問的な知識と技術は、ますます重要なものとなっている。また「他者」とは必ずしも遠くの国の人々ではない。国内の他地域や大学内であっても異なる文化は存在するし、隣に座っている人も「他者」でありうる。人類学的な思考を身につけることは、この社会に生きるうえでの重要な手がかりとなるだろう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

異文化を理解し、自らの当たり前を問い直すために必要な知識と態度を身につけており、それらを説明できる(DP1-1)(態度・志向性)

文化人類学の基礎的な概念と考え方を身につけており、それらを説明できる(DP2-1)(知識・理解)

さまざまな他者の文化を理解するための方法論として、フィールドワークという考え方の基礎を身につけており、それを説明できる(DP2-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業資料に予め目を通す(30分)

授業中に紹介した参考資料に目を通す。もしくは授業中に示した概念を用いて身の回りを観察する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験(70%)：文化人類学の主要な概念について正確に把握しているかを評価の基準とする
リアクションペーパー(30%)：世の中の事象を文化人類学の考え方を通して、自らの言葉で記述できているかを評価の基準とする

◎－－－　テキスト　－－－◎

Moodleに授業資料をアップロードします

◎－－－　参考書　－－－◎

『文化人類学の思考法』　ISBN 479071733X

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

映像を通して見る異文化の実践は、ときに「残酷」「不快」と感じられることがあるかもしれません。そうした先入観を乗り越えることも本講義の目的の一つですので、予め了解しておいてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション(スタートアップ授業)(動画配信)
2.フィールドワークと民族誌(1)
3.フィールドワークと民族誌(2)
4.食と生業(1)
5.食と生業(2)
6.装いと住まい(1)
7.装いと住まい(2)
8.呪術と宗教(1)
9.呪術と宗教(2)
10.呪術と宗教(3)
11.贈与と売買(1)
12.贈与と売買(2)
13.民族と国家(1)
14.民族と国家(2)
15.まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/qwtedhzfv6myrsm2y45xphskjc2u1qih)

文化人類学Ａ（文化的存在としての人間の探究）

2023-S000009479-02

宮岡　真央子

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・２時限　試験時間割：2023/08/02　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

文化人類学は、これまで異文化（他者）を主な研究対象として発展してきた学問である。異文化を知ることにより、自文化において「あたりまえ」であると思われるものごとが決して「あたりまえ」ではないことを発見し、それと同時に、異文化にも自文化にも共通するものの考え方やしくみが多くあることにも気づき、それらの経験から人類の文化の豊かさや可能性について考察してきた。そして今日では、他者から学びよりよい世界のあり方を考察することをも重要な目標に掲げている。
本授業は講義形式で行う。まず文化という概念、ヒトという生物の特徴、言語などについて概観したうえで、文化人類学の方法的特徴であるフィールドワークと民族誌について述べる。続いて、親族、家族、宗教、儀礼、性などの項目ごとに具体的事例を取り上げながら文化人類学のものの見方や考え方を概説する。
文化人類学を通じて、よりよい社会のあり方を考える契機としてほしい。異文化と他者に強い関心をもち、自分にとって自明なものの見方や考え方を批判的にとらえ直す意欲のある人の受講を期待する。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の立場から、人間が営む文化事象について具体的に説明することができる。(DP2-1)(技能)

自己の文化を他者の文化と照らし合わせながら、相対化して考えることができる。(DP2-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、教科書の指定された箇所と配付資料を事前に読み、わからない語句を調べるなどしておく。(40分)

復習として、学習内容を確認して理解を確実なものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める。(40分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(20分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験により評価する（100%）。試験では、文化人類学の基本的概念・理論についての知識の習得度を測るとともに、身近な具体的事例について文化人類学の見方に基づき相対的な視点から説明する能力の有無を問う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円＋税、ISBN 978-4-8122-1612-5
授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進める。

◎－－－　参考書　－－－◎

文化人類学[カレッジ版](第4版)　ISBN 978-4-260-04220-8
文化人類学入門(増補改訂版)　ISBN 978-4-12-190560
現代社会人類学　ISBN 978-4-335-56075-0
その他については、授業中に適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 文化とは
3. ヒトの特徴
4. 言語のしくみ
5. フィールドワークと民族誌
6. 親族というつながり
7. 家族というまとまり
8. 宗教・信仰
9. 通過儀礼
10. 性差のとらえ方
11. ジェンダーとセクシュアリティ
12. 食
13. 贈与・交換
14. 生業と経済
15. 講義のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7dhb2w43pvkth1sa9xuf5xfmog0iovwf)

文化人類学Ａ（文化的存在としての人間の探究）

2023-S000009479-03

宮岡　真央子

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・３時限　試験時間割：2023/08/02　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

近代以降、今日までの人の移動にともなう文化的他者との出会いに焦点を当て、多様な文化の共存のあり方について考察する。なお、本授業は講義形式で行う。
人類は大航海時代以来、大洋を越えた移動により、従来その存在すら知ることのなかった文化的他者との出会いを経験するようになった。今日、それはわたしたちの日常生活のなかでも進行している。ある集団や個人が文化的他者と出会うとき、衝突や排除のみならず、交渉や交流も展開する。そこにおいては、新たな文化やアイデンティティが生まれることもある。このような世界史的展開と現代社会の動向について、文化人類学的に考察をする。
授業では、まず人と土地との結びつきについて確認したうえで、近代の植民地主義、そこで行われた同化政策、そして植民地状況下での文化の構築について学ぶ。続いて、異なる文化的背景を抱える諸集団が隣接して暮らす状況で生成するエスニシティについて、先住民、少数民族などを例に概説する。さらに、移民や難民について当事者の日常的な視点から知ったうえで、日本において行政を中心に謳われる「多文化共生」の課題や可能性について考察する。また、私たちが他者と出会う最も身近な場としての観光についても取り上げたい。
以上をふまえ、多様な他者とともに暮らし、多様な文化が共存するよりよいあり方について、受講生自身の問題として考える機会とする。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の立場から、人間が営む文化事象について具体的に説明することができる。(DP2-1)(技能)

自己の文化を他者の文化と照らし合わせながら、相対化して考えることができる。(DP2-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、教科書の指定された箇所と配付資料を事前に読み、わからない語句を調べるなどしておく。(40分)

復習として、学習内容を確認して理解を確実なものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める。(40分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(20分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験により評価する（100%）。試験では、文化人類学の基本的概念・理論についての知識の習得度を測るとともに、身近な具体的事例について文化人類学の見方に基づき相対的な視点から説明する能力の有無を問う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円＋税、ISBN 978-4-8122-1612-5
授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進める。

◎－－－　参考書　－－－◎

文化人類学[カレッジ版](第4版)　ISBN 978-4-260-04220-8
文化人類学入門(増補改訂版)　ISBN 978-4-12-190560
現代社会人類学　ISBN 978-4-335-56075-0
その他については、授業中に適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 文化とは
3. ヒトの特徴
4. 言語のしくみ
5. フィールドワークと民族誌
6. 親族というつながり
7. 家族というまとまり
8. 宗教・信仰
9. 通過儀礼
10. 性差のとらえ方
11. ジェンダーとセクシュアリティ
12. 食
13. 贈与・交換
14. 生業と経済
15. 講義のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/jy8hdtelwprsc8jt2udre94s0y49j7ic)

文化人類学Ａ（異文化理解の理論と事例）

2023-S000009479-04

中村　亮

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　試験時間割：2023/08/02　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　文化人類学とは、自文化とは異なる文化においてフィールドワークをおこない、現地の人びとの視点から異文化を理解してゆく学問です。異文化理解をつうじて、人間の生活様式の固有性、多様性、普遍性について考察することで「人間とは何か？」を探求することが文化人類学の目的です。
　グローバル化がすすむ現代社会では、自文化を理解したうえで、異文化と適切につき合うことが重要です。自文化を知るためには「当たり前」を問い直す批判的思考が必要です。そのような批判的思考を、文化比較によって養うことができるのが文化人類学です。
　本授業は講義形式で、文化人類学の方法・理論・学説史・事例（日本、タンザニア、スーダンなど）をつうじて、多様な文化的価値観について学習します。「授業資料」を使用して授業をすすめます。理解を助けるために、講師が作成した写真・映像資料をもちいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-1)(知識・理解)

文化相対主義の心構えについて理解している(DP2-2)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業資料をもちいての予習(30分)

授業資料・参考文献などをもちいての復習（参考文献は授業中に紹介）(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（100%）：文化人類学に関する基礎的な方法と理論を理解し、自分の言葉で説明しながら論じることができるかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

■Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

波平恵美子編『文化人類学［カレッジ版］』医学書院、2011年　ISBN 978-260-01317-8
綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂、2006年
ISBN 4-335-56112-1
・その他の参考書は授業中に適宜紹介
・参考書を購入する必要はない

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。
・コロナ等の状況に応じて「授業計画や成績評価の方法」を変更する場合がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．スタートアップ授業（動画配信）：シラバス確認・授業資料の取得方法・講師紹介など
２．文化人類学の概要
３．人間と文化
４．フィールドワーク
５．個人と家族
６．婚姻制度
７．人生と通過儀礼
８．儀礼論の展開
９．中間まとめ
10．さまざまな宗教と信仰
11．宗教と自然観
12．健康・病気・医療
13．人間と死
14．21世紀の文化人類学
15．講義まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/t0ygubet3j44q435p5yb5ukkgfalbmf4)

文化人類学Ａ「BB」（異文化理解の理論と事例）

2023-S000009479-06

中村　亮

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・二部２時限　試験時間割：2023/07/31　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

　文化人類学とは、自文化とは異なる文化においてフィールドワークをおこない、現地の人びとの視点から異文化を理解してゆく学問です。異文化理解をつうじて、人間の生活様式の固有性、多様性、普遍性について考察することで「人間とは何か？」を探求することが文化人類学の目的です。
　グローバル化がすすむ現代社会では、自文化を理解したうえで、異文化と適切につき合うことが重要です。自文化を知るためには「当たり前」を問い直す批判的思考が必要です。そのような批判的思考を、文化比較によって養うことができるのが文化人類学です。
　本授業は講義形式で、文化人類学の方法・理論・学説史・事例（日本、タンザニア、スーダンなど）をつうじて、多様な文化的価値観について学習します。「授業資料」を使用して授業をすすめます。理解を助けるために、講師が作成した写真・映像資料をもちいます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基礎知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

文化人類学の関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-1)(知識・理解)

文化相対主義の心構えについて理解している(DP2-2)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業資料をもちいての予習(30分)

授業資料・参考文献などをもちいての復習（参考文献は授業中に紹介）(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（100%）：文化人類学に関する基礎的な方法と理論を理解し、自分の言葉で説明しながら論じることができるかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

■Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

波平恵美子編『文化人類学［カレッジ版］』医学書院、2011年　ISBN 978-260-01317-8
綾部恒雄編『文化人類学20の理論』弘文堂、2006年
ISBN 4-335-56112-1
・その他の参考書は授業中に適宜紹介
・参考書を購入する必要はない

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。
・コロナ等の状況に応じて「授業計画や成績評価の方法」を変更する場合がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．スタートアップ授業（動画配信）：シラバス確認・授業資料の取得方法・講師紹介など
２．文化人類学の概要
３．人間と文化
４．フィールドワーク
５．個人と家族
６．婚姻制度
７．人生と通過儀礼
８．儀礼論の展開
９．中間まとめ
10．さまざまな宗教と信仰
11．宗教と自然観
12．健康・病気・医療
13．人間と死
14．21世紀の文化人類学
15．講義まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/vpj6rnrpx6xhqreasfmioazo0140h5cd)

文化人類学Ａ「教養ゼミ」（文化人類学の思考を学ぶ）

2023-S000009479-A0

中村　亮

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：月・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

本授業は、文化人類学や異文化理解に興味のある学生を対象としたゼミナール（少人数の受講生によるゼミ形式）である。文化人類学とは、異文化を理解すると同時に、自文化もしくは自分自身についても相対的に理解してゆく学問である。文化の多様性が尊重される21世紀において、異文化理解を専門とする文化人類学の考え方がますます重要視されている。

ゼミのすすめ方：フィールドワーク、贈与、文化遺産、アニミズム、呪術、通過儀礼、信仰などの文化人類学に関連するテーマから三つ選択し（テーマは第二回目の授業で決定）、それぞれについて、調べ、発表し、議論する。一つのテーマに４回分の授業時間をあてる。具体的には、テーマに関する講義【１回分】をしたうえで、テーマに関する発表と議論【３回分】を学生主体でおこなう。このセットを３回実施することで、文化人類学の基本的な考え方だけではなく、論理的思考法についても学ぶことを本授業の目的とする。

注意点：ゼミ形式なので、受講生には積極的な発言や取り組みが求められる。ゼミの一員であることを自覚し、分担発表は責任をもって必ずおこなうこと。当然のことながら無断欠席は厳禁である。なお、この授業の成績評価は、ゼミへの参加態度、発表、課題レポートによっておこなう。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基礎的な知識を身につけている(DP1-1)(知識・理解)

異文化理解における文化相対主義の大切さを理解している(DP2-2)(知識・理解)

授業テーマに関して、自分の見解を言語化し、他者と議論できる(DP3-1)(態度・志向性)

問題意識を探求し、それを論理的に説明することができる(DP3-2)(技能)

文化人類学に関連する諸領域の基礎的な知識を用いて、文化相対主義や文化多様性について自分の見解を述べることができる(DP4-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業資料をもちいての予習、テーマについての発表準備(60分)

発表資料や参考文献をもちいての復習（参考文献は授業中に紹介）(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①ゼミへの参加態度（20%）：積極性を評価（授業理解度・議論での発言・発表準備への取り組みなど）

②発表（40%）：理解力とレジュメ内容を評価（先行研究の正しい引用＋自分なりの考察ができるか）

③課題レポート（40%）：論理性を評価（発表時の質問・コメント・議論などをふまえ、論理的に記述できるか）

注意：本授業では定期試験を実施しないため再試験も実施しない

◎－－－　テキスト　－－－◎

・必要に応じて授業中に配布
・授業資料などはMoodleをつうじて共有する

◎－－－　参考書　－－－◎

波平恵美子編『文化人類学［カレッジ版］』医学書院、2011年　ISBN 978-260-01317-8
・その他の参考書は授業中に紹介
・参考書を購入する必要はない

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・ゼミの一員であることを自覚し、発表などに責任をもつこと
・無断欠席は厳禁
・受講生の人数に応じて「授業計画」を一部変更する場合がある

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．スタートアップ授業（動画配信）：シラバス確認・ゼミのすすめ方・講師紹介など
２．授業ガイダンスとテーマ決定
３．テーマ１についての講義
４．発表と議論
５．発表と議論
６．発表と議論、テーマ１のまとめ
７．テーマ２についての講義
８．発表と議論
９．発表と議論
10．発表と議論、テーマ２のまとめ
11．テーマ３についての講義
12．発表と議論
13．発表と議論
14．発表と議論、テーマ３のまとめ
15．ゼミの総括

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/35necb2kqglh9esun0r8gzp1qykdmysr)

文化人類学Ｂ（現代人類学概論）

2023-S000009480-01

古川　不可知

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・５時限　試験時間割：2024/01/26　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

文化人類学とは、フィールドワークを通して「他者」の文化を学ぶと同時に、自分たちの「当たり前」を問い直してゆく学問である。本講義の目的は、2000年代以降の文化人類学が何を問題とし、どのような議論がおこなわれてきたのかを概観することで、急速な変化を続ける現代社会について多角的な観点から考察する態度を身につけることである。
本講義は基本的にスライドを用いた講義形式で実施し、必要に応じて画像や映像資料を提示する。各回ではリアクションペーパーを提出し、自らの気づきや見解を言語化することを求める。
現在いわゆるグローバル化は地球上を覆い尽くし、遠くにいる「他者」という従来の想像力は失効しつつある。また技術や社会の変化によって、私たちの社会の「当たり前」もまた揺るがされ続けている。こうした状況下において、「他者」の研究を標榜する人類学は何を語りうるのだろうか。
一つだけ例を挙げれば、生殖医療技術の発展や同性婚の浸透は一人の子供に複数の同性の親がいることを可能として家族の概念を混乱させ、しばしば「保守」主義的な反動も引き起こしている。だが世界を見渡してみれば、父親や母親が複数いる社会は、むしろ一妻一夫の社会よりも多数派なのである。ある意味で文化人類学は、私たちの未来をすでに生きている人々を研究してきたのであり、本講義ではますます変化の度を高める現代を生きるための手がかりを人類学の観点から見出してゆきたい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

2000年代以降の文化人類学および人文知が扱ってきた問題系の概要を把握しており、それらを説明できる(DP1-1)(知識・理解)

分野や人間の領域を超えて広がる人類学の知と態度を通して、多角的な視野を身につけている(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業資料に予め目を通す(30分)

授業中に紹介した参考資料に目を通す。もしくは授業中に示した概念を用いて身の回りを観察する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験(70%)：現代人類学の主要な概念について正確に把握しているかを評価の基準とする
リアクションペーパー(30%)：現代社会の事象を、文化人類学の考え方を通して自らの言葉で記述できているかを評価の基準とする

◎－－－　テキスト　－－－◎

Moodleに授業資料をアップロードします

◎－－－　参考書　－－－◎

『文化人類学の思考法』　ISBN 479071733X
『21世紀の文化人類学』　ISBN 4788515822
『詳論 文化人類学』　ISBN 4623082717

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・「文化人類学Ａ」を受講していることが望ましい。未履修の場合は参考書①を読んでおくこと
・映像を通して見る異文化の実践は、ときに「残酷」「不快」と感じられることがあるかもしれません。そうした先入観を乗り越えることも本講義の目的の一つですので、予め了解しておいてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション(スタートアップ授業)(動画配信)
2.フィールドワークと他者を書くこと
3.人類学と探検
4.家族とは誰か
5.死と文化
6.医療と病(1)
7.医療と病(2)
8.アニミズム再考(1)
9.アニミズム再考(2)
10.科学と技術の人類学(1)
11.科学と技術の人類学(2)
12.グローバル化と人類学
13.観光の人類学
14.歩く身体と存在をめぐって
15.まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/cxl2io47w0lfavhljvjf3cp3ayv4jnsr)

文化人類学Ｂ（人の移動、文化的他者との出会いの考察）

2023-S000009480-02

宮岡　真央子

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　　試験時間割：2024/01/26　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

　近代以降、今日までの人の移動にともなう文化的他者との出会いに焦点を当て、多様な文化の共存のあり方について考察する。なお、本授業は講義形式で行う。
　人類は大航海時代以来、大洋を越えた移動により、従来その存在すら知ることのなかった文化的他者との出会いを経験するようになった。今日、それはわたしたちの日常生活のなかでも進行している。ある集団や個人が文化的他者と出会うとき、衝突や排除のみならず、交渉や交流も展開する。そこにおいては、新たな文化やアイデンティティが生まれることもある。このような世界史的展開と現代社会の動向について、文化人類学的に考察をする。
　授業では、まず人と土地との結びつきについて確認したうえで、近代の植民地主義、そこで行われた同化政策、そして植民地状況下での文化の構築について学ぶ。続いて、異なる文化的背景を抱える諸集団が隣接して暮らす状況で生成するエスニシティについて、先住民、少数民族などを例に概説する。さらに、移民や難民について当事者の日常的な視点から知ったうえで、日本において行政を中心に謳われる「多文化共生」の課題や可能性について考察する。また、私たちが他者と出会う最も身近な場としての観光についても取り上げたい。
　以上をふまえ、多様な他者とともに暮らし、多様な文化が共存するよりよいあり方について、受講生自身の問題として考える機会とする。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

近代以降の人の移動と文化的他者との出会いの諸現象について、文化人類学の見方に則って具体的に説明できる。(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、教科書の指定された箇所と配布資料を事前に読み、わからない語句などを調べておく。(40分)

復習として、学習内容を確認して理解を確実なものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める）。(40分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(20分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験により評価する。（100%）
　定期試験では、多様な人の移動のあり方とそこでの文化的他者との出会いをめぐる諸問題について、文化人類学における基礎的知識、基本的なものの見方や考え方についての理解度を測るとともに、具体的事例についてこれらを用いて説明・論述する能力の有無を問う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円＋税、ISBN 978-4-8122-1612-5
授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進める。

◎－－－　参考書　－－－◎

「先住民」とはだれか　ISBN 9784790714385
土地所有の政治史　ISBN 9784938774
驚異と占有 : 新世界の驚き　ISBN 9784622046943
綾部恒雄監修『講座　世界の先住民族 ファースト・ピープルズの現在　第1-10巻』明石書店、2005-8年
その他、授業中に適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 人と土地との結びつき
3. 近代植民地の誕生
4. 「人種」概念と同化政策
5. 植民地状況における文化の構築
6. 先住民の誕生、国家との交渉
7. エスニシティの覚醒
8. アイデンティティの複数性
9. マイノリティと国家
10.移民、難民、ディアスポラ
11.トランスナショナリズム
12.移民と暮らす社会
13.「多文化共生」
14.観光における他者との出会い
15.講義のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/c0q80jnor9vl7ei5iv1n7cy0rsuyx8ic)

文化人類学Ｂ（人の移動、文化的他者との出会いの考察）

2023-S000009480-03

宮岡　真央子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　試験時間割：2024/01/26　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

近代以降、今日までの人の移動にともなう文化的他者との出会いに焦点を当てて講じ、多様な文化の共存のあり方について考察する。
人類は大航海時代以来、大洋を越えた移動により、従来その存在すら知ることのなかった文化的他者との出会いを経験するようになった。今日、それはわたしたちの日常生活のなかでも進行している。ある集団や個人が文化的他者と出会うとき、衝突や排除のみならず、交渉や交流も展開する。そこにおいては、新たな文化やアイデンティティが生まれることもある。
本講義では、このような世界史的展開と現代社会の動向について、文化人類学的に考察するものである。そのために、まず人と土地との結びつきについて確認したうえで、近代の植民地主義、そこで行われた同化政策、そして植民地状況下での文化の構築について学ぶ。続いて、異なる文化的背景を抱える諸集団が隣接して暮らす状況で生成するエスニシティについて、先住民、少数民族などを例に概説する。さらに、移民や難民について当事者の日常的な視点から知ったうえで、日本において行政を中心に謳われる「多文化共生」の課題や可能性について考察する。また、私たちが他者と出会う最も身近な場としての観光についても取り上げたい。
以上をふまえ、多様な他者とともに暮らし、多様な文化が共存するよりよいあり方について、受講生自身の問題として考える機会とする。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基本的な理論・知識を理解する。(DP1-1)(知識・理解)

近代以降の人の移動と文化的他者との出会いの諸現象について、文化人類学の見方に則って具体的に説明できる。(DP2-1)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習として、教科書の指定された箇所と配布資料を事前に読み、わからない語句などを調べておく。(40分)

復習として、学習内容を確認して理解を確実なものとし、興味・関心を抱いた事項について文献等を用いて調べ、さらに理解・考察を深める）。(40分)

日頃から国内外の多様なニュース、情報に積極的に接し、物事を複数の視点から多角的にとらえ思考する力を養うよう心がける。(20分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験により評価する。（100%）
定期試験では、多様な人の移動のあり方とそこでの文化的他者との出会いをめぐる諸問題について、文化人類学における基礎的知識、基本的なものの見方や考え方についての理解度を測るとともに、具体的事例についてこれらを用いて説明・論述する能力の有無を問う。

◎－－－　テキスト　－－－◎

上水流久彦・太田心平・尾崎孝宏・川口幸大編『東アジアで学ぶ文化人類学』、昭和堂、2017年、本体2,200円＋税、ISBN 978-4-8122-1612-5
授業はmoodleを通じて配布する資料を用いて進める。

◎－－－　参考書　－－－◎

「先住民」とはだれか　ISBN 9784790714385
土地所有の政治史　ISBN 9784938774
驚異と占有 : 新世界の驚き　ISBN 9784622046943
綾部恒雄監修『講座　世界の先住民族 ファースト・ピープルズの現在　第1-10巻』明石書店、2005-8年
その他、授業中に適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

配布資料は、各自が事前にmoodleから取得し印刷して持参する形とする。詳細は受講生に別途連絡する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 人と土地との結びつき
3. 近代植民地の誕生
4. 「人種」概念と同化政策
5. 植民地状況における文化の構築
6. 先住民の誕生、国家との交渉
7. エスニシティの覚醒
8. アイデンティティの複数性
9. マイノリティと国家
10.移民、難民、ディアスポラ
11.トランスナショナリズム
12.移民と暮らす社会
13.「多文化共生」
14.観光における他者との出会い
15.講義のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/0fg9gjjxd86lh16l0x9072mifpv2f0s8)

文化人類学Ｂ（環境と開発の人類学）

2023-S000009480-04

中村　亮

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　試験時間割：2024/01/26　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

21世紀人類は地球規模の環境問題に直面しています。限りある資源を持続的に利用してゆくことが世界共通の課題です。地球規模（グローバル）での環境や開発の問題解決のためには何よりもまず、地域（ローカル）での資源利用・管理の知恵や技術について知る必要があります。そのためには、住民の視点に立って地域の生活文化を理解することができる文化人類学の方法が有効です。

本授業は講義形式で、環境保全や観光開発などの問題について、文化人類学の観点から学習します。理解を助けるために、講師が作成した授業資料や世界各地の写真・映像資料を使用します。

日本の里山や里海の事例に加えて、海外の事例（タンザニア、スーダン、エジプトなど）も学ぶことで、比較文化の視点を養います。これによって、現代の環境や開発をめぐる問題を考える際に、なぜ「文化相対主義」や「グローカル」な姿勢が重要なのか、また、文化人類学に何ができるのか、について考察します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の観点からグローバル／ローカルに展開する環境や開発の問題について考え説明することができる(DP1-1)(技能)

環境や開発をめぐる諸問題について、文化人類学および関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業資料をもちいての予習(30分)

授業資料・参考文献などをもちいての復習（参考文献は授業中に紹介）(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（100%）：環境と開発の文化人類学に関する基礎的な理論と学説史を理解し、自分の言葉で説明して論じることができるかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

■Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

池谷和信編『地球環境問題の人類学』世界思想社、2003年　ISBN 978-4-7907-1018-9
リオール・ノラン『開発人類学：基本と実践』古今書院、2013年　ISBN 978-4-7722-3112-1
・その他の参考書は授業中に適宜紹介
・参考書の購入の必要はない

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・文化人類学の基礎的な知識を習得していると理解が深まるので「文化人類学Ａ」を受講していることが望ましい。
・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。
・コロナ等の状況に応じて「授業計画や成績評価の方法」を変更する場合がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．スタートアップ授業（動画配信）：シラバス確認・授業資料の取得方法・講師紹介など
２．環境の人類学１：文化人類学の概要
３．環境の人類学２：クジラは誰のものか？
４．開発の人類学１：開発と発展
５．開発の人類学２：ESDとSDGs
６．日本と西欧の自然観
７．里山の文化人類学：日本の祭礼文化
８．里海の文化人類学：日本の漁民文化
９．中間まとめ
10．環境保全の課題１：エジプトの海洋保護区
11．環境保全の課題２：スーダンの海洋保護区
12．観光開発の課題：タンザニアの世界遺産
13．環境・開発と信仰：タンザニアの精霊信仰
14．環境・開発と儀礼：タンザニアの男子割礼
15．講義まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/65h5949n1bozez1hbspfxt1gusrf1ywg)

文化人類学Ｂ「BB」（環境と開発の人類学）

2023-S000009480-06

中村　亮

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・二部２時限　試験時間割：2024/01/22　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

21世紀人類は地球規模の環境問題に直面しています。限りある資源を持続的に利用してゆくことが世界共通の課題です。地球規模（グローバル）での環境や開発の問題解決のためには何よりもまず、地域（ローカル）での資源利用・管理の知恵や技術について知る必要があります。そのためには、住民の視点に立って地域の生活文化を理解することができる文化人類学の方法が有効です。

本授業は講義形式で、環境保全や観光開発などの問題について、文化人類学の観点から学習します。理解を助けるために、講師が作成した授業資料や世界各地の写真・映像資料を使用します。

日本の里山や里海の事例に加えて、海外の事例（タンザニア、スーダン、エジプトなど）も学ぶことで、比較文化の視点を養います。これによって、現代の環境や開発をめぐる問題を考える際に、なぜ「文化相対主義」や「グローカル」な姿勢が重要なのか、また、文化人類学に何ができるのか、について考察します。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の観点からグローバル／ローカルに展開する環境や開発の問題について考え説明することができる(DP1-1)(技能)

環境や開発をめぐる諸問題について、文化人類学および関連分野の基礎知識を身につけている(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業資料をもちいての予習(30分)

授業資料・参考文献などをもちいての復習（参考文献は授業中に紹介）(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（100%）：環境と開発の文化人類学に関する基礎的な理論と学説史を理解し、自分の言葉で説明して論じることができるかを評価基準とします。

◎－－－　テキスト　－－－◎

■Moodleにアップする「授業資料」をテキストとして使用します。各自でプリントアウトして必ず授業に持参してください。

◎－－－　参考書　－－－◎

池谷和信編『地球環境問題の人類学』世界思想社、2003年　ISBN 978-4-7907-1018-9
リオール・ノラン『開発人類学：基本と実践』古今書院、2013年　ISBN 978-4-7722-3112-1
・その他の参考書は授業中に適宜紹介
・参考書の購入の必要はない

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・文化人類学の基礎的な知識を習得していると理解が深まるので「文化人類学Ａ」を受講していることが望ましい。
・大学は主体的に学ぶ場であることを自覚し、授業中の私語などの迷惑行為を慎むこと。
・コロナ等の状況に応じて「授業計画や成績評価の方法」を変更する場合がある。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．スタートアップ授業（動画配信）：シラバス確認・授業資料の取得方法・講師紹介など
２．環境の人類学１：文化人類学の概要
３．環境の人類学２：クジラは誰のものか？
４．開発の人類学１：開発と発展
５．開発の人類学２：ESDとSDGs
６．日本と西欧の自然観
７．里山の文化人類学：日本の祭礼文化
８．里海の文化人類学：日本の漁民文化
９．中間まとめ
10．環境保全の課題１：エジプトの海洋保護区
11．環境保全の課題２：スーダンの海洋保護区
12．観光開発の課題：タンザニアの世界遺産
13．環境・開発と信仰：タンザニアの精霊信仰
14．環境・開発と儀礼：タンザニアの男子割礼
15．講義まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/s4on6fxd624cu1u5v0zreefr0127txzz)

文化人類学Ｂ「教養ゼミ」（グローバル化時代の文化と社会を考える）

2023-S000009480-A0

宮岡　真央子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

グローバル化が叫ばれて久しい今日、私たちは以前にも増して日常生活において多様な他者と日々出会うようになった。文化人類学は、個別具体的な社会における人の暮らし方や考え方を知ることから、文化の多様性・個別性／一様性・普遍性について考え、人間とはどのような存在かを知り、考えてきた。今日では、自分と他者とのよりよい関わり方、よりよい社会のあり方を探ることをも重要な目標としている。

本授業では、文化人類学の入門書を手がかりに、文化人類学の基本的な考え方や理論を学ぶとともに、これらを自分に身近な事象に引きつけて認識・思考・議論することを目指す。授業は演習形式で、学生同士のグループディスカッションや発表を中心として進める。授業内容はテキストの各章テーマから受講生と相談のうえ選定したい。

受講生はテキストの該当する章を事前に読解して小レポートを作成し、授業に臨む。小レポートは、テキスト本文の要約、当該章末に提示された課題への回答、という2点を基本として構成する。授業時には、テキストの内容を確認した上で、グループワークで課題について議論し、その結果を全体に向けてグループごとに発表する。授業後の議論にmoodleのフォーラムなどを用いることも視野に入れている。

学期末には、演習を通じて得た問題意識をもとに各自テーマを設定し、フィールドワークや文献調査を行い、レポートに仕上げる。学期途中には、この中間報告の機会も設けたい。

以上をふまえ、多様な他者とともに暮らし、多様な文化が共存する世界のあり方について、受講生自身の問題として考える機会とする。

◎－－－　到達目標　－－－◎

文化人類学の基本的な理論や知識を習得する。(DP1-1)(知識・理解)

多様な考え方・価値観をふまえ、対話により共通理解に達しようとする姿勢をもつ。(DP2-2)(態度・志向性)

自分の考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

現代社会の解決困難な諸課題について積極的に考えようとする姿勢をもつ。(DP3-2)(態度・志向性)

文化人類学の思考方法やアプローチを用いて、現代の文化と社会をめぐる具体的な諸課題を検討することができる。
(DP4-1)(技能)

現代の文化と社会をめぐる諸課題を自分自身と結びつけて具体的に考えようとする姿勢をもつ。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習としてテキストの該当箇所を読解して小レポートを作成する。(60分)

復習として自身の問題意識に応じて、さらなる読書や調査で問題意識や思索を深め、研究を進める。(30分)

学期中を通じて、期末レポート作成に向けた準備をする。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

(1)小レポート 40%、(2)グループワーク 30%、(3)期末レポート 30%を目安として総合的に評価する。

(1)は、テキスト読解・要約の的確さ、課題に対する考察や調査の深度を評価基準とする。(2)は、発言・役割がグループワークに果たした意義の大小を評価基準とする。(3)では、明確な問題意識、その問題に対する具体的記述と考察・結論、授業で学習・考察したことがらや自らの調査などで得た知識・問題意識の応用、出典明記などの諸条件の有無を評価基準とする。

なお、このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

長友淳編『グローバル化時代の文化・社会を学ぶ―文化人類学／社会学の新しい基礎教養』2017年、世界思想社、本体1,900円＋税、ISBN 978-4-7907-1696-9

◎－－－　参考書　－－－◎

東アジアで学ぶ文化人類学　ISBN 9784812216125
日本で学ぶ文化人類学　ISBN 9784812221051
文化人類学の思考法　ISBN 9784790717331
そのほか、授業中に適宜紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

この授業で扱う内容は、文化人類学Aの内容と一部重複しうる。しかし、本授業でテキスト読解とグループワークによって課題に取り組むことが、さらなる理解と思索を深める機会となることはいうまでもない。

毎回のゼミで事前の小レポート作成、グループワーク、発表などが課される。受講生には積極的姿勢と旺盛な学習意欲を期待する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2．自己紹介と授業の進行方法の確認
3～14．グループワーク（扱うテーマは下記テキストから受講生と相談のうえ選定する。）
15．授業のまとめ
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
参考（テキスト目次）
　第1部　異文化を学ぶ
第1章　文化の概念
第2章　社会学の基礎
第3章　人種・民族
第4章　性差
第5章　宗教
第6章　呪術
第7章　贈与交換論
　第2部　変化する社会を学ぶ
第8章　近代化と国家
第9章　世界システム
第10章　伝統の発明
第11章　ポストコロニアル理論
第12章　カルチュラル・スタディーズと文化の動態性
第13章　観光
　第3部　グローバル化時代の文化の越境と動態性
第14章　文化を記述する
第15章　グローバル化論・トランスナショナリズム論
第16章　グローバル化時代の移住・移民
第17章　越境するメディアとポピュラー文化
第18章　文化とアイデンティティの政治
　第4部　実践編
第19章　レポートの書き方
第20章　フィールドワークに出よう

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/qiift7ik5j3y69eg981ykbkt746tv8ei)

日本国憲法（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-01

守谷　賢輔

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　　試験時間割：2024/01/19　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/0grjvdjrpzukaexhymd5zamk3iac30dp)

日本国憲法（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-02

守谷　賢輔

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　試験時間割：2024/01/19　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/4drmw3712dwv3dy95rmdqizsmzo4107w)

日本国憲法（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-03

守谷　賢輔

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・５時限　試験時間割：2024/01/19　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/c5qjjwrd0cwe3zzmmocqm3txw4wgxls6)

日本国憲法（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-04

守谷　賢輔

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・１時限　試験時間割：2023/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/mvl73ck7x4lqz0ahwrjf31ycmzbok3w1)

日本国憲法（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-05

守谷　賢輔

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・２時限　　試験時間割：2024/01/19　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/frpr193qr64nm9emwts5cxtx7sjw115x)

日本国憲法（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-06

守谷　賢輔

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・５時限　試験時間割：2023/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/12jl0d42i3ma5tbwl1u0db06zjb7nwiw)

日本国憲法（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-07

守谷　賢輔

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・２時限　試験時間割：2023/07/27　６時限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/pec797s0870vzolgbpbmf1zj4sdthbpx)

日本国憲法「BB」（「この国のかたち」を考える）

2023-S000009453-08

守谷　賢輔

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・二部２時限　試験時間割：2023/07/26　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

日本国憲法の三大原理とは、「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」である、と学んだ記憶のある人は多いでしょう。けれども、それぞれの意味内容や意義を問われたとき、明確に答えることのできる人は、どれほどいるでしょうか。また、私たちの生活が憲法とどのように関係しているかを具体的に感じたことのある人は、あまりいないのかもしれません。他方で、新型コロナウィルスに関する政府の対応を見る中で、憲法との関係を考えた人もいるでしょう。
いずれにしても、私たちが「人間らしい生活」を営むことができることは、憲法と密接に関係しており、切り離すことのできないものです。憲法を学ぶということは、私たち一人ひとりが幸せに生きるためには、どのような社会や国家が望ましいのかを考えることでもあります。そして憲法の学習は、社会の担い手である私たち一人ひとりが、将来世代により良い社会や国家を継承するために不可欠であると言えます。
望ましい社会や国家のあり方は、１つではありません。ここには「正しい答え」は存在しません。したがって、条文や用語の暗記はまったく無意味です。暗記することが憲法の勉強だと思っている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
この講義では、第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。これを踏まえて、憲法は何のために存在する法なのか、法律との違いは何かといった基本的な論点について学んでいきます。これらの基本的な知識を習得したことを前提に、その後の講義を進めていきます。憲法問題をより具体的にイメージしてもらうために、毎回の授業で動画を閲覧してもらう予定です（重い内容を含む動画については、閲覧をするかどうかを受講生に委ねます）。
毎回の講義は、それぞれ別個独立したものではなく、相互に関連しています。各論点のつながりを意識し、主体的に考えていくことを心がけて受講するようにしてください。
なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースが憲法とどのように関係しているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

現在および将来の社会と国家を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、望ましい国家や社会のあり方を主体的に考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の成績で評価します（100点）。憲法に関する基本的知識を習得していることを評価の基準とします。
授業後やオフィスアワーなどでの質問の内容によって、１回につき１～３点を付与し、それを定期試験の点数に加点します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

播磨信義・木下智史・渡辺洋・脇田吉隆・上脇博之『新・どうなっている！？日本国憲法〔第3版〕』（法律文化社、2016年）
ISBN:4589037513
価格：￥2,530
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
憲法主義　ISBN 9784335000911
日本国憲法を考える〔第3版〕　ISBN 4569819133
レジュメに掲げている参考図書

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「法学」などの他の法律学の一般教養科目を履修済み、または履修中であるほうが、より良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人や単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.憲法とは何か
3.立憲主義の成立と展開
4.日本憲法史
5.平和主義
6.個人の尊重と幸福追求権
7.法の下の平等
8.精神的自由権
9.経済的自由権
10.社会権
11.人身の自由と刑事手続上の権利
12.国会
13.内閣
14.裁判所
15.違憲審査制と憲法訴訟

授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2bonkte5iu380vs7l6r67lyulbsyjddr

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/4l5hvk55xgv1y297dl52xd787b3ms4by)

法学Ａ（行政活動と法）

2023-S000009451-01

田中　孝和

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　試験時間割：2023/07/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

毎日の生活を送るうえで行政と私たちの関わり、ましてや法的なかかわり、を意識することはあまりないかもしれません。しかし、道路交通を例にあげると（参考：本授業指定教科書第1講義〔出典はテキストの箇所に記載〕など）、自動車の運転には運転免許を取得する必要があります。法律上、免許を取得せずに公道を走ることはできません。なぜ免許を取得する必要があるのでしょうか。また、免許を受けたら好き勝手に車の運転が可能でしょうか。いうまでもなく、わたしたちは法令にのっとり運転を行うことが求められます。その違反者（無免許運転者やスピード違反者など交通の安全を妨げる者など）には、免許の停止、取消やさまざまな制裁（刑事罰など）が科される可能性があります。これらは道路交通に関する法令に規定されています。このように道路交通に限らず、行政と私たちの関係について規定している法令は数多く存在しています。また、違法行為により運転免許が取り消されるとしたら、行政によりどのような手続をとるのか、その免許の取消に納得がいかない場合は誰にどのようにして不服を主張すればよいでしょうか。

本講義では、（上記のような道路交通のほか食品衛生、環境など、一つ一つの法令を検討するのではなく）どのように行政活動がなされているのか、どのような方法を用いて行政の目的を実現するのか、行政が私たちに対してした活動に納得がいかない場合にどのように対処すればよいのか、行政と私たちとの法的なかかわり、働きかけの方法、行政救済などを学習していくこととします。いうまでもありませんが、本講義は法学の授業であり、行政活動に対する政府の在り方やその活動の是非を評価する授業ではありません。

第1回目であるスタートアップ授業は、授業名とした「行政活動と法」の授業の理解を助けるために法学の基本的なことがらを理解してもらうための授業（ただし、時間の都合上、最低限度のことしかできませんので、各自法学に関する初学者向けの本を読んでみてください）を行います。

本授業は講義形式で行います。なお、上記を見ていただいてもわかりますように、膨大な分量を授業で取扱うことになります。授業をしっかり受講していただきたいので、毎回予習、復習を入念にしてのぞんでください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

行政の活動につき、法律上そのように決められているのか、基礎的な知識をみにつけることができる。(DP1-1)(知識・理解)

法学を介して行政の活動について理解することができる(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回学習する回につき、指定教科書を読むこと。(120分)

復習：今回授業にて学習した箇所につき、指定教科書、配布資料を確認すること。(120分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

・期末の試験　100点：行政活動と法について、基本的な知識が理解できているかどうかを様々な解答パターンを用いて問うこととします。

授業の進行状況により、受講者の理解を確認するため授業時間内外に評価（いわゆる小テスト）を行う場合があります。問題に正解の場合、成績評価の参考とします。場合により、授業中に通信機器（スマートフォン）などで解答してもらう場合もありますので、充電をしておいてください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

宇賀克也編『ブリッジブック行政法〔第3版〕』（信山社、2017年）ISBN:9784797223576
最新版が出る場合はそれによる（教科書販売には最新版が入ることになる）。

◎－－－　参考書　－－－◎

吉田利宏『つかむ・つかえる行政法』　ISBN 978-4589038777
道垣内弘人『プレップ　法学を学ぶ前に〔第2版〕』（弘文堂、2017年）をはじめ、法学について基本的なことがらが記述された文献を見てみることをおすすめします。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業中に指定教科書を常に使用することにより授業を展開します。このため、教科書は必ず入手、持参していただくことになります。

連絡事項は基本的にFUポータルもしくはメールで行います。常にこれらを確認しておいてください。連絡を見ていない不利益は、各自で負っていただきます。受講者の皆さんからの連絡は必ず大学のメール（cis）を利用してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　本授業の説明および本授業を受講する際に必要な法学の基本的知識の説明：スタートアップ授業（動画配信）
2　行政はどのような活動をしているのか
3　行政は法に従って活動する　法治主義（１）
4　行政は法に従って活動する　法治主義（２）
5　行政活動を行うためにどのような組織が作られているか　行政組織法
6　行政が国民の権利を制限をしたり義務を課したりする手法　行政行為（１）
7　行政が国民の権利を制限をしたり義務を課したりする手法　行政行為（２）
8　行政による協力の要請　行政指導
9　行政が法を作る？　行政立法
10行政と契約する場合がある　行政契約
11　もし私たちが行政が課した義務に従わなかった場合には　行政上の強制執行
12　行政活動に必要な手続　行政手続法
13　行政の活動に納得がいかない場合　行政に不服を申し立てる
14　行政の活動に納得がいかない場合　裁判所に訴える①
15　行政の活動に納得がいかない場合　裁判所に訴える②

受講者の理解に応じて、または授業の進行状況により、一部授業計画を変更する場合がある。その場合は、受講者に事前に伝える。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/huvv52ydj9ylg3oi726cxv7t553tl0n3)

法学Ａ（日本国憲法と基本的人権）

2023-S000009451-02

城野　一憲

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：有り　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・５時限　試験時間割：2023/07/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では、日本国憲法による基本的人権の保障について学ぶことを通じて、現代社会における憲法や法律の機能についての皆さんの理解を深めてもらいたいと思います。

中学校の社会科や高校の公民科での憲法の勉強は、日本国憲法が保障している権利や自由にはどのようなものがあるのかを知ることが中心であったと思います。大学での憲法の学習では、憲法による基本的人権の保障が、実際にはどのようにして実現されているのかを理解することが大切になります。また、そもそも人権はなぜ保障されるのか、人権はどこまで保障されるべきなのか、といったことを考えることも重要です。

憲法は、他の法分野や社会科学の学問分野とも深いかかわりを持っています。人権思想を理解する上では、過去の人権侵害の歴史を真摯に見つめ、理解する必要があります。憲法訴訟では、民法や刑法などの法令の違憲性が争点になるため、そうした法令の意義や機能もふまえる必要があります。憲法が保障している様々な権利は、国会の作る法律や政府の政策によっても実現されているため、国や地方の政治過程の知識もあった方がいいでしょう。この点については、講義担当者の中央省庁での法制執務の経験もふまえて解説します。ニュースや報道を通じて、社会ではどのような憲法問題や人権問題が提起されているのかにも関心を持ってほしいと思います。

授業では、日本国憲法の第三章が保障している権利、いわば、憲法上の権利について、その内容や歴史的な沿革、関連する判例や立法、社会問題もふまえて講義します。一般に「権利」と呼ばれているものは、①権能、②特権、③免除権、④請求権のいずれかの形態をとると考えられています。憲法上の権利の形態や機能について、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

なお、講義の予習や受講、復習に使用するレジュメやスライドは、随時FUボックスにアップロードされます。

◎－－－　到達目標　－－－◎

日本国憲法が保障する基本的人権の意義や内容について基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

基本的人権と関連する現代社会の諸問題について自己の意見を述べ、文章で表現することができる。(DP1-1)(技能)

法学についての基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストのあらかじめ指定された範囲を読み、理解できないところや疑問があるところがあればノートなどに書き出す(60分)

復習：授業中に記入したレジュメやノートを、授業後に担当教員がアップロードする講義資料と照らし合わせながら授業内容を確認する(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験100%
定期試験では、憲法学や法学の基礎的な用語について問う選択式の問題と、基本的人権に関する理論や制度について論じる記述式の問題を出題する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

斎藤一久・堀口悟郎編『図録　日本国憲法（第2版）』（2021年）
ISBN:9784335358968

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

私語やスマートフォンの通話など、授業の妨害となる行為は禁止します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　ガイダンス、憲法の歴史（スタートアップ授業）
2　基本的人権と権利の理論
3　幸福追求権
4　平等権
5　選挙権
6　思想・良心の自由
7　信教の自由
8　言論・出版の自由
9　集会・結社の自由
10　職業選択の自由
11　学問の自由
12　婚姻の自由
13　社会権
14　財産権
15　人身の自由

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/zcq1yn64ruudtv4y529kvauyu1mrjuro)

法学Ａ（学生生活をめぐる法律問題）

2023-S000009451-03

三宮　希

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・５時限　試験時間割：2023/07/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

大学生活では、これまでよりも自由に行動することができるようになります。しかし、その分さまざまなトラブルも発生します。これらのトラブルの中には、法律を学ぶことで防ぐことができる、あるいは冷静に対処できるものが多くあります。
この講義では、皆さんが遭遇するかもしれないトラブルを具体的に紹介します。例えば、交通事故、アルバイト、アパートやマンションの賃貸借などに関するトラブルです。
このようなトラブルについて、どんな法律に関係するのかを示し、この問題についての裁判所の判例や学説について勉強します。
法律は身近なところにも多く存在します。この講義を通して、法律のかかわる様々な問題にも目を向けていただければと思います。

なお、この授業は講義形式で行います。
基本的に授業計画にしたがって講義を進めますが、最新のニュースや皆さんの関心などの事情から変更が生じる場合があります。ご了承ください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 民法を中心に、法律の基礎的な知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

2. 生活を送るうえで発生する法律問題について、問題点を把握し、適切な判断をすることができる。(DP1-1)(知識・理解)

3. 法律の基礎的な知識に基づいて、身の回りに起きる具体的な問題について考え、自分の言葉で説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次回講義のテーマについて下調べをし、自分なりに問題意識を持ってください。(90分)

講義後、講義内容について整理し、講義で紹介した事例や用語について確認し、説明できるようにしておいてください。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
法律の基礎的な知識を身につけているか（到達目標1）、生活の中の法律問題について、問題点を明らかにし、適切な判断をすることができるか（到達目標2）、法律の基礎的な知識に基づいて、具体的な問題について考え、説明することができるか（到達目標3）を評価基準とします。

評価方法
定期試験80%
各回のミニッツペーパー20%

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。
講義資料を毎回配布（FUポータル上）します。

◎－－－　参考書　－－－◎

編集代表　佐伯仁志　大村敦志　荒木尚志『ポケット六法　令和5年版』　ISBN 978-4-641-00923-3

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

講義資料はFUポータル上で配布します。各自プリントアウト、ダウンロード等を行い、講義時に手元に準備してください。
生活の中での法律問題を扱いますので、日ごろからニュースを見て、どのような点が問題か考え、自分の言葉で表現できるように考えてみてください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1.イントロダクション（スタートアップ授業）
2.未成年の法律問題
3.クーリングオフの法律問題
4.交通事故の法律問題1（事故処理・過失割合など）
5.交通事故の法律問題2（示談交渉・後遺症・示談後の追加請求など）
6.アルバイトの法律問題1（労働条件・賃金など）
7.アルバイトの法律問題2（労災）
8.アパート・マンションの賃貸借の法律問題（原状回復義務・敷引きなど）
9.寄託（物を預ける・預かる）の法律問題
10.代理の法律問題と銀行トラブル
11.保証の法律問題（連帯保証・奨学金など）
12.弁護士とその周辺にかかる法律問題
13.婚姻の法律問題
14.婚姻成立の法律問題
15.離婚の法律問題

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/fw8061zvqibul87iybyg3x167ehpudfw)

法学Ａ（憲法が保障する人権と「この国のかたち」）

2023-S000009451-04

守谷　賢輔

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・４時限　　試験時間割：2023/07/25　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

人権という言葉を知らない人は、おそらくいないでしょう。人権は尊重されなければならない「大切なもの」だといわれますが、人権とは何か、人権を尊重されるのは誰か、尊重しなければならないのは誰かを正確に答えることはできるでしょうか。また、尊重されなければならない人権が、私たちの生活とどのように関わっているのかを具体的に説明できるでしょうか。
日常生活での何気ない会話やインターネットを自由に閲覧すること、アルバイトをしてお金を稼ぐといった当たり前に行っていることは、実のところ人権と切り離して考えることはできないものです。新型コロナウィルスをめぐる政府の対応も人権問題の1つです。
この講義では、憲法が保障する人権の内容や限界などを判例を中心に考察します。人権保障の歴史、現状および課題を把握し、人権保障の現代的課題について検討します。
第1回目の授業（スタートアップ授業）で、導入部に位置づけられる内容の講義を行います。こうした基本的知識を習得したことを前提に、それぞれの人権がどのような状況のもとで問題となるのか、そうした問題をいかに解決すべきなのかを検討していきます。過去および現在の人権問題は社会や国家のあり方を映し出しています。どのような社会や国家が望ましいのかを主体的に考えながら、人権保障のあり方を考察してください。
憲法や人権の勉強は、条文や関連する用語の暗記だと思っている人がいるかもしれませんが、暗記はまったく無意味です。条文の文言の解釈は多様であり、人権問題をいかに解決するかの考え方も様々あります。また、社会や国家のあるべき姿は、人によって異なります。暗記することが憲法の勉強と考えている人は、早急に勉強の姿勢を改めてください。
　なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

人権に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

習得した基本的知識を用いて、日々のニュースから、どのような人権問題が生じているかを考えることができること。(DP2-2)(技能)

日常生活をおくることと人権保障の関係を、具体例を挙げて説明し、人権の現代的課題を説明できること。(DP3-1)(態度・志向性)

過去および現在の人権問題の考察を通じて、社会や国家のあり方を考えることができること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。
(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。
(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

毎回の授業後にFUポータルの「小テスト」機能を用いて、授業に対する疑問点などの質問を提出してもらいます。授業内容の理解度や批判的考察力を評価の基準とします（40点）。
　定期試験の成績で評価します（60点）。憲法が保障する人権に関する基本的知識を身につけ、個別の論点と各論点のつながり（体系）を理解しているかを評価の基準とします。
　授業後やオフィスアワー等での質問内容によって、1回につき１～３点を付与します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価するためのものです。

◎－－－　テキスト　－－－◎

君塚正臣編『大学生のための憲法』（法律文化社、2018年）
ISBN：4589039079
価格：￥2,750
講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトして持参して下さい。

◎－－－　参考書　－－－◎

基本的人権の事件簿〔第6版〕　ISBN 4641281475
事例問題から考える憲法　ISBN 4641227020
「憲法上の権利」入門　ISBN 4589040166

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

憲法や法学といった法律学の科目を履修済みまたは履修中であるほうが、授業をより良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人、単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。「成績評価基準および方法」で明記しているように、毎回の授業後に疑問点などの質問の提出を要求していますので、出席しない人や出席していても授業に参加しない人は、単位取得できません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 思想・良心の自由
3. 信教の自由と政教分離
4. 学問の自由
5. 表現の自由
6. 集会・結社の自由
7. 職業選択の自由
8. 財産権
9. 人身の自由と刑事手続上の権利
10. 国務請求権と参政権
11. 社会権
12. 幸福追求権
13. 法の下の平等
14. 人権の享有主体
15. 人権の限界

　授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/2x9sbr2xg0i5mdb168rshx0k1d7e46tv

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/0sl3yolss8czacvo3wd1nglbncmn05zo)

法学A「BB」（日常生活と法）

2023-S000009451-05

松山　祐平

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・二部１時限　試験時間割：2023/07/28　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義では、法律学に関する基本的事項の修得をもとに、裁判所の「判例」を通じて日常生活で生じる諸問題を分析し、さまざまな法分野の理解を深めることを目的とする。本講義で取り扱うのは、憲法、民法、労働法、刑法、国際法である。
「判例」とは、裁判所による過去の判断の中で、先例として事実上拘束力を有する重要なものをいう。講義では、各法分野においてとりわけ重要な判例を取り上げ、判例の具体的な解説を通じて、各テーマの学習を行う。加えて、判例を分析する際に必要な知識や法律などについての基本的事項の修得も行う。さらに、新聞記事などを用いて、時事問題にも焦点を当て、法的に解説するつもりである。
法学に初めて触れる学生が、本講義での判例および基本事項の解説を通じて、各法分野の理解を深め、学習することを目標としている。
なお、本講義は、教科書に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

法学に関する基礎的な知識を理解し、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

法学の重要な諸概念および学説を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

社会問題について法的な観点からさまざまな意見や考え方があることを踏まえて、他者と意見交換することができる。(DP2-2)(技能)

社会問題について法的な観点から、自分の見解を責任をもって表現することができる。(DP3-1)(知識・理解)

社会問題および国際問題について、法的な観点から問題をとらえようとする意識を持つ。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

次回の講義で扱うテーマの教科書の範囲を熟読し、疑問点や興味深いところをまとめておく。(60分)

教科書やノート、レジュメを読み返し、自分で説明できるよう整理しておく。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験6割、小テスト4割。
定期試験は、講義で学んだ概念や考え方を十分に理解しており、それらを文章で説明することができるかを評価の基準とする。
また、講義の進捗状況に応じて、適宜小テストを行う。小テストは、講義内容の理解度を確認するために行い、裁判所の立場を適切に把握しているかを評価基準とするものである。

◎－－－　テキスト　－－－◎

宮川基『高校の教科書で学ぶ　法学入門』（ミネルヴァ書房、2021年）、定価2,750円（税込）ISBN：9784623091676

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中に紹介する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業は、教科書および板書で進めていく。きちんとノートをとることを目標に、授業に臨んでもらいたい。
教科書は必ず購入しておくこと。また、最新の判例がある場合には、適宜、資料として担当教員が準備する。
法律の条文については、授業で必要な箇所を担当教員が準備する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. スタートアップ授業（動画配信）
　ガイダンス、導入授業（法学の基礎：法とは何か、法源、法の種類、解釈、裁判制度）
2. 基本的人権と法①―日本国憲法と人権
3. 基本的人権と法②―法の下の平等
4. 基本的人権と法③―精神的自由
5. 基本的人権と法④―経済的自由
6. 基本的人権と法⑤―社会権
7. 基本的人権と法⑥―人身の自由（刑事手続きにかかわる人権）
8. 家族関係と法①―夫婦間の法律問題
9. 家族関係と法②―親子の法律関係
10. 家族関係と法③―法定相続と遺言
11. 財産関係と法①―契約に基づく権利・義務
12. 財産関係と法②―契約に基づく権利侵害・義務違反と救済
13. 財産関係と法③―権利侵害と損害賠償
14. 労働関係と法
15. 国際関係と法

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/4mhlw5vyyxtf98evm5olpyo16jfbnrs1)

法学Ａ「教養ゼミ」（人権総論・統治機構）

2023-S000009451-A0

守谷　賢輔

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：火・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

このゼミは、判例を素材に、憲法学に関する基本的な論点を検討することを目的としています。専門科目の憲法でも共通教育科目の日本国憲法でも同様の論点が扱われますが、時間の制約などから判例を詳細に解説することは困難であり、受講生においても一つの判例をじっくり検討する機会はあまりありません。
　そこで、この授業ではゼミという特質を活かし、主として人権総論と統治機構に関する諸問題を詳しく検討し、憲法学の論点をより深く理解する機会とします。第1回目の授業（スタートアップ授業）で、ゼミの意義、受講にあたっての注意点を簡潔に解説します。
2人または3人を１つのグループとし、1つの判例を報告してもらいます。担当者は判例の原文を読むことはもちろん、当該判例に関係する資料を丁寧に読み、グループ内で報告の内容や方法などを検討したうえで、レジュメを作成してください。レジュメは授業実施日の3日前までに提出してください。報告担当者以外の人は授業実施日までにレジュメを読み、最低限１つの質問を出来るように準備してください。
資料を読み、内容をまとめ、他の人に分かりやすい報告をし、質疑応答をする作業は、報告内容の理解を深め、今まで気づかなかった問題を発見できる非常に貴重な機会となるとともに、「伝える力」と「聞く力」を養うことにもなります。
皆の前で話すことが得意な人も苦手な人も、それぞれの個性を活かしながら積極的に参加しチャレンジしてください。
　本授業は、複数のグループに分かれて、ディスカッション形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

憲法問題が他の学問分野とどのように関係してるのかを考えることができること。(DP2-1)(技能)

両訴訟当事者の主張、判決、学説の妥当性を検討すること。(DP2-2)(態度・志向性)

1回目の報告で受けた質問内容を踏まえ、2回目でより良い内容の報告ができるようになること。(DP3-1)(知識・理解)

難易度の高い文献を渉猟すること。(DP3-2)(態度・志向性)

法律学の基礎的知識を用いて、社会問題について法的観点から自分の意見を述べることができること。(DP4-1)(知識・理解)

自己の能力を高めるとともにゼミ全体の発展資するよう、レジュメの作成や質問への応答に積極的に参加すること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告準備：報告を担当する人は、最低1週間かけて報告準備をしてください。分かりやすいレジュメを作成し、論点を明確に報告できるようにしてください(600分)

予習：報告を担当しない人は、報告テーマに関係する資料を読み、事前に質問したいことを考えておいてください(45分)

復習：報告者は、質疑応答を踏まえて、報告に際して読んだ資料を再読するとともに新たな文献を読み、当該論点の理解をより深めてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　報告レジュメと質疑に対する応答の内容で評価します（60点）。
　報告の担当ではないときの質疑と、授業後に書くリアクションペーパーの内容で評価します。（20点）。出席と質疑応答は単位取得の前提ですので、理由のない遅刻や欠席は減点および不可の対象となります。
　担当した判例に関するレポートを学期末に提出してもらいます。報告した内容より水準の高いレポートを提出することを最低限の基準として評価します（20点）。
　なお、このクラスは定期試験間中には試験を実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

大久保卓治ほか編『憲法入門! 市民講座』（法律文化社、2020年）
ISBN-10 : 4589040689
価格：2,420円

◎－－－　参考書　－－－◎

憲法判例プラクティス〔第3版〕　ISBN 4797226749
憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕　ISBN 4641115451
憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕　ISBN 464111546X

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　出席さえしていれば単位を取得できるだろう、という安易で勉強意欲のない人は履修を遠慮してください。
　「成績評価および方法」で明記しているように、報告準備のために最低1週間（時間にして600分）かけることを要求していることに十分留意してください。
なお、このクラスは定期試験間中には試験を実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション（スタートアップ授業）：判例報告に必要な知識を提供します。
２～１４．報告と討論
１５．総括

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/dagy2jrhmve3oyqnglkj2v1am2wzi9qq

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/bwujapzwr2ggx1sd58wk58hxgo6kbmjk)

法学Ｂ（日本の法令の全体像と歴史）

2023-S000009452-01

畑中　久彌

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・１時限　試験時間割：2024/01/17　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この授業では、日本における法令の全体像と歴史を講義します。法令の数は非常に多く、内容も多岐にわたりますが、それらの基本となる部分を中心に取り上げていきます。また、私たちの生活には多かれ少なかれ様々な法がかかわってきますので、具体的な社会問題に法が関わっていることも学びます。必要に応じて、身近な話題も織り交ぜて授業を行います。
授業は、教員によるレクチャー形式で進行します。教員によるレクチャー後、授業中に小テストを実施することがあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

法学に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

社会規範としての法の特徴と歴史及び基本的な法令の特徴を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の講義のテーマについて下調べをしておく。(60分)

復習：授業資料を見直し、テーマに関する理解を定着させる。小テストがある場合にはそれを解く。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．成績評価基準
社会規範としての法の特徴と歴史及び基本的な法令の特徴を理解し、それらを説明することができるかを評価基準とします。
２．成績評価方法
定期試験60%。授業時又は授業後の小テスト40%。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは用いません。授業時に参考資料を配布します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　イントロダクション（スタートアップ授業）
２　法という社会規範の特徴
３　日本の法令の全体像
４　法の歴史の概要
５　憲法　Ⅰ
６　憲法　Ⅱ
７　民法　Ⅰ
８　民法　Ⅱ
９　労働法
１０　商法、民事訴訟法
１１　刑法
１２　刑事訴訟法
１３　社会保障法
１４　国際法
１５　法の解釈、授業の振り返り

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/rxiaj4o0i9rvgexjm2q11nqb97bupvsj)

法学Ｂ（日々の暮らしと法）

2023-S000009452-02

村林　聖子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・４時限　試験時間割：2024/01/17　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

中学校や高校での校則や交通ルールなど、法は私たちを縛りつけるものであると意識する場面が多いですが、法は日々の暮らしを成り立たせているものでもあります。
本講義は、私たちの日々の暮らしに法がいかに関係しているか、そして法と私たちはいかに関係しているかについて基本的な理解をすることを目的としています。
本授業は講義形式で進めます。各回の授業終了後、質問・感想等を受け付け、次回授業の冒頭で回答・コメントします。講義内容の理解に役立ててください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

法学の基礎的な用語や概念を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日々の暮らしの諸問題を法的に把握できる。(DP2-1)(技能)

日々の暮らしやニュースに法的な関心を持ち、考察することができる。(DP1-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：前回の講義内容を確認した上で、講義資料を一読してください。(30分)

復習：講義資料を見直し、講義内容についての理解を確認してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ミニテスト40点＋定期試験60点（計100点）
【ミニテスト】講義内容の基本的な理解を確認するために行うものです。3回実施します（3回で合計40点）。Microsoft365のアプリを用い、授業外で解答の入力をしていただきます。
【定期試験】講義内容の基本的な理解に基づいて考察し、適切に記述できているかを評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。
講義資料を使用します。

◎－－－　参考書　－－－◎

田中成明『法学入門 [新版]』（有斐閣、2016年）　ISBN 978-4-641-12585-8
石山文彦・山本紘之・堀川信一(編)『ウォーミングアップ法学 [第２版]』（ナカニシヤ出版、2021年）　ISBN 978-4-7795-1565-1
中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店、2009年）　ISBN 978-4-00-028323-6
さらに理解を深めるための参考にしてください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・講義資料pdfは直前の週末までにアップします。各自でダウンロードや印刷をして講義に臨んでください。
・第3回まではFUポータルを用いて、講義連絡や講義資料pdfの提示などを行います。
・第4回以降は、Microsoft365のTeamsを用いて、講義連絡、講義資料の提示、質問等の回収、ミニテストの実施などを行います。
・Teamsへの登録手続きについては、第3回までの講義時に説明します。受講者は第4回までにTeamsへの登録手続きを行ってください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.イントロダクション：講義の概要、講義の進め方、成績評価の方法など
　法と社会　(1)運転免許と交通事故―日々の暮らしと法の関わり　①運転免許
２.法と社会　(1)②民事上の責任
３.法と社会　(1)③行政上の責任 ④刑事上の責任
４.法と社会　(2)法の分類
５.法と社会　(3)近代法と現代法
６.法と強制　(1)刑罰
７.法と強制　(2)行政罰と行政処分
８.法と強制　(3)強制執行、損害賠償
９.法と裁判　(1)裁判（中間フォローアップ授業）
10.法と裁判　(2)刑事裁判
11.法と裁判　(3)民事裁判 (4)行政裁判
12.法と裁判　(5)裁判外紛争解決
13.法と裁判　(6)裁判員制度１
14.法と裁判　(6)裁判員制度２
15.まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/r6a4jjov537ahehmvnfvu3707n628yw7)

法学Ｂ（大学生活で役に立つ法律の素養を身に付ける）

2023-S000009452-03

野田　龍一

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・５時限　試験時間割：2024/01/17　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

皆さんにとって、法律学は、なじみの薄い科目かもしれません。しかし、皆さんが大学生活を送るにあたり、法律の素養は、必ず役に立ちます。
バイトをしていると、コロナを理由に店長が賃金を払ってくれない、30分未満の端切れの時間を切り捨てられた、開店時間前のミィーテングや閉店後の後始末の分が労働時間に含まれていない、といったトラブルがあります。一人暮らしをしている皆さんにとっては、アパートのセキュリティー費用は自己負担なのか、アパートが火事になったら、誰に対して損害を賠償請求できるのか、アパートを退出するとき、敷金はどれだけ戻ってくるのか、といった問題に直面することがあります。皆さんの中で、バイクや自動車を交通手段としている人にとっては、交通事故に遭遇したときの法律問題が迫ってきます。交通事故の被害者になったときは、どんな費目で損害を賠償請求できるのか、自分と相手方との過失割合は、どうなるのか、示談は、どうすればいいのか、といった問題に、誰もが直面します。法律に関わるいろいろな問題を、皆さん自身が、自分の頭で、正しく解決できるようになってください。
この講義では、そのために役立つ法律の素養を身に付けます。最初に、皆さんが遭遇するであろう法律問題をご一緒に考えます。その法律問題を解決するためのいろいろなスキルを「法律の小箱」の中から提供します。皆さんは、講義で提供されるスキルを使って、自分の頭で、問題を解決してください。こうした、法律学に独特の思考方法は、大学生活で、きっと役に立ちます。
授業は、講義形式で実施します。
「野田の法学Bを受講してよかった」と言って下さるよう講義します。
「わかりやすい」「面白い」「役に立つ」講義をします。

◎－－－　到達目標　－－－◎

基本的な法律概念や用語についての知識を身につける。(DP1-1)(知識・理解)

身近な紛争を法律学及その他の隣接する学問領域から多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

法律問題を、年齢・性別・民族などの相違をふまえてとらえることができる。(DP2-2)(知識・理解)

社会における法律問題に則して自己決定とそれに伴う自己責任の意味を理解できる。(DP3-1)(知識・理解)

法律問題の解決に向けて一市民として主体的・積極的に貢献することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業内容を復習して、ノートにまとめる(60分)
指定された新聞記事などを事前に学習する(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験の答案での評価が100%です。
評価のポイントは、身近な問題を、法律問題として正しく把握しているか、その法律問題を解決するスキルを身に付けているか、そして、身に付けているスキルを活用して、法律問題を正しく解決できるか、の３点です。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しません。講義のレジュメを毎回授業内容授業管理に掲載しテキストに代えます。

◎－－－　参考書　－－－◎

ポケット六法令和5年版　ISBN 978-641-00923-3

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

授業に毎回出席して、ノートをとってください。
『六法』は、令和5年版であれば、『ポケット六法』でなくても、かまいません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．概説法律学は面白い(スタートアップ授業)
２．交通事故に遭遇したときの法的対応
３．示談と和解・示談後の追加請求？
４．バイト・配達員の法律問題
５．アパート・マンションのトラブル
６．霊感商法・宗教法人への献金
７．駐車場やコインロッカーでの盗難
８．ネガティヴ＝オプション・通販のトラブル
９．保証・連帯保証・身元保証の法律問題
10.各種ハラスメントの法律問題
11.銀行ATMの法律問題
12.ヤミ金・偽装質屋の法律問題
13.就活・内々定・内定・裏アカ調査
14.各種パック旅行契約の法律問題
15.訴訟費用・弁護士費用・少額訴訟

授業は、講義形式で実施します。
新しい法律問題が発生したときは、以上のテーマを変更することがあります。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/i4hozvbkm7q2uqc2r2d8zbtkf8tjytre)

法学Ｂ（憲法が定める統治の仕組みと「この国のかたち」）

2023-S000009452-04

守谷　賢輔

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・４時限　　試験時間割：2024/01/17　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

国政選挙の投票率は50％程度であり、地方選挙になると投票率が30％ほどしかないところや、選挙すら行われないところもあります。こうした状況は、政治が自分たちの生活に身近なものと感じることができず、政治に無関心な人が多いからでしょうか。選挙で投票しても政治は変わらない、と諦めているからでしょうか。あるいは、関心はあっても、「素人」には近寄りがたい難解さを感じている人もいるかもしれません。他方で、消費税増税や新型コロナウィルスに関する政府の対応を見て、政治に関心をもった人もいることでしょう。
いずれにしても、政治が私たちの生活に多大な影響を及ぼしていることは間違いありません。したがって、「損をしない」ために政治の仕組みに関する一定の知識を習得し、賢い市民となることに大きな意義があります。社会および国家の担い手である私たち一人ひとりは、今を生きる私たちだけでなく将来世代も視野に入れ、何が望ましい統治のあり方なのかを考え、より良い社会をつくっていく重要な責務を負っています。
この授業では、憲法学の観点から、日本そして他国の統治の仕組みを概観し、望ましい統治のあり方を考えることを目的としています。第1回目の授業（スタートアップ授業）で、この授業の取り組み方や導入部に位置づけられる授業内容を説明します。これらを踏まえて以降の授業を受講してください。
時間に制約があることから、憲法の論点を網羅的にとりあげることはできません。授業で扱わなかった論点については、教科書や参考書などを参照し、自習に努めてください。そうすることで、憲法をより体系的に理解することができ、皆さんの知的好奇心を刺激することでしょう。
　なお、この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法が定める統治の仕組みに関する基本的知識を習得し、それを自分の言葉で説明できること。(DP1-1)(知識・理解)

習得した基本的知識を、歴史学、人類学、社会学などの人文社会科学、さらには自然科学での学びに活かせること。(DP2-1)(技能)

日々のニュースをみて、憲法が定める統治の仕組みとの関連を考えることができること。(DP2-2)(態度・志向性)

統治を担う市民として何をすべきかを考えることができること。(DP3-1)(態度・志向性)

習得した基本的知識を用いて、より良い統治のあり方を主体的に考えることが出来ること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の授業内容に該当する教科書の解説を読んでおいてください。(45分)

復習：授業レジュメや教科書をみながら、理解できた論点と理解できなかった論点、疑問に感じた点などを確認し、ノートを作ってください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

毎回の授業後にFUポータルの「小テスト」機能を用いて、授業に対する疑問点、質問を提出してもらいます。授業内容の理解度や批判的考察力を評価の基準とします（40点）。
　定期試験の成績で評価します（60点）。憲法が定める統治機構に関する基本的知識を身につけ、個別の論点と各論点のつながり（体系）を理解しているかを評価の基準とします。
　授業後やオフィスアワー等での質問内容によって、1回につき１～３点を付与します。講義に積極的に取り組む姿勢を評価するためのものです。

◎－－－　テキスト　－－－◎

孝忠延夫・大久保卓治編『憲法実感！ ゼミナール』（法律文化社、2014年）
ISBN: 458903588X
価格：2,640円
　講義内容に沿ったレジュメを用います。レジュメは、授業の2日前の17時までにFU BoxにUPしますので、各自でそれをダウンロードしプリントアウトしてください。
　日本国憲法と大日本帝国憲法の条文が掲載された「資料」を必ず持ってきてください（「資料」は初回の授業で配布します）。

◎－－－　参考書　－－－◎

古典で読む憲法　ISBN 4641131856
トピックからはじめる統治制度〔第2版〕　ISBN 4641227802
事例問題から考える憲法　ISBN 4641227020

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

憲法や法学といった法律学の科目を履修済みまたは履修中であるほうが、授業をより良く理解できます。
真剣に勉強する気がない人、単位を取るためだけに履修を考えている人は、この授業の講義の登録を遠慮してください。「成績評価基準および方法」で明記しているように、毎回の授業後に疑問点などの質問の提出を要求していますので、出席しない人や出席していても授業に参加しない人は、単位取得できません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 憲法と立憲主義
3. 統治機構総論
4. 国会
5. 内閣
6. 裁判所
7. 違憲審査制と憲法訴訟
8. 財政
9. 地方自治
10. 国民主権
11. 天皇制
12. 憲法の改正
13. 憲法の保障
14. 日本国憲法と国際社会
15. まとめ

　授業計画は一応の目安であり、講義の進捗状況等により、テーマや順番を変更することがあります。
　スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/gtwoi8qznlsbqqpc7iq0824sswh0dadm

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/vwcvb5hzfr1ckgyw0q2p0v7dv17w88nw)

法学Ｂ「BB」（日々の暮らしと法）

2023-S000009452-05

村林　聖子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・二部１時限　試験時間割：2024/01/19　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

　中学校や高校での校則や交通ルールなど、法は私たちを縛りつけるものであると意識する場面が多いですが、法は日々の暮らしを成り立たせているものでもあります。
　本講義は、私たちの日々の暮らしに法がいかに関係しているか、そして法と私たちはいかに関係しているかについて基本的な理解をすることを目的としています。
　本授業は講義形式で進めます。各回の授業終了後、質問・感想等を受け付け、次回授業の冒頭で回答・コメントします。講義内容の理解に役立ててください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

法学の基礎的な用語や概念を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日々の暮らしの諸問題を法的に把握できる。(DP2-1)(技能)

日々の暮らしやニュースに法的な関心を持ち、考察することができる。(DP1-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：前回の講義内容を確認した上で、講義資料を一読してください。(30分)

復習：講義資料を見直し、講義内容についての理解を確認してください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

ミニテスト40点＋定期試験60点（計100点）
【ミニテスト】講義内容の基本的な理解を確認するために行うものです。3回実施します（3回で合計40点）。Microsoft365のアプリを用い、授業外で解答の入力をしていただきます。
【定期試験】講義内容の基本的な理解に基づいて考察し、適切に記述できているかを評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。
講義資料を使用します。

◎－－－　参考書　－－－◎

田中成明『法学入門 [新版]』（有斐閣、2016年）　ISBN 978-4-641-12585-8
石山文彦・山本紘之・堀川信一(編)『ウォーミングアップ法学 [第２版]』（ナカニシヤ出版、2021年）　ISBN 978-4-7795-1565-1
中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店、2009年）　ISBN 978-4-00-028323-6
さらに理解を深めるための参考にしてください。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・講義資料pdfは直前の週末までにアップします。各自でダウンロードや印刷をして講義に臨んでください。
・第3回まではFUポータルを用いて、講義連絡や講義資料pdfの提示などを行います。
・第4回以降は、Microsoft365のTeamsを用いて、講義連絡、講義資料の提示、質問等の回収、ミニテストの実施などを行います。
・Teamsへの登録手続きについては、第3回までの講義時に説明します。受講者は第4回までにTeamsへの登録手続きを行ってください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１.イントロダクション：講義の概要、講義の進め方、成績評価の方法など
　法と社会　(1)運転免許と交通事故―日々の暮らしと法の関わり　①運転免許
２.法と社会　(1)②民事上の責任
３.法と社会　(1)③行政上の責任
④刑事上の責任
４.法と社会　(2)法の分類
５.法と社会　(3)近代法と現代法
６.法と強制　(1)刑罰
７.法と強制　(2)行政罰と行政処分
８.法と強制　(3)強制執行、損害賠償
９.法と裁判　(1)裁判（中間フォローアップ授業）
10.法と裁判　(2)刑事裁判
11.法と裁判　(3)民事裁判
　　(4)行政裁判
12.法と裁判　(5)裁判外紛争解決
13.法と裁判　(6)裁判員制度１
14.法と裁判　(6)裁判員制度２
15.まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/od29820q7a598syopc6u6p93whkywulw)

法学Ｂ「教養ゼミ」（人権総論・人権各論）

2023-S000009452-A0

守谷　賢輔

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：演習　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：無し
授業時間割：後期：火・２時限　　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

このゼミは、判例を素材に、憲法学に関する基本的な論点を検討することを目的としています。専門科目の憲法でも共通教育科目の日本国憲法でも同様の論点が扱われますが、時間の制約などから判例を詳細に解説することは困難であり、受講生においても一つの判例をじっくり検討する機会はあまりありません。
　そこで、この授業ではゼミという特質を活かし、主として人権総論と人権各論に関する諸問題を詳しく検討し、憲法学の論点をより深く理解する機会とします。第1回目の授業（スタートアップ授業）で、ゼミの意義、受講にあたっての注意点を簡潔に解説します。
2人または3人を１つのグループとし、1つの判例を報告してもらいます。担当者は判例の原文を読むことはもちろん、当該判例に関係する資料を丁寧に読み、グループ内で報告の内容や方法などを検討したうえで、レジュメを作成してください。レジュメは授業実施日の3日前までに提出してください。報告担当者以外の人は授業実施日までにレジュメを読み、最低限１つの質問を出来るように準備してください。
資料を読み、内容をまとめ、他の人に分かりやすい報告をし、質疑応答をする作業は、報告内容の理解を深め、今まで気づかなかった問題を発見できる非常に貴重な機会となるとともに、「伝える力」と「聞く力」を養うことにもなります。
皆の前で話すことが得意な人も苦手な人も、それぞれの個性を活かしながら積極的に参加しチャレンジしてください。
　本授業は、複数のグループに分かれて、ディスカッション形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

憲法に関する基本的知識を習得していること。(DP1-1)(知識・理解)

憲法問題が他の学問分野とどのように関係してるのかを考えることができること。(DP2-1)(技能)

両訴訟当事者の主張、判決、学説の妥当性を検討すること。(DP2-2)(技能)

1回目の報告で受けた質問内容を踏まえ、2回目でより良い内容の報告ができるようになること。(DP3-1)(態度・志向性)

難易度の高い文献を渉猟すること。(DP3-2)(態度・志向性)

法律学の基礎的知識を用いて、社会問題について法的観点から自分の意見を述べることができること。(DP4-1)(知識・理解)

自己の能力を高めるとともにゼミ全体の発展資するよう、レジュメの作成や質問への応答に積極的に参加すること。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

報告準備：報告を担当する人は、最低1週間かけて報告準備をしてください。分かりやすいレジュメを作成し、論点を明確に報告できるようにしてください(600分)

予習：報告を担当しない人は、報告テーマに関係する資料を読み、事前に質問したいことを考えておいてください(45分)

復習：報告者は、質疑応答を踏まえて、報告に際して読んだ資料を再読するとともに新たな文献を読み、当該論点の理解をより深めてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　報告レジュメと質疑に対する応答の内容で評価します（60点）。
　報告の担当ではないときの質疑と、授業後に書くリアクションペーパーの内容で評価します。（20点）。出席と質疑応答は単位取得の前提ですので、理由のない遅刻や欠席は減点および不可の対象となります。
　担当した判例に関するレポートを学期末に提出してもらいます。報告した内容より水準の高いレポートを提出することを最低限の基準として評価します（20点）。
　なお、このクラスは定期試験間中には試験を実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

大久保卓治ほか編『憲法入門! 市民講座』（法律文化社、2020年）
ISBN-10 : 4589040689
価格：2,420円

◎－－－　参考書　－－－◎

憲法判例プラクティス〔第3版〕　ISBN 4797226749
憲法判例百選Ⅰ〔第7版〕　ISBN 4641115451
憲法判例百選Ⅱ〔第7版〕　ISBN 464111546X

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　出席さえしていれば単位を取得できるだろう、という安易で勉強意欲のない人は履修を遠慮してください。
　「成績評価および方法」で明記しているように、報告準備のために最低1週間（時間にして600分）かけることを要求していることに十分留意してください。
なお、このクラスは定期試験間中には試験を実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション（スタートアップ授業）：判例報告に必要な知識を提供します。
２～１４．報告と討論
１５．総括

スタートアップ授業のレジュメは、動画のフォルダからはダウンロードできません。下記のURLからダウンロードしてください。
https://fukuoka-u.box.com/s/dagy2jrhmve3oyqnglkj2v1am2wzi9qq

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/xsixnhiilrkv2f8513kswsjdyugtw431)

法律学概論（法令の基本的な仕組みと法の一般的な原則）

2023-S000009472-01

畑中　久彌

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：遠隔授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・５時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

人間は、守るべき行為の仕方を設定し、それに違反した者に一定の制裁を加えることによって、集団としての生存活動を維持してきました。小さな集団から膨大な人々から成る集団に至るまで、多かれ少なかれそのような営みを有しています。それが社会規範です。法は社会規範の一つとして重要な役割を果たしています。

法が具体的にどのような形で存在するかは、時代によっても地域によっても異なりますが、この授業では近代から現代にかけての日本の法令を中心に取り上げ、法令の基本的な仕組みと法の一般的な原則を学びます。

ただ、法令の基本的な仕組みや法の一般的な原則は、例えば「罪刑法定主義」や「法の不遡及の原則」というように非常に抽象的な言葉で表現されており、なかなか身近に感じられないところがあります。そこで、ニュース等、可能な限り身近な話題を紹介しながら授業を進めます。

授業は、教員によるレクチャー形式で進行します。教員によるレクチャー後、授業中に小テストを実施することがあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

法学に関する基礎的な知識を身につけ、それらを説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

法の一般的な原則と歴史及び基本的な法令の特徴を理解し、それらを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次回の講義のテーマについて下調べをしておく。(60分)

復習：授業資料を見直し、テーマに関する理解を定着させる。小テストがある場合にはそれを解く。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

１．成績評価基準
法の一般的な原則と歴史及び基本的な法令の特徴を理解し、それらを説明することができるかを評価基準とします。
２．成績評価方法
・授業時又は授業後小テスト（60%）。
・レポート1回（40%）
・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは用いません。授業時に参考資料を配布します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・この授業はオンデマンド授業です。
・開講期間内評価科目ですので、定期試験・追再試験がありません。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　イントロダクション（スタートアップ授業）
２　憲法Ⅰ（日本における憲法の歴史）
３　憲法Ⅱ（社会問題から見る憲法の諸原則）
４　民法Ⅰ（公法と私法、社会問題からみる民法の諸原則）
５　民法Ⅱ（民法の体系、消費者問題）
６　社会問題から見る労働法の諸原則
７　商法（現代社会における会社の役割と法規制）
８　民事訴訟法（私人の権利救済の方法）
９　刑法Ⅰ（様々な刑罰）
１０　刑法Ⅱ（刑法の諸原則）
１１　刑事訴訟法（捜査と公訴、冤罪事件）
１２　福祉と法（社会問題から見る社会保障法）
１３　国際法（戦争を中心に）
１４　法令の全体像と歴史
１５　法の解釈、授業の振り返り

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/eakqo42i5oy12u2crneilhadb2azz4jq)

社会学Ａ（変動する社会のとらえ方）

2023-S000009460-01

井手　靖子

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・１時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義においては、社会におけるいくつかの主要なトピックを取り上げ、それらのテーマに対して社会学的な視点を教授することで、社会に対してこれまでとは違った考え方を獲得出来ることを主眼としています。
授業内容としては、工業化・脱工業化や都市化、家族の変容、恋愛の変容など、いくつかのトピックを取り上げていきます。それらのテーマが時代の変遷をどのように辿ってきたかといった歴史的な変容を踏まえた上で、そこで何が問題とされているのか、それらの問題に対してどのように向き合うべきかを示唆します。また、必要に応じてビデオの鑑賞も行い、社会問題に対する多面的なアプローチの方法も提示することで、「社会」をより身近に、より柔軟に受け止められるよう、講義をすすめていきます。なお、本授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義を通して社会における基礎知識を身に着ける(DP1-1)(知識・理解)

社会の様々な問題に対して独自の視点で社会を切り開く能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

社会における一員として様々な問題を自らの問題として引き受け、積極的に社会参加できる態度を身につける(DP4-2)(態度・志向性)

社会学を通して様々な分野への多様な知識の必要性を認識し、積極的に理解しようとする姿勢を培う(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布した資料を事前に目を通し、わからない部分があれば、事前に自ら調べておくこと(30分)

関連する問題を自ら調べ、仮説を立てておくこと(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。
評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会学な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

図書の指定はありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中において適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　本講義の説明と社会学的思考について（スタートアップ授業）
2　産業社会論とは
3　産業化社会
4　工業化と脱工業化の具体的様相
5　生産局面における工業化と脱工業化
6　消費局面における工業化と脱工業化
7　政治局面における工業化と脱工業化
資本主義と社会主義
8　日本の社会運動
9　文化変動論
10　映画鑑賞
11　都市とは何か
12　日本の都市社会学の変容
13　都市における多様化と画一
14　　地域社会の高齢化と少子化
15　日本社会の変容とその視座

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/nnahy10u0102y59c6pm6kgto87h0zxiz)

社会学Ａ（変動する社会のとらえ方）

2023-S000009460-02

井手　靖子

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・２時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義においては、社会におけるいくつかの主要なトピックを取り上げ、それらのテーマに対して社会学的な視点を教授することで、社会に対してこれまでとは違った考え方を獲得出来ることを主眼としています。
授業内容としては、工業化・脱工業化や都市化、家族の変容、恋愛の変容など、いくつかのトピックを取り上げていきます。それらのテーマが時代の変遷をどのように辿ってきたかといった歴史的な変容を踏まえた上で、そこで何が問題とされているのか、それらの問題に対してどのように向き合うべきかを示唆します。また、必要に応じてビデオの鑑賞も行い、社会問題に対する多面的なアプローチの方法も提示することで、「社会」をより身近に、より柔軟に受け止められるよう、講義をすすめていきます。なお、本授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

講義を通して社会における基礎知識を身に着ける(DP1-1)(知識・理解)

社会の様々な問題に対して独自の視点で社会を切り開く能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

社会における一員として様々な問題を自らの問題として引き受け、積極的に社会参加できる態度を身につける(DP4-2)(態度・志向性)

社会学を通して様々な分野への多様な知識の必要性を認識し、積極的に理解しようとする姿勢を培う(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布した資料を事前に目を通し、わからない部分があれば、事前に自ら調べておくこと(30分)

関連する問題を自ら調べ、仮説を立てておくこと(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。
評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会学な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

図書の指定はありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中において適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　本講義の説明と社会学的思考について（スタートアップ授業）
2　産業社会論とは
3　産業化社会
4　工業化と脱工業化の具体的様相
5　生産局面における工業化と脱工業化
6　消費局面における工業化と脱工業化
7　政治局面における工業化と脱工業化
資本主義と社会主義
8　日本の社会運動
9　文化変動論
10　映画鑑賞
11　都市とは何か
12　日本の都市社会学の変容
13　都市における多様化と画一
14　　地域社会の高齢化と少子化
15　日本社会の変容とその視座

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/i6kopkwnqit1v6xbym0ftqhu16qbw5dx)

社会学Ａ（幽霊が語る日本の都市の変容）

2023-S000009460-03

高岡　弘幸

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・２時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「幽霊」や「妖怪」は、人間が自然環境との関係や社会関係の中から生み出してきた文化的な創造物である。これを逆に述べるならば、幽霊や妖怪の資料の分析を通じて、人びとの自然との関係や人間関係の特徴が浮かび上がってくることになるだろう。特に「幽霊」は、江戸時代以降、「まち」や「都市」に出現することが一般的であった。
そこで、この授業では、講義形式で、「幽霊」の資料の分析を中心に、前近代（平安～江戸時代）、近代を経て現代に至る都市社会のそれぞれの時代の特質を把握し、変容の様子を明らかにすることを目的としている。
言うまでもなく、現代の日本は「都市」の時代である。つまり、「都市」を考えるということは、現代の私たちの価値観や社会（人間）関係、生活がどのように変化してきたのか、そして、今後、どのように変化していくのかを考えることでもあるわけである。
履修にあたり、都市社会学の他、宗教社会学や歴史社会学、関連分野として民俗学や文化人類学、歴史学など、幅広く読書をすすめて欲しい。とりわけ、受講生自身の生活環境を理解することこそ、現代社会の怪異の特質を理解することにつながることを覚えておいて欲しい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(60分)

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

社会学に関する基本的な専門用語を正確に理解できているか、また、日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴が理解できているかを評価の基準とする。
期末テスト（100%）で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。講義中に適宜資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

場所を消費する　ISBN 4-588-00769-6
幽霊　近世都市が生み出した化物　ISBN 10-4642058338
妖怪学新考　ISBN 978-4-86248-180-1
事前に購入する必要はない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

必要に応じてビデオやＤＶＤ教材を使用する予定である。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①スタートアップ授業（動画配信）
集合表象としての怪異・妖怪：社会学の基礎
②アニメ『もののけ姫』の解読(1)：アニミズムと呪術
③同上(2)：日本の神と妖怪
④シャーマニズム
⑤古代都市（平安京）：官僚制社会と怨霊
⑥「鬼」と「天狗」：空間認識と怪異
⑦高知と富山の「異界マップ」：妖怪と幽霊の差異
⑧怖い幽霊の誕生(1)：近世都市の構造
⑨同上(2)：ジェンダーと幽霊
⑩近代的都市伝説：「口裂け女」
⑪学校と病院の怪談：「場所性」の怪異
⑫幽霊が語る都市の現在：「非・場所性」の怪異
⑬「ケータイ」する異界
⑭妖怪ウォッチブームと異界の変容
⑮まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/w39d7tiaf25tilki4e43t0vq3n2jne9h)

社会学Ａ（幽霊が語る日本の都市の変容）

2023-S000009460-04

高岡　弘幸

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：月・３時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

「幽霊」や「妖怪」は、人間が自然環境との関係や社会関係の中から生み出してきた文化的な創造物である。これを逆に述べるならば、幽霊や妖怪の資料の分析を通じて、人びとの自然との関係や人間関係の特徴が浮かび上がってくることになるだろう。特に「幽霊」は、江戸時代以降、「まち」や「都市」に出現することが一般的であった。
そこで、この授業では、講義形式で、「幽霊」の資料の分析を中心に、前近代（平安～江戸時代）、近代を経て現代に至る都市社会のそれぞれの時代の特質を把握し、変容の様子を明らかにすることを目的としている。
言うまでもなく、現代の日本は「都市」の時代である。つまり、「都市」を考えるということは、現代の私たちの価値観や社会（人間）関係、生活がどのように変化してきたのか、そして、今後、どのように変化していくのかを考えることでもあるわけである。
履修にあたり、都市社会学の他、宗教社会学や歴史社会学、関連分野として民俗学や文化人類学、歴史学など、幅広く読書をすすめて欲しい。とりわけ、受講生自身の生活環境を理解することこそ、現代社会の怪異の特質を理解することにつながることを覚えておいて欲しい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(60分)

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

社会学に関する基本的な専門用語を正確に理解できているか、また、日本の宗教や怪異を含む民間信仰の特徴が理解できているかを評価の基準とする。
期末テスト（100%）で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。講義中に適宜資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

場所を消費する　ISBN 4-588-00769-6
幽霊　近世都市が生み出した化物　ISBN 10-4642058338
妖怪学新考　ISBN 978-4-86248-180-1
事前に購入する必要はない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

必要に応じてビデオやＤＶＤ教材を使用する予定である。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①スタートアップ授業（動画配信）
集合表象としての怪異・妖怪：社会学の基礎
②アニメ『もののけ姫』の解読(1)：アニミズムと呪術
③同上(2)：日本の神と妖怪
④シャーマニズム
⑤古代都市（平安京）：官僚制社会と怨霊
⑥「鬼」と「天狗」：空間認識と怪異
⑦高知と富山の「異界マップ」：妖怪と幽霊の差異
⑧怖い幽霊の誕生(1)：近世都市の構造
⑨同上(2)：ジェンダーと幽霊
⑩近代的都市伝説：「口裂け女」
⑪学校と病院の怪談：「場所性」の怪異
⑫幽霊が語る都市の現在：「非・場所性」の怪異
⑬「ケータイ」する異界
⑭妖怪ウォッチブームと異界の変容
⑮まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/sfobb3kkoe9rp6urhcr36w2fsndfinzt)

社会学Ａ（「わたし」から社会へ）

2023-S000009460-05

花野　裕康

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義は、社会学A、Bにおける前半の科目で、社会学の入門（「わたし」から社会まで）を学ぶものです（Aだけでの受講でももちろん構いません）。具体的には、

(1)社会の中の「わたし」（みなさん一人一人のことです）を出発点に考察していきます。

(2)社会学の基礎概念である「行為」「コミュニケーション」「役割」「集団」について、この順序で学びます。つまり「わたし」から徐々に考察範囲を広げていきます。

(3)上記(1)(2)の考察は単に抽象的な概念学習にとどまらず、常に具体的社会現象を題材とします。その事で「わたし」から社会までの基礎概念を他の具体的な社会現象にも適用できる応用力を培います。

(4)最終的にその応用として「若者と社会」というテーマを扱い、これまで学んできた基礎概念を駆使しつつ考察します。

授業形態は講義形式です。スクリーンに投射したスライドを元に口頭で説明していきます。板書は使用しません。配布資料もありません。スライドと口頭説明が授業の全てとなります。

なお、授業中に受講者の皆さんが匿名でスライド上にコメントを入れる「コメントスクリーン」を採用していますので、積極的に活用してください（ニコニコ動画のコメント機能と同様のものです）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会学に対する基礎的な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

若者としての「わたし」と社会との関係についての知識と理解が身につき、社会における若者の立ち位置について、その歴史的変遷も含めて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

社会学に対する知識と理解に基づいて、他者や異文化などと適切にコミュニケーションできるスキルを持てる。(DP2-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。(90分)

復習：毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
(1)社会学の基礎概念を理解および説明できるか(到達目標1)、
(2)応用力としての「若者と社会」について社会学的に考察できるか(到達目標2&3)
の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は用いません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないので特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。コメントスクリーンでの発言をはじめ、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

第02回 「わたし」と社会

第03回 行動と行為

第04回 自意識とコミュニケーション(1)

第05回 自意識とコミュニケーション(2)

第06回 コミュニケーションと役割(1)

第07回 コミュニケーションと役割(2)

第08回 コミュニケーションと役割(3)

第09回 役割と集団(1)

第10回 役割と集団(2)

第11回 「うっせぇわ」の社会学

第12回 若者と社会(1)

第13回 若者と社会(2)

第14回 若者と社会(3)

第15回 若者と社会(4)

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ngo6ihdeevzmrjuotbn6v3c08s39tpmu)

社会学Ａ（「わたし」から社会へ）

2023-S000009460-06

花野　裕康

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・３時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義は、社会学A、Bにおける前半の科目で、社会学の入門（「わたし」から社会まで）を学ぶものです（Aだけでの受講でももちろん構いません）。具体的には、

(1)社会の中の「わたし」（みなさん一人一人のことです）を出発点に考察していきます。

(2)社会学の基礎概念である「行為」「コミュニケーション」「役割」「集団」について、この順序で学びます。つまり「わたし」から徐々に考察範囲を広げていきます。

(3)上記(1)(2)の考察は単に抽象的な概念学習にとどまらず、常に具体的社会現象を題材とします。その事で「わたし」から社会までの基礎概念を他の具体的な社会現象にも適用できる応用力を培います。

(4)最終的にその応用として「若者と社会」というテーマを扱い、これまで学んできた基礎概念を駆使しつつ考察します。

授業形態は講義形式です。スクリーンに投射したスライドを元に口頭で説明していきます。板書は使用しません。配布資料もありません。スライドと口頭説明が授業の全てとなります。

なお、授業中に受講者の皆さんが匿名でスライド上にコメントを入れる「コメントスクリーン」を採用していますので、積極的に活用してください（ニコニコ動画のコメント機能と同様のものです）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会学に対する基礎的な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

若者としての「わたし」と社会との関係についての知識と理解が身につき、社会における若者の立ち位置について、その歴史的変遷も含めて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

社会学に対する知識と理解に基づいて、他者や異文化などと適切にコミュニケーションできるスキルを持てる。(DP2-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。(90分)

復習：毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
(1)社会学の基礎概念を理解および説明できるか(到達目標1)、
(2)応用力としての「若者と社会」について社会学的に考察できるか(到達目標2&3)
の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は用いません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないので特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。コメントスクリーンでの発言をはじめ、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

第02回 「わたし」と社会

第03回 行動と行為

第04回 自意識とコミュニケーション(1)

第05回 自意識とコミュニケーション(2)

第06回 コミュニケーションと役割(1)

第07回 コミュニケーションと役割(2)

第08回 コミュニケーションと役割(3)

第09回 役割と集団(1)

第10回 役割と集団(2)

第11回 「うっせぇわ」の社会学

第12回 若者と社会(1)

第13回 若者と社会(2)

第14回 若者と社会(3)

第15回 若者と社会(4)

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/milhk2y9qhqmlxks3d539b23pmekvatl)

社会学Ａ（現代社会の趨勢）

2023-S000009460-07

平田　暢

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・４時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

現実に起こっている現象や趨勢の分析を通して現代社会を考察していく。「趨勢」とは、「時代の趨勢」という言葉が使われるように、現状から読み取ることのできる傾向や動向、成り行きを意味する。
まず、身近なものとして家族の変容や少子化、最近話題の格差や社会的不平等といった個々の趨勢や現象の分析を行っていく。それらの作業を通して、現代社会をもっとも根底的な部分で動かしている趨勢は何なのか、またその中心原理がどのようなものであるか考察する。あわせて、戦後の日本社会がたどってきた道筋と直面する問題、解決すべき課題等も明らかにしていきたい。
授業は、事前に配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.現代社会の趨勢に関する基礎的な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.現代社会の個別の現象に関する知識と理解が身につき、原因やプロセスも含めて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習
講義資料は早めに配布するので、事前に内容に目を通し、理解できない点や疑問点を自分の課題として明らかにしておくこと。また、講義資料中の「STOP and THINK」の問いを考えておくこと。(60分)

復習
講義後は、事前の疑問点や課題が解決できたか否かの確認と、「STOP and THINK」の内容を中心に講義資料を見直しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
現代社会の趨勢と現代社会の個別の現象に関する知識が身につき、説明できること(到達目標1&2)を評価の基準とする。

評価方法
定期試験の成績のみで評価する(100%)。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。講義中に資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

原純輔・盛山和夫(著),1999,『社会階層―豊かさの中の不平等―』,東京大学出版会.
ISBN-13: 978-4130530125
真木悠介(著),2003,『時間の比較社会学』,岩波現代文庫.
ISBN-13: 978-4006001087
山田昌弘(著),2007,『希望格差社会―「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』,ちくま文庫.
ISBN-13: 978-4480423085
篠原清夫・栗田真樹(編著),2016,『大学生のための社会学入門』,晃洋書房.
ISBN-13: 978-4771027176

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1)履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を視聴しておくこと。
2)時間割を確認し、必修科目との重複など、スケジュールに不具合がないことを確認しておくこと。
3)毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布するので、FUポータルをチェックすること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
2 社会学とはどのような学問か
3 家族の変容(1)
4 家族の変容(2)
5 少子化の進展(1)
6 少子化の進展(2)
7 社会的不平等と格差(1)
8 社会的不平等と格差(2)
9 社会の情報化と監視(1)
10 社会の情報化と監視(2)
11 社会的ジレンマと環境問題(1)
12 社会的ジレンマと環境問題(2)
13 地域社会の変容(1)
14 地域社会の変容(2)
15 全体のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/f6xfdn4smxwp4bahl4l17ite9gq3quex)

社会学Ａ（社会を考察しよう）

2023-S000009460-08

本多　康生

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・４時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

社会学とは、人間が集合的に織りなす社会を考察の対象とする学問である。本講義では、現代の様々な社会事象を分析し理解するために、社会学の理論や物の見方を、家族・宗教・労働・地域社会・医療・障害・教育・メディア・現代文化・環境問題・ジェンダーなどのテーマに即して解説し、社会の構造や仕組みに対する基本的認識を深める手ほどきを行う。特に、身近な問題からグローバルな社会事象までを総合的に分析する社会学の問題把握の特性を、重点的に教授していく。授業は視聴覚資料を活用した講義形式で行い、受講者それぞれが現代社会の諸問題に関する社会学的理解や合意形成の手掛かりを得ることを目指す。毎回、リアクションペーパーの提出を課すので、自身の意見や質問などを考えながら受講してほしい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2. 社会学的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。(DP2-1)(技能)

3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ノートや配付レジュメを見直したり、授業中に紹介した参考書に目を通すなど、各講義の後に復習をすること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

各回の受講後に提出するリアクションペーパー(30%)、中間レポート(20%)、定期試験の成績(50%)。

リアクションペーパー：各回の授業内容を理解した上で、当該テーマについて独自の見解を述べられるかどうかを評価基準とする。(到達目標3)

中間レポート・定期試験：社会学の基礎的概念と物の見方を理解した上で、現代の様々な社会事象について、多角的な視野から独自の見解を論理的に述べられるかどうかを評価基準とする。(到達目標1・2)

◎－－－　テキスト　－－－◎

教科書は使用しない。講義毎にレジュメを配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

受講にあたって特別な知識は必要としないが、テレビや新聞報道の記事などを通じて、時事問題に関心を持ってほしい。
毎回のリアクションペーパーの提出や中間レポートの作成など、非常に大きな負担があることを理解した上で受講してもらいたい。
授業中の私語等には、厳格に対処する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

講義内容や順序は、受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。

1　イントロダクション（スタートアップ授業）
2　社会学のパラドクス
3　家族を社会学する
4　宗教を社会学する
5　産業・労働を社会学する
6　地域社会を社会学する
7　医療を社会学する
8　障害を社会学する
9　教育を社会学する
10　メディアを社会学する
11　現代文化を社会学する
12　環境問題を社会学する
13　ジェンダーを社会学する
14　フィールドワーク入門
15　総括

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/fdkgavsm7duozt0cdoopd6dzfv0fw21z)

社会学Ａ（社会を考察しよう）

2023-S000009460-09

本多　康生

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・５時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

社会学とは、人間が集合的に織りなす社会を考察の対象とする学問である。本講義では、現代の様々な社会事象を分析し理解するために、社会学の理論や物の見方を、家族・宗教・労働・地域社会・医療・障害・教育・メディア・現代文化・環境問題・ジェンダーなどのテーマに即して解説し、社会の構造や仕組みに対する基本的認識を深める手ほどきを行う。特に、身近な問題からグローバルな社会事象までを総合的に分析する社会学の問題把握の特性を、重点的に教授していく。授業は視聴覚資料を活用した講義形式で行い、受講者それぞれが現代社会の諸問題に関する社会学的理解や合意形成の手掛かりを得ることを目指す。毎回、リアクションペーパーの提出を課すので、自身の意見や質問などを考えながら受講してほしい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1. 現代社会に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2. 社会学的な物の見方を理解し、現代の様々な社会事象について多角的な視野から考察できる。(DP2-1)(技能)

3. 他者の多様な考え方や価値観に触れることで、自身の見解や立場を相対化し、問い直す姿勢を持つ。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

ノートや配付レジュメを見直したり、授業中に紹介した参考書に目を通すなど、各講義の後に復習をすること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

各回の受講後に提出するリアクションペーパー(30%)、中間レポート(20%)、定期試験の成績(50%)。

リアクションペーパー：各回の授業内容を理解した上で、当該テーマについて独自の見解を述べられるかどうかを評価基準とする。(到達目標3)

中間レポート・定期試験：社会学の基礎的概念と物の見方を理解した上で、現代の様々な社会事象について、多角的な視野から独自の見解を論理的に述べられるかどうかを評価基準とする。(到達目標1・2)

◎－－－　テキスト　－－－◎

教科書は使用しない。講義毎にレジュメを配布する。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

受講にあたって特別な知識は必要としないが、テレビや新聞報道の記事などを通じて、時事問題に関心を持ってほしい。
毎回のリアクションペーパーの提出や中間レポートの作成など、非常に大きな負担があることを理解した上で受講してもらいたい。
授業中の私語等には、厳格に対処する。

◎－－－　授業計画　－－－◎

講義内容や順序は、受講者の理解度に応じて変更される可能性がある。

1　イントロダクション（スタートアップ授業）
2　社会学のパラドクス
3　家族を社会学する
4　宗教を社会学する
5　産業・労働を社会学する
6　地域社会を社会学する
7　医療を社会学する
8　障害を社会学する
9　教育を社会学する
10　メディアを社会学する
11　現代文化を社会学する
12　環境問題を社会学する
13　ジェンダーを社会学する
14　フィールドワーク入門
15　総括

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7tceduin1zbgox9ceywk407bswcq29f6)

社会学Ａ（社会学の理論と現代社会の特徴）

2023-S000009460-10

開田　奈穂美

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・１時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
　社会学とは、人と人との関係によって作り出されている人間社会を研究対象とするものである。社会学はきわめて多様なテーマを問うことができる学問である。経済格差や少子化、グローバル化など、現代社会に起こっているさまざまな問題を社会学はどのように解明できるのだろうか。
　この講義の前半では，社会学がこれまで積み上げてきた現代社会を理解するための概念や枠組みについて学ぶ。後半では、家族や地域社会、消費などいくつかの個別領域について検討し，現代社会をとりまく問題に対する社会学的アプローチを身につけていく。

授業の進め方
　この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につき、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

社会のマクロな潮流について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会の問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習　毎回の講義終了後、次回の講義テーマについて指示するので、次回講義までにそのテーマについて知りたいこと、わからないことについて考えておくこと。(60分)

復習　講義の内容および自分が提出したフィードバック等を踏まえて、事前の疑問や課題が解決されたかを確認する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験70%、授業参加度30%として評価する。定期試験では、授業の基本的な内容の理解度と、理解した内容を具体的事例に応用する能力を判定する。授業参加度は、授業時に提出してもらう教員へのフィードバックや、授業の中で課す小課題の提出内容によって授業への理解度を判断するものである。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しない、授業中に資料等を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

社会福祉士養成講座編集委員会編、2014『新・社会福祉士養成講座3　社会理論と社会システム【第3版】』中央法規出版　ISBN 9784805839300
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019『社会学（新版）』有斐閣　ISBN 9784641053892

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を見てから出席すること。また時間割を確認し、スケジュールにあわせて出席できることを前提にして、履修を考えること。
　毎回の講義資料は、原則としてインターネットを通じて配布する。また、ウェブ上のアンケート機能などを通じて小課題の提出を指示することがあるので、タブレットやスマートフォンなど、インターネットにアクセスできるデバイスを持参することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション：スタートアップ授業
２．社会学の成立と近代社会
３．社会指標と社会移動
４．社会階層と日本型格差社会
５．経済・労働市場と階層
６．社会変動と近代化
７．人口と福祉国家
８．生活の理解・消費社会論
９．生活の質を測る
１０．家族という社会現象
１１．現代日本の家族変容
１２．地域とコミュニティ
１３．都市化と地域社会
１４．コミュニケーションとメディア
１５．全体のまとめとふりかえり

※講義の進度は、受講者の理解の状況に応じて変更する可能性がある。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/x3cegponofpgsx0gimla19o3qyeffdly)

社会学Ａ（社会学の理論と現代社会の特徴）

2023-S000009460-11

開田　奈穂美

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・２時限　試験時間割：2023/07/26　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
　社会学とは、人と人との関係によって作り出されている人間社会を研究対象とするものである。社会学はきわめて多様なテーマを問うことができる学問である。経済格差や少子化、グローバル化など、現代社会に起こっているさまざまな問題を社会学はどのように解明できるのだろうか。
　この講義の前半では，社会学がこれまで積み上げてきた現代社会を理解するための概念や枠組みについて学ぶ。後半では、家族や地域社会、消費などいくつかの個別領域について検討し，現代社会をとりまく問題に対する社会学的アプローチを身につけていく。

授業の進め方
本授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につき、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

社会のマクロな潮流について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会の問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習　毎回の講義終了後、次回の講義テーマについて指示するので、次回講義までにそのテーマについて知りたいこと、わからないことについて考えておくこと。(60分)

復習　講義の内容および自分が提出したフィードバック等を踏まえて、事前の疑問や課題が解決されたかを確認する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験70%、授業参加度30%として評価する。定期試験では、授業の基本的な内容の理解度と、理解した内容を具体的事例に応用する能力を判定する。授業参加度は、授業時に提出してもらう教員へのフィードバックや、授業の中で課す小課題の提出内容によって授業への理解度を判断するものである。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しない、授業中に資料等を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

社会福祉士養成講座編集委員会編、2014『新・社会福祉士養成講座3　社会理論と社会システム【第3版】』中央法規出版　ISBN 9784805839300
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019『社会学（新版）』有斐閣　ISBN 9784641053892

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を見てから出席すること。また時間割を確認し、スケジュールにあわせて出席できることを前提にして、履修を考えること。
　毎回の講義資料は、原則としてインターネットを通じて配布する。また、ウェブ上のアンケート機能などを通じて小課題の提出を指示することがあるので、タブレットやスマートフォンなど、インターネットにアクセスできるデバイスを持参することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション：スタートアップ授業
２．社会学の成立と近代社会
３．社会指標と社会移動
４．社会階層と日本型格差社会
５．経済・労働市場と階層
６．社会変動と近代化
７．人口と福祉国家
８．生活の理解・消費社会論
９．生活の質を測る
１０．家族という社会現象
１１．現代日本の家族変容
１２．地域とコミュニティ
１３．都市化と地域社会
１４．コミュニケーションとメディア
１５．全体のまとめとふりかえり

※講義の進度は、受講者の理解の状況に応じて変更する可能性がある。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/l3bhqkqoofvz5damfpl1pu1h8ke9ljvm)

社会学Ａ「BB」（現代社会の趨勢）

2023-S000009460-12

平田　暢

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・二部１時限　試験時間割：2023/07/28　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

現実に起こっている現象や趨勢の分析を通して現代社会を考察していく。「趨勢」とは、「時代の趨勢」という言葉が使われるように、現状から読み取ることのできる傾向や動向、成り行きを意味する。
まず、身近なものとして家族の変容や少子化、最近話題の格差や社会的不平等といった個々の趨勢や現象の分析を行っていく。それらの作業を通して、現代社会をもっとも根底的な部分で動かしている趨勢は何なのか、またその中心原理がどのようなものであるか考察する。あわせて、戦後の日本社会がたどってきた道筋と直面する問題、解決すべき課題等も明らかにしていきたい。
授業は、事前に配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.現代社会の趨勢に関する基礎的な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.現代社会の個別の現象に関する知識と理解が身につき、原因やプロセスも含めて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習
講義資料は早めに配布するので、事前に内容に目を通し、理解できない点や疑問点を自分の課題として明らかにしておくこと。また、講義資料中の「STOP and THINK」の問いを考えておくこと。(60分)

復習
講義後は、事前の疑問点や課題が解決できたか否かの確認と、「STOP and THINK」の内容を中心に講義資料を見直しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
現代社会の趨勢と現代社会の個別の現象に関する知識が身につき、説明できること(到達目標1&2)を評価の基準とする。

評価方法
定期試験の成績のみで評価する(100%)。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。講義中に資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

原純輔・盛山和夫(著),1999,『社会階層―豊かさの中の不平等―』,東京大学出版会.
ISBN-13: 978-4130530125
真木悠介(著),2003,『時間の比較社会学』,岩波現代文庫.
ISBN-13: 978-4006001087
山田昌弘(著),2007,『希望格差社会―「負け組」の絶望感が日本を引き裂く』,ちくま文庫.
ISBN-13: 978-4480423085
篠原清夫・栗田真樹(編著),2016,『大学生のための社会学入門』,晃洋書房.
ISBN-13: 978-4771027176

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1)履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を視聴しておくこと。
2)時間割を確認し、必修科目との重複など、スケジュールに不具合がないことを確認しておくこと。
3)毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布するので、FUポータルをチェックすること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
2 社会学とはどのような学問か
3 家族の変容(1)
4 家族の変容(2)
5 少子化の進展(1)
6 少子化の進展(2)
7 社会的不平等と格差(1)
8 社会的不平等と格差(2)
9 社会の情報化と監視(1)
10 社会の情報化と監視(2)
11 社会的ジレンマと環境問題(1)
12 社会的ジレンマと環境問題(2)
13 地域社会の変容(1)
14 地域社会の変容(2)
15 全体のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/lwq6advyay0rmfvvawufpnouitoxxfeh)

社会学Ｂ（身近な社会の捉え方）

2023-S000009461-01

井手　靖子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・１時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

今日の社会問題をどのように考えるべきか、そもそも、社会問題とは何か、社会問題に対して社会がどのように捉えているのか、情報化社会といわれる今日、その情報をどのように受け止めるべきなのか。
本講義では、身の回りの出来事だけではなく、現代社会への関心を深め、社会学的なものの見方や 説明の仕方を学ぶ方法を提供します。 現代社会への関心を深めるために、日本社会が直面している重要な社会問題のいくつかを取り上げ、社会学の概念や理論を用いて説明を行っていきます。私たちが社会にいかに組み込まれているかということ、つまり社会的存在であることを丁寧に考えいく中で、社会を生きること、社会と向き合うことについて考えを深めてもらいたいと思います。また、講義の中でビデオの鑑賞を行い、映像から自由な発想を獲得してもらいたいと考えます。なお、本授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会におけるさまざまな問題の基礎知識を身につける(DP1-1)(知識・理解)

さまざまなコミュニティのなかで、人間同士の関係性がどのような過程で構築されてきたのか、今後どのように変容するかを想定する力を養う(DP2-1)(態度・志向性)

社会における一員として、社会のさまざまな問題を自らの問題として捉え、多様な視点から問題に取り組む姿勢を養う(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布した資料に事前に目を通し、わからない語句や概念があれば、事前に調べておくこと(30分)

関連する社会問題を想定し、それに対する仮説を立てておくこと(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。
評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会学な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

図書の指定は特にありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中において適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　講義の概要と現代社会の諸問題（スタートアップ授業）
２　家族の変容（1）-産業化と家族-
３　家族の変容（2）-現代家族の変容-
４　家族の変容（3）-家事と育児-
５　家族の変容（4）-ジェンダー-
６　家族の変容（5）-就職と結婚-
７　家族の変容（6）-女性にとっての結婚・男性にとっての結婚
８　-家族の変容（6）-日本の少子化-
９　映画鑑賞-映画を通してみる女性問題
１０　現代天皇制の諸相（1）-象徴天皇制の成立-
１１　現代天皇制の諸相（2）-大衆天皇制の登場-
１２　現代天皇制の諸相（3）-万世一系と女性天皇論-
１３　恋愛論（1）-ロマンティック・ラブ・イデオロギー-
１４　恋愛論（2）-「あそび」としての恋愛-
１５　総括-「社会学」を通してみる社会

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/pkjl7w2722hzz8yh5lc3flg5cfd3gah0)

社会学Ｂ（身近な社会の捉え方）

2023-S000009461-02

井手　靖子

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・２時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

今日の社会問題をどのように考えるべきか、そもそも、社会問題とは何か、社会問題に対して社会がどのように捉えているのか、情報化社会といわれる今日、その情報をどのように受け止めるべきなのか。
本講義では、身の回りの出来事だけではなく、現代社会への関心を深め、社会学的なものの見方や 説明の仕方を学ぶ方法を提供します。 現代社会への関心を深めるために、日本社会が直面している重要な社会問題のいくつかを取り上げ、社会学の概念や理論を用いて説明を行っていきます。私たちが社会にいかに組み込まれているかということ、つまり社会的存在であることを丁寧に考えいく中で、社会を生きること、社会と向き合うことについて考えを深めてもらいたいと思います。また、講義の中でビデオの鑑賞を行い、映像から自由な発想を獲得してもらいたいと考えます。なお、本授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会におけるさまざまな問題の基礎知識を身につける(DP1-1)(知識・理解)

さまざまなコミュニティのなかで、人間同士の関係性がどのような過程で構築されてきたのか、今後どのように変容するかを想定する力を養う(DP2-1)(態度・志向性)

社会における一員として、社会のさまざまな問題を自らの問題として捉え、多様な視点から問題に取り組む姿勢を養う(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

配布した資料に事前に目を通し、わからない語句や概念があれば、事前に調べておくこと(30分)

関連する社会問題を想定し、それに対する仮説を立てておくこと(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価方法：学期末の定期試験を80%、平常点として講義中での積極的発言および小レポート等で20%、その総合で評価を行います。
評価基準：身近な出来事を既存の枠組みにとらわれることなく、論理的かつ社会学な視点で論じることができるか、常に社会に対する問題意識を持ち、積極的に自らの意見を「自分のことば」で論じることができるか、で評価します。

◎－－－　テキスト　－－－◎

図書の指定は特にありません。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中において適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

常に社会問題に関心を持ち、積極的に授業に参加してください。また、固定概念や一般常識にとらわれず、自由な発想と柔軟な姿勢を心がけてください。質問や要望については随時受け付けます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１　講義の概要と現代社会の諸問題（スタートアップ授業）
２　家族の変容（1）-産業化と家族-
３　家族の変容（2）-現代家族の変容-
４　家族の変容（3）-家事と育児-
５　家族の変容（4）-ジェンダー-
６　家族の変容（5）-就職と結婚-
７　家族の変容（6）-女性にとっての結婚・男性にとっての結婚
８　-家族の変容（6）-日本の少子化-
９　映画鑑賞-映画を通してみる女性問題
１０　現代天皇制の諸相（1）-象徴天皇制の成立-
１１　現代天皇制の諸相（2）-大衆天皇制の登場-
１２　現代天皇制の諸相（3）-万世一系と女性天皇論-
１３　恋愛論（1）-ロマンティック・ラブ・イデオロギー-
１４　恋愛論（2）-「あそび」としての恋愛-
１５　総括-「社会学」を通してみる社会

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/7bpfcirxudbwszicto40ehzdac13ozw8)

社会学Ｂ（日本人の人間関係を考える）

2023-S000009461-03

高岡　弘幸

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・２時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

人間は一人きりで生きていくことはできない。生まれたときから家族・親戚、学校、会社あるいは友人・知人関係、サークル、インターネットの輪といった、何らかの集団や組織に所属することになる。では、そうした集団・組織の内部での人間関係はどのように決められているのだろうか。
つまり、この授業では、講義形式で、日本人が、まったく疑問を抱くことなく、当たり前のように結ぶ人間関係の具体的な事例の紹介と分析をとおして、社会学の考え方と基礎知識、分析方法を学ぶことを目的としている。
また、こうした課題は、日常生活と切り離された、教室の内側だけでおさまるものではない。受講生自身の、トラブルも含む、さまざまな人間関係の経験と記憶、さらには、新聞、テレビ、インターネットなど各種メディアに、授業と関連する出来事や事件があふれ返っている。この授業を履修するにあたり、日頃から、「人間関係」「集団・組織」をキーワードとして、さまざまな情報を収集するよう心掛けてもらいたい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本人の人間関係の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(60分)

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

社会学に関する基本的な専門用語を正確に理解できているか、また、日本人の人間関係の特徴を理解できているかを評価の基準とする。
期末テスト（100%）で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。講義中に適宜資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

希望格差社会　ISBN 978-4-480-42308-5
下流社会　ISBN 4-334-03321-0
無縁社会　ISBN 978-4-16-373380-7
事前に購入する必要はない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

必要に応じてビデオ、ＤＶＤ教材を使用する予定である。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①スタートアップ授業（動画配信）
「社会学」とは何か？：社会と集合表象
②アニメ『となりのトトロ』の解読(1)：本家・分家関係、文化資本、家格
③同上(2)：村人を行動に駆り立てるものとは？
④日本的社会：世間と贈与・互酬性、タテ社会
⑤西欧の市民社会と都市：日本の世間との比較
⑥日本的人間関係を規定する力：空気
⑦社会の構造を探る：異人(stranger)
⑧村八分再考(1)：犯人探し・確定の方法
⑨同上(2)：何が罪の重さを決めるのか？
⑩同上(3)：連座と縁座(罪をかぶる範囲)・ケガレ
⑪日本の近代化(1)：社会の変化
⑫同上(2)：学歴社会の誕生と変容
⑬同上(3)：一億総中流社会・消費社会
⑭同上(4)：下流社会・格差社会・ネット依存症
⑮まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/tkwp32xvchvlqle2zrtoc44i582o3x64)

社会学Ｂ（日本人の人間関係を考える）

2023-S000009461-04

高岡　弘幸

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：月・３時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

人間は一人きりで生きていくことはできない。生まれたときから家族・親戚、学校、会社あるいは友人・知人関係、サークル、インターネットの輪といった、何らかの集団や組織に所属することになる。では、そうした集団・組織の内部での人間関係はどのように決められているのだろうか。
つまり、この授業では、講義形式で、日本人が、まったく疑問を抱くことなく、当たり前のように結ぶ人間関係の具体的な事例の紹介と分析をとおして、社会学の考え方と基礎知識、分析方法を学ぶことを目的としている。
また、こうした課題は、日常生活と切り離された、教室の内側だけでおさまるものではない。受講生自身の、トラブルも含む、さまざまな人間関係の経験と記憶、さらには、新聞、テレビ、インターネットなど各種メディアに、授業と関連する出来事や事件があふれ返っている。この授業を履修するにあたり、日頃から、「人間関係」「集団・組織」をキーワードとして、さまざまな情報を収集するよう心掛けてもらいたい。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会学の基礎的な知識を説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日本人の人間関係の特徴に関して理解を深める。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業で説明した専門用語を、具体的な事例をもとに理解しておくこと。(60分)

次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

社会学に関する基本的な専門用語を正確に理解できているか、また、日本人の人間関係の特徴を理解できているかを評価の基準とする。
期末テスト（100%）で評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に指定しない。講義中に適宜資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

希望格差社会　ISBN 978-4-480-42308-5
下流社会　ISBN 4-334-03321-0
無縁社会　ISBN 978-4-16-373380-7
事前に購入する必要はない。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

必要に応じてビデオ、ＤＶＤ教材を使用する予定である。

◎－－－　授業計画　－－－◎

①スタートアップ授業（動画配信）
「社会学」とは何か？：社会と集合表象
②アニメ『となりのトトロ』の解読(1)：本家・分家関係、文化資本、家格
③同上(2)：村人を行動に駆り立てるものとは？
④日本的社会：世間と贈与・互酬性、タテ社会
⑤西欧の市民社会と都市：日本の世間との比較
⑥日本的人間関係を規定する力：空気
⑦社会の構造を探る：異人(stranger)
⑧村八分再考(1)：犯人探し・確定の方法
⑨同上(2)：何が罪の重さを決めるのか？
⑩同上(3)：連座と縁座(罪をかぶる範囲)・ケガレ
⑪日本の近代化(1)：社会の変化
⑫同上(2)：学歴社会の誕生と変容
⑬同上(3)：一億総中流社会・消費社会
⑭同上(4)：下流社会・格差社会・ネット依存症
⑮まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/uke3mn8y395zy24zhw0epa2jvp2mvry0)

社会学Ｂ（さまざまな社会のありさまとその変遷）

2023-S000009461-05

花野　裕康

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

この授業は、社会学A、Bにおける後半の科目で、社会学の応用を学ぶものです（Bだけでの受講でも十分理解できるように授業するので問題ありません）。具体的には、社会学Aで学んだ事柄の簡単な復習を経て、

(1)いくつかの社会事象を「のぞき穴」としつつ、そこから社会のありさまを具体的に見ていきます。

(2)(1)における社会のありさまは、ひとつには横の広がり、つまり現在におけるさまざまな社会のすがたです。これを考察します。

(3)(1)における社会のありさまは、もうひとつには縦の広がり、つまり過去から現在における社会の変遷です。これを考察します。

(4)最終的に、特定の社会事象から見た社会のありさまを時間的空間的な広さと深みをもったものとして理解し、なおかつ他の社会現象に対してもその理解を応用できるようになることを目標とします。

授業形態は講義形式です。スクリーンに投射したスライドを元に口頭で説明していきます。板書は使用しません。配布資料もありません。スライドと口頭説明が授業の全てとなります。

なお、授業中に受講者の皆さんが匿名でスライド上にコメントを入れる「コメントスクリーン」を採用していますので、積極的に活用してください（ニコニコ動画のコメント機能と同様のものです）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

特定の社会事象を社会学的に理解した上で、そこから社会全体を考察することができる。(DP1-1)(技能)

さまざまな社会事象を社会学的に理解した上で、それらから社会を多角的に考察することができる。(DP2-1)(技能)

多角的に考察した社会像を基に、さまざまな他者や異文化について自ら考察し理解を深めることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。 (90分)

毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
(1)いくつかの社会事象から社会全体を考察できるか(到達目標1&2)、
(2)応用力として「さまざまな他者や異文化」について自ら社会学的に考察できるか(到達目標3)
の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は用いません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないので特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。こちらからの問いかけには答えるなど、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

第02回 コーヒーから社会を見る(1)

第03回 コーヒーから社会を見る(2)

第04回 コーヒーから社会を見る(3)

第05回 フェスから社会を見る(1)

第06回 フェスから社会を見る(2)

第07回 フェスから社会を見る(3)

第08回 SNSから社会を見る(1)

第09回 SNSから社会を見る(2)

第10回 SNSから社会を見る(3)

第11回 消費から社会を見る(1)

第12回 消費から社会を見る(2)

第13回 消費から社会を見る(3)

第14回 社会問題から社会を見る(1)

第15回 社会問題から社会を見る(2)

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/g6qeu1h6jkfl3pam8dkvzyy2eb32rbw9)

社会学Ｂ（さまざまな社会のありさまとその変遷）

2023-S000009461-06

花野　裕康

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

この授業は、社会学A、Bにおける後半の科目で、社会学の応用を学ぶものです（Bだけでの受講でも十分理解できるように授業するので問題ありません）。具体的には、社会学Aで学んだ事柄の簡単な復習を経て、

(1)いくつかの社会事象を「のぞき穴」としつつ、そこから社会のありさまを具体的に見ていきます。

(2)(1)における社会のありさまは、ひとつには横の広がり、つまり現在におけるさまざまな社会のすがたです。これを考察します。

(3)(1)における社会のありさまは、もうひとつには縦の広がり、つまり過去から現在における社会の変遷です。これを考察します。

(4)最終的に、特定の社会事象から見た社会のありさまを時間的空間的な広さと深みをもったものとして理解し、なおかつ他の社会現象に対してもその理解を応用できるようになることを目標とします。

授業形態は講義形式です。スクリーンに投射したスライドを元に口頭で説明していきます。板書は使用しません。配布資料もありません。スライドと口頭説明が授業の全てとなります。

なお、授業中に受講者の皆さんが匿名でスライド上にコメントを入れる「コメントスクリーン」を採用していますので、積極的に活用してください（ニコニコ動画のコメント機能と同様のものです）。

◎－－－　到達目標　－－－◎

特定の社会事象を社会学的に理解した上で、そこから社会全体を考察することができる。(DP1-1)(技能)

さまざまな社会事象を社会学的に理解した上で、それらから社会を多角的に考察することができる。(DP2-1)(技能)

多角的に考察した社会像を基に、さまざまな他者や異文化について自ら考察し理解を深めることができる。(DP2-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：毎回の講義終了時に指示した課題（次回講義テーマに関わるもの）について、関連書籍およびインターネット上の情報に当たって知識を得ておいてください。(90分)

毎回の講義後に当該講義テーマについて要点を整理した上で、自身の考えを文章化しておいてください。(90分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準：
(1)いくつかの社会事象から社会全体を考察できるか(到達目標1&2)、
(2)応用力として「さまざまな他者や異文化」について自ら社会学的に考察できるか(到達目標3)
の2点を採点基準とします。

評価方法：定期試験（100%）のみによります。他の評価方法は用いません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しません。

◎－－－　参考書　－－－◎

使用しません。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

きちんと出席していないと単位取得はおぼつかないので特別な理由がない限り休まずに出席するようにしてください。こちらからの問いかけには答えるなど、積極的に授業に参加してください。居眠り・私語・許可された場合以外でのスマホ使用等、授業に無関係な事は行わず授業に集中するようにお願いします。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第01回 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)

第02回 コーヒーから社会を見る(1)

第03回 コーヒーから社会を見る(2)

第04回 コーヒーから社会を見る(3)

第05回 フェスから社会を見る(1)

第06回 フェスから社会を見る(2)

第07回 フェスから社会を見る(3)

第08回 SNSから社会を見る(1)

第09回 SNSから社会を見る(2)

第10回 SNSから社会を見る(3)

第11回 消費から社会を見る(1)

第12回 消費から社会を見る(2)

第13回 消費から社会を見る(3)

第14回 社会問題から社会を見る(1)

第15回 社会問題から社会を見る(2)

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/q1ztillie1lf17zcfssp0tn4whvxhx5p)

社会学Ｂ（現代社会を解読する）

2023-S000009461-07

森　康司

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・１時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
社会学とは、様々な社会現象について、先入観にとらわれることなく、一歩下がって客観的に捉えなおす学問である。その際、それぞれが無意識のうちに抱いている常識や先入観を相対化し、改めて社会現象に対峙する事が求められる。
本授業では、それぞれが抱いている常識や先入観を自覚してもらい、それを疑いながら、現代社会が抱える各種の問題、中でも若者に関連するなかなか表面化しづらい問題について考察していく。

授業の進め方や学習の方法
本授業は、講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1)(技能)

現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2)(技能)

社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習として、参考書を読むこと。文献や資料を読んでくる必要がある時は、授業にて指示する。(60分)

事後学習として、授業にて配付する資料を精読すること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
到達目標にどの程度達しているかが基準となる。

評価方法
定期試験90%、授業で使用する映像資料への小レポート10%。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しない。
授業で使用する資料は、事前にポータルサイトに掲載するので、各自印刷して持参すること。

◎－－－　参考書　－－－◎

社会学で描く現代社会のスケッチ　ISBN 978-4860154851

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても大丈夫だが、社会現象や現代人の生き方に関心がある事が望ましい。
授業資料だけに頼らず、口頭での説明を注意して聞き、必要に応じてメモを取ること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回：スタートアップ授業（イントロダクション）
第2回：若者はニート化したか(1)（日本的経営とは）
第3回：若者はニート化したか(2)（非正規雇用の増大）
第4回：若者はニート化したか(3)（女性の就業）
第5回：若者はニート化したか(4)（「ニート」の実像）
第6回：サービス産業と感情労働
第7回：未婚化・晩婚化(1)（少子化はなぜ進むか）
第8回：未婚化・晩婚化(2)（結婚難の実情）
第9回：未婚化・晩婚化(3)（男女交際の変化と結婚難）
第10回：若者はキレやすくなったか(1)（検証：少年犯罪）
第11回：若者はキレやすくなったか(2)（子供・若者像の変容）
第12回：なぜいじめを止められないのか(1)（いじめは増えたのか）
第13回：なぜいじめを止められないのか(2)（いじめの四層構造論）
第14回：若者的コミュニケーションの現在(1)（コミュニケーションとは）
第15回：若者的コミュニケーションの現在(2)（SNSはなぜ流行るのか）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/pu5woh8qa6qn7kk5zzwlx60t0ouazi1s)

社会学Ｂ（社会学の概念・命題）

2023-S000009461-08

平田　暢

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・４時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

概念とは理論に関連した、物や行動、認識結果、現象などの正確な定義である。命題とは概念間の関係についての言明であり、判断を言葉で表したものである。多くの社会学者が、現代社会を説明するために概念や命題を提案してきた。
本講義では、大きく分けて、社会(的なもの)が個人を拘束する側面と、個々人の行動が集積されて社会現象が起こる側面の２つに注目し、それらにかかわる概念や命題に解説を加えていく。前者の文脈では、「与えられた役割が、普通の人を残虐行為に駆り立てる凶器となりうる」現象などを、後者の文脈では「ある状況が起こりそうだと考えて人々が行動すると、そう思わなければ起こらなかったはずの状況が実現してしまう」現象などを紹介する。
授業は、事前に配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.社会学の概念や命題の基本的な考え方と基礎的な知識、理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.社会学の個別の概念や命題に関する知識と理解が身につき、具体的な現象にあてはめて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習
講義資料は早めに配布するので、事前に内容に目を通し、理解できない点や疑問点を自分の課題として明らかにしておくこと。また、講義資料中の「STOP and THINK」の問いを考えておくこと。(60分)

復習
講義後は、事前の疑問点や課題が解決できたか否かの確認と、「STOP and THINK」の内容を中心に講義資料を見直しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
社会学の複数の概念や命題に関する知識と理解が身につき、説明できること(到達目標1&2)を評価の基準とする。

評価方法
定期試験の成績のみで評価する(100%)。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。講義中に資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

作田啓一・井上俊(編著),1986,『命題コレクション社会学』,筑摩書房.
ISBN-13: 978-4480852922
E.デュルケム(著),宮島喬(訳),1985,『自殺論』,中公文庫.
ISBN-13: 978-4122012561
M.ウェーバー(著),大塚久雄(訳),1989,『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』,岩波文庫.
ISBN-13: 978-4003420935
篠原清夫・栗田真樹(編著),2016,『大学生のための社会学入門』,晃洋書房.
ISBN-13: 978-4771027176

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1)履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を視聴しておくこと。
2)時間割を確認し、必修科目との重複など、スケジュールに不具合がないことを確認しておくこと。
3)毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布するので、FUポータルをチェックすること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
2 社会学の概念・命題とはどのようなものか
3 自殺論(Durkheim)
4 犯罪の潜在的正機能(Durkheim)
5 役割の功罪(Milgram/Zimbardo)
6 自由からの逃走(Fromm)
7 合理化と官僚制化(1)(Weber)
8 合理化と官僚制化(2)(Weber)
9 社会のリスク化(Beck)
10 予言の自己成就と中範囲の理論(1)(Merton)
11 予言の自己成就と中範囲の理論(2)(Merton)
12 囚人のジレンマとナッシュ均衡
13 社会的決定のパラドックス(1)
14 社会的決定のパラドックス(2)
15 全体のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/u9hks8belebgvd8gawnvnu78bibjfj2f)

社会学Ｂ（現代社会を解読する）

2023-S000009461-09

森　康司

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・２時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
社会学とは、様々な社会現象について、先入観にとらわれることなく、一歩下がって客観的に捉えなおす学問である。その際、それぞれが無意識のうちに抱いている常識や先入観を相対化し、改めて社会現象に対峙する事が求められる。
本授業では、それぞれが抱いている常識や先入観を自覚してもらい、それを疑いながら、現代社会が抱える各種の問題、中でも若者に関連するなかなか表面化しづらい問題について考察していく。

授業の進め方や学習の方法
本授業は、講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1)(技能)

現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2)(技能)

社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習として、参考書を読むこと。文献や資料を読んでくる必要がある時は、授業にて指示する。(60分)

事後学習として、授業にて配付する資料を精読すること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
到達目標にどの程度達しているかが基準となる。

評価方法
定期試験90%、授業で使用する映像資料への小レポート10%。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しない。
授業で使用する資料は、事前にポータルサイトに掲載するので、各自印刷して持参すること。

◎－－－　参考書　－－－◎

社会学で描く現代社会のスケッチ　ISBN 978-4860154851

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても大丈夫だが、社会現象や現代人の生き方に関心がある事が望ましい。
授業資料だけに頼らず、口頭での説明を注意して聞き、必要に応じてメモを取ること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回：スタートアップ授業（イントロダクション）
第2回：若者はニート化したか(1)（日本的経営とは）
第3回：若者はニート化したか(2)（非正規雇用の増大）
第4回：若者はニート化したか(3)（女性の就業）
第5回：若者はニート化したか(4)（「ニート」の実像）
第6回：サービス産業と感情労働
第7回：未婚化・晩婚化(1)（少子化はなぜ進むか）
第8回：未婚化・晩婚化(2)（結婚難の実情）
第9回：未婚化・晩婚化(3)（男女交際の変化と結婚難）
第10回：若者はキレやすくなったか(1)（検証：少年犯罪）
第11回：若者はキレやすくなったか(2)（子供・若者像の変容）
第12回：なぜいじめを止められないのか(1)（いじめは増えたのか）
第13回：なぜいじめを止められないのか(2)（いじめの四層構造論）
第14回：若者的コミュニケーションの現在(1)（コミュニケーションとは）
第15回：若者的コミュニケーションの現在(2)（SNSはなぜ流行るのか）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/flts8qkv4hdjo1r83f37zbz6rtqfhteg)

社会学Ｂ（社会問題と社会学）

2023-S000009461-10

開田　奈穂美

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・２時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
　この講義では、社会学の基本的な概念や思考方法を紹介しながら、現代社会における様々な問題を把握する視点を獲得することを目的としている。自分の役割や社会の中での地位をどう獲得するのかといったミクロな視点から、社会問題がなぜ生まれ、どうして解決することが難しいのかといったマクロな視点までを含めて、社会学とかかわりのある法や経済といった近接領域との関係にも触れながら授業を進めていく。講義の後半では、具体的な社会問題に触れながら、貧困や犯罪を「他人事」「自己責任」としてのみ理解するのではない、他者への想像力と広い視野を身につけることを目標とする。

授業の進め方
　この授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代社会に関する基礎的な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

現代社会に起こっている様々な事象についての知識と理解が身につき、物事を多角的に見ることができる。(DP2-1)(知識・理解)

具体的な社会問題の事例と、それが起こる背景について理解することを通じて、他者や異文化への想像力を身につける。(DP2-2)(態度・志向性)

現代社会に起こる様々な問題について知識と理解を深め、社会問題を当事者として捉えようとする志向や態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習　毎回の講義終了後、次回の講義テーマについて指示するので、次回講義までにそのテーマについて知りたいこと、わからないことについて考えておくこと。(60分)

復習　講義の内容および自分が提出したフィードバック等を踏まえて、事前の疑問や課題が解決されたかを確認する。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験70%、授業参加度30%として評価する。定期試験では、授業の基本的な内容の理解度と、理解した内容を具体的事例に応用する能力を判定する。授業参加度は、授業時に提出してもらう教員へのフィードバックや、授業の中で課す小課題の提出内容によって授業への理解度を判断するものである。

◎－－－　テキスト　－－－◎

特に使用しない、授業中に資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

社会福祉士養成講座編集委員会編、2014『新・社会福祉士養成講座3　社会理論と社会システム【第3版】』中央法規出版　ISBN 9784805839300
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2019『社会学（新版）』有斐閣　ISBN 9784641053892

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を見てから出席すること。また時間割を確認し、スケジュールにあわせて出席できることを前提にして、履修を考えること。
　毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布する。また、ウェブ上のアンケート機能などを通じて小課題の提出を指示することがあるので、タブレットやスマートフォンなど、インターネットにアクセスできるデバイスを持参することが望ましい。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．イントロダクション：スタートアップ授業
２．社会的行為と秩序
３．社会的役割と自己
４．社会的役割と地位
５．法と社会の関係①
６．法と社会の関係②
７．具体的な社会問題①　犯罪・非行
８．具体的な社会問題②　新しい貧困問題
９．具体的な社会問題③　家族・恋人関係
１０．具体的な社会問題④　学校をめぐる問題
１１．具体的な社会問題⑤　社会的排除と包摂
１２．社会的ジレンマ
１３．社会的ジレンマの解消方法
１４．社会関係資本
１５．全体のまとめとふりかえり

※講義の進度は、受講者の理解の状況に応じて変更する可能性がある。

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/rmfr9kegorxoc178e6z86o92vj0tkv3k)

社会学Ｂ（現代社会を解読する）

2023-S000009461-11

森　康司

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・３時限　試験時間割：2024/01/18　４時限

◎－－－　概要　－－－◎

授業の内容
社会学とは、様々な社会現象について、先入観にとらわれることなく、一歩下がって客観的に捉えなおす学問である。その際、それぞれが無意識のうちに抱いている常識や先入観を相対化し、改めて社会現象に対峙する事が求められる。
本授業では、それぞれが抱いている常識や先入観を自覚してもらい、それを疑いながら、現代社会が抱える各種の問題、中でも若者に関連するなかなか表面化しづらい問題について考察していく。

授業の進め方や学習の方法
本授業は、講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

現代社会を理解する上で必要な知識と理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

日常や常識を批判的に見つめ直すことの意義を理解し、社会学的想像力を身につける。(DP2-1)(技能)

現代社会に関する知識を用いて、自分とは異なる属性を持つ他者について理解できる。(DP2-2)(技能)

社会問題について自ら分析し、説明できる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習として、参考書を読むこと。文献や資料を読んでくる必要がある時は、授業にて指示する。(60分)

事後学習として、授業にて配付する資料を精読すること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
到達目標にどの程度達しているかが基準となる。

評価方法
定期試験90%、授業で使用する映像資料への小レポート10%。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用しない。
授業で使用する資料は、事前にポータルサイトに掲載するので、各自印刷して持参すること。

◎－－－　参考書　－－－◎

社会学で描く現代社会のスケッチ　ISBN 978-4860154851

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても大丈夫だが、社会現象や現代人の生き方に関心がある事が望ましい。
授業資料だけに頼らず、口頭での説明を注意して聞き、必要に応じてメモを取ること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

第1回：スタートアップ授業（イントロダクション）
第2回：若者はニート化したか(1)（日本的経営とは）
第3回：若者はニート化したか(2)（非正規雇用の増大）
第4回：若者はニート化したか(3)（女性の就業）
第5回：若者はニート化したか(4)（「ニート」の実像）
第6回：サービス産業と感情労働
第7回：未婚化・晩婚化(1)（少子化はなぜ進むか）
第8回：未婚化・晩婚化(2)（結婚難の実情）
第9回：未婚化・晩婚化(3)（男女交際の変化と結婚難）
第10回：若者はキレやすくなったか(1)（検証：少年犯罪）
第11回：若者はキレやすくなったか(2)（子供・若者像の変容）
第12回：なぜいじめを止められないのか(1)（いじめは増えたのか）
第13回：なぜいじめを止められないのか(2)（いじめの四層構造論）
第14回：若者的コミュニケーションの現在(1)（コミュニケーションとは）
第15回：若者的コミュニケーションの現在(2)（SNSはなぜ流行るのか）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/ze459x6l5bkvmbmphhoba9bh6sxpb099)

社会学Ｂ「BB」（社会学の概念・命題）

2023-S000009461-12

平田　暢

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・二部１時限　試験時間割：2024/01/19　夜１限

◎－－－　概要　－－－◎

概念とは理論に関連した、物や行動、認識結果、現象などの正確な定義である。命題とは概念間の関係についての言明であり、判断を言葉で表したものである。多くの社会学者が、現代社会を説明するために概念や命題を提案してきた。
本講義では、大きく分けて、社会(的なもの)が個人を拘束する側面と、個々人の行動が集積されて社会現象が起こる側面の２つに注目し、それらにかかわる概念や命題に解説を加えていく。前者の文脈では、「与えられた役割が、普通の人を残虐行為に駆り立てる凶器となりうる」現象などを、後者の文脈では「ある状況が起こりそうだと考えて人々が行動すると、そう思わなければ起こらなかったはずの状況が実現してしまう」現象などを紹介する。
授業は、事前に配布した講義資料に沿って教員が説明を加えていく講義形式で行う。

◎－－－　到達目標　－－－◎

1.社会学の概念や命題の基本的な考え方と基礎的な知識、理解が身につき、説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

2.社会学の個別の概念や命題に関する知識と理解が身につき、具体的な現象にあてはめて説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習
講義資料は早めに配布するので、事前に内容に目を通し、理解できない点や疑問点を自分の課題として明らかにしておくこと。また、講義資料中の「STOP and THINK」の問いを考えておくこと。(60分)

復習
講義後は、事前の疑問点や課題が解決できたか否かの確認と、「STOP and THINK」の内容を中心に講義資料を見直しておくこと。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

評価基準
社会学の複数の概念や命題に関する知識と理解が身につき、説明できること(到達目標1&2)を評価の基準とする。

評価方法
定期試験の成績のみで評価する(100%)。

◎－－－　テキスト　－－－◎

使用しない。講義中に資料を配布する。

◎－－－　参考書　－－－◎

作田啓一・井上俊(編著),1986,『命題コレクション社会学』,筑摩書房.
ISBN-13: 978-4480852922
E.デュルケム(著),宮島喬(訳),1985,『自殺論』,中公文庫.
ISBN-13: 978-4122012561
M.ウェーバー(著),大塚久雄(訳),1989,『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』,岩波文庫.
ISBN-13: 978-4003420935
篠原清夫・栗田真樹(編著),2016,『大学生のための社会学入門』,晃洋書房.
ISBN-13: 978-4771027176

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

1)履修を希望する場合は、必ずスタートアップ授業を視聴しておくこと。
2)時間割を確認し、必修科目との重複など、スケジュールに不具合がないことを確認しておくこと。
3)毎回の講義資料は原則としてインターネットを通じて配布するので、FUポータルをチェックすること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1 イントロダクション：スタートアップ授業(動画配信)
2 社会学の概念・命題とはどのようなものか
3 自殺論(Durkheim)
4 犯罪の潜在的正機能(Durkheim)
5 役割の功罪(Milgram/Zimbardo)
6 自由からの逃走(Fromm)
7 合理化と官僚制化(1)(Weber)
8 合理化と官僚制化(2)(Weber)
9 社会のリスク化(Beck)
10 予言の自己成就と中範囲の理論(1)(Merton)
11 予言の自己成就と中範囲の理論(2)(Merton)
12 囚人のジレンマとナッシュ均衡
13 社会的決定のパラドックス(1)
14 社会的決定のパラドックス(2)
15 全体のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/5ycwlwm41wgpv7pdazz9p26mne05199x)

経済学Ａ（おもしろミクロ経済学）

2023-S000009456-01

山崎　好裕

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：火・５時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義を受講しようかな、と考えている皆さんは、いろいろな学部の学生さんで、大学に入学してすぐの人が多いと思います。現代の社会では経済が重要だから、社会に出る前にどうしても勉強しておきたい。だけど、経済学は数学も使うから難しそうだし、金融と為替とかややこしいことが多そうだなあ…。こんなふうに考えていませんか。そんな皆さんに、私の担当している教養経済学の講義はうってつけです。面白く分かりやすい講義を聞いているうちに、自然と経済学の基本が身についていることに気が付くでしょう。しかも、それだけではなく、ここで勉強することは、世の中で生きて働いていることばかりですから、すぐに役に立つはずです。

経済学は、ミクロとマクロという2つの分野から成っています。ミクロ経済学が人々の暮らし方や働き方の原理を考える分野であるのに対して、マクロ経済学は国民全体が織り成す経済の動向や政府の経済政策の原理を考える分野です。こう考えるとミクロ（ちっちゃい）とか、マクロ（でっかい）と名付けられている意味もよく分かりますよね。ですから、どっちが身近で分かりやすいかと質問されても、それは微妙です。両方の分野が相俟って経済学の全体を構成しているわけです。「経済学Ａ」の講義では、そのなかのミクロ経済学を学びます。

私がとってもわかりやすく解説をします。質問があればその場で挙手してください。皆んなと有意義な議論ができることを期待しています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

ミクロ経済学の基本的な考え方について知識が身に付いている。(DP1-1)(知識・理解)

経済生活のなかで合理的に判断し行動する技能がある。(DP2-1)(技能)

仕事やビジネスの現場で常に効率的な解決策を探す志向性を獲得している。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業の前にはテキストを事前に読んでください。(30分)

授業の後にはテキストとノートを読み、Moodleの課題に解答してください。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

この授業は、社会を生きていく常識として、ミクロ経済学の基礎的な知識を身に着けることを目的にしています。ですから、合理的な考え方が身に付いているか、経済を考える枠組みが頭の中にあるか、簡単な経済計算ができるか、ということを基準に評価します。

評価は定期試験の点数で100％出します。試験問題は、文章の穴埋めの問題が6問30点、短文の正誤を○×で答える問題が8問40点、計算問題が30点となります。穴埋め問題では語群を与えますので、そこから選んでください。計算問題はテキストにある問題から、そのままのかたちで出題されます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山崎好裕『おもしろ経済数学』2006年、ミネルヴァ書房。ISBN 978-4-623-04526-6

◎－－－　参考書　－－－◎

必要があれば、授業中に随時紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

私の担当している「経済学B」とあわせて履修すると、経済学の全体像を分かりやすく理解することができます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに（スタートアップ授業）

2　消費生活の数学(1)

3　消費生活の数学(2)

4　売上増大の数学(1)

5　売上増大の数学(2)

6　企業経営の数学(1)

7　企業経営の数学(2)

8　勢力均衡の数学(1)

9　勢力均衡の数学(2)

10　資産運用の数学(1)

11　資産運用の数学(2)

12　景気循環の数学(1)

13　景気循環の数学(2)

14　数学コラムのまとめ

15　おわりに

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/whmsgk3c91h0io2zfcec2jccrhnvl8bn)

経済学Ａ（MIC－F4　社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ）

2023-S000009456-02

李　錦東

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・４時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

このクラスは、経済学の基本的思考方法を身につけることを目指したクラスです。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」と言う気分にさせられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作って行きましょう。

※　本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学の基本的な発想をみにつけることが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード（100個程度）を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに関心をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

復習をとくに重視してください。授業で学んだ事項を確実に自分のものにしてください。勉強には、丸暗記も必要ですが、本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにしてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 定期試験　60%
2. 中間ミニテスト（2回程度）20%
3. 授業参加態度（20%）。
①担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、②授業に対する建設的な提案など

期末に１,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

※　定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

1.授業の進行は、『マンキュー経済学（ミクロ編）』をベースに作成したスライド（PPT）を利用します。
2.必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。
3.可能なら主要参考図書（ミクロ編）を手に入れましょう（無理する必要はありません）。

◎－－－　参考書　－－－◎

★主要参考図書：
1. N. Gregory Mankiw『マンキュー経済学　I　ミクロ編（第4版）』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315194
2. N. Gregory Mankiw『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第4版）』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

※マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用しても差支えはありません。
※必要に応じて、スライドの一部を参考資料として配布する場合もありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

復習をしっかりやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

※1.第1回*イントロダクションは、スタートアップ授業（動画配信）です。第2回以降の授業は対面授業で行います（予定、授業の総回数は15回）。
※2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的は変化は必至であり、受講生の理解度やその他の状況変化にあわせフレキシブルに調整していきます。

１*イントロダクション（スタートアップ授業。授業の進め方・社会科学の考え方・経済学の考え方など）
２経済学の考え方（経済学の十大原理）
３経済学者らしく考える
４相互依存と貿易
５需要と供給の作用
６弾力性
７政府の政策と需要・供給
８市場の効率性（消費者余剰）
９課税の費用
10国際貿易で得するのは？
11外部性
12財の分類
13生産の費用
14競争市場における企業
15まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/h370mi1ejb0ym6ecnhykhlbtmzaa4kuw)

経済学Ａ（市場取引と不正）

2023-S000009456-03

瀬戸林　政孝

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・５時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義では、我々が日々行っている日常の取引の仕組みがどのように形成されてきたのかについて歴史の視点から講じていきます。
　市場経済の歴史は古く、経済が発展していく中で市場取引は行われてきました。しかしながら、発展の一方で、取引を行う商人の中には不正を行う商人もたびたび現れます。商人たちに不正を行わせないようにするために、市場取引が上手くいくための仕組みもまた変化してきました。そこで、この講義では、歴史上のいくつかの市場を取り上げ、そこで行われていた取引や取引の仕組みについて紹介していきます。
　事前学習として指定した参考書等の該当部分を事前に読んでおくことをすすめます。特に、日本史、世界史の理解に不安のある学生は、高校の日本史及び世界史教科書等を用いて、基本的な理解を深めておく必要があります。また、不定期に小テストを実施するので、授業内で指示された用語などを自分の言葉で説明できるように復習しておくこと。
　本授業は講義形式で行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

我々を取り巻く市場取引がどのように行われてきたのかを理解し、説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

本講義の理解及び専門的な知識の習得を通じて、経済史の視点から市場取引について理解し、様々な市場における問題の解決策にアプローチできる能力を身につけている。(DP2-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習では指定した参考書等で内容を確認する。(60分)

復習では配付資料及び論文を用いて、授業内容の確認をする。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

　定期試験の成績を基本とする。
　配点は、小テスト30%、定期試験70%を目安とする。
　到達目標に記された基準などをもって評価する。

◎－－－　テキスト　－－－◎

　特に指定しない。

◎－－－　参考書　－－－◎

必要に応じて、随時紹介するが、主要参考書は以下の通りである。
金井雄一他編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010年（ISBN：9784815806422）3,024円。
Kazuko Furuta, and Linda. Grove,（eds.）, Imitation, counterfeiting and the quality of goods in modern Asian history（Singapore： Springer, 2017）(ISBN:9789811037511) 13,813yen.

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

　テキスト・参考書を購入する必要はありません。不定期に講義の内容に関する小テストを実施します。

◎－－－　授業計画　－－－◎

１．スタートアップ(イントロダクション）
２．市場経済と市場取引
３．市場取引が上手くいくために（マグリビ商人）①
４．市場取引が上手くいくために（マグリビ商人）②
５．市場取引が上手くいくために②（株仲間）
６．市場取引が上手くいくために③（買弁）
７．市場取引が上手くいくために（まとめ）
８．工業化の進展と綿花取引①
９．工業化の進展と綿花取引②
10．近代上海電力市場①（石炭取引と電力取引）
11．近代上海電力市場②（石炭取引と電力取引）
12．近代の取引（まとめ）
13．中国のトウモロコシ取引
14．宝飾品取引
15．まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/g2ymuowf02xeumznh39aaquabm9dlw2e)

経済学Ａ（経済原理と国民経済）

2023-S000009456-04

楊　光洙

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：月・４時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

第1回授業はスタートアップ授業（オンデマンド型遠隔授業）として本授業の方針や進め方、成績評価方法等について説明します。
本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。本授業は、専門知識の一方的な伝達ではなく、経済原理（講義）をベースに関連の現実問題（実例）を提供し、受講者自らが経済現象を考察（応用）することを基本方針とし、調査分析する（WEB検索等の活用）、議論する（意見の交換）、自分なりの見解を形成する（身につける）ことを通じて、実践的なアカデミックスキル（調査力・分析力・解決力）の向上を目指します。授業内容は「日本経済」を中心に構成します。
＊授業内容は受講生の理解次第で変更されることもあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

基礎的な知識(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな分野の諸学問への理解(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言・行動の基礎となる知識(DP3-1)(知識・理解)

共同体に主体的に参画・貢献しようとする　態度・志向性(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスをベースに予習（30分）と復習（30分）が必要です。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績は、第8回と第15回授業中のテスト（あるいはレポート）で評価します。
＊定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません。必要に応じて資料を配布します。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・意見交換に積極的な姿勢で参加してください。
・主体的な学修の姿勢で参加してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　授業方針等（スタートアップ授業）
2　経済学の体系（経済の仕組みと循環）
3　日本経済の動向１（転換期）
4　日本経済の動向２（少子高齢化）
5　日本経済の動向３（社会保障）
6　市場（需要と供給、価格）
7　消費者行動（効用最大化）
8　生産者行動（利潤最大化）＋中間テスト
9　貨幣と金融（通貨、利子率、為替レート）
10　物価と景気（物価変動、景気変動）
11　雇用と失業（雇用形態、失業対策）
12　日本の財政（予算、税制、政府負債）
13　産業発展（産業革命）
14　IS-LM分析（財政金融政策）
15　総括（まとめ）＋期末テスト

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/50arh87sijg9bfe35uwlsaq2cl0x4q2w)

経済学Ａ（経済原理と国民経済）

2023-S000009456-05

楊　光洙

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：月・５時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

第1回授業はスタートアップ授業（オンデマンド型遠隔授業）として本授業の方針や進め方、成績評価方法等について説明します。
本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。本授業は、専門知識の一方的な伝達ではなく、経済原理（講義）をベースに関連の現実問題（実例）を提供し、受講者自らが経済現象を考察（応用）することを基本方針とし、調査分析する（WEB検索等の活用）、議論する（意見の交換）、自分なりの見解を形成する（身につける）ことを通じて、実践的なアカデミックスキル（調査力・分析力・解決力）の向上を目指します。授業内容は「日本経済」を中心に構成します。
＊授業内容は受講生の理解次第で変更されることもあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

基礎的な知識(知識・理解)(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな分野の諸学問への理解(知識・理解)(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解(知識・理解)(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言・行動の基礎となる知識(知識・理解)(DP3-1)(知識・理解)

共同体に主体的に参画・貢献しようとする　態度・志向性(態度・志向性)
(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスをベースに予習（30分）と復習（30分）が必要です。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績は、第8回と第15回授業中のテスト（あるいはレポート）で評価します。
＊定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません（資料提供）。

◎－－－　参考書　－－－◎

講義中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・必ずノートを準備し、毎回授業の関連情報を収集・整理してください。
・人に自らの考えを伝えることや主体的な学修の姿勢で参加してください。
・ノートPC、タブレット、スマホ等を持ち込み、自由に活用してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　授業方針等（スタートアップ授業）
2　経済学の体系（経済の仕組みと循環）
3　日本経済の動向１（転換期）
4　日本経済の動向２（少子高齢化）
5　日本経済の動向３（社会保障）
6　市場（需要と供給、価格）
7　消費者行動（効用最大化）
8　生産者行動（利潤最大化）＋中間テスト
9　貨幣と金融（通貨、利子率、為替レート）
10　物価と景気（物価変動、景気変動）
11　雇用と失業（雇用形態、失業対策）
12　日本の財政（予算、税制、政府負債）
13　産業発展（産業革命）
14　IS-LM分析（財政金融政策）
15　総括（まとめ）＋期末テスト

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/jhsu95o5hopgxt32bo7xeiu7az36qgtk)

経済学Ａ（ミクロ経済学の基礎）

2023-S000009456-06

主計　浩

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：水・３時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代のわれわれの経済は，私的所有権制度を基本的な所有形態としながら，市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である．またそこでは，資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており，しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている．本講義の目的は，混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある．近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し，各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と，一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある．本講義では，ミクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する．具体的にはミクロ経済学の課題，消費者理論、生産者理論、市場均衡、不完全競争（独占、寡占）、市場の失敗について説明する予定である．
受講した皆さんは，少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう．特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい．なお授業の進め方について、本講義は，教員によるレクチャー形式で進行する．

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学に関する基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実に起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく．(45分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す．さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する．(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（80%），レポート（20%）によって評価する．
評価基準は，定期試験・レポートともに、
１．授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること，
２．授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること，である．

◎－－－　テキスト　－－－◎

試験攻略入門塾 速習!ミクロ経済学2nd　edition
石川秀樹（著）　中央経済社　2860円
ISBN:978-4502290411

◎－－－　参考書　－－－◎

西村和雄「ミクロ経済学入門」　岩波書店　ISBN 978-4000021937
武隈愼一「ミクロ経済学(新経済学ライブラリ)」　新世社　ISBN 978-4883842391
今泉博国・須賀晃一・渡邉淳一「ミクロ経済学　基礎と演習」東洋経済新報社　ISBN 978-4492312810

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。
また上記のような理由から、欠席には注意すること。
他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．ミクロ経済学の考え方（スタートアップ授業）
２．消費者理論（効用）
３．消費者理論（無差別曲線）
４．消費者理論（効用最大化）
５．需要の価格弾力性
６．代替効果と所得効果
７．生産者理論（費用関数）
８．生産者理論（限界費用、平均費用、平均可変費用）
９．生産者理論（生産の決定）
１０．市場均衡（ワルラス、マーシャル、クモの巣調整過程）
１１．不完全競争（独占）
１２．不完全競争（クールノー）
１３．不完全競争（ゲームの理論）
１４．市場の失敗（外部性）
１５．市場の失敗（公共財）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/uack0177eonbub0dueq7p3h6b4tkfky3)

経済学Ａ（ミクロ経済学の基礎）

2023-S000009456-07

主計　浩

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・３時限　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代のわれわれの経済は，私的所有権制度を基本的な所有形態としながら，市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である．またそこでは，資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており，しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている．本講義の目的は，混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある．近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し，各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と，一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある．本講義では，ミクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する．具体的にはミクロ経済学の課題，消費者理論、生産者理論、市場均衡、不完全競争（独占、寡占）、市場の失敗について説明する予定である．
受講した皆さんは，少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう．特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい．なお授業の進め方について、本講義は，教員によるレクチャー形式で進行する．

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学の基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実に起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく．(45分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す．さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する．(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（80%），レポート（20%）によって評価する．
評価基準は，定期試験・レポートともに、
１．授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること，
２．授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること，である．

◎－－－　テキスト　－－－◎

試験攻略入門塾 速習!ミクロ経済学2nd　edition
石川秀樹（著）　中央経済社　2860円
ISBN:978-4502290411

◎－－－　参考書　－－－◎

西村和雄「ミクロ経済学入門」　岩波書店　ISBN 978-4000021937
武隈愼一「ミクロ経済学(新経済学ライブラリ)」　新世社　ISBN 978-4883842391
今泉博国・須賀晃一・渡邉淳一「ミクロ経済学　基礎と演習」東洋経済新報社　ISBN 978-4492312810

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。
また上記のような理由から、欠席には注意すること。
他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．ミクロ経済学の考え方（スタートアップ授業）
２．消費者理論（効用）
３．消費者理論（無差別曲線）
４．消費者理論（効用最大化）
５．需要の価格弾力性
６．代替効果と所得効果
７．生産者理論（費用関数）
８．生産者理論（限界費用、平均費用、平均可変費用）
９．生産者理論（生産の決定）
１０．市場均衡（ワルラス、マーシャル、クモの巣調整過程）
１１．不完全競争（独占）
１２．不完全競争（クールノー）
１３．不完全競争（ゲームの理論）
１４．市場の失敗（外部性）
１５．市場の失敗（公共財）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/lzpoxv4pm8on5ld1r5yyti6t1x2x8muz)

経済学Ａ（MICーF5　社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ）

2023-S000009456-09

李　錦東

期別：前期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：前期：金・５時限　　試験時間割：2023/08/02　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

このクラスは、経済学の基本的思考方法を身につけることを目指したクラスです。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」と言う気分にさせられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作って行きましょう。

※　本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学の基本的な発想をみにつけることが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード（100個程度）を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに関心をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

復習をとくに重視してください。
授業で学んだ事項を確実に自分のものにしてください。
勉強には、丸暗記も必要ですが、本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにしてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 定期試験　60%
2. 中間ミニテスト（2回程度）20%
3. 授業参加態度（20%）。
①担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、②授業に対する建設的な提案など

※　期末に１,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

※　定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

1.授業の進行は、『マンキュー経済学（ミクロ編）』をベースに作成したスライド（PPT）を利用します。
2.必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。
3.可能なら主要参考図書（ミクロ編）を手に入れましょう（無理する必要はありません）。

◎－－－　参考書　－－－◎

★主要参考図書：
1. N. Gregory Mankiw『マンキュー経済学　I　ミクロ編（第4版）』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315194
2. N. Gregory Mankiw『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第4版）』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

※マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用しても差支えはありません。
※必要に応じて、スライドの一部を参考資料として配布する場合もありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

復習をしっかりやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

※1.第1回*イントロダクションは、スタートアップ授業（動画配信）です。第2回以降の授業は対面授業で行います（予定、授業の総回数は15回）。
※2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的は変化は必至であり、受講生の理解度やその他の状況変化にあわせフレキシブルに調整していきます。

１*イントロダクション（スタートアップ授業。授業の進め方・社会科学の考え方・経済学の考え方など）
２経済学の考え方（経済学の十大原理）
３経済学者らしく考える
４相互依存と貿易
５需要と供給の作用
６弾力性
７政府の政策と需要・供給
８市場の効率性（消費者余剰）
９課税の費用
10国際貿易で得するのは？
11外部性
12財の分類
13生産の費用
14競争市場における企業
15まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/pancfntrw5btlz42g2070j8vncchx3uh)

経済学Ａ「BB」（ミクロ経済学の基礎とミクロ経済学のための数学基礎）

2023-S000009456-10

藤本　浩明

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：前期：木・二部２時限　試験時間割：2023/07/27　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

本授業は、講義形式で行いますが、ミクロ経済学の土台となっている市場の理論と生産者の理論を簡単な数学や図表を織り交ぜながら解説するとともに、理解度を確かめるために、公務員試験などの過去問に基づく問題などを取り上げながら、講義を進めていきます。
なお、この講義で解説する基礎的な論旨の理解と実践的な問題を解く力を確実に習得するためには、参考書や図書館などで類似の問題などに取り組む事が不可欠ですが、こうした自発的に取り組んだ経験は将来に生かされるので、予習・復習をしっかりと行ってください。

講義はOHCを利用して、計算や作図の過程などを解説しますが、解法だけでなく講義メモも作成するよう心がけて下さい。そのような講義メモの作成などを通じて、問題や解法などを視覚的・多面的に捉える力や基礎的な数学の知識を養ってください。なお、グラフを描くときには、必ず軸があらわす意味を明記するとともに各軸の関係を把握すると、理解がより深まります。
また、自力で正解にたどりつく過程を体感してもらうために、講義の復習を兼ねた簡単な小テストを実施しますので、自らの手で計算や図解をするように努めてください。この経験を活かして、いろいろな問題に対する解決策・処方箋を自らの力で見出す能力や応用力を磨いてください。

以上のように、数学や作図を用いて講義を進めますが、数学関連の知識は講義中にも解説しますので、講義に出席して講義メモを必ず作成するようにしてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

① 市場の要素および市場均衡について説明できる。(DP1-1)(知識・理解)

② 市場均衡や比較静学を使った応用分析を考えるようになる。(DP2-1)(態度・志向性)

③ 費用に関する知識を身につけ、それらを図表で説明できる。(DP3-2)(技能)

④ 企業の利潤最大化問題を理解し、最適解を図表や計算で求める事ができる。(DP3-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習（各回1～2時間程度）として、参考書やインターネットなどで専門用語の意味などを理解する。(60分)

事後学習（各回2～3時間程度）で、講義中に解説した計算問題を再度解きなおしたり、作図を行ったりして、復習を重ねてください。(120分)

つまり、合計して、毎週少なくとも３時間は予習・復習に時間を割いてください。(180分)

なお、復習には、FUポータルに公開する資料や課題を利用したり、参考書や図書館などで類似の問題などに取り組むなどしてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
市場均衡に関する基本的な事を図表や計算などで求めたり、現実の問題などを定量的に考察・再現できるかどうかを評価の基準とします。また、利潤最大条件の意味を理解し、その解を図表などで求められる事を評価の基準となります。
②評価方法と評価の割合
基本的には、定期試験の成績:80%と平常点（小テストと課題）:20%の合計100%で評価します。
③その他
小テストは、復習を兼ねた問題や応用問題などを講義中に提出してもらいます。他方、課題は各自で取り組み、講義後に提出してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用せずに資料を配布予定。

◎－－－　参考書　－－－◎

１）茂木喜久雄（著）、『試験対策　新らくらく　ミクロ経済学入門』、講談社 ISBN978-4-06-522048-1；
２）茂木喜久雄（著）、『試験対策　新らくらく　ミクロ・マクロ経済学入門　計算問題編』、講談社 ISBN978-4-06-522049-8；
３）茂木喜久雄（著）、『新らくらく　ミクロ・マクロ経済学入門　記述・論文編』、週刊住宅新聞社・洋泉社 ISBN 978-4784812943など；
このほか、必要に応じて、授業中に指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

参考書などを参考にしたプリント（FUポータルを通じて印刷できるようにする予定）とOHCを利用して、講義を進める予定です。なお、OHCのメモを見落とした場合や記入漏れなどがある場合は、講義の前後などに資料を公開するので、各自でノートを書き写すように心がけてください。
また、講義の復習や応用などを兼ねた簡単な小テストなどを講義中に実施するので、必ず、講義ノートを作成してください。なお、評価対象の小テストなどは、講義ノートを作成すれば解ける問題などを予定しているので、必ず、指定時間までに提出してください。
携帯・スマートフォンを机の上などに置いたり、それらを講義中に使用するなどの行為は厳禁とします。また、配布プリントの余りなどを置く場所に指定した座席には座らないでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

授業は以下の内容を進む予定です。なお、必要に応じて、一部を変更することがあります。
１　スタートアップ授業：この授業について
２　市場の要素
３　需要と供給の法則および市場均衡
４　需要・供給曲線のシフトと市場均衡
５　比較静学の応用分析
６　市場均衡と連立方程式の解法
７　需要と供給の価格弾力性
８　価格弾力性と曲線の関係
９　需要の価格弾力性と収入の関係
１０　需要の価格弾力性の応用分析
１１　いろいろな費用関数
１２　逆S字型総費用関数に関する各費用関数の関係
１３　利潤最大化問題
１４　損益分岐点・操業停止点
１５　前期のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/dqn57845v84vy1i0mez9qb5noliw7d3v)

経済学Ａ「教養ゼミ」（社会科学の基礎を学ぶ）

2023-S000009456-A0

武井　敬亮

期別：前期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：前期：金・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

近年、特にSNS上において、批判と誹謗中傷が混同され、（自分と異なる意見をもつ）他者を一方的に非難するケースが後を絶ちません。その理由の一端は、当人が正当な批判（あるいは批評）をしていると思い込んでおり、相手を誹謗中傷していることに気がつかないためです。さまざまな社会問題を考える上で、他者に対するこのような態度からは生産的な議論は生まれません。こうした事態に陥らないようにするために、この授業では、社会科学の基礎について学び、ディスカッションを通じて、現代社会におけるさまざまな問題を批判的に考える力を身につけていきます。
　そこでまずは、経済学者内田義彦の『読書と社会科学』をテキストとして使用し、文字情報を批判的に読む方法や物事を批判的に考える方法について学んでいきます。次に、さまざまな社会問題を考えるにあたり、現代社会を支える基礎的な概念のひとつである自由概念について学んでいきます。テキストは、19世紀の思想家J.S.ミルの古典的名著である『自由論』を使用します。そして、ミルの考え方（自由概念）を参考にしながら、現代社会の諸問題（格差、ジェンダー、人種、宗教など）について議論を行っていきます。
　この授業はゼミ形式で行います。テキストは輪読のかたちで読み進めていきます。担当者を割り当て、該当箇所の要約と自分の意見（疑問点を含む）を発表してもらい、発表内容についてディスカッションを行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

社会科学に関する基本的な考え方を身につけ、それを説明することができる。(DP1-1)(技能)

現代社会を支える基礎的な概念（自由概念）を理解し、それを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

自分と異なる意見や価値観を尊重しながら、現代社会の諸問題について批判的に考えることができる。(DP2-2)(知識・理解)

学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1)(知識・理解)

内容の難しい古典的な著作の講読（輪読）に、粘り強く取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

社会科学に関する諸領域の基礎的な知識を用いて、社会問題について自分の見解を述べることができる。(DP4-1)(知識・理解)

グループでディスカッションを行う際に積極的に発言し、議論の活性化に貢献することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの範囲を事前に読み、コメントを考えておくこと。報告担当者は、レジュメを作成すること（作成方法については授業内で指示）。(120分)

復習：授業内に紹介した資料や文献を実際に読んでみること。(120分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

要約（レジュメ）の作成・発表（きちんと内容を理解し、分かりやすくまとめられているか）（50%）、課題への取り組み（授業内容を理解して課題に取り組めているか）（30%）、授業態度（積極的に議論に参加できているか）（20%）で評価します。
なお、この授業では、定期試験を実施しないため、再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

内田義彦『読書と社会科学』岩波新書、1985年、880円、ISBN-13：978-4004202882
J.S.ミル（関口正司訳）『自由論』岩波文庫、2020年、924円、ISBN-13：978-4003900024

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Ⅰ．履修ガイダンス（1回）（スタートアップ授業）

Ⅱ．『読書と社会科学』の輪読
第1章「読むこと」と「聴くこと」と（2回）
第2章 自由への断章（1回）
第3章 創造現場の社会科学（2回）

Ⅲ．『自由論』の輪読
第1章 序論（1回）
第2章 思想と討論の自由（3回）
第3章 幸福の一要素としての個性について（2回）
第4章 個人に対する社会の権力の限界について（1回）
第5章 応用（1回）

Ⅳ．まとめ（1回）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/sh6dksmqb62ns2xssk97tvry34ddm6om)

経済学Ｂ（目からウロコのマクロ経済学）

2023-S000009457-01

山崎　好裕

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：火・５時限　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

この講義を受講しようかな、と考えている皆さんは、いろいろな学部の学生さんで、大学に入学してすぐの人が多いと思います。現代の社会では経済が重要だから、社会に出る前にどうしても勉強しておきたい。だけど、経済学は数学も使うから難しそうだし、金融と為替とかややこしいことが多そうだなあ…。こんなふうに考えていませんか。そんな皆さんに、私の担当している教養経済学の講義はうってつけです。面白く分かりやすい講義を聞いているうちに、自然と経済学の基本が身についていることに気が付くでしょう。しかも、それだけではなく、ここで勉強することは、世の中で生きて働いていることばかりですから、すぐに役に立つはずです。

経済学は、ミクロとマクロという2つの分野から成っています。ミクロ経済学が人々の暮らし方や働き方の原理を考える分野であるのに対して、マクロ経済学は国民全体が織り成す経済の動向や政府の経済政策の原理を考える分野です。こう考えるとミクロ（ちっちゃい）とか、マクロ（でっかい）と名付けられている意味もよく分かりますよね。ですから、どっちが身近で分かりやすいかと質問されても、それは微妙です。両方の分野が相俟って経済学の理論体系を構成しているわけです。「経済学Ｂ」の講義では、そのなかのマクロ経済学を学びます。

私がとってもわかりやすく解説をします。質問があればその場で挙手してください。皆んなと有意義な議論ができることを期待しています。

◎－－－　到達目標　－－－◎

マクロ経済学の基本的な考え方について知識が身に付いている。(DP1-1)(知識・理解)

経済報道や簡単なデータから経済情勢を判断する技能を有している。(DP2-1)(技能)

常に経済情報に目を配り、生活や仕事において活用しようとする態度を獲得している。(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

授業の前はテキストの指示された個所を読んでおきましょう。(30分)

授業の後にはテキストとノートをまとめて、Moodleの課題に解答してください。(30分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

この授業は、社会を生きていく常識として、マクロ経済学の基礎的な知識を身に着けることを目的にしています。ですから、合理的な考え方が身に付いているか、経済を考える枠組みが頭の中にあるか、簡単な経済計算ができるか、ということを基準に評価します。

評価は定期試験の点数で100％出します。試験問題は、文章の穴埋めの問題が6問30点、短文の正誤を○×で答える問題が8問40点、計算問題が30点となります。穴埋め問題では語群を与えますので、そこから選んでください。計算問題はテキストにある問題から、そのままのかたちで出題されます。

◎－－－　テキスト　－－－◎

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』2004年、ミネルヴァ書房。ISBN 978-4-623-04251-7

◎－－－　参考書　－－－◎

必要があれば、授業中に随時紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

私の担当している「経済学A」とあわせて履修すると、経済学の全体像を分かりやすく理解することができます。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　はじめに（スタートアップ授業）

2　経済の大きさって？－産業と所得

3　所得の分配と社会保障

4　家計は経済の増幅器－家計の消費と貯蓄

5　働けど働けど…－所得階層と失業

6　企業は誰のもの－企業の収益

7　投資は経済の原動機

8　政府の役目と税金の仕組み

9　政府のお金の使い方

10　お金は経済の血液

11　金融の仕組みをのぞいてみれば

12　国のつきあいと国際収支

13　為替レートの決まり方

14　物価は経済の体温

15　これからどうなる！－経済成長と景気

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/5f7yt0d19ulg12quq5eu1z3wma94gt0q)

経済学Ｂ（経済原理と国際経済）

2023-S000009457-02

楊　光洙

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・４時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

第1回授業はスタートアップ授業（オンデマンド型遠隔授業）として本授業の方針や進め方、成績評価方法等について説明します。
本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。本授業は、専門知識の一方的な伝達ではなく、経済原理（講義）をベースに関連の現実問題（実例）を提供し、受講者自らが経済現象を考察（応用）することを基本方針とし、調査分析する（WEB検索等の活用）、議論する（意見の交換）、自分なりの見解を形成する（身につける）ことを通じて、実践的なアカデミックスキル（調査力・分析力・解決力）の向上を目指します。授業内容は「国際経済」を中心に構成します。
＊授業内容は受講生の理解次第で変更されることもあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

基礎的な知識(知識・理解)(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな分野の諸学問への理解(知識・理解)(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解(知識・理解)(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言・行動の基礎となる知識(知識・理解)
(DP3-1)(知識・理解)

共同体に主体的に参画・貢献しようとする態度・志向性(態度・志向性)
(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスをベースに予習（30分）と復習（30分）が必要です。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績は、第8回と第15回授業中のテスト（あるいはレポート）で評価します。
＊定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません（資料提供）。

◎－－－　参考書　－－－◎

授業中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・意見交換に積極的な姿勢で参加してください。
・主体的な学修の姿勢で参加してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　授業方針等（スタートアップ授業）
2　経済学の体系（経済の仕組みと循環）
3　世界経済の動向１（転換期）
4　世界経済の動向２（グローバル化）
5　世界経済の動向３（自国優先主義）
6　世界貿易秩序（WTO、FTA、EPA）
7　市場統合（EU、NAFTA）
8　東アジア経済連携（CPTPP、RCEP）＋中間テスト
9　国際金融の流れ（資本の移動）
10　為替変動（為替相場制度）
11　金融工学（サブプライムローン、CDO）
12　世界金融危機（リーマンショック）
13　国際協力（地球温暖化）
14　拡張的IS-LM分析（財政金融政策）
15　総括（まとめ）＋期末テスト

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/hwfe32k9rl4z6x8grmlff4kouewr4azz)

経済学Ｂ（経済原理と国際経済）

2023-S000009457-03

楊　光洙

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：月・５時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

第1回授業はスタートアップ授業（オンデマンド型遠隔授業）として本授業の方針や進め方、成績評価方法等について説明します。
本授業は、講義形式とディスカッション形式による双方向型授業です。本授業は、専門知識の一方的な伝達ではなく、経済原理（講義）をベースに関連の現実問題（実例）を提供し、受講者自らが経済現象を考察（応用）することを基本方針とし、調査分析する（WEB検索等の活用）、議論する（意見の交換）、自分なりの見解を形成する（身につける）ことを通じて、実践的なアカデミックスキル（調査力・分析力・解決力）の向上を目指します。授業内容は「国際経済」を中心に構成します。
＊授業内容は受講生の理解次第で変更されることもあります。

◎－－－　到達目標　－－－◎

基礎的な知識(知識・理解)(DP1-1)(知識・理解)

さまざまな分野の諸学問への理解(知識・理解)(DP2-1)(知識・理解)

他者・異文化・異文脈への理解(知識・理解)(DP2-2)(知識・理解)

責任ある発言・行動の基礎となる知識(知識・理解)(DP3-1)(知識・理解)

共同体に主体的に参画・貢献しようとする　態度・志向性(態度・志向性)
(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

シラバスをベースに予習（30分）と復習（30分）が必要です。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

成績は、第8回と第15回授業中のテスト（あるいはレポート）で評価します。
＊定期試験を実施しないため、再試験を受験することができません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは指定しません（資料提供）。

◎－－－　参考書　－－－◎

授業中に適宜紹介します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

・意見交換に積極的な姿勢で参加してください。
・主体的な学修の姿勢で参加してください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1　授業方針等（スタートアップ授業）
2　経済学の体系（経済の仕組みと循環）
3　世界経済の動向１（転換期）
4　世界経済の動向２（グローバル化）
5　世界経済の動向３（自国優先主義）
6　世界貿易秩序（WTO、FTA、EPA）
7　市場統合（EU、NAFTA）
8　東アジア経済連携（CPTPP、RCEP）＋中間テスト
9　国際金融の流れ（資本の移動）
10　為替変動（為替相場制度）
11　金融工学（サブプライムローン、CDO）
12　世界金融危機（リーマンショック）
13　国際協力（地球温暖化）
14　拡張的IS-LM分析（財政金融政策）
15　総括（まとめ）＋期末テスト

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/1d8shcrjd9bidwzcoe5pqh7d1m2fmll9)

経済学Ｂ（マクロ経済学の基礎）

2023-S000009457-04

主計　浩

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：水・３時限　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

　現代のわれわれの経済は，私的所有権制度を基本的な所有形態としながら，市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である．またそこでは，資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており，しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている．本講義の目的は，混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある．近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し，各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と，一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある．本講義では，マクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する．具体的にはマクロ経済学の課題，国民所得の諸概念，国民所得の決定，IS-LM分析，財政金融政策，総需要と総供給，国際マクロ経済を説明する予定である．
　受講した皆さんは，少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう．特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい．なお授業の進め方について、本講義は，教員によるレクチャー形式で進行する．

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学の基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実に起こっている経済問題を理解して、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく．(45分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す．さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する．(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（80%），レポート（20%）によって評価する．
評価基準は，定期試験・レポートともに、
１．授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること，
２．授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること，である．

◎－－－　テキスト　－－－◎

試験攻略入門塾　速習！マクロ経済学2nd edition 石川秀樹(著)　中央経済社　2640円　ISBN:978-4502290312

◎－－－　参考書　－－－◎

中谷巌「入門マクロ経済学」　日本評論社　ISBN 978-4535555136

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。
また上記のような理由から、欠席には注意すること。
他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．マクロ経済学の考え方（スタートアップ授業）
２．GDPの決定（1）GDPとは、有効需要の原理
３．GDPの決定（2）：45度線分析その1
４．GDPの決定（3）：45度線分析その2
５．GDPの決定（4）：45度線分析その3
６．IS-LM分析（1）：IS曲線の導出
７．IS-LM分析（2）：LM曲線の導出（その1）
８．IS-LM分析（3）：LM曲線の導出（その2）
９．IS-LM分析（4）：財市場と貨幣市場の同時均衡
１０．IS-LM分析（5）：財政政策・金融政策
１１．総需要と総供給（1）：総需要曲線（AD曲線）
１２．総需要と総供給（2）：総供給曲線（AS曲線）
１３．総需要と総供給（3）：AD・ASによるマクロ均衡
１４．国際マクロ経済（1）
１５．国際マクロ経済（2）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/kruc5ncd9zwndpotker0lqzidnvl6f74)

経済学Ｂ（マクロ経済学の基礎）

2023-S000009457-05

主計　浩

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：講義　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・３時限　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

現代のわれわれの経済は，私的所有権制度を基本的な所有形態としながら，市場という機構に人々の活動の調整をゆだねる「資本主義」を根幹とする経済体制である．またそこでは，資本主義が生み出す様々な歪みを修正するための政府の政策的な介入や計画をも容認しており，しばしば「混合経済」という名称によって特徴づけられている．本講義の目的は，混合経済としてのわれわれの経済を理解するための1つの分析道具である「近代経済学」を解説することにある．近代経済学には消費者・生産者・政府といった個々の経済主体に注目し，各主体の相互作用の場・交換の場である市場を主要な分析対象とするミクロ経済学と，一国の経済全体を物価水準・GDP・失業率・インフレ率などの集計量によって捉えるマクロ経済学がある．本講義では，マクロ経済学の基本的な枠組みと主要概念・分析手法をやさしく解説する．具体的にはマクロ経済学の課題，国民所得の諸概念，国民所得の決定，IS-LM分析，財政金融政策，総需要と総供給，国際マクロ経済を説明する予定である．
受講した皆さんは，少なくとも新聞の経済面を問題なく読めるようになるだろう．特に公務員希望の方はぜひ受講してほしい．なお授業の進め方について，本講義は，教員によるレクチャー形式で進行する．

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学の基本的な知識を習得する(DP1-1)(知識・理解)

現実に起こっている経済問題を理解し、他者に説明できる(DP2-1)(知識・理解)

経済学の知識を活用して、経済問題を積極的かつ柔軟に解決する能力を身につける(DP3-1)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：次の授業解の内容について、教科書の該当部分および配布される資料をよく読んで、わからない用語などについてあらかじめ調べておく．(45分)

復習：授業後は新たに出てきた経済用語や経済学的な考え方をしっかり見直す．さらに復習のために練習問題を適宜配布するので、授業で学習した内容がどのように問われているかを確認する．(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

定期試験（80%），レポート（20%）によって評価する．
評価基準は，定期試験・レポートともに、
１．授業に出てきた経済用語をきちんと理解していること，
２．授業に出てきた経済政策や経済の出来事を説明できること，である．

◎－－－　テキスト　－－－◎

試験攻略入門塾　速習！マクロ経済学2nd edition 石川秀樹(著)　中央経済社　2640円　ISBN:978-4502290312

◎－－－　参考書　－－－◎

中谷巌「入門マクロ経済学」　日本評論社　ISBN 978-4535555136

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

経済学の講義は前回の授業内容を踏まえて先に進んでいくので、特に復習には力を注ぐこと。
また上記のような理由から、欠席には注意すること。
他の受講生の迷惑になるような行為(私語など)は厳禁。

◎－－－　授業計画　－－－◎

1．マクロ経済学の考え方（スタートアップ授業）
２．GDPの決定（1）GDPとは、有効需要の原理
３．GDPの決定（2）：45度線分析その1
４．GDPの決定（3）：45度線分析その2
５．GDPの決定（4）：45度線分析その3
６．IS-LM分析（1）：IS曲線の導出
７．IS-LM分析（2）：LM曲線の導出（その1）
８．IS-LM分析（3）：LM曲線の導出（その2）
９．IS-LM分析（4）：財市場と貨幣市場の同時均衡
１０．IS-LM分析（5）：財政政策・金融政策
１１．総需要と総供給（1）：総需要曲線（AD曲線）
１２．総需要と総供給（2）：総供給曲線（AS曲線）
１３．総需要と総供給（3）：AD・ASによるマクロ均衡
１４．国際マクロ経済（1）
１５．国際マクロ経済（2）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/w5q40xepoos213tlmemzmzxaczwaga0h)

経済学Ｂ（MAC-F4　社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ）

2023-S000009457-06

李　錦東

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・４時限　　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

このクラスは、前期の経済学A（MIC-F4　社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ）続きですが、後期から初めて受講する人のために、前期の復習もざっと行います。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」と言う気分にさせられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作って行きましょう。

※　本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学の基本的な発想をみにつけることが出来る。(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード（100個程度）を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに関心をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

復習をとくに重視してください。
授業で学んだ事項を確実に自分のものにしてください。
勉強には、丸暗記も必要ですが、
本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにしてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 定期試験　60%
2. 中間ミニテスト（2回程度）20%
3. 授業参加態度（20%）。
①担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、②授業に対する建設的な提案など

※　期末に１,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

※　定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

1.授業の進行は、『マンキュー経済学（ミクロ編・マクロ編）』をベースに作成したスライド（PPT）を利用します。
2.必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。
3.可能なら主要参考図書（マクロ編）を手に入れましょう（無理する必要はありません）。

◎－－－　参考書　－－－◎

★主要参考図書：
1. N. Gregory Mankiw『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第4版）』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

※マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用しても問題ありません。
※必要に応じて、スライドの極一部を参考資料として配布する場合もありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

復習をしっかりやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。
授業中はノートをとってください。スライドに提示されたことだけでなく、講師が喋ったことに関してもメモすると、いいでしょう。

参考書をじっくりよむ習慣をつけながら、自分なりの経済学の体系を作れるように頑張りましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

※1.第1回*イントロダクションは、スタートアップ授業（動画配信）です。第2回以降の授業は対面授業で行います（予定、授業の総回数は15回）。
※2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的な変化は必至であり、受講生の理解度にあわせフレキシブルに調整していきます。

１*オリエンテーション（スタートアップ授業。授業の進め方・経済学の考え方など。）
２前期の復習、経済学の考え方、需要と供給
３生産費用・競争市場における企業の動き
４独占（寡占）
5生産要素市場・勤労所得と差別
6所得不平等と貧困
7予算制約と限界効用曲線
8国民所得の測定
9生計費の測定
10経済成長
11ファイナンス
12失業
13貨幣システム
14総需要と総供給
15まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/gur5y0m34nyprpldisonda76rv9pzr0i)

経済学Ｂ（MAC-F5　社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ）

2023-S000009457-07

李　錦東

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：金・５時限　　試験時間割：2024/01/26　３時限

◎－－－　概要　－－－◎

このクラスは、前期の経済学A（MIC-F5　社会科学の思考法を経済学を通じて学ぶ）続きですが、後期から初めて受講する人のために、前期の復習もざっと行います。

経済学を初めて学ぶ学生にとって、経済学の教科書は「分かったような、分からないような」と言う気分にさせられることもあります。また、経済学で学ぶ内容は、「現実の世の中とは、違うんじゃないか」と思う人もいるでしょう。本クラスは、受講生がもつ「経済学」と「現実の世のなか」に関わる疑問点などを、講師と受講生との間で質疑応答やディスカッションを通じて理解していきます。また、それぞれの疑問点に関する事項をどう深く理解すればよいのかなどを考えて行きます。

このクラスで元気に議論することによって、日々の暮らしを豊かにすることへのヒントを得ながら、経済学に関するしっかりとした基盤を作って行きましょう。

※　本授業は、講義形式で行いますが、上述したように担当講師による一方的な授業ではありません。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済学の基本的な発想をみにつけることが出来る(DP1-1)(知識・理解)

経済学に関する主要キーワード（100個程度）を理解し、自分の言葉で説明できる。(DP2-1)(知識・理解)

新聞の経済面や社会面の記事などに関心をもち、経済に関する記事を少々楽しく読めるようになる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

復習をとくに重視してください。
授業で学んだ事項を確実に自分のものにしてください。
勉強には、丸暗記も必要ですが、本クラスでは、自分で論理的な筋を立てながら、理解できるようにしてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

1. 定期試験　60%
2. 中間ミニテスト（2回程度）20%
3. 授業参加態度（20%）。
①担当教員の質疑に対する積極的な参加・応答、②授業に対する建設的な提案など

※　期末に１,2,3を総合して、評定します。総合点数、60点以上が合格となります。

※　定期試験や中間ミニテストの評価基準は、授業で取り上げた経済学の基本的な発想や専門用語及びキーワードをちゃんと理解し、人に説明できるか・応用できるかになります。

◎－－－　テキスト　－－－◎

1.授業の進行は、『マンキュー経済学（ミクロ編・マクロ編）』をベースに作成したスライド（PPT）を利用します。
2.必要に応じて、スライドの一部、著作権に抵触しない必要最小限の量を参考資料として配布します。
3.可能なら主要参考図書（マクロ編）を手に入れましょう（無理する必要はありません）。

◎－－－　参考書　－－－◎

★主要参考図書：
1. N. Gregory Mankiw『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第4版）』東洋経済新報社、2019年、4,400円、ISBN:9784492315200

※マンキュー経済学は、第4版が最新版ですが、その以前の版も核心内容は基本的に同じですので、3版などを利用しても問題ありません。
※必要に応じて、スライドの極一部を参考資料として配布する場合もありますが、なるべく経済学の本を手にして、じっくり読みましょう。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

復習をしっかりやりましょう。また、経済面や社会面の記事やニュースをちゃんと聞く・読む習慣をつけましょう。
授業中はノートをとってください。スライドに提示されたことだけでなく、講師が喋ったことに関してもメモすると、いいでしょう。

参考書をじっくりよむ習慣をつけながら、自分なりの経済学の体系を作れるように、頑張りましょう。

◎－－－　授業計画　－－－◎

※1.第1回*イントロダクションは、スタートアップ授業（動画配信）です。第2回以降の授業は対面授業で行います（予定、授業の総回数は15回）。
※2. 授業は、基本的に授業計画に沿って進めますが、限界的な変化は必至であり、受講生の理解度にあわせフレキシブルに調整していきます。

１*オリエンテーション（スタートアップ授業。授業の進め方・経済学の考え方など。）
２前期の復習、経済学の考え方、需要と供給
３生産費用・競争市場における企業の動き
４独占（寡占）
5生産要素市場・勤労所得と差別
6所得不平等と貧困
7予算制約と限界効用曲線
8国民所得の測定
9生計費の測定
10経済成長
11ファイナンス
12失業
13貨幣システム
14総需要と総供給
15まとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/vtl4s71cnrl2rskjyxjs7ikwyz9y6k4r)

経済学Ｂ「BB」（マクロ経済学の基礎とマクロ経済学のための数学基礎）

2023-S000009457-10

藤本　浩明

期別：後期　　単位数：2　　開講年次：１　　授業の種類：対面授業科目　　授業形態：講義　　実務経験：無し　　科目水準：入門　　試験実施：有り
授業時間割：後期：木・二部２時限　　試験時間割：2024/01/18　夜２限

◎－－－　概要　－－－◎

本講義は、講義形式で行いますが、マクロ経済学の土台となっているマクロモデルを簡単な数学や図表を織り交ぜながら解説するとともに、理解度を確かめるために、公務員試験などの過去問に基づく問題などを取り上げながら、講義を進めていきます。
なお、この講義で解説する基礎的な論旨の理解と実践的な問題を解く力を確実に習得するためには、参考書や図書館などで類似の問題などに取り組む事が不可欠ですが、こうした自発的に取り組んだ経験は将来に生かされるので、予習・復習をしっかりと行ってください。

講義はOHCを利用して、計算や作図の過程などを解説しますが、解法だけでなく講義メモも作成するよう心がけて下さい。そのような講義メモの作成などを通じて、問題や解法などを視覚的・多面的に捉える力や基礎的な数学の知識を養ってください。なお、グラフを描くときには、必ず軸があらわす意味を明記するとともに各軸の関係を把握すると、理解がより深まります。
また、自力で正解にたどりつく過程を体感してもらうために、講義の復習を兼ねた簡単な小テストを実施しますので、自らの手で計算や図解をするように努めてください。この経験を活かして、いろいろな問題に対する解決策・処方箋を自らの力で見出す能力や応用力を磨いてください。

以上のように、本講義では、数学や作図を用いて講義を進めますが、数学関連の知識は講義中にも解説しますので、講義に出席して講義メモを必ず作成するようにしてください。

◎－－－　到達目標　－－－◎

①経済循環と産業連関表を理解し、それらを用いて経済（お金）の流れについて考えるようになる。(DP1-1)(技能)

②産業連関分析や45度線分析からGDP等の国内所得を求める事が出来る。(DP2-1)(知識・理解)

③乗数分析を通じて、経済環境の変化などが及ぼす影響について説明できる。(DP2-1)(技能)

④インフレギャップ・デフレギャップについて理解したうえで、それらが生じた場合の経済状況について考えるようになる。(DP3-2)(態度・志向性)

⑤開放経済体系における45度線分析を理解し、その場合の国内所得を求めることができる。(DP3-2)(技能)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

事前学習（各回1～2時間程度）として、参考書やインターネットなどで専門用語の意味などを理解する。(60分)

事後学習（各回2～3時間程度）で、講義中に解説した計算問題を再度解きなおしたり、作図を行ったりして、復習を重ねる。(120分)

つまり、合計して、毎週少なくとも３時間は予習・復習に時間を割いてください。(180分)

なお、復習には、FUポータルに公開する資料や課題を利用したり、参考書や図書館などで類似の問題などに取り組むなどしてください。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

①評価基準
産業連関分析・45度線分析に関する基本的な事を図表や計算などで求めたり、現実の問題などを定量的に考察・再現できるかどうかを評価の基準とします。
②評価方法と評価の割合
基本的には、定期試験の成績:80%と平常点（小テストと課題）:20%の合計100%で評価します。
③その他
小テストは、復習を兼ねた問題や応用問題などを講義中に提出してもらいます。他方、課題は各自で取り組み、講義後に提出してください。

◎－－－　テキスト　－－－◎

テキストは使用せずに資料を配布予定。

◎－－－　参考書　－－－◎

１）茂木喜久雄（著）、『試験対策　新らくらく　マクロ経済学入門』、講談社 ISBN978-4-06-522047-4；
２）茂木喜久雄（著）、『試験対策　新らくらく　ミクロ・マクロ経済学入門　計算問題編』、講談社 ISBN978-4-06-522049-8；
３）茂木喜久雄（著）、『新らくらく　ミクロ・マクロ経済学入門　記述・論文編』、週刊住宅新聞社・洋泉社 ISBN 978-4784812943など；
このほか、必要に応じて、授業中に指示します。

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

参考書などを参考にしたプリント（FUポータルを通じて印刷できるようにする予定）とOHCを利用して、講義を進める予定です。なお、OHCのメモを見落とした場合や記入漏れなどがある場合は、講義の前後などに資料を公開するので、各自でノートを書き写すように心がけてください。
また、講義の復習や応用などを兼ねた簡単な小テストなどを講義中に実施するので、必ず、講義ノートを作成してください。なお、評価対象の小テストなどは、講義ノートを作成すれば解ける問題などを予定しているので、必ず、指定時間までに提出してください。
携帯・スマートフォンを机の上などに置いたり、それらを講義中に使用するなどの行為は厳禁とします。また、配布プリントの余りなどを置く場所に指定した座席には座らないでください。

◎－－－　授業計画　－－－◎

授業は以下の内容を進む予定です。なお、必要に応じて、一部を変更することがあります。
１　スタートアップ授業：この授業について
２　ミクロ経済学とマクロ経済学：経済循環とその表現
３　産業連関表とGDPの三面等価の法則
４　産業連関分析の概要
５　オープンモデルとレオンチェフモデルの導出
６　産業連関分析の行列解法
７　経済環境の変化と産業連関表の変化
８　産業連関分析の演習
９　マクロ消費関数に起因する産業連関モデルと４５度線モデルの違い
１０　４５度線モデルの均衡国民所得と乗数分析
１１　産業連関表モデルと４５度線モデルの比較演習
１２　インフレギャップ・デフレギャップ
１３　開放経済と閉鎖経済体系の違い
１４　開放経済体系における４５度線分析
１５　後期のまとめ

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/wxj7jhl4p1h123d945dvefxdosgz88w0)

経済学Ｂ「教養ゼミ」（アダム・スミス『道徳感情論』を読む）

2023-S000009457-A0

武井　敬亮

期別：後期　単位数：2　開講年次：１　授業の種類：対面授業科目　授業形態：演習　実務経験：無し　科目水準：入門　試験実施：無し
授業時間割：後期：金・２時限　試験時間割：定期試験なし

◎－－－　概要　－－－◎

「経済学の父」アダム・スミスは、『国富論』の著者として知られていますが、スミスの名前を一躍有名にしたのは、先に出版された『道徳感情論』の方でした。スミスは、『道徳感情論』で展開した道徳論をベースに『国富論』を執筆し、自らの経済理論を体系化しました。近年、アマルティア・センの研究を契機に、経済学の倫理的側面に注目が集まる中、スミスの『道徳感情論』は、経済学を学ぶ者にとって、非常に多くの示唆を与えてくれます。それだけでなく、この著作は、人間関係や社会関係を理解する上で有効な理論を私たちに提供してくれます。

　この授業では、アダム・スミスの『道徳感情論』の輪読を通じて、経済社会の仕組みについて学んでいきます。それと同時に、個人の自由や自己利益の追求が、どのようにして社会秩序と両立し得るのか（私と公の両立可能性）についても考察していきます。

　この授業はゼミ形式で行います。テキストは輪読のかたちで読み進めていきます。担当者を割り当て、該当箇所の要約と自分の意見（疑問点を含む）を発表してもらい、発表内容についてディスカッションを行います。

◎－－－　到達目標　－－－◎

経済社会に関する基本的な考え方を身につけ、それを説明することができる。(DP1-1)(技能)

道徳理論にもとづく社会形成の仕組みを理解し、それを説明することができる。(DP2-1)(知識・理解)

スミスの議論に即して、自分と利害関心を異にする他者を理解する仕組みについて説明することができる。(DP2-2)(知識・理解)

学んだ事柄を十分に理解し、責任ある発言・行動の基礎となる知識を増やすことができる。(DP3-1)(知識・理解)

内容の難しい古典的な著作の講読（輪読）に、粘り強く取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

スミスの『道徳感情論』における思考方法やアプローチを、他の問題にも適用することができる。(DP4-1)(技能)

グループでディスカッションを行う際に積極的に発言し、議論の活性化に貢献することができる。(DP4-2)(態度・志向性)

◎－－－　授業時間外の学習(予習・復習)　－－－◎

予習：テキストの範囲を事前に読み、コメントを考えておくこと。報告担当者は、レジュメを作成すること（作成方法については授業内で指示）。(120分)

復習：テキストの範囲を読み直し、内容の理解につとめること。(60分)

◎－－－　成績評価基準および方法　－－－◎

要約（レジュメ）の作成・発表（きちんと内容を理解し、分かりやすくまとめられているか）（50%）、課題への取り組み（授業内容を理解して課題に取り組めているか）（30%）、授業態度（積極的に議論に参加できているか）（20%）で評価します。
なお、この授業では、定期試験を実施しないため、再試験も実施しません。

◎－－－　テキスト　－－－◎

アダム・スミス（村井章子・北川知子訳）『道徳感情論』日経BPクラシックス、2014年、3520円、
ISBN-13：978-4822250003

◎－－－　履修上の留意点　－－－◎

やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。

◎－－－　授業計画　－－－◎

Ⅰ．履修ガイダンス（1回）（スタートアップ授業）

Ⅱ．『道徳感情論』の輪読

第1部 行為の適否について
・第1篇 適否の感覚について（2回）
・第2篇 さまざまな情念が適切とみなされる度合いについて（2回）
・第3篇 順境と逆境が行為の適否の判断におよぼす影響について、また順境にあるときの方が逆境にあるときより是認を得やすい理由について（2回）

第2部 価値と害悪、すなわち報いる対象と罰する対象について
・第1篇 価値と害悪の感覚について（1回）
・第2篇 正義と善行について（1回）
・第3篇 行為の価値と害悪に関する感情に偶然がおよぼす影響について（1回）

第3部 自分自身の感情と行動に関する判断の根拠について、および義務感について（4回）

Ⅲ．まとめ（1回）

◎－－－　スタートアップ授業　－－－◎

スタートアップ授業
(https://fukuoka-u.box.com/s/p0osqvmds6hcm96jhko85hodyjs2qy00)